



履修要項

Academic Guide Book

2019年度入学生用

経済学部

Faculty of Economics

法学部

Faculty of Law

文学部

Faculty of Letters

経営学部

Faculty of Business Administration

教育学部

Faculty of Education

理工学部

Faculty of Science and Engineering

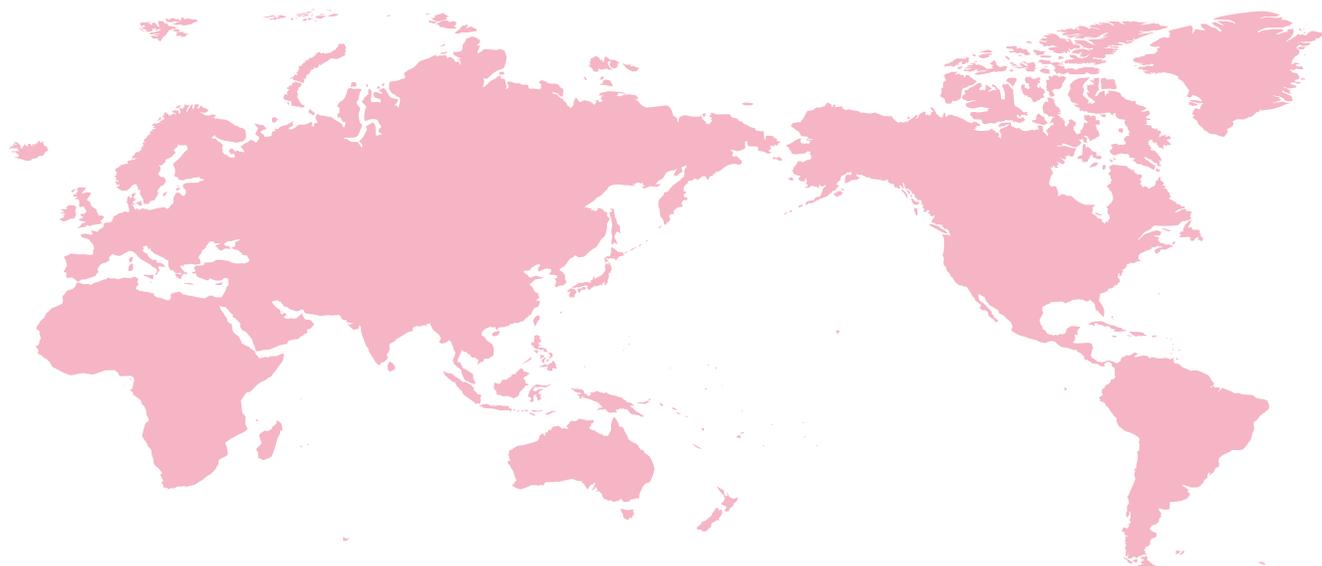
看護学部

Faculty of Nursing

国際教養学部

Faculty of International Liberal Arts

Get Global, Be Bold



この履修要項は、手元において 卒業まで大切に保管してください。

卒業時まで使用します。紛失しないように注意してください。

(再配布いたしません)

この履修要項には、学業（履修、成績）・卒業・学籍等に関することが記載されています。

修学する上で、重要な内容ですので、しっかりと読み理解するようにしてください。

なお、入学後にカリキュラム等、履修要項に関する変更が発生した場合は、掲示等でお知らせします。



入学後の各種ガイダンスでこの履修要項を使用しますので、必ず持参して参加してください（詳しい時間帯などはオリエンテーション日程表で確認してください）。

目 次

第Ⅰ章 学生生活のスタートにあたって

1. 創価大学 ミッションステートメント…………… 1
2. 教育目標と3ポリシー…………… 2～3
3. 受講モラルガイドライン…………… 3～4

第Ⅱ章 学生生活に関する基本事項

1. 大学からの連絡について…………… 5～6
2. 窓口業務について…………… 7
3. 学籍番号と学生証について…………… 7～8
4. 学籍情報変更の届出…………… 8
5. 各種証明書の発行について…………… 9
6. 標準修業年限・在学期間・在籍期間について…………… 10
7. 休学・退学について…………… 10～11
8. 転学部・転学科について…………… 11～12
9. 再入学について…………… 12

第Ⅲ章 学修に関する基本事項

1. 1年間の流れとセメスター制について…………… 13
2. 授業のしくみ…………… 14～15
3. 授業の出席と公欠制度…………… 15～18
4. 単位のしくみ…………… 18
5. カリキュラムの概要…………… 18
6. 科目ナンバリングについて…………… 19
7. 進級と卒業条件について…………… 19
8. 創価コアプログラムについて…………… 20
9. 卒業基準単位数について…………… 21～22
10. 試験について…………… 23～24
11. 追試験について…………… 24～25
12. レポートについて…………… 25～26
13. 試験における不正行為について…………… 26
14. 成績評価…………… 27～28
15. GPAについて…………… 28～30
16. 成績発表と成績に関する質問票について…………… 30
17. 単位認定制度について…………… 30～34
18. 成績優秀者について…………… 34～35
19. 早期卒業制度について…………… 35
20. 卒業見込証明書の発行について…………… 35～36
21. 学位について…………… 37
22. 主専攻と副専攻について…………… 37

第Ⅳ章 履修について

1. 履修計画の立て方…………… 38
2. 時間割の確認方法…………… 39
3. シラバスについて…………… 40
4. 履修登録手続きの方法について…………… 41～42
5. 履修取消期間について…………… 43
6. CAP制（履修登録単位数の上限）について…………… 43
7. 再履修制度について…………… 44
8. 履修年次について…………… 44
9. 他学部・他学科科目の履修について…………… 44
10. 創価コアプログラム科目（基礎科目・言語科目）の履修について…………… 44～48
11. 履修人数制限科目について…………… 48

1 2. 専門科目ゼミの登録について	4 9
1 3. 卒業論文科目の履修について	4 9
1 4. 通常の授業時間帯以外で開講する科目の履修について	5 0

第V章 共通科目

1. 教育理念・目標	5 1
2. 共通科目のラーニング・アウトカムズ（学習成果）	5 1
3. 共通科目の構成	5 1～5 2
4. 共通科目の履修について	5 2
5. 共通科目表の見方	5 3
■共通科目一覧表	5 4～5 8

第VI章 各学部・学科の履修について

経済学部 経済学科	5 9～7 0
法学部 法律学科	7 1～8 6
文学部 人間学科	8 7～1 0 0
経営学部 経営学科	1 0 1～1 1 1
教育学部	1 1 2～1 2 2
教育学科	1 1 4～1 1 8
児童教育学科	1 1 9～1 2 2
理工学部 情報システム工学科	1 2 3～1 2 9
理工学部 共生創造理工学科	1 3 0～1 3 8
看護学部 看護学科	1 3 9～1 4 7
国際教養学部 国際教養学科	1 4 8～1 5 6

第VII章 副専攻制度

1. 副専攻制度について	1 5 7
2. English Medium Program について	1 5 8
3. データサイエンスについて	1 5 8
■副専攻科目表	1 5 9～1 6 9

第VIII章 特設課程

1. 教職課程	1 7 0
2. 社会教育主事課程	1 7 1

第IX章 各種システムの利用について

1. 学内の ICT 環境（パソコン教室・プリンタの利用）	1 7 2
2. ユーザ登録について	1 7 3
3. パスワードについて	1 7 4
4. 学内無線 LAN について	1 7 4
5. G Suite サービスについて	1 7 5
6. 学習支援ポータルサイト「PLAS」について	1 7 5～1 7 8
7. 履修・成績(WEB)[通称：Campus Square]について	1 7 9
8. 出席確認システムについて	1 8 0
9. 学生ポートフォリオについて	1 8 1

第X章 学内の学習支援施設について

1. 中央図書館	1 8 2～1 8 6
2. ラーニング・commons『SPACe』／WLC Self-Access Center	1 8 7～1 8 9

巻末付録

- ◆規程（創価大学学則（抜粋）、創価大学履修規程、等）
- ◆キャンパスマップ・教室配置図

第 I 章 学生生活のスタートにあたって

1. 創価大学ミッションステートメント

1930年、牧口常三郎創価学会初代会長は、『創価教育学体系』（第1巻）を世に問いました。「創価」とは、価値の創造を意味します。その価値の中心は生命にほかなりません。生命の尊厳を守る平和という「大善」に向かって挑戦を続け、いかなる困難にあっても価値の創造をやめない—そうした人格、すなわち「創造的人間」の育成にこそ、創価教育の眼目があります。

この牧口の透徹した生命尊厳の思想は、戸田城聖第2代会長に引き継がれ、そしてその遺志を継承した池田大作第3代会長によって、創価教育の理念を実現するため1971年に創価大学は創立されました。そして創立者は、建学の精神として、

- ・ 人間教育の最高学府たれ
 - ・ 新しき大文化建設の揺籃たれ
 - ・ 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ
- の3つを示しました。

人間教育の最高学府たれ

創立者は、価値を創造し、人類に還元していくことが創価大学の本来の使命であるとし、学生に「創造的人間たれ」と呼びかけました。

大学での教育は決して専門知識の伝授に止まるべきではありません。知識を智慧と錯覚しているのが、現代人の最大の迷妄であり、求められるのは刻々と変化する現実に応じて、知識を生かしながら、問題を解決するために自在に智慧を発揮していく人間です。こうした視点から、創価大学では「人間教育」を目指し、豊かな人間性を基盤として、人類が直面する個々の問題に真摯に取り組み、智慧を発揮していく創造的人間を育成します。

新しき大文化建設の揺籃たれ

中世ヨーロッパに誕生した大学は、キリスト教を基盤にスコラ哲学を発展させ、ルネサンス（人間復興）を生み出すのに大きな役割を果たしました。現代においては、新たな地球文化を生み出すために、今一度、あらゆる学問、理性、感情等を統合し、正しく位置づける哲学が要請されています。その哲学の基軸となるのは「人間」であり、求められるべきは、真の「教養」をそなえた地球市民としての創造的人間にほかなりません。

地球市民とは、智慧と勇気と慈悲の人といえるでしょう。人種や民族や文化の差異を尊重し、理解し、成長の糧とする勇気。遠いところで苦しんでいる人々にも同苦し、連帯していく慈悲。その勇気と慈悲の心から、智慧は限りなく湧いてきます。創価大学は、地球市民すなわち創造的人間の連帯をもとに新たな地球文化建設の揺籃たることを目指します。

人類の平和を守るフォートレスたれ

牧口常三郎と戸田城聖は、第2次世界大戦中に軍国主義に敢然と抵抗したために過酷な弾圧を受け、牧口は獄死しました。戸田は出獄後、牧口の平和への遺志を継ぎ、1957年に「原水爆禁止宣言」を発表しました。そして創立者は、こうした平和思想の実現のために、世界で数多くの知性と対話を繰り広げ、民衆と民衆との交流を開いてきました。平和の探求は、創価教育の魂です。

牧口は、「人道的競争」こそ今後の人類の進むべき道であると指摘しました。軍事的競争でもなく、経済的競争でもなく、いかに人類に幸福をもたらすかの競争。今求められているのは、こうした人道的競争を担う創造的人間の育成にほかなりません。世界のあらゆる人々と開かれた対話を展開する平和のフォートレスを創価大学は目指します。

創立者は開学の日に、

英知を磨くは何のため 君よそれを忘るるな

労苦と使命の中にのみ 人生の価値(たから)は生まれる

との指針を学生に贈りました。世界の平和、民衆の幸福という使命を忘れることなく、真摯に学問に取り組む労苦のなかから、創造的人間が生まれる—それが創価大学です。

2. 教育目標と3つのポリシー

(1) 教育目標

創価大学は、池田大作先生により創価教育の理念を実現するため 1971 年に創立されました。そして創立者は、建学の精神として、

- ・ 人間教育の最高学府たれ
- ・ 新しき大文化建設の揺籃たれ
- ・ 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

の3つを示しました。

創価大学はこの建学の精神に基づき、人類が直面する個々の問題に真摯に取り組み、知恵を発揮していく「創造的人間」の育成を目標としています。そのために「知力」と「人間力」を磨き、「自分力」（学生一人ひとりが有している可能性）を発見し、開花させる人間教育に取り組みます。

(2) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

創価大学は上記教育目標の達成に向け、学部並びに全学的な教育研究組織において、

- 知識基盤：幅広い知識と高度な専門性
- 実践的能力：知識を社会に応用する力とコミュニケーション力
- 国際性：多様性を受容する力と他者との協働性
- 創造性：統合する力と創造的思考力

を身につけた世界市民となるべき人材の育成に取り組んでいます。

創価大学は、所定の期間在学し、学士課程を通じて上記の知識・技能並びに態度を身につけ、所定の単位を修得し GPA 基準を満たした学生に学位を授与します。

(3) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学は、創造的人間の育成を目標とし、上記ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能並びに態度を修得させるために、大学全体として実施する共通科目と、各学部が実施する専門科目を、学士課程教育機構のもとに体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた教育を提供します。創価大学が提供する全科目にコースナンバーを付与し、順次性と体系性を明示しています。

創価大学は入学者が自立した学習者となっていけるように、初年次に初年次セミナー、学術文章作法、外国語等の基礎・導入科目を開講しています。初年次教育推進室が入学前教育を含めた大学全体として、その編成・調整をはかっています。また、創価大学は学生が将来を意識しながら主体的な学びを実践できるように、1年次から4年次にかけて順次性を意識したキャリア科目を提供しています。

創価大学は、全学自己点検・評価委員会を通じて共通科目・専門科目におけるコースナンバーや科目配置の妥当性と、直接・間接評価手法を用いて測定したラーニング・アウトカムズ（学習成果）の達成状況を点検・評価し、それをプログラム・レベルや授業レベルにおける教育改善や、カリキュラムの見直し等につなげることで内部質保証が機能するよう取り組んでいます。

(4) アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

創価大学はディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則って「創造的人間」の育成をめざしています。そこで創価大学は入学を希望する者に対して、本学の教育理念を理解し、高等学校までの教育で育成が期待される「学力の三要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）にわたる基礎的な学習能力を備えていることを求めます。それらの能力を多面的に評価することを基本方針として入学試験を実施します。具体的には、

- ① 創価大学の教育理念を理解し、自身の目的観に照らして本学での学習を希望すること。
PASCAL 入試、公募推薦入試ではそのことを出願資格とし、「面接試験」においてもそれを評価します。

- ② 高等学校までの教育において到達目標とされるところの基礎学力を習得していること。
PASCAL 入試、公募推薦入試、大学入試センター試験利用入試、全学統一入試、一般入試、外国人入試では、そうした基礎学力、即ち、知識・技能、思考力、判断力等を評価します。
- ③ 基礎的な英語能力を有すること。
創価大学の入試において英語能力を重視します。特に大学入試センター試験利用入試、一般入試では英語の得点配分を他科目より高く設定します。また、公募推薦入試、全学統一入試、一般入試では、実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を優遇する措置を取ります。
- ④ 諸問題の解決のために主体性を持って多様な人々と協働して取り組んでいく資質と意欲を有すること。
PASCAL 入試、公募推薦入試においては「書類審査」と「面接試験」を実施し、高等学校等までの取り組みにおける主体性、協働性、学習意欲を評価します。また PASCAL 入試では「グループ・ディスカッション」、「小論文」により、協働性、表現力等を評価します。

3. 受講モラルガイドライン

(1) 創価大学におけるアカデミック・インテグリティ

アカデミック・インテグリティ (Academic Integrity) とは「学問における誠実性」と訳され、高等教育に共通する理念です。最高学府で学ぶ私たちは、自らの学問に対し、責任ある態度で真摯に公正に向き合わなくてはなりません。また創価大学という学問共同体においては、お互いの権利を尊重し、すべての人の努力が公平に報われる環境を作り、虚偽や欺瞞といった不正を許さない姿勢と、品位のある一人一人の人格が問われます。アカデミック・インテグリティには、学生がお互いに不正をしない、不正に加担しない、という高い人格を磨いていくという意味もあります。

例えば、次のような学問における不誠実行為は、大学の理念に反する重大な違反と見なされ、場合によっては、停学や単位不認定などの処分に該当します。

■ 試験や通常授業における不正行為

試験中だけでなく、ふだんの授業中や授業外の課題を行う際にも、教員の許可なく他人の回答を自分の回答として提出することや、自分の回答を他人に写させるなどした場合は不正行為とみなされます。

なお特に試験におけるカンニングなどの不正行為については、履修要項の『試験における不正行為について』(26 頁) のページを参照してください。

■ 剽窃 (ひょうせつ)

課題やレポート作成時などに、他人の文章や考えについて出典先を明記せずにそのまま自分のものとして提出・発表すること。

例：他人が書いた課題やレポートを自分のものとして提出する。

自分が書いた課題やレポートを他人が書いたものとして提出する。

他人の文章や考えを、出典先を明記せずにそのまま引用する (インターネットからのコピー&ペーストも含まれる)。

(2) 出席確認について

今日、大学教育においては厳格な成績評価が求められており、授業への出席はそのための大切な前提となります。本学ではそのために出席票・点呼・出席確認システムなどを使用して出席調査を行います。授業への出席に関しては、以下の項目に特に注意してください。

- ① 出席確認は、第 1 回目の授業から行います。
- ② 早退する場合は、担当教員の許可を得てください。無断の早退は欠席扱いとなります。
- ③ 遅刻時間は授業ごとに担当教員が設定することになっていますので、担当教員に確認してください。
- ④ IC カードリーダーによる出席確認システムが使用されている授業で学生証を忘れた場合は、必ず授業開始前に担当教員に申し出てください。後で申し出ても出席になりません。
- ⑤ 出席票を用いて出席を取る授業で出席票配布時に出席していない場合は、遅刻又は欠席となります。後で申し出ても出席になりません。
- ⑥ 出席票の記入を忘れた場合、又は IC カードリーダーに学生証をタッチし忘れた場合は、欠席扱いと

なります。後で申し出ても出席になりません。

- ⑦ ICカードリーダーで出席登録を行う科目は、PLAS サイト内の「出席確認システム」のページで出欠状況が確認できます。
- ⑧ ICカードリーダーによる出席確認システムにおいて他人の学生証を身代わりに使用して出席登録したり、タッチをただけで授業に出席しないなどの不正が判明した場合は当該授業の出席が無効となるだけでなく、単位の修得そのものが難しくなる場合もあります。なおこの点は実行者だけでなく身代わりを依頼したのものにも適用されます。

(3) 基本的な受講マナーの励行

真摯に学問に取り組むため、 創大生として基本的な受講マナーを励行しましょう

- ◆ 担当教員に許可なく授業中に私語をしない。
- ◆ 担当教員に許可なく携帯電話等を使用しない。
- ◆ 担当教員に許可なく授業中にみだりに入退室をしない。
- ◆ 授業には積極的に集中力を持って参加する。
※著しく受講態度の悪い学生（長時間の居眠りや、意図的に議論への参加を拒否するなど）は、その時限の受講が停止される場合があります。
- ◆ 他の受講生の迷惑となるような行為は行わない。

第Ⅱ章 学生生活に関する基本事項

1. 大学からの連絡について

大学から学生のみなさんに連絡事項がある場合は、掲示板、ポータルサイト「PLAS」、又はホームページに掲載します。**確認を怠ったことにより生じた問題は大学として一切責任を負いません**ので、日頃から掲示等を確認しましょう。

(1) ポータルサイト「PLAS」

ポータルサイト「PLAS」には、以下の連絡事項が掲載されています。これ以外にもさまざまな機能がありますので、一日に一度はポータルサイトにアクセスし、確認を行いましょう。

- ・ お知らせ・・・大学の各部局からのお知らせが掲載されています
- ・ あなた宛の連絡・・・学生個人宛の連絡事項が掲載されています
- ・ 休講・補講・教室変更情報・・・履修登録した授業の休講・補講・教室変更情報が掲載されています
- ・ 教員からの講義連絡・・・履修登録した授業の担当教員からの連絡事項が掲載されています

○パソコン版 <https://plas.soka.ac.jp/>

○スマートフォン版 <https://plas.soka.ac.jp/csp/plasm/login.csp>

※あらかじめブックマークしておくとう便利です

※ポータルサイトを利用するためには、最初に「ユーザ登録」を行う必要があります。詳しくは「第Ⅸ章 各種システムの利用について／2. ユーザ登録について」（173頁）を参照してください。

■パソコン版



■スマートフォン版



(2) ホームページによる掲示

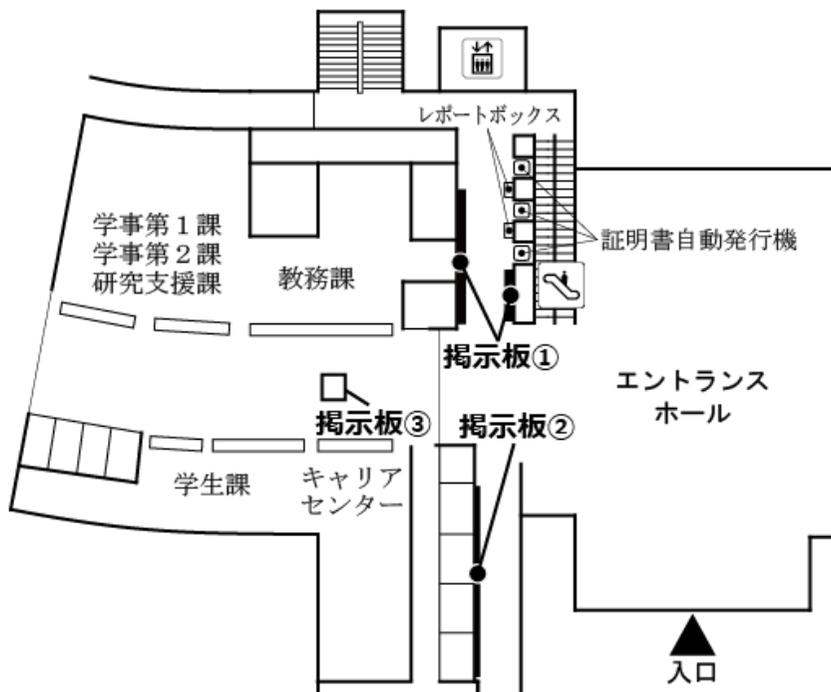
大学事務局からの全体的な連絡はホームページに掲載されることもあります。以下に教務課からの情報が掲載されるページのURLを掲載しますので、適宜確認しましょう。

○大学HP (授業・成績・履修など) <https://www.soka.ac.jp/campuslife/learning/>

(3) 掲示案内図

大学事務局からの連絡を行う掲示板は中央教育棟1階に設置されています。大学に来た際は必ず確認しましょう。

掲示板①	<input type="radio"/> 電子掲示板（教務部・学生部・学事部） <input type="radio"/> 教務部掲示板（全学向けのお知らせ、補講情報、試験・レポート情報等） <input type="radio"/> 学部掲示板（経済・経営・文・国際教養学部） <input type="radio"/> 文系大学院掲示板（経済学・法学・文学・国際平和学研究所）
掲示板②	<input type="radio"/> キャリアセンター掲示板
掲示板③	<input type="radio"/> 学生部掲示板 <input type="radio"/> 学事部掲示板



このほか、一部の掲示物は各棟の掲示板上に掲出される場合もあります。

- ・教育学部棟（B棟）1階
- ・本部棟（M棟）3階
- ・理工学部棟（E棟）1階
- ・看護学部棟（N棟）2階

2. 窓口業務について

学生生活に関わる各種申請、届出、相談等の取扱業務と窓口受付時間は以下のとおりです。

なお、定期試験期間中や各種行事開催時には窓口受付時間が変更されます。窓口時間を変更する場合は、その都度掲示やポータルサイトでお知らせします。

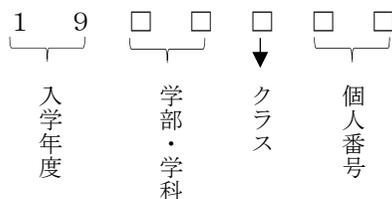
担当窓口	取扱業務	窓口時間
教務部	履修・成績・単位認定・卒業に関すること 学籍異動（休学・退学・再入学）に関すること 転学部・転学科、転籍に関すること 休講・補講、教室設備等の授業運営に関すること 定期試験、演習、卒業論文に関すること 授業の出席や公欠に関すること 各種証明書の申請・発行に関すること	【月曜日～金曜日】 9時30分～17時 【土曜日】 9時30分～12時 ※長期休業期間中は 平日の9時30分～ 12時です
学生部	身上変更の届出、学生証の再発行に関すること 通学証明証、学割や団体割引に関すること 施設貸出、学内・外活動届、備品使用に関すること アルバイト紹介やアパート紹介に関すること 学外活動や学友会（クラブ・サークル）に関すること クラブ活動による公欠に関すること 学生寮に関すること、遺失物・拾得物に関すること 奨学金に関すること、その他各種報告・相談など	
キャリアセンター	進路全般、就職活動支援に関すること 公務員試験、国家試験、資格試験講座に関すること 就職活動による公欠に関すること	
国際部 （中央教育棟6階）	海外留学、海外短期研修に関すること 外国人留学生に関すること	
教職キャリアセンター （教育学部棟1階）	特設課程（教職・社会教育主事）に関すること 教育実習、介護等体験、学校インターンシップに関すること	

3. 学籍番号と学生証について

(1) 学籍番号について

学籍番号とは以下のルールによって付与される7桁の番号で、学生個々に異なる番号が付与されています。各種届出や証明書の発行、履修登録、試験を受験するなどの際にこの学籍番号が必要になりますので、正確に記憶し、記入の際は正しく明記しましょう。

■学籍番号のルール



※学部・学科は以下の数字で示されています

- | | |
|-------------------|----------------|
| 06 経済学部 経済学科 | 21 経営学部 経営学科 |
| 01 法学部 法律学科 | 17 文学部 人間学科 |
| 26 教育学部 教育学科 | 27 教育学部 児童教育学科 |
| 58 理工学部 情報システム工学科 | |
| 59 理工学部 共生創造理工学科 | |
| 61 看護学部 看護学科 | |
| 35 国際教養学部 国際教養学科 | |

■暗証番号（4桁）について

学籍番号決定通知に記載されている4桁の暗証番号は、システムの利用登録や証明書自動発行機を使用する際に必要となります。こちらも合わせて覚えておきましょう。

(2) 学生証について

学生証は本学の学生であることを証明するものです。裏面の注意事項を守り、常に携行してください。また、以下の点にも注意してください。

■注意事項

- ① 学生証がないと各種証明書や学割の発行を受けられません。また、定期試験の受験、通学定期券の購入、SPACe や図書館などの学内施設利用もできません。
- ② 学生証の裏面に「在籍シール（1年間有効）」のないものは無効です。1年毎に必ずシールの更新をしてください。シールの更新は毎年4月に行います。詳細は掲示等によって連絡します。
- ③ 強い衝撃を与えると IC チップが破損する恐れがあります。取扱いには十分注意してください。

■学生証を紛失したら

学生証を紛失・破損した場合は、直ちに学生課窓口にて再発行の手続きを行ってください。なお、再発行には数日かかります。また、再発行後、紛失した学生証が見つかった場合は、旧学生証を直ちに学生課窓口に戻却してください。

《再発行の手続き方法》

- ① 顔写真（2.5cm×2.5cm、カラー）を用意し、証明書自動発行機にて「学生証再発行申請」の用紙を購入（再発行の場合は2,000円、ICチップ破損による再発行の場合は1,000円）
※証明書自動発行機で「学籍番号入力」ボタンを押し、「30□□□□□□□□」（□は学籍番号）を入力し、画面の案内に従って操作することで用紙を購入できます
- ② 購入した用紙に必要事項を記入し、学生課窓口にて提出

■定期試験日に学生証を忘れた場合

定期試験受験時には学生証を提示することが必要です。万が一学生証を携帯していない場合は、試験開始前に教務課窓口（法学部、教育学部、理工学部事務室でも可）にて「定期試験受験許可証」（発行当日のみ有効）の交付を受けてください。なお、定期試験受験許可証を発行する際は手数料として300円かかります。

《定期試験受験許可証の発行方法》

- ① 証明書自動発行機にて「定期試験受験許可証申請用紙」を購入し、必要事項を記入の上、教務課窓口（法学部、教育学部、理工学部、看護学部事務室でも可）にて提出
※証明書自動発行機で「学籍番号入力」ボタンを押し、「30□□□□□□□□」（□は学籍番号）を入力し、画面案内に従って操作することで用紙を購入できます
- ② 窓口にて本人確認を行った後、許可印を押した「定期試験受験許可証」を交付します。許可印がないものは無効です。試験の際は、許可印の押された「定期試験受験許可証」を机の見える位置に置いてください。
- ③ その日の最終試験終了後、許可証を試験監督に提出してください。

4. 学籍情報変更の届出

本人、又は保証人の身上で何かしらの変更があった場合や、引越などによって、大学に届けている住所や電話番号などに変更があった場合は、大学からの緊急の連絡や、発送物（成績通知書や学費振込用紙）の送付に支障をきたしますので、速やかに以下の方法で変更手続きを行ってください。

変更項目	手続き方法
改姓等による学生氏名、保証人氏名の変更 保証人の変更	学生課窓口に変更届を提出
学生住所・電話番号 保証人住所・電話番号（携帯番号含む）	ポータルサイト(PLAS)の「履修・成績(WEB)」ページ内にある「学生住所変更」で変更登録
学生携帯番号 学生メールアドレス	ポータルサイト(PLAS)内の「個人環境設定」で変更登録

5. 各種証明書の発行について

大学が発行する証明書は、証明書自動発行機又は担当部課の窓口にて発行・交付しています。なお、証明書自動発行機で証明書や申請書を発行する際は学生証が必要です。

■証明書自動発行機の設置場所と稼働時間

証明書自動発行機は以下の場所に設置されています。

- 中央教育棟1階（エスカレーター脇） ○教育学部棟（B棟）1階
- 本部棟（M棟）4階 ○理工学部棟（E棟）1階

稼働時間帯は次のとおりです。なお、入学試験や各種行事などにより、稼働時間が変更又は臨時で休業する場合があります。稼働時間を変更する場合は、掲示にてお知らせします。

曜日	通常	春・夏・冬季休業期間中
月・火・木	9:00～18:30	9:00～17:00
水・金	9:00～17:00	
土	9:00～12:00	9:00～12:00 (窓口申請はできません)
日・祝祭日	休業	休業

■証明書発行に関する注意事項

即日発行できる証明書は以下の表で「証明書自動発行機で即日発行」欄に○が付されている証明書で証明書自動発行機で発行する場合のみです。即日発行欄に○が付されているものでも、学生証を紛失した等により窓口にて証明書を発行・交付する場合は以下の表に記載されている日数がかかりますので、余裕を持って申請を行ってください。また、卒業見込証明書の発行には、修得単位数や通算GPA等の条件があります。詳しくは「第三章 20. 卒業見込証明書の発行について」(35～36頁)を参照してください。

■発行できる証明書

証明書の種類	手数料	証明書自動発行機で即日発行	担当窓口	窓口発行の場合の の交付日
①成績証明書（和文・英文）	200円	○	教務課	2日後
②在学証明書（和文・英文）	100円	○		2日後
③卒業見込証明書（和文・英文）	200円	○		2日後
④成績・卒業見込証明書	300円	○		2日後
⑤休学証明書	300円	—		2日後
⑥健康診断証明書	200円	○	保健センター	×
⑦学生旅客運賃割引証（学割）	無料	○	学生課	×
⑧科目履修証明書	和文 200円 英文	—	教務課	2日後
				7日後
⑨人物に関する証明書（人物考察書）	100円	—	教職キャリアセンター	7日後
⑩教員免許状取得見込証明書	200円			7日後
⑪学力に関する証明書	200円			7日後
⑫通学証明書	無料	—	学生課	翌日
⑬在寮証明書	100円	—	学生課	2日後

※土曜日・休日は発行日数に含まれません。

※即日発行できない証明書については、証明書自動発行機に必要な申請書を購入し、必要事項を記入して担当部課の窓口へ提出してください。

※③・④の証明書の発行は、在学第7セメスター以降にしか発行できません。

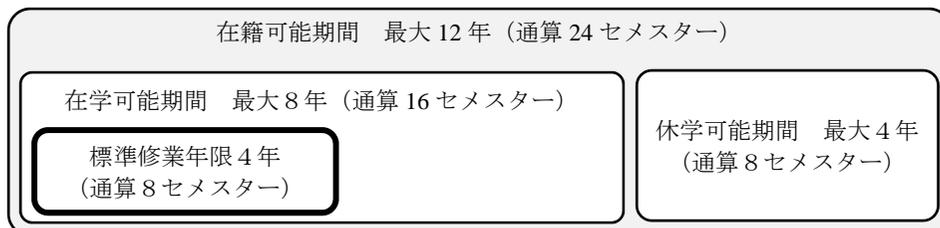
※「⑥健康診断証明書」は、最新年度の健康診断を受けた方のみ発行されます。なお、健康診断を受けていても未受診の検査項目、又は再検査項目や異常値がある場合は証明書自動発行機で証明書を発行することはできません。健康診断証明書を発行できない場合は保健センターまでお問い合わせください。

※「⑫通学証明書」については学生課窓口を設置している申請用紙に必要事項を記入し、窓口へ提出してください。

6. 標準修業年限・在学期間・在籍期間について

標準修業年限とは、大学を卒業するために必要な在学期間のことです。本学では、これを学則で「4年（通算8セメスター）」と定めています。なお、学部により早期卒業（在学期間3年間又は3年半）を認める場合があります。

また、本学に在学できる期間は、休学期間を除き最大8年間（通算16セメスター）と定めています。休学期間は最大4年間（通算8セメスター）まで認められていますので、在学期間と休学期間を合わせると、創価大学に在籍できる期間は最大で12年間（通算24セメスター）です。



7. 休学・退学について

(1) 休学

休学とは、学長の許可を受けて一定期間授業を履修しない状態のことを指し、経済事情、留学、病気や怪我などの理由により長期間授業に出席できない場合は、1セメスター、又は1年間の休学を願い出ることができます。

ただし、休学期間は「学業を休む（授業を受けない）期間」ですので、標準修業年限や在学期間には算入されません。したがって、休学した期間分だけ卒業できる時期が遅れることとなります。

なお、休学した場合であっても年度が変わると自動的に進級します。例えば、1年生が半年間あるいは1年間休学しても、翌年度の学年は2年生になります。また、休学期間中も学内の諸施設（図書館、SPACe等）や各種システム（ポータルサイト等）を使用することができます。

■休学の手続き方法

休学の手続きは、所定の「休学願」（教務課窓口で配布）に必要な事項を記入し、保証人連署の上、教務課に提出してください。休学願の提出締切日は以下の通りです。

休学期間	提出締切日(教務課必着)
・ 4月1日～翌年3月31日（春学期→秋学期の1年間） ・ 4月1日～9月15日（春学期のみ）	5月31日
・ 9月16日～翌年9月15日（秋学期→翌春学期の1年間） ・ 9月16日～翌年3月31日（秋学期のみ）	11月15日

※病気・ケガによる休学は、医師の診断書の提出が必要です

※私費留学による休学は、留学先の「入学許可書（写し）」を添付してください

※休学が許可された後、休学通知書及び休学時の学費の振込用紙が送付されます

■休学期間の延長

休学期間の延長を希望する場合は、休学願を再度提出し、許可を得なければなりません。

ただし継続して2年（4セメスター）を超えて休学することはできません。また、通算して4年間（8セメスター）を超えて休学することはできません。

■休学終了時の手続き

休学期間が満了した時点で、自動的に復学になります。復学時に手続きを行う必要はありません。通常通り学期初めのガイダンスへ出席し、履修登録の手続きを行ってください。

■休学中の学費

休学中の学費は「在籍料」のみ徴収します。金額は以下の通りです。なお、学費納入に関する詳細は、財務部 経理課 (042-691-2214) へお問い合わせください。

休学期間	半年休学	1年間休学
2019年度入学生	30,000円	60,000円

(2) 退学

退学には、退学願を提出することによる自主退学と命じられての退学（強制退学）があります。退学した場合でも、本人の申請により、成績証明書、在籍期間証明書、退学証明書などの証明書を発行することができます（所定の手数料がかかります）。

■自主退学

自主退学の手続きは、所定の退学願（教務課窓口で配布）に必要な事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添付して退学を希望する学期内に教務課に提出してください。

※退学日は原則として所定の会議で退学を承認した日となります。

※退学をする学期の学費が未納の場合は、「学費未納による退学」と同様の扱いとなります。

■強制退学

下記の理由に該当した場合は、退学（強制）を命じられます。

- ① 在学期間が8年間を満了した者（学則第5条）
- ② 履修登録を行わなかった者（学則第10条）
- ③ 入学後4年間（休学期間を除く）を経過して合計40単位以上を修得していない者（学則第11条の2）
- ④ 当該学期の学費を納入しない者（学則第42条）
- ⑤ 懲戒により退学を命じられた者（学則第46条）

8. 転学部・転学科について

転学部・転学科とは、入学時とは異なる学部・学科に異動することを言い、学部・学科の定員に欠員がある場合に限り、在学期間及び修得単位数の条件を満たし、転学部・転学科試験に合格することで、希望する学部・学科の2年次、又は3年次に異動することができます。なお、年度により学部・学科の在籍学生数の関係から、転学部・転学科の受入を実施しない場合がありますので注意してください。また、看護学部、国際教養学部、及び文学部人間学科社会福祉専修については、転学部・転学科の受入は行いません（文学部人間学科への転学部・転学科は可能です）。

(1) 転学部・転学科の条件

転学部・転学科をするためには、以下の条件をすべて満たす必要があります。

異動先の学年	出願条件	試験
2年次	本学に1年以上在学し、共通科目、専門科目の中から14単位以上を修得又は見込みであること	12月上旬に実施する転学部・転学科試験に合格すること
3年次	本学に2年以上在学し、共通科目、専門科目の中から62単位以上を修得又は見込みであること	

※出願できる学部・学科は1つのみです。複数学科への併願はできません。

※試験に合格した後、年度末において修得単位の条件（2年次＝14単位以上、3年次＝62単位以上）を満たさない場合は合格が取り消されます。

※転学部・転学科試験の試験要綱は毎年5月中旬にホームページに掲載されます。試験科目や出願書類、出願期間などの詳細は試験要綱を確認してください。また、過去3年間分の過去問題も掲載しています。

※転学部・転学科した場合、単位の修得状況により、卒業までに標準修業年限を超える場合や、教員免許取得に必要な単位を修得できない場合があります。事前に教務課（教職関係は教職キャリアセンター）にご相談ください。

(2) 既に修得した単位の取り扱いについて

転学部・転学科前に修得した単位は、転学部・転学科先の卒業要件に合わせて単位の振替が行われます（ただし、不合格となった科目の単位・成績は引き継がれません）。

なお、転学部・転学科前に所属していた学部・学科の専門科目は、転学部・転学科後は「他学科専門科目」として扱われ、卒業要件上の自由選択単位として算入されることとなります。特に3年次に転学部・転学科する場合は、転学部・転学科先の卒業要件単位数に十分注意してください。

9. 再入学について

本学を退学し、再入学を願い出た者には、選考の上で再入学を許可することがあります。出願後は、学生部委員会及び学部教授会にて審査を行います。

(1) 再入学の資格

再入学のための出願資格は、以下①②いずれかの条件に該当する場合のみです。在学期間8年満了、又は懲戒により強制退学となった場合は再入学の資格がありません。また、再入学できる学部・学科は退学時に在籍していた学部・学科に限ります。なお、再入学後の学年については、退学時点までの在学期間及び修得単位数により決定します。

■再入学出願資格

- ① 自主退学（学費未納を除く）をした場合は、再入学日が退学日より半年以上4年以内の者
- ② 学費未納のまま自主退学した者、又は強制退学した者のうちその理由が履修登録未了、4年40単位未満、学費未納である者については、再入学日が退学日より半年以上2年以内の者

(2) 再入学できる時期と手続き期限

4月（春学期）、又は9月（秋学期）に再入学することができます。再入学は、以下の表の提出期限までに再入学願を提出し、許可を受けた後に再入学手続き書類の提出、及び学費を納入することで手続きが完了します。再入学に際して試験は行いません。

なお、外国人留学生は、在留資格取得等の手続きがありますので、以下の期限の1ヶ月前までに再入学願を提出してください。

再入学時期	再入学願の提出期限
4月（春学期）	1月31日
9月（秋学期）	6月15日

(3) 再入学時に納入する費用について

再入学手続きの際、再入学許可年度の学費（1年分、又は半年分）を納入していただきます。なお、入学金は発生しません。

再入学願を提出し、再入学が許可された後、再入学許可通知と合わせて学費納付書を送付しますので、納付書に記載された期日までに学費を納入してください。

※学費の詳細については、財務部 経理課（042-691-2214）までお問い合わせください。

(4) 退学前に修得した単位の取扱いについて

退学前に修得（合格）していた単位は、再入学する学年のカリキュラムに読み替えた上で再入学時に単位の認定を行います。単位認定に際しては成績（評価）をそのまま引き継ぎます。

なお、カリキュラムの変更により、単位認定できない場合があります。詳しくは教務課までお問い合わせください。

第三章 学修に関する基本事項

1. 1年間の流れと Semester 制について

創価大学では、1年間の流れを春学期、秋学期の2つに分け、その各々の学期を「Semester (Semester)」と呼んでいます。例えば、4月入学の学生の場合、1年次の春学期は「第1 Semester」、3年次の秋学期は「第6 Semester」というように、学期が進行するにつれて Semester 数も進行していきます。具体的には以下の通りです。

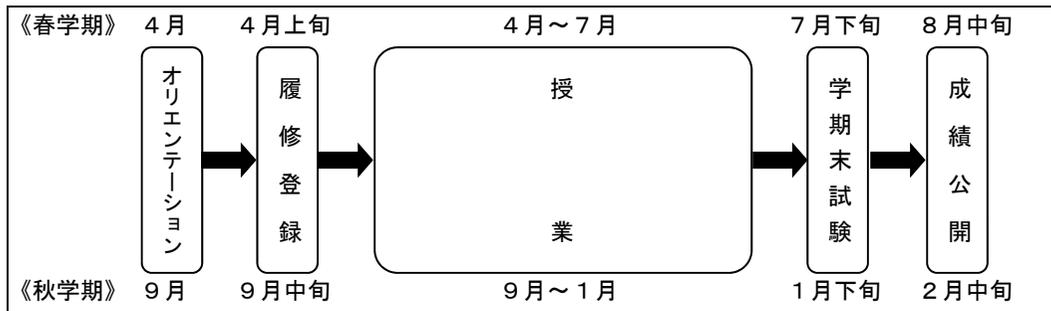
学期	春学期	秋学期
期間	4月1日～9月15日	9月16日～翌年3月31日
1年次	第1 Semester	第2 Semester
2年次	第3 Semester	第4 Semester
3年次	第5 Semester	第6 Semester
4年次	第7 Semester	第8 Semester

※年度により、秋学期の開始日が9月16日以前になる場合があります

※9月入学者の場合は、1年次秋学期が「第1 Semester」となります。

※再入学した場合、退学前の在籍期間に応じて Semester 数が変わります。詳しくは再入学時にご案内します。

また、それぞれの Semester は大まかに以下の流れで進んでいきます。これらの詳しい日程は、毎年2月頃にポータルサイト上に翌年度のスケジュールが掲載されますので、必ず確認してください。



- 春学期と秋学期の始めに履修登録を行います。なお、履修登録は「履修登録期間」「履修修正期間」内に必ず完了させてください。履修登録を行わなかった授業は履修することができません。また、履修登録を行わなかった場合は、学則により退学が命じられることとなりますので、十分に注意してください。
- 学期末に実施される試験を受験し、成績がD評価以上の場合に単位が認定されます。ただし、授業により、学期末試験の代替としてレポート提出等の課題が課される場合があります。詳しくは各授業のシラバスを確認してください。
- 各学期 (Semester) で成績が発表された後、保護者宛に成績通知書が郵送されます。成績通知書は、履修・成績システム (WEB) に登録された住所に郵送されます。本人 (退寮した場合など) 及び保護者の住所変更は、すみやかに行ってください。

2. 授業のしくみ

授業は、各学期原則として15週にわたって開講されます。ただし、一部科目は8週で終了する場合や、夏休み・春休みを利用して開講される科目もあります。

(1) 授業時間

授業時間は各時限90分です。月・火・木曜日は5時限、水・金曜日は4時限まで授業が行われます。時間帯は以下の通りです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05

(2) 授業時間割・教室について

各学期の授業時間割は、毎年3月下旬にポータルサイト内の「web時間割」ページに、春学期・秋学期分が同時に公開されます。大学の授業は、学生自身が自分で時間割を決め、履修登録を行い、授業を受講しますので、この履修要項に記載されている内容や、web時間割に掲載されている注意事項、各種ガイダンスでの説明を踏まえて自分の履修計画を立てましょう。

なお、授業の開講曜日・時限・教室等の変更が生じた場合は、ポータルサイト内のweb時間割上でお知らせします。また、一時的な変更については、担当教員より直接連絡が行われる場合もありますので、授業内の案内やポータルサイトに送られてくる「講義連絡」もよく確認してください。

(3) 休講について

教員のやむを得ない理由等によって授業が休みになることがあります。これを「休講」といい、授業の休講情報はポータルサイト、及び中央教育棟1階ロビーの教務部電子掲示板を通じて連絡が行われます。事情によっては急きょ授業が休講となる場合がありますので、随時ポータルサイトを確認するよう心がけてください。また、緊急の場合は、職員が直接教室でお知らせする場合があります。

なお、休講の連絡もなく、授業開始時刻から30分以上経過しても授業が始まらない場合は、教務課までご連絡ください。

(4) 補講について

授業が休講となった場合は、代わりの日時に授業が行われます。これを「補講」といい、原則として水・金曜日の5時限目、若しくは土曜日の1～4時限目に行われます。

補講情報（補講が行われる授業、日時、教室等）は、ポータルサイトと中央教育棟1階ロビーの掲示を通じてお知らせします。

(5) 全学休講措置について

台風や積雪、交通機関の不通など、やむを得ない事情が発生した場合は、全学休講措置（すべての授業を休講する）が行われる場合があります。全学休講措置は、以下の状況のとき、教務部長、学生部長及び大学事務局長の協議により判断されます。

- ① JR東日本（八王子駅を中心とした路線）又は西東京バス（八王子駅－大学間）が運休している場合
- ② 多摩北部・多摩南部・多摩西部地方のいずれかに気象に関する「特別警報」、又は「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」が発令されている場合
- ③ その他、地震等の災害により学生の登下校に困難又は危険が伴う場合

この休講措置については、午前中の授業（1・2時限目）は午前6時の時点、午後の授業（3時限目以降）は午前10時の時点で判断します。ただし、交通機関の運休や天候の悪化が確実に予測される場合は、この時刻以前に判断する場合があります。また、上記の基準に該当する場合であっても、天候の回復など、授業実

施や学生の登下校に大きな支障はないと判断される場合は全学休講措置を行いません。授業の有無については、大学からの情報をよく確認してください。

全学休講措置を講じる場合は、ホームページ、ポータルサイト、及びテレフォンサービスを通じて連絡します。テレフォンサービスの電話番号は以下の通りです。

テレフォンサービス電話番号： 042-691-9500

3. 授業の出席と公欠制度

(1) 出席の記録方法

授業には、履修登録を行った時間割に従って毎時間必ず出席しなければなりません。授業への出席は、学生証を利用して、ポータルサイトの「出席確認システム」に記録しています。授業に出席する際は、教室の入口に設置されているカードリーダーに学生証をタッチし、出席の記録を行ってください。研究室などのカードリーダーが設置されていない教室や、授業の性質によりカードリーダーの記録以外の方法などにより各授業担当教員が個別に出席を管理している場合があります。各授業担当教員の指示に従い、自らの責任において出席の記録を行ってください。

出席確認システムでは、授業開始10分前から、各授業担当教員が設定している遅刻設定時間までの間に学生証がタッチされたものを「出席」、遅刻設定時間にタッチされたものを「遅刻」として記録しています。遅刻設定時間以降はカードリーダーで出席の登録を行うことはできず、原則として欠席として扱われます。

万が一、学生証を忘れた場合や、何らかの理由によりカードリーダーで出席の記録を行うことができない場合は、必ず授業開始時間前に授業担当教員に申し出てください（授業終了後に申し出が行われた場合は、原則として欠席として扱われます）。

(2) 出席状況の確認方法

カードリーダーを利用して登録した出席の状況は、ポータルサイト内の「出席確認システム」でいつでも確認することができます。また、この出席確認システムは大学内のパソコンだけでなく、自宅のパソコンやタブレットなどからでも確認することができます。

また、欠席が一定回数（総授業回数の5分の1、又は3分の1）に達すると、出席確認システムより大学のメールアドレス宛に通知が自動的に送信されます。



出席確認システム

[ログアウト](#)

学生用メニュー

>> 授業・出席情報一覧

学生名 **加藤 高明**

授業科目名 **電気科学 - 物理化学概論 - 伊藤 博文**

表示種別 履修科目のみ 未履修科目含む

員例
○:出席、公:公欠、×:欠席
遅:遅刻、休:休講

2009/06/29 現在の出席状況です。 表示区分: 全て

授業科目名	回数	出席率 (%)	04/19	04/20	05/10	05/17
電気科学 - 物理化学概論 - 伊藤 博文	12	92	○	○	×	○

授業科目名	回数	出席率 (%)	04/21	04/28	05/12	05/19
電気科学 - 英語 II - 伊藤 博文	8	67	○	○	×	×

授業科目名	回数	出席率 (%)	04/16	04/23	05/07	05/14
電気科学 - 英語 II - 伊藤 博文	7	54	○	○	○	×

■電気科学 - 物理化学概論 - 伊藤 博文

開講日	状況	打刻時間
04/19	○	10時00分 ~ 11時30分
04/26	○	10時03分 ~ 11時28分
05/10	×	
05/17	○	10時01分 ~ 11時29分
05/24	○	09時58分 ~ 11時27分
05/31	○	10時01分 ~ 11時31分
06/07	遅	10時30分 ~ 11時28分
06/14	○	10時04分 ~ 11時30分
06/21	×	
06/28	○	10時02分 ~ 11時28分
07/05	○	10時05分 ~ 11時28分
07/12	○	10時01分 ~ 11時31分
07/19	○	09時59分 ~ 11時30分
09/20	-	
09/27	-	
10/04	-	
10/11	-	
10/18	-	

各授業科目をクリックすると、
打刻時間を含む詳細を表示します。

(3) 欠席について

授業を欠席する場合は特に手続きを行う必要はありません。ただし、授業担当教員と相談し、欠席した授業を補うようにしてください。また、授業時数の3分の1を超えて欠席した場合、その科目の単位修得ができませんので注意してください。

※欠席回数が授業時数の3分の1を超えて欠席している場合、履修規程により教員は成績として「N評価（評価不能／不合格）」を行います。

なお、病気などにより長期にわたって授業に出席できない場合は教務課までご相談ください。

(4) 公欠について

授業を次の一覧表に掲載された理由で欠席する場合、申請により「公認欠席（以下、公欠という）」として欠席回数から除外することができます。公欠を希望する場合は、担当窓口（公欠理由により担当窓口が異なります）に、公欠理由を証明する書類を持参した上で、窓口で配布する「公欠願」に必要な事項を記入し、許可印を受けた上で授業担当教員に各自で提出してください。

「公欠願」を授業担当教員に提出する締切日は、公欠対象となる授業の最終授業日までです。ただし、最終授業日が公欠に当たる場合は教務課窓口へ提出してください。

■公欠の対象となる理由

公欠理由	手続窓口
① 教育実習（教育実習・観察教育実習）、博物館実習及び教員免許取得に必要な介護等体験に参加する場合	教職キャリアセンター
② 看護学部における臨地実習及び研修に参加する場合	看護学部事務室
③ 文学部における相談援助実習及び観察実習に参加する場合	文学部事務室
④ 演習・共通演習で行う実習又は研修に参加する場合（※1）	教務課（理工学部生は理工学部事務室）
⑤ 就職採用試験（ただし会社訪問は含まない）、公務員試験を受ける場合（※2）	キャリアセンター
⑥ 教員採用試験を受ける場合	教職キャリアセンター
⑦ 学部・学科・専攻が実施するクラス研修旅行に参加する場合	研修旅行の責任者
⑧ 本学公式行事に学生代表として参加する場合	学生課
⑨ スポーツ公式試合に参加する場合（※3）	学生課
⑩ 忌引の場合（※4）	教務課（理工学部生は理工学部事務室）
⑪ 「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」の施行に伴い、この法律に基づいて公判への参加等の役割を担う場合（※5）	教務課
⑫ 感染症による出席停止措置を受ける場合（※6）	教務課
⑬ その他教務部長が正当な理由であると認めた場合（※7）	教務課

※1 ④の理由での公欠は、担当教員から研修計画書が提出され、教務部長が承認した場合に限ります。

※2 ⑤の就職採用試験（ただし会社訪問は含まない）とは、採用や選考を伴う説明会、面接試験・筆記試験などの採用試験、内定式や就職に必要な研修会等をいいます。

※3 ⑨のスポーツ公式試合に参加する場合とは、本学学友会の体育会系クラブ所属の学生が公式試合に正選手・準選手・大会役員として参加することです。また、公式試合とは、都大会以上の試合及び当該クラブが所属するリーグ又は団体が実施する公式の団体戦並びに個人戦をいいます。なお、⑨の理由で公欠を申請する場合は、クラブ団体が一括して学生課に申請してください。

※4 ⑩の忌引により公欠が認められる日数は、会葬礼状等により示された日を含んで以下の通りです。なお、いずれの場合も移動に要する日数を含んで取得できる最大の日数です。また、土・日・祝日もこの日数に含まれます。また、忌引による公欠は連続でのみ取得することができ、例えば、月、水、木の3日間といったように日を空けて公欠を取得することはできません。

父母（養父母） [1親等親族]	7日間
祖父母・兄弟姉妹 [2親等親族]	3日間

※5 ⑪の理由には裁判員候補者として裁判所に行く場合を含みます。

※6 感染症による出席停止の措置とは、「創価大学感染症による出席停止取扱いに関する内規」の定め

より出席停止措置を受ける場合に限りです。対象となる感染症と出席停止の日数は以下の通りです。
なお、対象の感染症について国の定める「学校保健安全法施行規則」やその他関連法令に改正があった場合は、改正後の法令に準じます。

感染症の種類	対象疾病	出席停止の期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る）、及び特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザ）、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症	完全に治癒するまで
第二種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ(H5N1)を除く）	発症した後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消失するまで
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
第三種	結核及び髄膜炎菌性髄膜炎	
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他出席停止の措置が必要と考えられる感染症	病状により保健センター又は他の医師において感染の恐れがないと認められるまで

- ※7 ⑬のその他教務部長が正当な理由であると認めた場合とは、次のことなどを言います
- ア 本学を代表してインターゼミナール大会に参加する場合
 - イ 文芸局、芸術系クラブ所属の学生が、公演、スピーチコンテスト等に参加する場合
 - ウ 政府等公的機関が実施する行事に参加する場合、学術団体が主催する学会等において発表者として参加する場合
 - エ 国家試験を受験する場合

■公欠の回数について

公欠理由が一覧表の⑤、⑥、⑧及び⑨の場合、同一科目について週に2回の授業を実施する場合は4回以内、週に1回の授業を実施する場合は2回以内とします。ただし、教務部長が認めた場合はこの限りではありません。公欠理由が一覧表の⑫の場合、同一科目について週に2回の授業を実施する場合は10回以内、週に1回の授業を実施する場合は5回以内とします。

また、⑤～⑬までの各理由により公欠を申請する同一科目の欠席回数の合計が、週2回の授業科目は10回を超える場合、週1回の授業科目は5回を超える場合は、担当教員の指示に従い、課題の提出、補習授業の受講等により、その授業を補わなければなりません。一覧表の①～④の場合は、公欠回数に関係なく、担当教員の指示に従い、課題の提出、補習授業の受講等により、その授業を補わなければなりません。

■特設課程に関する注意事項

公欠理由の①（教育実習、介護等体験）、⑥（教員採用試験）については、以下の通り条件があります。

○ 教育実習

- ア 教育実習校より正式回答（公文書）のあった期間のみ公欠を認めます
- イ 教育実習前後の期間の公欠は認められません
- ウ 実習のための事前打ち合わせや、実習校確保のための事前活動についても、公欠は認められません

- 教育職員免許取得に必要な介護等体験
 - ア 介護等体験のために必要な7日間のみ公欠を認めます
 - イ 介護等体験前後の期間の公欠は認められません
 - ウ 介護等体験のための事前打ち合わせや、事前活動についても公欠は認められません
 - エ 公欠の申請には「介護等体験証明書」を提示し、「学校又は施設の長」の証明を確認後、公欠の証明印を押します
- 教員採用試験
 - ア 原則として就職活動のための公欠の取扱いに準じます
 - イ 申請時に教員採用試験受験票など試験日が明記された教育委員会発行の書類を提示してください
 - ウ 原則として当該試験日のみ公欠を認めます
 - エ 1次試験、2次試験ともに同様の取扱いとします

4. 単位のしくみ

「単位制」とは、授業科目を履修し、定期試験等で合格することによって、授業科目ごとに定められている単位を修得し、その合計が各学部・学科・専修の定めた卒業に必要な単位数を満たしたときに卒業資格が与えられる制度です。各科目の単位数は、学則で次のように原則が定められています

第12条 1単位の授業科目は、授業及び授業時間外の学修を合せて45時間を必要とする内容をもって構成することを標準とし、各授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、次の基準により定める。

- (1) 講義及び演習は、学部が定めるところの15時間若しくは30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、学部が定めるところの30時間若しくは45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上を組み合わせる場合は、原則として講義及び演習1時間の授業に対し、実験、実習及び実技は2時間の授業をもって相当とみなし、15時間から45時間の授業をもって1単位とする。

例えば、2単位の講義科目の単位を修得するためには、30時間若しくは60時間の授業を受講し、かつ、授業時間と授業時間外で合計90時間以上の学修が必要です。創価大学で開講する2単位の講義科目の多くは、30時間の授業時間で開講されていることから、このほかに60時間（1週当たり4時間）の授業時間外学習が課せられていることとなります。

したがって、単位修得のためには、授業時間だけではなく、授業時間外にも積極的に学習することが必要です。なお、各授業科目の単位数、及び授業時間数は共通科目一覧表、各学部・学科の専門科目表を確認してください。

5. カリキュラムの概要

カリキュラムとは、大学教育の目的を達成するために、授業科目の配置や履修年次などの教育計画を示すものです。

創価大学の授業科目は、「共通科目」と「専門科目」、教職等の免許取得のための「特設課程科目」で構成され、それぞれの授業科目は、講義、演習、実験・実習・実技といった形態で開講されています。また、授業科目には、次のような科目特性があります。

必修科目	卒業するために必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	学部・学科が定める科目群の中から決められた単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	学部・学科が定める科目群の中から自由に選択し修得する科目

創価大学を卒業するためには、「専門科目の選択科目を〇〇単位以上修得すること」などの要件が決められていますので、自分の所属する学部・学科の卒業要件単位数をよく確認し、計画的に単位を修得していきましょう。

6. 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、開設されている科目の特性・レベル・学修の順序性などをアルファベットと数字で表し、教育課程の体系的性を明示したものです。この科目ナンバリングにより、その授業科目の特性やレベルを判断しながら、履修できるようになっています。

■アルファベット4文字について：科目の特性を表す

記号	科目特性	記号	科目特性
GFDC	共通科目／基礎科目	ECON	専門科目／経済学部
GUNI	共通科目／大学科目	BUSI	専門科目／経営学部
GENG	共通科目／言語科目（英語）	LAWP	専門科目／法学部
GSFL	共通科目／言語科目（英語以外）	HUML	専門科目／文学部（言語系）
GOFL	共通科目／言語科目（英語以外）	HUMC	専門科目／文学部（人文系）
GGCE	共通科目／世界市民教育科目	HUMS	専門科目／文学部（社会系）
GHUM	共通科目／人文科学系科目	EDUC	専門科目／教育学部教育学科
GSOC	共通科目／社会科学系科目	PRED	専門科目／教育学部児童教育学科
GNAT	共通科目／自然・健康科学系科目	SCEN	専門科目／理工学部
GCAR	共通科目／キャリア教育系科目	INFO	専門科目／理工学部情報システム工学科
GGCP	共通科目／G C P科目	SESI	専門科目／理工学部共生創造理工学科
GJLC	共通科目／日本語・日本文化科目	NURS	専門科目／看護学部
TETC	特設課程科目	INLA	専門科目／国際教養学部

■数字3桁について：科目のレベルを表示

100の位	科目のレベル
000番台	リメディアル科目（卒業単位には算入しない）
100番台	共通科目・専門基礎科目
200番台	共通科目の上級科目・専門科目の初級科目
300番台	専門科目の中級科目
400番台	専門科目の上級科目
500番台以上	大学院レベルの科目

7. 進級と卒業条件について

創価大学では、進級するための条件はありません。修得単位数に関係なく、年度が変われば、進級します。例えば入学して2年目には全員が2年生となります（休学中でも進級します）。

また、卒業するためには、以下の4項目の条件をすべて満たすことが必要です。

- ① 在学年数が4年間以上であること（休学期間を除く）。ただし、早期卒業の条件を満たす場合は、この限りではありません。※1
- ② 各学部・学科で定められた卒業に必要な単位数をすべて修得していること。※2
- ③ 通算GPAが2以上であること。※3
- ④ 学費を完納していること

※1 早期卒業については、「第三章 19. 早期卒業について」(35頁)を参照してください。

※2 卒業までに必要な単位数は「第三章 9. 卒業基準単位数について」(21～22頁)、又は59頁以降の各学部・学科の説明を参照してください。

※3 GPAについては、「第三章 15. GPAについて」(28～30頁)を参照してください。

8. 創価コアプログラムについて

創価コアプログラムとは、本学の共通科目の教育理念・目標を踏まえ、創価大学で学ぶことに誇りを持ち、所属学部にかかわらず、全員が幅広い教養を身につけることを目指すプログラムです。具体的には(1)「基礎科目」、(2)「大学科目」、(3)「言語科目」、(4)「世界市民科目」を学びます。

原則として、2年次終了（国際教養学部生は3年次終了）までの修得を目指して取り組んでください。

(1) 「基礎科目」の修得

共通科目の「基礎科目」として開講されている「初年次セミナー（理工学部生は初年次プロジェクト）」、「学術文章作法」等を修得する必要があります。学部によって修得すべき単位数が異なっていますので、必要な単位数の詳細は各学部のページで確認してください。

(2) 「大学科目」の修得

共通科目の「大学科目」のうち、最低4単位（看護学部は2単位）以上を修得する必要があります。大学科目とは、創価大学の建学の精神や歴史などを学ぶいわゆる自校教育の科目のことで、以下の7科目が開講されています。

人間教育論A、人間教育論B、人間教育論C、共通基礎演習、創価教育論、現代文明論、大学論

(3) 「言語科目」の修得

今日の国際化社会で求められる多文化共生力を育成するため、その基礎教育として伝統的に力を注いできた語学教育を一層高める取り組みとして、第1外国語として英語6単位（経営学部は10単位、国際教養学部は16単位）以上、第2外国語として英語以外の言語を1つの言語で4単位（経営・看護学部は除く）以上の修得が必要です。原則として、**第1外国語は2年次終了まで、第2外国語は1年次（国際教養学部は3年次）終了までに必要な単位を修得してください。**この期間内で修得できない場合、他の科目の履修に影響がでて不利益になることがあります。また、言語科目の必要な単位をすべて修得していることが卒業見込証明書発行のための条件となっていますので、十分に注意してください。

※外国人留学生で日本留学生試験（日本語）330点未満、又は日本語能力試験（N1）140点未満の方は日本語を第2外国語として履修します。

※外国人留学生は申請により日本語を第1外国語とし、日本語以外の言語（英語を含む）を第2外国語とすることができます。

※具体的にどのような科目を履修するかは各学部・学科が説明している内容やweb時間割などをよく確認してください。

(4) 「世界市民教育科目」の修得

創立者のコロンビア大学ティーチャーズカレッジでの講演「『地球市民』教育への一考察」で提案された地球的課題である平和・環境・開発・人権をテーマとした「地球市民教育」のための科目等の「世界市民科目」から4単位の修得が必要です（国際教養学部は除く）。

9. 卒業基準単位数について

各学部・学科が定める卒業基準単位数は以下の一覧表の通りです。詳細は59頁以降の各学部学科の説明を参照してください。また、19頁の「7. 進級と卒業条件について」の記載があるとおおり、以下の一覧表の単位を修得したとしても、通算GPAが2未満の場合は卒業できませんので注意してください。

■ 共通科目・学部学科英語科目の卒業基準単位数

学部	学科	共通科目及び外国語												計
		①基礎科目				②大学科目	④世界市民教育科目	⑤人文科学系科目	⑥社会科学系科目	⑦自然・健康科学系科目	⑧キャリア教育系科目	第1外国語	第2外国語	
		初年次セミナー	学術文章作法	自然分野科目	その他									
経済	経済	2	2	—	—	4	4	—	—	—	2	6	4	24
法	法律	2	2	2	—	4	4	—	—	—	—	6	4	24
文	人間	2	2	2	—	4	4	—	2	—	—	6	4	26
経営	経営	2	2	2	—	4	4	—	—	—	2	10	—	26
教育	教育	2	2	2	2	4	4	—	—	—	—	6	4	26
	児童教育													
理工	情報システム工	2	2	—	—	4	4	2	2	—	—	6	4	26
	共生創造理工	2	2	—	—	4	4	2	2	—	2	6	4	28
看護	看護	—	2	2	—	2	4	2	—	—	—	6	—	18
国際教養	国際教養	2	—	—	—	4	—	—	—	—	—	16	4	26

- ※1 理工学部生は「初年次プロジェクト」を2単位修得すること
- ※2 学術文章作法は、原則として「学術文章作法Ⅰ」で修得してください。なお、学術文章作法Ⅰは学部・学科によって履修する学期、クラスが決められています。なお、国際教養学部生はこの学術文章作法を履修する必要はありませんが、代わりに専門科目必修科目の「Academic Writing」を修得する必要があります。
- ※3 ①基礎科目の自然分野科目とは「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」「統計学入門Ⅰ・Ⅱ」「コンピュータ・リテラシーⅠ・Ⅱ」及びGCP生のみ履修可能な「社会システム・ソリューションⅠ・Ⅱ」を指します。なお、看護学部生は「コンピュータ・リテラシーⅠ」が必修科目として指定されています。
- ※4 教育学部生は、①基礎科目のその他として、学術文章作法2単位・自然分野科目2単位のほかに共通科目・①基礎科目（学術文章作法、自然分野科目を含む）の中からさらに2単位以上を修得する必要があります。
- ※5 原則として第1外国語は英語を履修します。英語科目には、共通科目の「③言語科目（英語）」と学部学科英語科目があります。卒業のためには、これらの科目の中から必要な単位数を修得する必要があります。特に経済学科、経営学科、情報システム工学科、共生創造理工学科、国際教養学科は、学部学科英語科目を優先して卒業に必要な単位数を修得してください。
- ※6 第2外国語として、1つの言語で4単位以上を修得する必要があります（経営学部、看護学部を除く）。

■専門科目・自由選択の卒業基準単位数

学部	学科	専門科目				自由 選択	計	共通科目 (上記)	総計
		必修科目	選択必修科目	選択科目	小計				
経済	経済	—	28 ※1	38	66 ※2	34	100	24	124
法	法律	6	2	60	68 ※3	32	100	24	124
文	人間	14	4	42	60 ※4	38	98	26	124
経営	経営	8	34 ※5	36	78	20	98	26	124
教育	教育	14	18	46	78	20	98	26	124
	児童教育	14	14	50 ※6	78	20	98	26	124
理工	情報システム工	20	2	48	70	28	98	26	124
	共生創造理工	34	14	28	76 ※7	20	96	28	124
看護	看護	97	—	—	97	10	107	18	125
国際教養	国際教養	24	44 ※8	—	68	30	98	26	124

- ※1 経済学科の専門選択必修科目は、以下の通りそれぞれの領域から指定された単位数を修得すること
 ・ミクロ経済学：4単位 ・マクロ経済学：4単位 ・経済数学入門：4単位 ・経済と歴史：4単位
 ・統計：4単位 ・簿記：2単位 ・演習Ⅰ：2単位 ・演習Ⅱ：2単位 ・演習Ⅲ：2単位
- ※2 経済学科の専門科目には、選択した科目群（クラスター）の科目（専門科目表に▲印が付されている科目）を18単位以上含めること
- ※3 法律学科の専門科目には、選択したコースの科目（専門科目表に▲印が付されている科目）を24単位以上含めること。また、国際平和・外交コースを選択した場合は、コースが指定するAll English科目（専門科目表に(AE)と書かれている科目）を9単位以上含めること。
- ※4 人間学科の専門科目は、イントロダクトリー科目、ベーシック科目、アドヴァンスト科目として分けられています。専門科目として修得する60単位は、以下の表の通り修得すること。さらに、グローバル科目に指定された科目（専門科目表に「G」と記載されている科目）を2単位以上含めること。

科目特性	イントロダクトリー		ベーシック		アドヴァンスト		計
	選択必修	選択	選択必修	選択	必修	選択	
卒業基準単位数	2	4	2	24	14	14	60

- ※5 経営学科の専門選択必修科目は、選択必修科目A群、B群に分けられており、以下の通り指定された単位数を修得すること。

科目特性	卒業基準単位数	備 考
選択必修A群	18	以下の通り各領域から指定された単位数を修得すること ・経営学から4単位 ・簿記原理から4単位 ・統計学から4単位 ・経済学から4単位 ・人間主義経営演習から2単位
選択必修B群	16	

- ※6 児童教育学科の専門選択科目には、教科A～D、F～I群科目を各2単位、計16単位以上含めること
- ※7 共生創造理工学科の専門科目として修得する76単位は、以下の表の通り修得すること。また、専門応用科目の「領域選択必修科目」は、選択した領域が指定する科目から10単位修得すること

科目特性	専門導入科目	専門基礎科目		専門演習科目		専門応用科目		計
	必修科目	必修科目	選択必修科目	必修科目	領域選必修科目	選択科目		
卒業基準単位数	6	20	4	8	10	28	76	

- ※8 国際教養学科の専門選択必修科目は、Quantitative & Qualitative Analysis科目群（QQA科目群）、Level 100-200科目群、Level 300-400科目群の3つの科目群から、それぞれ以下の通り単位を修得すること。また、Level 100-200科目群及びLevel 300-400科目群の中には、「歴史・文化・社会」「政治・国際関係」「経済・経営」の3つの分野があり、各分野からそれぞれ4単位以上修得すること。

科目特性	QQA科目群	Level 100-200科目群	Level 300-400科目群	計
卒業基準単位数	8	16 (3分野から各4単位、計12単位 を含めること)	20 (3分野から各4単位、計12単位 を含めること)	44

10. 試験について

試験には学期途中に行われる中間試験と学期末の定期試験があります。科目によっては定期試験期間前の最終授業日に試験を行う場合があります。また、授業中に小テストやレポート提出が課される場合もありますので、授業担当教員の指示に従ってください。なお、定期試験期間に実施する試験の日程は、ホームページ、及びポータルサイトを通じてお知らせします。

(1) 定期試験

定期試験とは、各セメスター末に一定の期間を設けて行う試験です。定期試験の日程等についてはポータルサイト、ホームページ（「定期試験の実施」）を通じて発表します。また、定期試験を受験する際は必ず学生証を持参してください。

なお、定期試験期間中は授業を行いません。また、台風・積雪等の理由で試験を実施できなかった場合は、予め決められている予備日に実施します。

(2) 中間試験

中間試験とは、各セメスターの中間に一定の期間を設けて行う試験です。定期試験とは異なり、すべての科目で実施されるものではなく、週2回授業の科目を中心に、原則として授業時間内に行われます。中間試験を実施する科目や日程は、掲示板及びホームページ（「中間試験の実施」）に掲載され、定期試験に準じて行われます。なお、この中間試験は、後述する追試験の対象とはなりません。万が一中間試験を欠席した場合は、各授業担当教員の指示に従ってください。

(3) 中間試験・定期試験の受験資格

中間試験、及び定期試験は履修登録した授業科目についてのみ受験することができます。

(4) 定期試験時間帯

学期末に実施する定期試験は、以下の時間帯で実施します。試験時間は原則60分間（一部科目は90分）で行われます。通常の授業時間とは異なりますので、十分注意してください。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
時間	9:00～10:00	10:45～11:45	13:00～14:00	14:45～15:45	16:30～17:30	18:15～19:15

(5) 答案について

答案用紙には必ず学籍番号と氏名を記入してください。また、無回答の場合でも必ず提出してください（試験終了時に答案用紙枚数を確認します）。

(6) 受験上の注意事項

定期試験は、次の注意事項を確認の上、受験してください。また、中間試験もこの注意事項に準じて実施します。

- ① 試験教室には、試験開始15分前までに集合してください。特にバスを利用して大学に通学している方は、交通渋滞などを十分に考慮し大学に30分前に到着できるよう十分に余裕を持つように心がけてください。
- ② 学生証がないと受験できません。また、裏面のシールを更新していない学生証では受験できません。試験時間中は学生証を机の上（通路側）に写真の部分を上にして置いてください。学生証を紛失した場合などは、早急に再発行の手続きをしてください。また、試験時に学生証を忘れた場合は、教務課窓口（又は各棟事務室）で「定期試験受験許可証」を申請し、発行された許可証を机の上においてください（定期試験受験許可証の発行方法は8頁を参照）。なお、定期試験受験許可証に許可印が押されていないものは無効です。
- ③ 持ち込みを許可されたもの以外の所持品は座席の下においてください。机の中に所持品を入れておく

と、不正行為とみなされる場合があります。

- ④ 辞書付き電卓、電卓付き時計、辞書付き時計、電子辞書等の電子機器は、特に指定のない限り持ち込みを厳禁とします。また、携帯電話（スマートフォンを含む）を時計の代わりとして使用することはできませんので、必ず試験前に電源を切ってください。なお、中央教育棟には教室に時計が設置されていませんので、時計を各自持参してください。
- ⑤ 試験教室では、1席おきに座ってください
- ⑥ 試験開始以降は途中退出できません

(7) 定期試験の延期について

定期試験実施予定日が次の事由に該当する場合、「交通機関の運休、台風・積雪等に伴う休講措置」に準じて定期試験を延期し、あらかじめ決められた予備日に定期試験を行うことがあります。したがって、定期試験予備日に試験が行われる可能性があることを前提に準備を行ってください。

ただし、下記の事由が発生している場合でも、試験の実施に影響がないと判断される場合は、定期試験を通常通り行います。また、午前10時までに下記の事由が解消された場合は、午前中の試験のみ延期し、午後の試験を予定通り実施します。

- ① 午前6時の時点で、JR東日本（八王子駅を中心とした首都圏）及び西東京バスのうち1社でも全面的な運休があった場合
- ② 多摩北部・多摩南部・多摩西部地方のいずれかに気象庁から「気象等に関する特別警報」、「暴風警報」、「大雪警報」又は「暴風雪警報」が発令されている場合

定期試験を延期する場合は、ホームページ、ポータルサイト、及びテレフォンサービスを通じて連絡します。テレフォンサービスの電話番号は以下の通りです。

テレフォンサービス電話番号： 042-691-9500

※交通機関の不通・遅延により定期試験を受験できなかった場合は、公的交通機関が発行する遅延証明書を提出し、所定の手続きを行うことで追試験を受けることができます。詳しくは「第Ⅲ章 11. 追試験について」（24～25頁）を参照してください。

11. 追試験について

追試験とは、定期試験を病気などのやむを得ない事情により受験できなかった人を対象に行う試験です。希望者が自由に受験できる試験ではありません。なお、追試験を受験するためには所定の申請期間に、試験を欠席した理由を証明する書類とともに追試験受験願を提出する必要があります。

(1) 追試験の対象となる科目

追試験は、定期試験期間内に実施した科目のみが対象です。授業内で試験を実施した試験（授業内試験）やレポート科目は対象外です。

(2) 追試験受験のための手続き

追試験を受験するためには、指定された期間内に、教務課窓口（理工学部生は理工学部事務室、看護学部生は看護学部事務室でも可）で、「追試験受験許可願」を受け取り、必要事項を漏れなく記入の上、次のページの「(3) 受験資格」で示した証明書類を添付して提出してください。指定された期間内に「追試験受験許可願」を提出しなかった場合はいかなる理由があっても追試験を受験することはできません。

また、許可願の提出は原則として本人が行ってください。ただし、追試験の受験資格を有する本人が、入院等のやむを得ない理由により窓口に来られない場合に限り、代理人による手続きを認めます。代理人が手続きを行う場合は、上記の書類に加え、「委任状」を持参してください。

なお、追試験の受験の可否は、提出された「追試験受験許可願」に基づき、教務部長による審査の上で発表されます。したがって、申請者全員が追試験を受験できるわけではありません。特に通常の授業への出席

日数が授業実施日数の3分の2より少ない場合、受験が許可されない場合があります。

(3) 追試験の受験資格

定期試験を次の理由で欠席し、証明書類等でその理由が確認できる場合に追試験を受験することができます。なお、定期試験に以下の理由で遅刻したとしても、試験を受験した場合には、追試験の受験資格はありません。

理 由	証 明 書 類
国家試験・教員採用試験・地方公務員試験	受験票など試験の受験を証明できるもの
就職試験（セミナーを除く）（※1）	受験票など試験の受験を証明できるもの
スポーツ全国選手権大会出場	学生課が発行する所定の証明書
本人の傷病	医師の診断書等（※2）
忌引き（2親等以内の親族に限る）（※3）	会葬礼状など
電車・バスなどの公的交通機関の遅延	遅延証明書（駅などで発行されるもの）
交通事故・災害（火災等）	事故証明書又は罹災証明書
本学の授業として開講する実習に参加する場合	実習への参加を示す証明書
その他教務部長が正当な理由であると認めた場合	その理由を証明する書類等

- ※1 キャリアセンターで「受験許可願」を受け取り、許可印が押されたものを教務課へ提出してください
- ※2 病院などの公共施設が発行する診断書を原則とします。詳しくは、定期試験時に発表される「追試験の実施について」を参照してください。
- ※3 忌引の期間は、両親（養父母）の場合は7日間、兄弟・姉妹・祖父母の場合は3日間とします（土日を含む）

(4) 受験許可者及び時間割発表について

追試験の受験許可者及びその時間割と教室は、ホームページ（「追試験の実施」）で発表します。追試験は、試験の代わりに「レポート」が課される場合がありますので、発表日に必ず確認を行ってください。

また、追試験当日は必ず学生証を持参してください。万が一学生証を忘れた場合は、定期試験と同様に「定期試験受験許可証」の発行を受けてください。

12. レポートについて

レポートとは、試験に代わる方法で学修の成果を判断するものです。したがって、試験と同じ厳格さが要求されます。

教員の指示によりグループでのレポート作成や提出が認められた場合以外は、他の人にレポートを貸したり、他の人のレポートを丸写ししたりする、又は引用した文章等の著書名や著者を明記しないで借用すること（剽窃）は厳禁です。このようなレポート作成における不正行為は、試験と同様に処分の対象となります。作成したレポートは、教員の指示した方法により提出してください。主な提出先は以下の通りです。

(1) ポータルサイト「PLAS」で提出する場合

ポータルサイトにログイン後、教員の指示する方法でレポートファイルを送信してください。レポート送信後は、ポータルサイトの画面の「レポート送信状況」が「提出済」になっていることを必ず確認してください。また、レポートを提出する際は、締め切り期日に余裕を持って提出してください。教員が設定した提出期限を過ぎた場合は、レポートの提出ができなくなります。

なお、ファイルを作成する際は、教員の指示するアプリケーションを使用してください。教員の指示する方法以外でレポートを作成した場合は、たとえ正常にファイル送信が行えたとしても、受理されない場合があります。

(2) 紙媒体で提出する場合

紙媒体でレポートを作成する場合は、以下の点に注意してください。なお、レポートボックスへ提出する場合は、指定されたレポートボックスに各自提出してください。提出期限を過ぎた場合は、いかなる理由があっても一切受け付けません。また、一度提出したレポートの変更・訂正も認めません。必ず完成したレポートのみを提出してください。

- ・ 指定された用紙・様式に従うこと。また、複数枚にわたる場合は、レポートが散逸しないよう必ずホチキス、ひも、のり等で綴じて提出すること（クリップは不可）。
- ・ 提出期限（締め切り時間）を厳守すること。

■レポートボックス設置場所

- 中央教育棟 1階（エスカレーター脇） ○教育学部棟（B棟） 1階
- 理工学部棟（E棟） 1階 ○本部棟（M棟） 8階 ○看護学部棟（N棟） 1階

13. 試験における不正行為について

試験で不正行為を行った場合、又は不正行為とも見なされるような行為があった場合は、学則第46条に定める懲戒処分を受けるとともに、「定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規」に基づき、そのセメスター又は年度の全科目の単位が取り消されます。なお、この不正行為は、中間試験・定期試験・追試験のほか、授業期間中に実施する試験やレポートにおいても同様に取扱われます。

(1) 処分の対象となる不正行為

試験においては、絶対に不正行為をしてはなりません。カンニングペーパー等は、試験教室に持ち込んでいることが判明しただけで不正行為としてみなされます。また、本人が不正行為を行う意思がない場合でも、試験監督者が不正行為を行ったと判断する場合も処分の対象となります。

処分の対象となる不正行為は、以下の通りです。

- ① あらかじめ机等に書き込んだり、カンニングペーパー等を持ち込んだ者
- ② あらかじめ書き込みをされた六法全書、辞書等を持ち込んだ者
- ③ 参照不許可の教科書、参考書、ノート等を参照した者
- ④ 許可なく携帯電話・電子機器等を使用、又は参照した者
- ⑤ 解答用紙のすり替えをした者
- ⑥ 言語、動作等をもって受験者相互に連絡した者
- ⑦ 他の学生の答案を見て、答案を作成した者
- ⑧ 許可なくみだりに席を離れた者、その他監督者の指示に反する行為をした者
- ⑨ 身替わり受験を依頼した者、又は身替わり受験をした者
- ⑩ 他人の答案を作成した者、不正に作成された答案を提出した者、及びそれらの行為をさせた者
- ⑪ その他、不正な手段を用いて受験した者

(2) 処分の内容

不正行為をした者は、学則第46条及び定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規に従い、厳正に対処します。処分の内容は以下の通りです。

■懲戒について

- ・ 戒告処分（上記の①から⑧、⑪に該当する場合）
- ・ 停学処分（上記の⑨、⑩に該当する場合、過去に戒告処分を受けた者が再び不正行為をした場合、及びその他の重大な不正行為をした場合）
- ・ 退学処分（過去に停学処分を受けた者が再び不正行為をした場合）

■単位の取り消される範囲

戒告処分の場合は当該学期の全履修科目、停学・退学処分の場合は当該年度の全履修科目の単位が取り消されます。

1.4. 成績評価

履修登録した授業科目の成績評価は、定期試験やレポート等の評価、授業中の学修成果などに基いて総合的に判断されます。各授業科目の成績評価方法や基準については科目によって異なり、その詳細はシラバスに示されています。こうして総合的に判断された成績評価は以下のように表記され、合格となった場合のみ単位を修得できます。

■成績評価基準（学則第16条／履修規程第7条3）

方法	評価	基準点数	GP	合否	内 容
ABC 評価	A+	100～95	4.0	合格	特に優れている
	A	94～90	4.0		優れている
	A-	89～85	3.7		良好
	B+	84～80	3.3		
	B	79～75	3.0		
	B-	74～70	2.7		
	C+	69～65	2.3		
	C	64～60	2.0		
	D+	59～55	1.7		
	D	54～50	1.3		
PF 評価	E+	49～45	1.0	不合格	合格水準に十分近いが、合格基準は満たしていない
	E	44～0	0		合格の水準を満たさない
	N	評価不能	0		(注)
単位認定	P	合格	対象外	合格	科目の合格水準を満たしている
	F	不合格		不合格	科目の合格水準を満たしていない
I	R	認定		合格	学外等での学修を本学の単位として認定する
		評価保留		-	インコンプリート制度による成績評価保留

注：授業時数の3分の1を超えて欠席した場合はN評価となります。また、定期試験を受けなかった、レポートを提出しなかったなど成績評価をすることが不可能な場合に教員はN評価を付けることができます。

- ※1 本学の成績評価方法は、A+からEまでの12段階評価で行われるABC評価と、合否のみを判断するPF評価の2種類があります。PF評価科目は、ABC評価が相応しくないと判断された科目のみで行われています。それぞれの授業がABC評価なのかPF評価なのかはシラバスに記載されています。
- ※2 合格とは単位が修得できたことを表し、不合格とは単位が修得できなかったことを表します
- ※3 学外に向けて発行する成績証明書には合格した科目の評価のみ掲載されます。ただし、GPAについては不合格科目を含んだ数値が掲載されます。
- ※4 成績評価については、A+評価の上限を全履修者の5%程度とし、A+評価、A評価及びA-評価の合計の上限は、全履修者の25%程度としています。ただし、履修のための成績条件等があり、一定レベル以上の学生が履修する科目など、所定の会議にてこの成績上限の除外が認められた授業科目はこの限りではありません。

■インコンプリート制度（成績評価の保留）について

通常、各学期の成績評価は、定期試験期間終了後すぐに教員が大学に提出することとなっています。

しかし、定期試験期間以外の授業期間に、学生が授業内で一定以上（その時点までの出席が3分の2以上であり、かつ課題などの提出状況が良好、等）の学習成果を修めているにもかかわらず、次のページに掲げられた事情が履修取消期間終了後に発生し、その科目が定める単位修得条件（レポートの提出、等）のいずれかの点を満たすことができない場合に、その成績評価の期限を、学期末（春学期は9月15日、秋学期は3月31日）まで延長することができる制度が「インコンプリート制度」です。

【成績評価保留（インコンプリート）の手続き方法】

次のページに掲載されている理由に該当する場合、その理由を証明できる書類を持参した上で、教務課窓口にて「インコンプリート申請書」に必要事項を記入し、確認印を受けた上で授業担当教員に提出し、各自で成績評価保留の許可を得てください。

成績評価保留を教員が認めた場合は、授業担当教員が指定する期日までに、レポート課題の提出等、成績評価に必要な学習を行います。

その後、授業担当教員が教務課に最終成績評価を提出することで、成績評価が確定します。成績公開日よ

り、成績評価が確定するまでの間、その科目の成績は「I」と表示され、GPA等の計算から除外されます。

なお、学期末までに最終の成績評価が行われなかった場合は、その科目の評価は、自動的に「N」（PF評価の場合は「F」）に変更されます。

【成績評価保留（インコンプリート）の対象となる理由】

成績評価を保留する理由	必要な証明書
本人の傷病	医師の診断書や治療等を示す書類
事故	事故証明書など、事故が発生したことを示す書類
災害・火災等に罹災	罹災証明書、又はこれに準ずる書類
留学（本学が正式に派遣を行う場合に限る）	大学が正式に派遣を行う留学であることを証明する書類
その他、上記に準じるやむを得ない事情があると教務部長が判断するもの	その事情を証明する書類

※就職活動や、個人で申し込んだ研修会や留学などは成績評価保留の理由には該当しません。

【成績評価保留の申請の際の注意事項】

- その学期で卒業を予定しており、何らかの事情で成績評価の保留を申し出る場合は、授業担当教員に今学期で卒業の旨を伝えた上で、卒業許可者発表日までに教員による成績評価が完了できるように、授業担当教員とよく相談してください。
- 成績評価の保留は、あくまでも授業担当教員が許可した場合のみ行われます。出席不良やレポート課題等の未提出など、授業担当教員が「授業内で一定以上の学習成果を修めていない」と判断した場合は、成績評価の保留は行われません。
- この制度は、いわゆる「救済」を目的としたものではなく、履修継続の意思が十分にあるものの、履修取消期間終了後に上記の事情で学習の継続が困難となった学生に対する措置として行われるものです。
- 学期末の定期試験を欠席した場合は成績評価保留の対象にはなりません。ただし、追試験受験の対象となる理由で試験を欠席した場合は、追試験受験の申し込みを行うことができます。詳しくは「11. 追試験について」（24～25頁）を参照してください。また、成績評価保留が認められている場合でも、定期試験を受験できる状況の場合は、定期試験を受験し、その上で教員が課す課題等を提出してください。

15. GPAについて

GPA (Grade Point Average)とは、各授業科目の成績評価からGP (Grade Point = 成績評点)を換算し、これに各科目の単位数を掛け、その合計を総履修単位数で割った数値のことで、小数点第3位以下は切り捨てられます。最高は4、最低は0で、数式にすると以下のように表されます。

$$GPA = \frac{(GP \times \text{単位数}) \text{の合計}}{GPA \text{計算対象となる科目の総履修単位数}}$$

※GPAの計算にはE+、E、N評価の科目も含まれます。
 ※PF評価、R評価及びI評価の科目はGPA計算に算入されません
 ※通算GPA 2以上が卒業の条件です。

(1) セメスターGPA と通算 GPA

本学で使用するGPAには、「セメスターGPA」と「通算GPA」の2種類があります。

セメスターGPA	当該セメスターの成績評価のみを使用して算出したGPA
通算GPA	入学時からのすべての成績評価を使用して算出したGPA ※セメスターGPAの平均値ではありません

セメスターGPAは、学業指導や退学勧告、成績優秀者制度などの基準として使用されています。また、通算GPAは、卒業要件となっているほか、教職課程の実習参加の基準、交換留学出願基準などにも使用されて

います。したがって、修得単位数とともに、このGPAも意識して学修に取り組む必要があります。

(2) GPA 算出に関する注意事項

GPAの算出方法は前のページの計算式のとおりですが、再履修により修得した成績（評価と単位）がある場合は、再履修前の成績は通算GPAの算出から除外され、再履修後の成績が計算に用いられます（ただし、再履修前の成績が付けられている学期のセメスターGPAはそのままです）。したがって、再履修をした科目の評価が下がった場合は、通算GPAの数値が下がることになります。また、合格していた科目を再履修し、再履修後不合格（E+、E又はN評価）となった場合は、通算GPAの数値が下がるとともに、修得単位数も減ることとなります。なお、再履修制度に関する詳細は、「第IV章 7.再履修制度」（44頁）を参照してください。

また、留学や海外語学研修、放送大学などの他大学との単位互換などは、履修登録は行いませんが、所定の手続きにより単位の認定と成績評価が行われます。このような成績評価が「ABC評価」によって行われた場合はGPAの算出対象となります。反対に「PF評価」及び「R評価」で評価された場合はGPAの算出対象とはなりません。

(3) GPA の計算例

単位修得状況と評価が以下のような場合、GPAは次の通り計算されます。

科目名	単位数	評価	GP×単位数
English I	2	A	4.0×2= 8
政治学	2	A+	4.0×2= 8
ミクロ経済学	4	C+	2.3×4=9.2
会計学	4	B	3.0×4=12
ドイツ語 I	2	E	0×2= 0
経営管理論	4	D+	1.7×4=6.8
初年次セミナー	2	P	計算対象外
合計	20		44

左記の事例の場合、

- 分子となるGP×単位数の合計は44
- 分母となるGPA計算対象となる科目は「初年次セミナー」を除く18単位

したがって、

$$GPA = \frac{44}{18} = 2.44444 \rightarrow 2.44$$

※小数点第3位以下は切り捨て

もし「経営管理論」を再履修し、再履修後の評価が「A」となった場合、GP×単位数が6.8から16となり、GPAは以下の通りになります。

科目名	単位数	評価	GP×単位数
English I	2	A	4.0×2= 8
政治学	2	A+	4.0×2= 8
ミクロ経済学	4	C+	2.3×4=9.2
会計学	4	B	3.0×4=12
ドイツ語 I	2	E	0×2= 0
経営管理論	4	D+ A	1.7×4=6.8 4.0×4=16
初年次セミナー	2	P	計算対象外
合計	20		53.2

左記の事例の場合、

- 分子となるGP×単位数の合計は経営管理論の評価が変わったことにより53.2
- 分母となるGPA計算対象となる科目は「初年次セミナー」を除く18単位

したがって、

$$GPA = \frac{53.2}{18} = 2.9555555 \rightarrow 2.95$$

※小数点第3位以下は切り捨て

(4) GPA による学業指導と退学勧告

本学では、卒業要件の一つとして「通算GPAが2以上であること」と定めています。そのため、各セメスターにおいてしっかりと学業に励み、実力をつけて卒業できるよう、以下の基準で学業指導を実施しています。また、セメスターGPA 2未満の状態が長期にわたっている場合は、退学勧告が行われることがあります。したがって、卒業に向けては修得単位とともに、GPAについても十分に注意して学修に取り組んでください。

- ① 成績評価が決定した時点で、当該セメスターのセメスターGPAが2未満の場合は、学生本人に通知し、担当教員が面談（学業指導）を行います
- ② セメスターGPAが2期連続で2未満の場合は、学生本人と保護者に通知し、学生本人と面談（希望する場合は保護者も同席可）を行います
- ③ セメスターGPAが3期連続、又は累計で4期以上2未満の場合は、学生本人と保護者に通知し、学部

長が学生本人と面談（希望する場合は保護者も同席可）の上、退学勧告が行われます（連絡が取れない場合や面談に応じない場合も含む）。ただし、学業継続の可能性があると認められる場合は、退学勧告が保留されることもあります。

16. 成績発表と成績に関する質問票について

(1) 成績発表について

成績発表は学期ごとにポータルサイト上で行います。成績の発表時期は以下の通りですので、必ず自分で確認してください。なお、成績発表の具体的な日時はポータルサイトの学事日程表で確認してください。

	春学期	秋学期
成績発表時期	8月中旬	2月中旬

発表された成績は、ポータルサイトの「履修・成績(WEB)」内の「成績状況照会」画面で確認することができます。成績状況照会画面では、以下の項目が掲載されています。

- ① 学内で実施した各種試験の結果：
「TOEIC-IP」「TOEFL-ITP」「プレイスメントテスト」のスコアが掲載されます。ここに掲載されるスコアは在籍期間中のみ参照でき、退学又は卒業後は参照することはできません。なお、外部にこのTOEIC-IPやTOEFL-ITPのスコアを提出する際は、このページに掲載されているスコア表は正式な証拠としては使用できませんので、テスト主催団体が発行する正式なスコア表を使用してください
- ② 単位集計一覧表・分野別単位集計一覧・単位修得状況：
卒業基準単位数に対してどれだけの単位を修得できているか、各学期の修得単位数やGPAの推移などが表形式で掲載されています
- ③ 修得科目一覧
これまでに履修した科目の成績や単位認定された科目の詳細などが一覧で表示されています

(2) 成績に関する質問票について

成績発表後、発表された成績に不明な点がある場合は、一定の期間内に以下の手順で「成績に関する質問票」を提出することができます。成績に関する質問票の提出可能期間は、ポータルサイトの学事日程表で確認してください。なお、質問票を提出できる授業科目は、発表となったセメスターの成績のみです。

提出可能期間を過ぎた場合は一切受付できませんので注意してください。また、質問票では「救済を目的とした質問」を行うことはできません。

- ① ポータルサイトにログインし、「履修・成績(WEB)」にアクセスします
- ② Campus Squareロゴが表示されたページが開きますので、「成績」タブをクリックし「成績評価に関する質問」をクリックします。
- ③ そのセメスターの成績一覧が表示されますので、質問を行う科目を選択してください
- ④ 質問記入欄に、質問事項（試験の状況、レポート提出の有無、評価基準など、質問の意図が担当教員に伝わるよう十分に注意してください）を入力してください。
- ⑤ 質問票の入力確認を行った後、質問を送信してください
- ⑥ 正常に質問票が送信されると「受付番号」が表示されますので、その番号を控えてください。
- ⑦ 教員から回答が来ましたら、大学のメールアドレス宛にお知らせが届きます。「成績に関する質問票」画面にアクセスし、受付番号を選択することで回答内容を確認することができます。
- ⑧ 質問票の提出は、各科目1回に限ります。また、個人的に電子メールなどで教員に質問を行うことはできません。

17. 単位認定制度について

通常は、各セメスターで履修登録した授業に出席し、定期試験などの成績によって合格した場合に単位を修得することができます。それ以外に、所定の要件を満たした場合に、履修登録を行わずに単位修得ができる制度があります。これが単位認定制度です。

なお、単位認定は、申請後に所定の会議で審査が行われ、その会議で承認された後に成績として反映されるため、申請を行ってもすぐには成績には反映されません。申請時期によっては翌セメスターの成績に反映される場合もありますので、単位認定によって卒業基準を満たすような履修の仕方は避けてください。単位認定に関するスケジュールはポータルサイトを通じてお知らせします。

(1) 各種検定試験による単位認定

本学の指定する各種検定試験等に合格した場合、その資格を本学の科目の単位として認定することができます。共通科目として認定対象となる検定試験は次のページの通りです。このほか、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、国際教養学部（日本語プログラムの学生のみ）の専門科目として認定対象となる検定試験があります。専門科目については各学部のページを参照してください。

申請を行う際は、ポータルサイトの「履修・成績」ページにある「単位認定申請」にアクセスし、必要事項を入力の上、登録完了画面を印刷し、合格証又はスコア表の原本とともに教務課窓口へ提出してください（合格証又はスコア表は、窓口で確認した後返却します）。

また、申請を行う際は以下の点に注意してください。

- ① 単位認定により修得した科目は、その後履修登録（再履修を含む）することはできません
- ② 既に修得した科目で単位認定を行うことはできません
- ③ ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、ハンガルの単位認定では、同一言語で認定される単位数は最大で4単位です。2単位の認定を受けた後に4単位認定の資格に合格した場合、認定される単位数は2単位のみです。
例) ドイツ語検定3級に合格して2単位の認定を受け、その後ドイツ語検定2級に合格した場合、2級合格により認定される単位数は2単位のみです。
- ④ 同一区分で単位認定の対象となる検定試験が複数ある場合、同一の認定単位数基準で単位認定を申請できるのは1つだけです。例えば、英検準1級とTOEIC 730点を取得した場合、双方で合計4単位の単位認定申請をすることはできず、いずれかの資格で2単位分のみ申請をすることができます。
- ⑤ 入学前に取得した資格による単位認定は、入学後の最初のセメスター末までに申請されたもののみ受け付けます。最初のセメスターを休学した場合は、休学期間分、申請期間を延長します。

(2) 他大学との単位互換制度による単位認定

本学に在学しながら本学以外の大学（単位互換協定締結校に限る）の授業科目を受講し、修得した単位を本学の単位として認定する制度があります。現在、本学と単位互換協定を結んでいる大学は以下の通りです。

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| ○放送大学 | ○大学コンソーシアム八王子加盟大学（八王子市を中心とした25大学） |
| ○東京外国語大学 | ○ネットワーク多摩加盟大学（多摩地域にキャンパスがある21大学） |

この制度の詳細や履修手続き方法、受講できる科目などの詳細は、教務課窓口にて配布する募集要項で確認してください。なお、この要項の配布時期や手続き期間はポータルサイトで発表します。

(3) 既修得単位による単位認定

本学に入学する前に、他の大学や短期大学で既に修得した単位（既修得単位）がある場合、本学の科目の単位として認定することができます。ただし、これにより認定する科目は、既修得単位が本学で開講する科目に相当すると判断された場合に限りです。

既修得単位による単位認定を希望する場合は、教務課窓口で配布する「既修得単位認定願」に必要事項を記入の上、「成績証明書（原本）」と「シラバス」を添付して教務課へ提出してください。

(4) 海外短期研修による単位認定

本学主催の語学研修などの短期海外研修に参加し、所定の要件を満たした場合は、指定された科目で単位認定を受けることができます。具体的な研修内容や研修により単位認定される科目などの詳細は研修を主催する部局へお問い合わせください。なお、単位認定される科目を既に修得済みの場合は、単位認定を受けることはできません。

■単位認定の対象となる検定試験（共通科目）

区分	主催団体	試験名	取得資格	最大認定 単位数	備考
英語	日本英語検定協会	実用英語技能検定	準1級以上	2単位	English Iを優先してEnglish I～IVの中から申請者の単位修得状況により認定 ※国際教養学部生は申請不可
	日本国際連合協会	国際連合公用語英語検定	B級以上		
	ブリティッシュ・カウンシル	IELTS	5.5点以上		
	ケンブリッジ大学英語検定機構	ケンブリッジ英検	FCE以上		
	教育試験サービス(ETS)	TOEIC L&R、TOEIC-IP L&R	730点以上		
		TOEFL(PBT)、TOEFL-ITP	550点以上		
TOEFL(CBT)		213点以上			
ドイツ語	ドイツ語文学振興会	ドイツ語技能検定	3級	2単位	各言語 I を優先して、I～VIの中～申請者の単位修得状況により認定
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ共通言語参照基準(CEFR)により判定される検定試験	A2	2単位		
		B1以上	4単位		
フランス語	フランス語教育振興会	実用フランス語技能検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ共通言語参照基準(CEFR)により判定される検定試験	A2	2単位		
		B1以上	4単位		
中国語	日本中国語検定協会	中国語検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	中華人民共和国政府教育部	漢語水平考試(HSK) ※2010年度以降の新方式	5級(180-199点)	2単位	
			5級(200点-)以上	4単位	
ロシア語	ロシア語能力検定委員会	ロシア語能力検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ロシア連邦教育科学省	ロシア語検定試験(ТРКИ)	レベル1	2単位	
			レベル2以上	4単位	
スペイン語	日本スペイン協会	スペイン語技能検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ共通言語参照基準(CEFR)により判定される検定試験	A2	2単位		
		B1以上	4単位		
イタリア語	国際市民交流のためのイタリア語検定協会	実用イタリア語検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ共通言語参照基準(CEFR)により判定される検定試験	A2	2単位		
		B1以上	4単位		
ハンブル	ハンブル能力検定協会	ハンブル能力検定	3級	2単位	
			準2級以上	4単位	
	大韓民国教育部	韓国語能力試験(TOPIK II)	3級	2単位	
			4級以上	4単位	
数学	日本数学検定協会	実用数学技能検定	1級	2単位	数学基礎 I、IIのどちらかで認定
コンピュータ	ICTプロフィシエンシー検定協会	ICTプロフィシエンシー検定	2級以上	2単位	コンピュータ・リテラシー I、IIのどちらかで認定
	マイクロソフト	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)	Excelスペシャリスト		
日本語の単位認定は、学部外国人留学生（外国人学生入学試験合格者）のみが対象					
日本語	日本学生支援機構(JASSO)	日本留学試験（日本語）	330点以上	2単位	日本語 I を優先して I～IVの中から認定
	日本国際教育支援協会 国際交流基金	日本語能力試験(N1) ※2010年度以降の新方式	140点以上		

学修に関する
基本事項

(5) 海外留学による単位認定

本学では、海外留学先で修得した単位を、本学の科目として単位認定する制度があります。また、休学期間の海外留学についても必要な要件を満たすことで単位認定申請を行うことができます。

海外留学先で修得した単位を本学で単位認定申請するためには、以下の記載する事項を確認の上、各自で必要な手続きを行ってください。なお、専門科目は各学部教授会、共通科目は学士課程教育機構運営委員会にて単位認定の可否を審議します。申請した科目が必ず単位認定されるとは限りません。

■単位認定を行う要件

- ① 留学先が大学又は大学附置の教育施設であること（国際課で確認可能）
- ② 本学が定める授業時間数を充足していること
 ※本学が定めている授業時間数は共通科目表、専門科目表に記載されています。
 単位認定申請には、本学が規定する授業時間数を充足している必要があります
 - ・週1回開講される（授業時間数が30時間）科目は1350分以上
 - ・週2回開講される（授業時間数が60時間）科目は2700分以上
- ③ 手続きに必要な書類がすべて提出されていること（※「■単位認定までの流れ」参照）
- ④ 出発前に教務課と国際課に単位認定を希望する旨を申し出ていること

■単位認定までの流れ

① 留学前

留学前に、以下の書類を教務課窓口まで提出してください。なお、単位認定の考え方や留学先で修得できる科目などに不明な点がある場合は、教務課又は国際課に必ず相談してください。

在籍区分	必要書類	備考
在学留学	在学留学届	教務課窓口で配布しています
休学留学	海外留学届	これらは休学手続きに必要な書類です。単位認定を希望する場合は、「海外留学届」にアドバイザー教員、及び国際課の押印が必要です。
	留学先の入学許可書（コピー）	
	休学願	

② 留学中

留学中は、私費留学の場合のみ「私費留学中間報告書」を以下の宛先に電子メールで提出してください。私費留学中間報告書はホームページからダウンロードすることができます。

- 提出先： 教務課 (kyoumu_ex@soka.ac.jp) 及びアドバイザー教員
- 提出時期： 留学先のセメスターの中間時点

また、帰国前に成績証明書を2通（提出用と自己保管用）発行してください。成績証明書とは、留学先大学が発行する、大学名称や印（又は署名）が記載された書面のことです。証明書の発行手続き方法は留学先大学へ各自で確認してください。帰国後に成績証明書を留学先大学へ請求した場合、発行までかなりの時間がかかる、又は発行できない場合がありますので十分注意してください。なお、交換留学の場合、留学先大学から創価大学へ直接送付されることがあります。

③ 留学後

留学後は、単位認定に必要な書類を教務課窓口で受け取り、必要事項を記入の上、他の必要書類を添えて教務課窓口へ提出してください。

なお、専門科目での単位認定を希望する場合は、教務課へ提出する前に、各学部の担当教員（副学部長、又はコーディネーター）に単位認定の相談と書類の点検を行う必要があります。教務課窓口で担当教員を確認の上、各自でアポイントメントをとった上で相談・点検を受けてください。

提出書類	入手先	備考
海外留学単位認定願	教務課 (注1)	
講義内容		
私費留学中間報告書		※私費留学の場合のみ必要 ※留学中にメールで提出したものを印刷し、 アドバイザー教員の押印を受けたものを提出
成績証明書（原本）	留学先	発行大学名称の記載がある正式なもの
各科目のシラバス（注2）		
授業時間数が明示されている資料		※私費留学の場合のみ必要
成績評価基準が明示されている資料		※私費留学の場合のみ必要

- 注1 教務課で配布する書類は、窓口又はホームページで入手することができます
- 注2 交換留学の場合は、経済学部・経営学部・文学部の専門科目で申請する科目のみ提出。私費留学の場合は申請するすべての科目のシラバスを提出してください。

■「Study Abroad I～IV」での単位認定申請について

共通科目には、海外大学での留学経験について単位認定を行う科目として「Study Abroad I～IV」を設けています。以下のいずれかの場合に限り、この「Study Abroad I～IV」で単位認定申請を行うことができます。

- ① 本学が設置する科目で単位認定申請を行うに相応しい科目がない場合
- ② 認定しようとしている科目の単位を既に修得済みである場合

留学先の科目の授業時間数が1350分（語学、実験・実習授業の場合は2700分）以上で2単位を申請することができます。この科目での単位認定申請を行う場合は、上記の申請書類に加え、「振り返りシート」を提出してください（振り返りシートは教務課窓口で配布しています）。

■留学による単位認定での注意事項

- ① 私費留学による単位認定の上限単位数は、共通・専門科目合わせて半期で20単位です
- ② 単位認定を受けた科目の成績評価はすべて「R」評価です
- ③ 既に単位修得している科目で申請を行うことはできません。また、入学年度により単位認定できない科目があります。詳しくは教務課窓口までお問い合わせください。

(6) 海外でのインターンシップによる単位認定

本学では、海外でのインターンシップ経験を通じ、海外の企業や団体での就業体験を通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的として、共通科目に「海外インターンシップI～IV」を開設しています。この科目は、国際課が主催する海外インターンシップ・プログラムのほか、学生が自主的に行った海外インターンシップについても、以下の手続きにより、単位認定申請を行うことができます。

- ① 海外インターンシップ実施前に、「実習計画書」と受入先機関が発行する「実習承諾書（又はインターンシップの受入を証明できる書類）」を国際課へ提出し、承諾印をもらう
- ② 受入先機関での実習後、「海外インターンシップ単位認定願」、「海外インターンシップ実習レポート」と、受入先機関が発行する「インターンシップ修了証（実習時間数とその成果が明示されているもの）」、及び①で国際課の承諾印を受けた「実習計画書」「実習承諾書」を教務課窓口へ提出する
- ③ 実習時間80時間ごとに2単位を申請することができます

※「実習計画書」「海外インターンシップ単位認定願」、及び「海外インターンシップ実習レポート」の作成方法については教務課窓口で配布しています

※国内でのインターンシップについては、キャリアセンターが主催するガイダンスに出席後、事前研修、インターンシップ、レポート提出等を行うことで単位を修得することができます。詳しくはキャリアセンターに確認してください。

18. 成績優秀者について

成績優秀者の制度は、各学部・学科で定められたGPAの基準値等を上回る成績を修めた学生を成績優秀者とし、次のセメスターの履修において、決められた履修制限（各学期で履修登録することができる上限単位数）の単位数が緩和され4単位多く履修することができます。

また、科目には履修できる年次（履修年次）が定められていますが、成績優秀者は自分の年次よりひとつ上の年次の開講している科目を履修（上級年次履修）することができます。なお、休学した場合は、休学をする直前のセメスターの成績を対象として判定します。

成績優秀者の条件は、学部・学科によって異なりますので、詳細は次のページの一覧表、又は各学部・学科の説明を確認してください。

■成績優秀者となる基準

学部	学科	履修上限 単位数	成績優秀者になるための基準		履修制限緩和の内容	
			修得単位数	セメスターGPA	追加単位数	上級年次履修
経済	経済	20単位	16単位以上	3.50以上	4単位	可
法	法律	20単位	16単位以上	3.50以上	4単位	可
文	人間	24単位	16単位以上	3.50以上	4単位	可
経営	経営	20単位	16単位以上	3.50以上	4単位	可
教育	教育	24単位	16単位以上	3.50以上	4単位	可
	児童教育	24単位	16単位以上	3.50以上	4単位	可
理工	情報システム工	24単位	16単位以上	3.30以上	4単位	可
	共生創造理工	24単位	16単位以上	3.30以上	4単位	可
看護	看護	25単位	※看護学部には成績優秀者制度はありません			
国際教養	国際教養	20単位	16単位以上	3.50以上	4単位	可

※成績優秀者になるための修得単位数には単位認定制度で修得した単位を含みます

19. 早期卒業制度について

早期卒業とは、在学3年間（第6セメスター終了時）又は3年半（第7セメスター終了時）で卒業が可能となる制度です。早期卒業制度は、経済学部・法学部・経営学部・国際教養学部でのみ導入されており、以下の2つの条件をどちらも満たした場合に限り、早期卒業することができます。

- ① 在学第4セメスター終了時に、学部・学科が定める早期卒業対象者の基準を満たしていること
- ② 早期卒業を希望する時点（在学第6セメスター、又は第7セメスター終了時）で、卒業に必要な単位をすべて修得し、かつ学部・学科が定める通算GPAを満たしていること

在学第4セメスター終了時点で早期卒業対象者基準を満たした場合、その次のセメスターから履修登録時に卒業を希望する時期を登録する必要があります（卒業時期の登録を行わなかった場合は、通常の修業年限4年間での卒業を希望しているものとみなします）。

なお、早期卒業をするための具体的な基準は以下の通りです。

学部	学科	在学第4セメスター終了時点		卒業希望時点の 通算GPA
		修得単位数	通算GPA	
経済	経済	84単位以上	3.70以上	3.70以上
法	法律	86単位以上	3.90以上	3.90以上
経営	経営	84単位以上	3.70以上	3.70以上
国際教養	国際教養	80単位以上	3.70以上	3.70以上

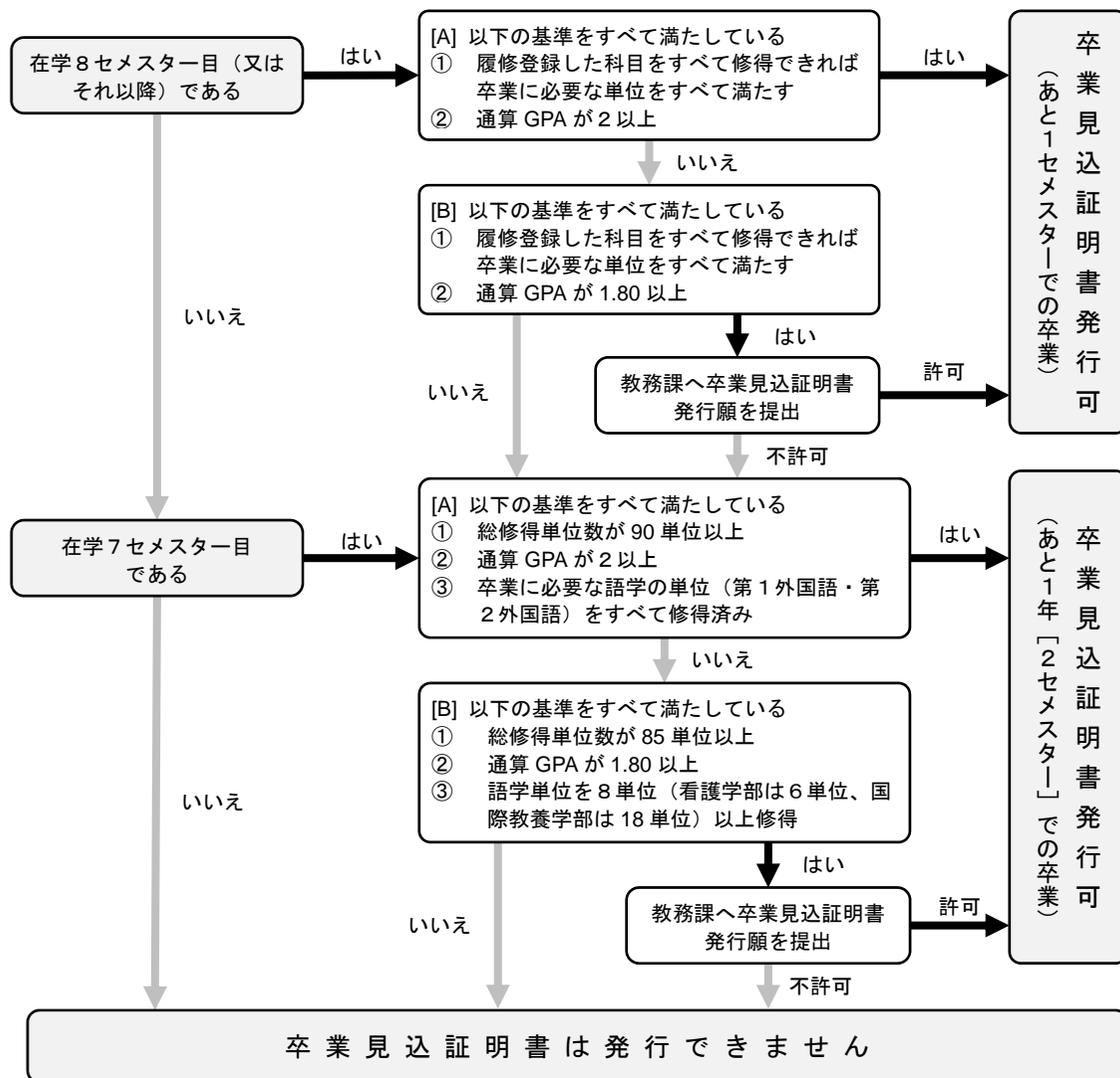
- ※1 編入学生、及び転学部・転学部転学科をした学生は早期卒業制度の対象外です
- ※2 経営学部では4年次に必修科目が配当されているため、早期卒業をするためには第4セメスターと第5セメスターで成績優秀者となり、上級年次履修をする必要があります

20. 卒業見込証明書の発行について

卒業見込証明書とは、大学を残り1セメスター又は1年で卒業できる見込があることを証明するものです。卒業見込証明書は、在学第7セメスター以降、下記の基準を満たしている場合に限り、証明書自動発行機で発行することができます。ただし、早期卒業を希望している場合や9月に卒業を予定している場合は証明書自動発行機での発行ができませんので、教務課窓口で発行の申請を行ってください。

(1) 「卒業見込証明書」の発行基準

学修に関する
基本事項



※早期卒業予定者は上記に関わらず、卒業希望時期及び単位修得状況に応じて教務課窓口にて卒業見込証明書発行の可否を判断します。詳しくは教務課窓口にご相談ください。

(2) 「卒業見込証明書」発行に関する注意事項

上記のBの基準に該当する場合は、教務課窓口に「卒業見込証明書発行願」を提出し、学部長が決裁したのちに「卒業見込証明書」を発行することができます。したがって、通常より発行できるまでに時間がかかりますので、余裕を持って手続きをしてください。

また、在学第8セメスター以降は、証明書自動発行機ではあと1セメスターで卒業する見込みがあることを証明するもののみ発行できます。留学などによりあと1年(2セメスター)で卒業する予定の場合は、在学第7セメスターの基準を満たしている場合に限り卒業見込証明書を発行しますので、教務課窓口に申し出てください。

2.1. 学位について

各学部・学科の定める卒業要件を満たして卒業した者は、各学部・学科が定めるディプロマ・ポリシーを充足したとみなし、以下の「学士」の学位が授与されます。なお、ディプロマ・ポリシーの詳細は各学部・学科のページを参照してください。

学部	学科	授与される学位	学部	学科	授与される学位
経済	経済	学士（経済学）	教育	児童教育	学士（教育学）
法	法律	学士（法学）	理工	情報システム工	学士（工学）
文	人間	学士（文学）		共生創造理工	学士（理工学）
経営	経営	学士（経営学）	看護	看護	学士（看護学）
教育	教育	学士（教育学）	国際教養	国際教養	学士（国際教養学）

■学位記授与保留制度について

学位記（上記の学位を取得したことを証する証書）は、通常、卒業式の際に授与されます。しかし、卒業時に以下の事由に該当する場合は、その事由が解消するまで学位記の授与が保留されます。なお授与が保留された学位記の保管期間は5年間です。

- ① 学生寮の寮費の未納
- ② 学内貸付金の未返済
- ③ 学内図書館から借りた図書の未返却

2.2. 主専攻と副専攻について

「主専攻 (Major)」とは、大学において主として学修する学問分野のことで、その分野は所属する学部・学科によって決まります。また、文学部では、自らの興味や志向にあわせ、学修する学問領域を選択できる「メジャー制」を実施しています。文学部生は、学部の定めるメジャー修了要件を満たした場合、卒業証明書などに記載される主専攻 (Major) 欄には、自分が選択したメジャーが記載されます。

このほか、創価大学では「幅広い学び」を保証するために、自分の所属する学部の分野以外の科目を体系的に学修し、所定の要件を満たした場合に、卒業証明書、及び成績証明書にその分野を「副専攻 (Minor)」として記載することができます。なお、副専攻は学部ごと（文学部はメジャーごと）に開設されており、副専攻を申請、修了するためには所定の条件があります。詳しくは「第VII章 副専攻制度について」（157～169頁）を参照してください。

■主専攻 (Major)

所属学部	主専攻
経済	経済学
法	法学
文	文学 ※メジャーを修了した場合は、修了したメジャー名が付記されます。 ○異文化コミュニケーション（英語） ○異文化コミュニケーション（日本語） ○異文化コミュニケーション（中国語） ○異文化コミュニケーション（ロシア語） ○哲学・歴史学 ○表現文化 ○国際日本学 ○社会学
経営	経営学
教育	教育学
理工	■情報システム工学科：工学 ■共生創造理工学科：理工学
看護	看護学
国際教養	国際教養学

■副専攻 (Minor)

本学で開設されている副専攻は以下の通りです。

- ① 経済学
- ② 経営学
- ③ 法学
- ④ 教育学
- ⑤ 理工学
- ⑥ 異文化コミュニケーション（英語）
- ⑦ 異文化コミュニケーション（日本語）
- ⑧ 異文化コミュニケーション（中国語）
- ⑨ 異文化コミュニケーション（ロシア語）
- ⑩ 哲学・歴史学
- ⑪ 表現文化
- ⑫ 国際日本学
- ⑬ 社会学
- ⑭ English Medium Program
- ⑮ データサイエンス

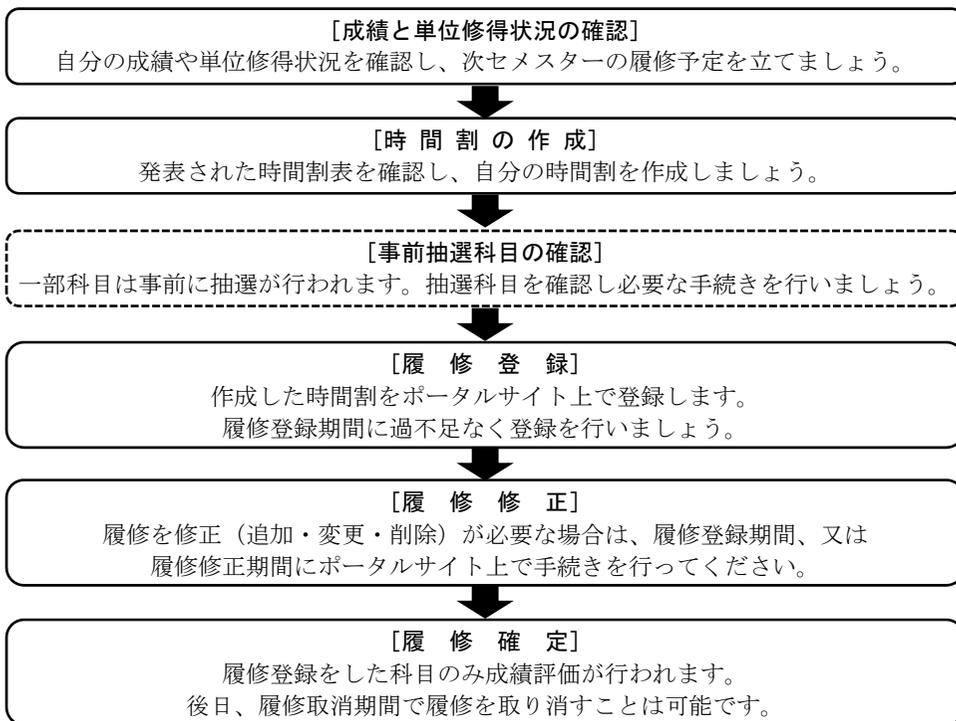
第Ⅳ章 履修について

1. 履修計画の立て方

大学では、卒業までのプロセスを自分で考え、自分が所属する学部・学科の定める卒業要件を満たせるよう、授業科目を計画的に履修することが必要です。したがって、同じ学部・学科に所属している学生でも、それぞれの興味・関心により履修する科目が異なることとなります。また、教育職員免許状などの免許や資格を取得するためには、卒業に必要な科目の履修と並行して、これらの資格取得のための科目を履修していきます。各学期の時間割を決める際は、各学部・学科の定める卒業要件を十分に確認し、それを4年間（8 Semester）で修得できるよう、履修計画を立てましょう。

(1) 履修に関する手続きの概要

「履修」とは、自らが選択した授業を所定の登録手続きを経た上で受講し、単位を修得するまでの一連の過程のことを表します。履修に際しては、毎Semesterで以下の手続きを行う必要があります。



(2) 履修計画を立てるためのポイント

- ① 必修科目は、指定されたSemesterで履修するようにしましょ
- ② 卒業に必要な語学の単位は、卒業見込証明書発行のための条件にもなっていますので、2年次終了までに修得するようにしましょ
- ③ 各Semesterの履修上限単位数に注意し、必修・選択必修・選択科目、又は共通科目・専門科目をバランスよく履修しましょ
⇒所属学部・学科等の時間割表をみて、空き時間を有効活用しましょ
⇒各科目の授業内容はシラバス（講義要項）で調べましょ
- ④ 教員免許状などの資格取得に必要な科目は別に配布されたガイドや資料をよく確認しましょ

2. 時間割の確認方法

授業の時間割は、毎年3月中旬頃に翌年度（春学期・秋学期）分がポータルサイト内の「web時間割」で発表されます。また、開講曜日・時限や教室の変更があった場合も、このweb時間割上でお知らせします。特にweb時間割に掲載されている「履修に関する注意事項」に、履修登録に際しての確認事項が掲載されていますので、必ず確認してください。

■web時間割の閲覧方法

①ポータルサイト「PLAS」にログインし、学習支援メニューの中にある「web時間割」をクリック



②別ウィンドウが開き、web時間割メニューが表示されますので、閲覧したいものを選択します

※「★注意事項」は履修前に必ず目を通してください

※入学年度をクリックすると科目区分を選択する画面に移動します



③入学年度をクリックすると科目区分を選択する画面が表示されます。科目区分を選択すると時間割表が表示されます。時間割表には「科目ナンバリング」「科目名」「担当教員」「教室」が掲載されています。変更がある場合は変更項目が赤字で表示されます。また、科目名をクリックするとその授業のシラバスを、教室名をクリックするとキャンパスのどこにある教室かを地図上で確認することができます。

教育学部 教育学科/2次科目 (2014~2017年度生)					
春学期 秋学期					
春学期					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 09:00~10:30			EDUC202 教育学研究法 富岡 比呂子 B402 EDUC143 教育とボランティアⅡ A 平井 康幸 B204[可動教室]<音>☆	EDUC290 英語特講A：教育 D.ササキ AW604	EDUC201 学校研究：教育 杉本 久吉 B401, B404
2 10:45~12:15		EDUC213 カリキュラム論：教育 所澤 遼 B101<音>☆	EDUC211 教育社会学 鶴田 真紀 B102[可動教室]<音>☆ EDUC290 英語特講A：教育 山内 量 AE255	EDUC220 教育心理学Ⅰ[集中：月3] 関田 一彦 ◆B102[可動教室]<音>☆	EDUC232 Educational Psychology 富岡 比呂子 B402
3 13:05~14:35	EDUC220 教育心理学Ⅰ[集中：月2] 関田 一彦 ◆B102[可動教室]<音>☆	EDUC213 カリキュラム論：教育 B101<音>☆	EDUC250 生徒・進路指導論：教育 田村 修一 B101<音>☆	EDUC252 特別活動：教育 高橋 卓哉 B304☆ EDUC142 ミュージアム・エデュケーションⅠ：教育 白根 敬昭 B402	EDUC337 国際教育特講A C. Garcia B204[可動教室]<音>☆
4 14:50~16:20	EDUC214 教育行政論：教育 井上 伸良 B102[可動教室]<音>☆	GENG103 English Ⅲ 竹内 香織 AW605 GENG103 English Ⅲ D.L.カーン AW506 GENG103 English Ⅲ M. ハダス AWS10 GENG103 English Ⅲ		EDUC252 特別活動：教育 高橋 卓哉 B304☆	GENG103 English Ⅲ B.ホーキンス AW505

履修ガイド

3. シラバスについて

シラバスとは、授業で扱う内容や進め方、到達目標、成績評価の方法、使用する教科書・参考書など、授業の全体像を示すものです。シラバスは履修登録期間の前にポータルサイト上で公開されます。履修の際は、このシラバスを十分に確認し、自分の履修計画を立てましょう。

■シラバスの確認方法

シラバスの確認方法は、ポータルサイトの「シラバス検索」画面で検索することができます。また、web時間割や履修登録の科目選択画面から科目名をクリックすることで確認することも可能です。ここでは、「シラバス検索」の方法について掲載します。

- ①ポータルサイト「PLAS」にログインし、学習支援メニューの中にある「シラバス検索」をクリック
- ②シラバス検索画面が表示されますので、検索条件を入力して検索します。表示された科目名をクリックすることでシラバスを閲覧することができます。



【検索方法】

- ・開講学部を指定
共通科目の科目群や学部・学科を指定します
- ・キーワード検索
科目名、教員名、内容などのキーワードを指定します
- ・科目属性を指定
単位数、開講期、授業言語を指定します

⇒これらの検索条件を設定し、「OK」をクリックすると設定した「検索条件」が表示されます。表示内容を確認し、「検索開始」をクリックすると、条件に一致する科目が表示されます。

■シラバスに掲載されている情報

シラバスには以下の内容が掲載されています。

- ・科目名
- ・科目ナンバリング
- ・担当教員
- ・開講学期
- ・授業テーマ (設定がある場合のみ)
- ・授業概要
- ・到達目標
- ・ラーニング・アウトカムズとの関係
- ・担当教員の実務経験の有無
- ・授業計画・内容
- ・評価・試験方法
- ・評価方法 (ABC評価かPF評価か)
- ・教科書、参考書
- ・履修上のアドバイス
- ・アクティブラーニング実施の有無と内容
- ・授業で使用する言語
- ・履修するために必要な語学スコア基準
- ・担当者のプロフィール
- ・定員並びに履修者選抜方法
- ・その授業についての授業アンケート結果



4. 履修登録手続きの方法について

履修登録は、各学期の開始時に、ポータルサイト上から学生自身が行います。また、成績評価は履修登録を行った科目のみ行われます。履修登録手続きは、「履修登録期間」と「履修修正期間」が設けられており、これらの期間内に正しく登録を行う必要があります。これらの期間内に履修登録を行わない場合、学則第10条2に従って強制退学を命じられることとなりますので注意してください。

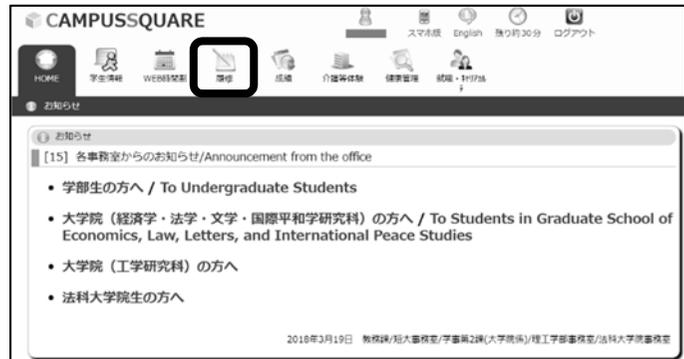
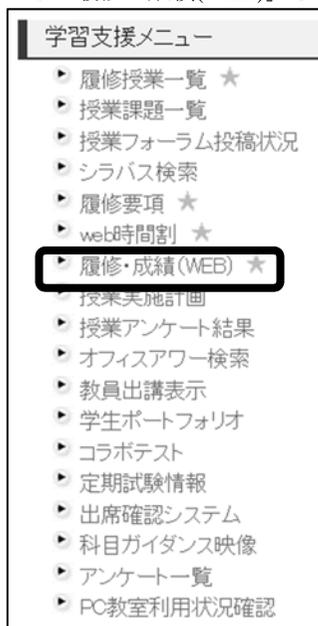
期間	手続き内容	時期
履修登録期間	履修登録を行うことができる期間です。期間内であれば、一度登録を行った後でも履修の追加・変更・削除を行うことができます。	春学期：4月上旬 秋学期：9月中旬
履修修正期間	履修の修正（追加・変更・削除）を行うことができる期間で、履修登録期間の後に1週間程度期間が設けられます。 <u>この期間内に自分が出席している授業の科目名・教員名が正しく登録されているか必ず確認してください。</u> この期間を過ぎると、履修の追加・変更を行うことは一切できませんので、十分に注意してください（取り消しに限り、後述する履修取消期間に取り消すことができます）。	春学期：4月上～中旬 秋学期：9月中～下旬

※詳しい日程はポータルサイトの学習支援メニューの中にある「授業実施計画」、又はweb時間割に掲載されている学事日程表で確認してください。

■ポータルサイトでの履修登録の方法（概要）

履修登録は、ポータルサイトの中にある「履修・成績(WEB)」にアクセスして行います。履修・成績(WEB)画面では、「HOME（お知らせ）」「学生情報」「web時間割」「履修」「成績」などのメニューが設けられており、履修登録はこの中の「履修」にアクセスして登録を行います。詳しい機能や操作方法は、「第IX章 各種システムの利用について」（172頁～）やポータルサイト内に掲載されているマニュアルを参照してください。

- ①ポータルサイト「PLAS」にログインし、「学習支援メニュー」の中にある「履修・成績(WEB)」をクリック
- ②「Campus Square」とのロゴがあるページが別ウィンドウで開きますので、この中の「履修」タブをクリックします。



※学期ではじめて「履修・成績(WEB)」にアクセスした際は「学生住所変更」画面が表示されます。各学期に履修登録手続きを行う際は、最初に大学に届け出ている学生・保証人の住所や連絡先に誤りが無いかを確認する必要があります。この確認が終了するまで『履修登録』のボタンは表示されませんので注意してください。

※特に「英字氏名」については、ここで登録されている内容で英文証明書などが作成されますので、スペルに誤りが無いか、十分に注意して確認してください。

- ③住所確認が完了すると、「履修登録」ボタンが表示されます。「履修登録」ボタンをクリックすると、以下のような時間割表が表示されますので、曜日時限を選択し、履修する科目を選択して登録を行います。なお、履修登録期間の最後の2～3日は、大変混み合う為、コンピューターの処理スピードが遅くなり、登録できない等の状況が生じる場合があります。最後の2～3日は若干の修正を行う程度で、履修登録期間の早い時期に登録を終了するように心がけてください。

春学期		秋学期		集中講義を登録							
月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
1限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
2限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
3限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
4限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
5限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
6限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
集中講義など										集中講義を登録	
曜日	時限	時間割コード	科目	担当教員名	科目ナンバリングコード	教室名	単位数	科目コード	履修科目記号		

■履修に関する注意事項

- 履修登録をしていない授業に出席しても単位は認められません。
- 春学期・秋学期ともに、セメスターの初めの決められた期間に限り登録した科目を、削除・変更・追加することができます。その際に履修制限単位数を超えたり、時間割が重複したりしないよう、十分に注意してください。
- 入学年度以降に新設され、この履修要項に記載されていない科目は、履修できません。
- 実習費の必要な科目は、所定の手続きをしなければ履修できません。

■「履修状況照会」画面について

「履修・成績(WEB)」ページには、各学期の履修登録の状況や自分の単位修得状況が確認できるよう、「履修状況照会」画面を設けています。履修状況照会画面へは、Campus Squareとのロゴが表示されたページで、「履修」タブをクリックし、その中にある「履修状況照会」ボタンをクリックしてください。履修状況照会画面では、主に以下のような項目が表示されます。

- 年度・期の履修状況：履修した科目が時間割表になって表示されます。
- 履修登録状況表：履修制限単位数に対し、何単位履修登録しているか確認できます。
- 単位集計一覧表：卒業に必要な科目の分類ごとに、(A) 履修単位数、(B) 既修得単位数、(A+B) 履修単位数を全て修得した場合の単位数、振替後単位数、卒業基準単位数を表示しています。振替後単位数では、科目分類で卒業基準単位数を満たしているかを確認できます。
- また、一番右側の「卒業判定」欄に○・×の記号が表示されます。これは履修登録した科目をすべて修得した場合に卒業基準単位数を満たすかどうか計算し、満たす場合は“○”、不足する場合は“×”を表示します。1か所でも“×”がある場合は、卒業基準単位数を満たさないことを表しています。
- 単位修得状況：各セメスターに修得した単位数・履修制限単位数・GPA数値などの一覧を表示します。

5. 履修取消期間について

履修取消期間とは、履修登録した科目について、授業の内容が自分の期待するものと異なっている、出席不良で単位修得の見込みがない、などの理由がある場合に、それを取り消すことができる期間です。履修取消期間は、学期の中間時期に設けられています。何らかの理由で履修を取り消す必要がある場合は、この期間内に取り消しを行ってください。

履修の取消を行う際は、取消理由を申告する必要があります。取消操作を行うと、直ちに履修・成績(WEB)の履修状況照会画面に反映されますので、正しく取り消しが行われているか必ず確認を行ってください。

取消期間を過ぎると一切履修の取り消しを行うことができませんので、注意しましょう。

■履修取り消しの方法（履修取消期間）

- ① 履修登録の際と同様に「履修登録」画面へアクセスします
- ② 履修取り消しを行う授業をクリックします
- ③ 右のような画面が表示されますので、取消理由を選択し「履修取消」をクリックします
- ④ 履修登録画面に戻りますので、取り消した科目が時間割から消えていれば取り消しは完了です

6. CAP 制（履修登録単位数の上限）について

創価大学では、1科目当たりの授業外での学習時間を十分に確保し、より深い学修を促すことを目的として、各学期で履修登録を行うことができる単位数に上限を設けており、これを「CAP制」と呼んでいます。したがって、履修登録は、各学部・学科が設けている上限単位数を超えないよう行う必要があります。各学部・学科が設定する履修上限単位数は以下の通りです。

■履修上限単位数

学部	経済	法	文	経営	教育		理工		看護	国際教養
学科	経済	法律	人間	経営	教育	児童教育	情報システム工	共生創造理工	看護	国際教養
履修上限単位数	20	20	24	20	24	24	24	24	25	20

※34～35頁の「18.成績優秀者について」に該当する場合は、履修上限単位数が4単位加算されます。

※編入学生の履修上限単位数は全学科一律で24単位です。

■履修制限除外科目について

履修制限除外科目とは、前述した履修上限単位数に含まれない科目のことで、以下の科目は履修制限除外科目として設定されています。また、単位認定により修得した単位も履修上限単位数には含まれません。

区分	履修制限除外科目	
共通科目	世界市民教育科目	ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ、国際ボランティア実習
	キャリア教育系科目	インターンシップⅠ～Ⅳ
	GCP科目	GCP科目すべて
専門科目	経済学科	オナーズ・セミナーⅠ～Ⅲ
	法律学科	AF Tutorial Ⅰ・Ⅱ、GLPチュートリアルⅠ～Ⅷ、GLPインターンシップA・B、GLP English A・B、まちづくり八王子フィールドワーク、人間の安全保障フィールドワーク、公共政策ボランティア、Peace & Human Rights 短期海外研修、国際平和・外交インターンシップA・B、公共政策インターンシップA・B、International Internship A・B、国際ボランティアA・B、ビジネス法務インターンシップA・B
	共生創造理工学科	国際技術協力論、海洋学実習、特別講義Ⅰ・Ⅱ
特設課程科目	特設課程科目のコードで履修するものすべて	

※教育学部生は、上記のほか、他学科専門科目も履修制限除外科目として履修することができます

7. 再履修制度について

再履修制度とは、合格・不合格に関わらず、一度成績がついた科目を、通算GPAを上げるなどの目的で再び履修することができる制度のことです。再履修した場合は、再履修後の成績を最終評価として通算GPAの計算に用います。したがって、単位を修得した科目を再履修し、成績が下がった、又は不合格となった場合はその評価が最終評価となるため、通算GPAが下がったり、修得単位数が減ったりすることとなりますので、十分に注意してください。

再履修の場合であっても、履修制限除外科目以外はすべて履修制限単位数に含まれます。また、成績評価がP又はRの科目、単位認定制度により修得した科目、及び学部・学科が再履修を認めない科目は再履修できません。

8. 履修年次について

各科目は何学年次から履修できるかが決められています。それが履修年次です。したがって、履修登録ができる科目は、自分の学年と同じ、又はそれより下位の履修年次の科目に限られています。各科目の履修年次は54～58頁の共通科目表又は各学部・学科のページの専門科目表を確認してください。

なお、成績優秀者制度により履修制限緩和措置を受ける場合は、緩和措置を受けたセメスターに限り自分より1つ上の履修年次科目を履修することができます。成績優秀者制度の詳細は「第三章 18. 成績優秀者について」（34～35頁）を参照してください。

9. 他学部・他学科科目の履修について

自分の所属している学科以外の学部・学科で開講されている科目は、他学科の学生の履修を認めている科目であれば、自由選択科目として履修することができます。なお、他学科生履修の可否については、各学部・学科のページの専門科目表を確認してください。

10. 創価コアプログラム科目（基礎科目・言語科目）の履修について

(1) 初年次セミナー科目の履修方法

本学では、学習習慣の確立と学習スキルの向上など、大学生としての学習や生活など様々な面で必要な力を身に付けることを目的として第1セメスターに以下の科目を必修科目として開講しています。

履修する曜日・時限と担当教員は、学籍番号によって指定されています。指定された曜日・時限及び担当教員以外の授業を履修することはできません。履修するクラスは入学時のガイダンスで発表します。

なお、1年次に単位修得ができなかった場合は、2年次以降に再度履修することとなります。その際のクラス分けについては、所属する学部の副学部長に相談してください。

科目区分		科目名	単位数	対象学部
共通科目	基礎科目	初年次セミナー	2	下記以外の文系6学部
		初年次プロジェクト	2	理工学部
看護学科専門科目		キャリアプランニング基礎	2	看護学部

(2) 学術文章作法科目（国際教養学部以外の学生）の履修方法

学術文章作法科目とは、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶための科目で、共通科目の基礎科目群に配置されている「学術文章作法Ⅰ～Ⅲ」を指します。この学術文章作法科目は国際教養学部を除くすべての学部で必修科目として指定されおり、通常は「学術文章作法Ⅰ」を履修します。「学術文章作法Ⅰ」は、入学時に実施するプレイスメントテスト（国語）のスコアに基づいてクラス分けが行われますので、指定されたクラスで履修登録を行ってください。なお、この科目は学部によって履修する時期が異なります。また、

所定の時期に単位修得ができなかった場合は、再履修用のクラスを春学期・秋学期それぞれに設けていますので、そちらのクラスを受講してください。ただし、再履修用として開講されるクラスは、学習内容をより丁寧に取り扱うため、成績評価の上限（最高評価をBとする）が設けられていますので注意してください。

所属学部	履修セメスター
文学部・経営学部・理工学部・看護学部	第1セメスター（1年次春学期）
経済学部・法学部・教育学部	第2セメスター（1年次秋学期）

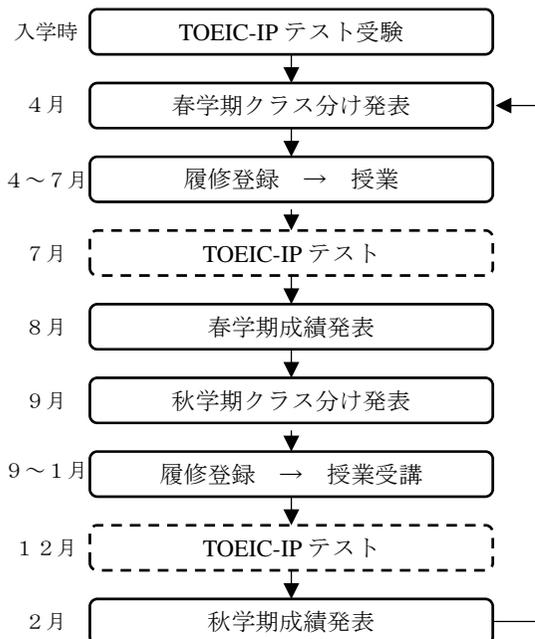
※国際教養学部生は、学術文章作法科目の代わりとして専門必修科目の「Academic Writing（4単位）」を第4セメスターに履修します

（3）言語科目（第1外国語）の履修方法

本学では、第1外国語として「英語」を履修します。英語の授業は、より語学学習の効果を高めるため、習熟度別に授業を開講しており、TOEIC-IP（一部の科目はTOEFL-ITP）のスコアでクラス分けを行っています。したがって、入学時に実施されるTOEIC-IPテストを必ず受験してください。また、入学後に学内で実施しているTOEIC-IPテストは、その最高点を2年次以降のクラス分けに使用します。

※外国人留学生は申請により日本語を第1外国語とし、日本語以外の言語（英語を含む）を第2外国語とすることができます。詳しくは教務課までお問い合わせください。

■英語科目の履修の流れ



- ※ 秋学期は原則として春学期と同じクラスで授業を受講します。
- ※ スコアによるクラス分けについて、学部学科英語科目の一部では別に実施される「TOEFL-ITPテスト」、又は「TOEFL-iBT」テストが用いられる場合があります。
- ※ 入学後、学内で実施するTOEIC-IPテストのスケジュールや受験申し込み方法などについてはポータルサイトを通じてお知らせします。

■英語科目の種類と履修モデル

英語科目には、大きく分けて、共通科目の「言語科目（英語）」と各学部・学科が設置している「学部・学科英語科目」の2種類があります。

学部ごとに英語科目の履修モデルが示されており、このモデルに沿って2年次終了時までには卒業に必要な第1外国語の単位数を修得することが強く望まれます（注）。なお、TOEIC-IPなどによるクラス分けは、この履修モデルに示された科目を履修することを前提に行われます。クラス分けの具体的なスケジュールや方法などは、セメスター開始時のガイダンス、又はポータルサイトを通じてお知らせします。

注：共通科目の「言語科目（英語）」や「学部学科英語科目」のうち、履修モデルに示されていない科目を修得した場合も卒業に必要な第1外国語科目の単位として算入されますが、2年次終了時までには卒業に必要な単位を修得できない可能性があります。

《1年次》

学部		春学期（第1 Semester）	秋学期（第2 Semester）	合計
法・文・教育・看護		English I [GENG101]	English II [GENG102]	4 単位
経済	IP生	Academic Foundations for Economic Majors I [ECON183]	Academic Foundations for Economic Majors II [ECON184] ※	4～6 単位
	Non-IP生	Economics English Communication I [ECON181]	Economics English Communication II [ECON182]	4 単位
経営		・ Study Skills for Business I [BUSI173] ・ Business English I [BUSI175]	・ Study Skills for Business II [BUSI174] ・ Business English II [BUSI176]	8 単位
理工		English communication for science I [SCEN101]	English communication for science II [SCEN102]	4 単位
国際教養		English for Academic Purpose I [INLA110]	English for Academic Purpose II [INLA111]	4 単位

※ 経済学部でIPを履修する学生のうち、Advancedレベルの学生は1年次秋学期に「Global Economy Laboratory [ECON185]」を合わせて履修します

《2年次》

学部		春学期（第3 Semester）	秋学期（第4 Semester）	合計
法・文・教育		English III [GENG103]	English IV [GENG104]	2 単位
経済	IP生	Economic Laboratory A [ECON282]	Economic Laboratory B [ECON283]	4 単位
	Non-IP生	Economics English Communication III [ECON281]	—	2 単位
経営		Business English III [BUSI177]	—	2 単位
理工	情報システム工	English for Information Technologies I [INFO103]	English for Information Technologies II [INFO104]	2 単位
	共生創造理工	English for Science and Engineering I [SESI202]	English for Science and Engineering II [SESI203]	2 単位
	国際技術協力EP生	English for International Technical Cooperation I [SCEN201]	English for International Technical Cooperation II [SCEN202]	4 単位
看護		・ English III [GENG103] ・ Test Preparation TOEIC I [GENG201]	—	2 単位
国際教養		・ English for Academic Purpose: Study Abroad I [INLA112] ・ English for Academic Purpose: Study Abroad II [INLA113] ・ English for Academic Purpose: Study Abroad III [INLA114]	—	12 単位

■ さらに英語を学びたい学生向けの英語科目について

上記の履修モデルに示された英語科目のほか、さらに英語を学びたい学生向けに以下の科目を開設しています。これらの科目は、受講希望者数が多い場合は初回授業時に抽選を実施します。履修を希望する場合は必ず初回の授業に出席してください。

目安TOEICスコア	科目名	単位数
400～620	Test Preparation TOEIC I・II [GENG201・202]	各1
	Test Preparation TOEFL I・II [GENG211・212]	各1
625～	English Communication Advanced Intensive I・II [GENG251・252]	各2

■海外留学を目指す学生向けの英語科目について（1年生対象）

グローバル人材育成特別プログラムとして、より高いレベルの英語力を集中的に身に付けることを目的に、English for Study Abroad (ESA) プログラムを開講しています。このプログラムで開講される内容は下表のとおりです。この科目は人数が多い場合、初回授業時に抽選が実施されます。

なお、このプログラムの受講希望者は入学時に開催される「ESAガイダンス」に必ず参加してください。

対象	国際教養学部生を除く1年生の希望者（定員50名程度） ※TOEIC-IP スコアを基準に選抜
科目	English for Study Abroad I・II [GENG171・172]（各2単位） TOEFL Preparation for Study Abroad I・II [GENG173・174]（各2単位）
内容	「English for Study Abroad I・II」では、留学で必要となるWriting、Note-taking、Discussionなどのスキルを、「TOEFL Preparation for Study Abroad I・II」では、TOEFL iBT80をめざす具体的な試験対策スキルを授業で学びます。

■グローバル企業等への就職を目指す学生向けの英語科目について（2・3年生対象）

グローバル人材育成特別プログラムとして、国際的な仕事に就くための実践的な英語力を身につけることを目的に、English for Career Development (ECD) プログラムを開講しています。このプログラムで開講される内容は下表のとおりです。この科目は人数が多い場合、初回授業時に抽選が実施されます。

対象	国際教養学部生を除く2・3年生の希望者(定員60名程度) ※TOEIC-IP スコアを基準に選抜
科目	Professional English for Career Development I・II [GENG175・176]（各2単位） TOEIC Preparation for Career Development I・II [GENG177・178]（各2単位）
内容	「Professional English for Career Development I・II」では、英語を使って仕事をするために必要な、電話での対応、交渉、プレゼンの仕方などのスキルを、「TOEIC Preparation for Career Development I・II」では、TOEIC 730 点をめざした具体的な試験対策スキルを学びます。

(3) 言語科目（第2外国語）の履修方法

経営学部、看護学部以外の学部では、卒業するために英語のほか、第2外国語を1つの言語で4単位の修得が必要であり、1年次（国際教養学部は3年次）に4単位を修得することを前提に時間割が組まれています。

第2外国語として選択できる言語は、

○ドイツ語 ○フランス語 ○中国語 ○スペイン語 ○イタリア語 ○ハンブルグ
○ロシア語 ○日本語（外国人留学生のみ履修可）

・ポルトガル語 ・アラビア語 ・スワヒリ語 ・タイ語 ・トルコ語 ・ブルガリア語
・インドネシア語 ・ベトナム語

の16言語です。なお、○が付された8言語については入学時（国際教養学部生は2年次秋学期）に実施される履修希望アンケートに基づきクラスの振り分けを行いますので、○が付された言語を選択した場合は指定されたクラスで履修登録を行ってください。

なお、2年次以降（国際教養学部は4年次）に第2外国語を履修する際は、上記のようなクラス分けを行いませんので、web時間割の言語科目（英語以外）のページに掲載されている科目から希望するクラスを選び履修してください。ただし、履修に際しては授業担当教員の許可が必要ですので、第1回目の授業に必ず出席してください。

※外国人留学生で日本留学生試験（日本語）330点未満、又は日本語能力試験(N1)140点未満の方は日本語を第2外国語として履修してください。

(4) 基礎科目の自然科学分野について

共通科目の「基礎科目」には、本学の学生が身に付けるべき数理能力を学修する科目として「自然科学分野」に関する科目を設置しています。具体的には以下の6科目です。一部の学部では卒業要件としてこれらの科目の修得が必要な場合がありますので、以下の注意事項をよく読み、計画的に履修してください。

■コンピュータ・リテラシーⅠ

コンピュータ・リテラシーⅠでは、大学生として必要なパソコンやICTに関する基本的な知識と技能について学習します。パソコンに不慣れな学生や、教職課程を希望する学生は早めに履修することを推奨します。なお、この科目では、教員の指定するe-learning教材を購入し、授業と並行してe-learningによる学修を進める必要がありますので、授業時の指示を良く確認してください。なお、履修希望者が多い場合は第1回目の授業時に抽選を行いますので、履修を希望する場合は必ず第1回目の授業に出席してください。

※看護学部生は、これとは別に看護学部生用の「コンピュータ・リテラシーⅠ」のクラスを第1 Semesterに設けています。看護学部では、この「コンピュータ・リテラシーⅠ」が必修科目として指定されていますので、看護学部で指定されたクラスで履修してください。

■コンピュータ・リテラシーⅡ

「コンピュータ・リテラシーⅡ」は、通常の授業とは異なり、キャリア形成において必要となる統計に関する知識や技能を、e-learning教材を使用して自分自身で学習します。教室での出席は取りませんが、学習履歴をe-learning教材の中で管理していますので、これを出席の代わりとしています。この科目を履修する際は、履修登録を行った曜日・時限で指定されたパソコン教室で学習を行います。なお、自宅での学習もできますが、システムの障害（ネットワークにつながらない、等）が発生した場合でも期限までに課題等が提出されない場合は単位を修得すること賀でいけませんので注意してください。詳しくは第1回目の授業日に説明を行いますので、履修を希望する場合は第1回目の授業に必ず出席してください。

■基礎数学Ⅰ・Ⅱ

これらの科目は、大学での学習や就職活動、社会で求められる数的処理能力を身につけることを目的として開講されています。「基礎数学Ⅰ」では、数理的な手法が必要な文系学部の専門科目を学ぶ準備として、一部高校数学の復習を含む数学の基礎を学びます。「基礎数学Ⅱ」では、単に公式を覚えたり計算したりするのではなく、数学の起源やその意味を理解し、社会で活用できるようにするための知識を学びます。

■統計学入門Ⅰ・Ⅱ

これらの科目は、データを適切に分析する手法を学び、活用する知識や能力を身につけることを目的として開講されています。「統計学入門Ⅰ」では、主に数学に苦手意識のある文系学部の学生を対象に、統計学に用いられる基礎的な用語を理解し、それをExcelなどの表計算ソフトを用いて実際に分析する手法を学びます。「統計学入門Ⅱ」では、大学における学習や研究において求められる統計学の考え方と統計分析の基礎を学びます。

1.1. 履修人数制限科目について

履修人数制限科目とは、設備や機器などの都合により履修者数に定員を設けられており、履修希望者が定員を超えた場合、選考などにより履修の許可を得なければならない科目をいいます。主な履修人数制限科目は以下の通りです。これらの科目を履修する際は、事前又は1回目の授業に選考が行われます。選考方法はシラバスに記載されていますので、よく確認してください。特に1回目の授業で選考を行う科目は必ず1回目の授業に出席してください（欠席した場合は原則として履修することができません）。

- ① 言語科目
- ② 体育、音楽、コンピューター系の実技・実習科目：
「体育実技A～C」「音楽」「美術」「コンピュータ・リテラシーⅠ」など
- ③ 演習形式の科目：「共通基礎演習」「共通総合演習A・B」「世界市民教育演習」など
- ④ キャリア教育系科目：「キャリアデザイン基礎」「ワールドビジネスフォーラム」など

※ここに掲載した科目はあくまでも一例です。人数制限や選考の有無は必ずシラバスで確認してください

■履修者の選考（抽選）結果の確認方法

授業で履修者の選考（抽選）が行われた場合、その選考（抽選）結果は授業担当教員から報告があったものについて教務課のホームページに掲載します。選考結果が掲載されるWEBページは以下の手順でアクセスすることができます。

- 創価大学ホームページ ⇒ 「学生生活」 ⇒ 「授業・試験・成績など」
⇒ 「授業・試験など」 ⇒ 「抽選結果（履修許可者一覧）」

1 2. 専門科目ゼミの登録について

専門科目ゼミとは、各学部・学科が開講するゼミ形式の授業のことです。ゼミには定員があり、どのゼミに所属するか事前に選考を行います。選考方法や申込期間などは、ポータルサイトとホームページでお知らせします。学部・学科により手続き方法が異なりますので、注意してください。また、留学や休学などにより下記の時期に事前選考や授業を受けられない場合は、所属するゼミの教員、又は所属する学部の副学部長に履修の仕方をよく相談してください。

■事前の選考とゼミ科目の履修時期

学部・学科	2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
経済	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	—	演習Ⅳ
法	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	—	演習Ⅳ
文	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ
経営	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ
教育	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ
理工	情報	—	事前選考	ケーススタディⅡ	演習Ⅰ	演習Ⅱ
	共生	—	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ
看護	—	—	—	事前選考	卒業研究演習	—
国際教養	—	事前選考	SeminarⅠ	SeminarⅡ	SeminarⅢ	SeminarⅣ

1 3. 卒業論文科目の履修について

卒業論文科目とは、通常の授業とは別に、所属するゼミ教員の指導の下、論文作成を行う科目のことです。論文作成を行う際は、履修登録が必要です。

また、卒業論文の提出方法や期限は学部・学科ごとに異なります。詳しくはポータルサイト、又はホームページでお知らせしますので、よく確認してください。

■卒業論文科目と履修時期

学部	3年次	4年次	
	秋学期	春学期	秋学期
経済	—	—	卒業論文研究
法	—	—	卒業研究
文	—	卒業論文研究Ⅰ	卒業論文研究Ⅱ
教育	—	卒業論文Ⅰ	卒業論文Ⅱ
理工	—	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
看護	—	—	卒業論文
国際教養	Junior Paper	—	Capstone

※経営学部には卒業論文科目はありませんが、ゼミの課題として論文作成が課される場合があります。
 ※法学部、教育学部、理工学部の卒業論文科目には履修条件があります。詳細は学部のページを参照してください。

1.4. 通常の授業時間帯以外で開講する科目の履修について

通常の授業とは異なり長期休業期間などに開講する科目や、インターンシップ科目や一部の実習科目などは、授業の曜日・時限とは異なる時間帯で履修登録を行います。毎年度、web時間割に対象科目や履修登録方法が掲載されますので、履修登録期間内に忘れずに登録を行ってください。

■通常の授業時間以外で開講される科目例

科目区分		科目名
共通科目	キャリア教育系科目	インターンシップ I～IV
	世界市民教育科目	ボランティア I・II、国際ボランティア実習
経済学部	経済学科	オナーズ・セミナー I～III、卒業論文研究
法学部	法律学科	AF Tutorial I・II、GLP Tutorial I～VII まちづくり八王子フィールドワーク、人間の安全保障フィールドワーク、卒業研究
文学部	人間学科	卒業論文研究 I・II
教育学部	教育学科	卒業研究 I・II、教育実習（中・高）、教育実習（高）、 学校インターンシップ I～IV
	児童教育学科	卒業研究 I・II、教育実習（幼・小）、教育実習（特別支援）、 学校インターンシップ I～IV
理工学部	情報システム工学科	卒業研究 I・II
	共生創造理工学科	卒業研究 I・II、国際技術協力論、海洋学実習
看護学部	看護学科	基礎看護学実習 I・II、成人看護急性期実習、成人看護慢性期実習、 老年看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、母性看護学実習、 地域在宅看護学実習、看護実践統合実習、卒業研究演習、卒業論文
国際教養学部	国際教養学科	English for Academic Purpose: Study Abroad I～III、 Academic Foundations: Study Abroad
特設課程	教職に関する科目	教育実習（中・高）、教育実習（高）

※上記の表はこれまでの実績例です。毎年度情報が更新されますので、必ずweb時間割を確認してください。

■開講される曜日・時限が「集中講義」となっている科目の履修登録方法

上記のような通常の授業時間以外で開講される科目の中には、時間割上、曜日・時限が「集中講義」となっているものがあります。このような科目を履修登録する際は、履修登録画面の時間割表の上、又は下にある「集中講義を登録」ボタンから登録を行います。特に4年次に履修する卒業論文科目などは、主に「集中講義」として開講されますので、履修登録期間内に忘れずに履修登録を行ってください。

なお、曜日・時限が「集中講義」となっている授業を複数登録することも可能です。

春学期		秋学期				
月曜日		火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
2限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
5限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
6限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録

集中講義を登録

集中講義など									
曜日	時限	時間割コード	科目	担当教員名	科目ナンバリングコード	教室名	単位数	科目コード	履修科目記号
									集中講義を登録

第V章 共通科目

1. 教育理念・目標

創価大学では建学の理念にもとづく教育目標の達成に向け、学部並びに全学的な教育研究組織において、

- 知識基盤：幅広い知識と高度な専門性
- 実践的能力：知識を社会に応用する力とコミュニケーション力
- 国際性：多様性を受容する力と他者との協働性
- 創造性：統合する力と創造的思考力

を身につけた世界市民となるべき人材の育成に取り組んでいます。学士課程教育機構が学部を超えて全学の学生に提供する共通科目（これを共通教育と称します）では8項目のラーニング・アウトカムズ（学習成果）を掲げています。

2. 共通教育のラーニング・アウトカムズ（学習成果）

共通科目は、語学を始めとする基礎的学習技能の養成、時代や社会に対する問題意識・批判的思考力の涵養、多様性を受容し他者と協働するコミュニケーション力の開発、習得した幅広い知識・技能を関連づけ問題解決に活かす態度の形成など、大学全体のディプロマ・ポリシーに謳う能力・資質の開発・養成を目指して開講されます。

こうした様々なねらいを持つ共通科目を通じて学生が修得するラーニング・アウトカムズをまとめると、以下の3領域8項目に整理されます。各科目とラーニング・アウトカムズの関係はシラバスに明記され、授業担当教員がラーニング・アウトカムズの到達度を授業レベルで点検しています。

知識基盤（学生が何を知っているべきか）

- (1) 人文・社会・自然科学、健康科学領域の基礎知識を理解する

実践的能力（学生が何ができるようになるべきか）

- (2) 多面的かつ論理的に思考する
- (3) 問題解決に必要な知識・情報を適切な手段を用いて入手し、活用する
- (4) 母語による多様な表現方法を習得し、明瞭に論じ述べる
- (5) 母語以外の外国語でコミュニケーションを図る

教養ある市民としての資質（学生が知識と能力を用いて何を行おうとするか）

- (6) 学びの意味や社会的責務を考え、自らの目標を設定し、自立的に学ぶ
- (7) 自他の文化・伝統を理解し、その差異を尊重する
- (8) 人類の幸福と平和を考え、自己の判断基準をもつ

3. 共通科目の構成

共通科目は次のページに掲載されているように10の科目群からなっており、多様な学術内容のバランスの良い修得を促します。特に基礎科目群・大学科目群・言語科目群・世界市民教育科目群は、「創価コアプログラム」として創価大学生が必ず履修すべき科目を設定しています。なお、創価コアプログラムの詳細については、「第三章 8. 創価コアプログラムについて」（20頁）や、「第四章 10. 創価コアプログラム科目（基礎科目・言語科目）の履修について」（44～48頁）を参照してください。

科目群	説明
基礎科目	初年次セミナーや学術文章作法など、大学での学修を進める上での基礎を学ぶ
大学科目	創価大学の歴史や創立の精神を学ぶ
言語科目（英語）	英語に関する4つの力や留学、就職に向けての英語力を身につける
言語科目（他言語）	英語以外の言語を初修レベルから応用レベルまで学ぶ
世界市民教育科目	グローバル社会における諸課題について幅広く学ぶ
人文科学系科目	歴史や哲学、文学など、人文科学に関する基礎を学ぶ
社会科学系科目	社会学や経済学、経営学など、社会科学に関する基礎を学ぶ
自然・健康科学系科目	数学や理科などの自然科学や健康科学に関する基礎を学ぶ
キャリア教育系科目	進路選択や就職に関する力を身につける
日本語・日本文化科目	日本語の基礎から応用までや日本文化を学ぶ

※日本語・日本文化科目は外国人留学生のみ履修できます

4. 共通科目の履修について

(1) 共通科目の卒業要件と創価コアプログラム

創価コアプログラムとして卒業要件化されている基礎科目、大学科目、言語科目、世界市民教育科目は、原則、第4セメスター（国際教養学部生は第6セメスター）までに修了することを目指してください。

また、共通科目は、各学部・学科で卒業に必要な単位数が異なります。学部・学科ごとに選択必修科目や、全科目群から自由に選択して履修できる選択科目の単位数が指定されていますので、21～22頁の「9. 卒業基準単位数について」や各学部・学科のページを確認してください。

(2) 授業の開講・不開講について

科目の一覧表に、授業科目名が掲載されていても、毎年更新されるweb時間割に掲載されていない科目は不開講のため、履修できません。もし学期の途中で不開講になった場合は掲示などでお知らせします。

(3) 共通基礎演習、共通総合演習について

小人数の定員制です。履修希望者が多い場合は選考となり、合格し許可されないと履修できませんので、必ず第1回目の授業に出席してください。なお、履修登録期間の最終日に履修登録者が3名以下の場合是不開講となります。

(4) 体育実技について

体育実技の履修に際しては2月又は4月に実施される健康診断を受ける必要があります。また、体育実技は“実際の授業体験”を重視しますので、授業にしっかり出席することが重要です。

体育実技は、第1回目の授業で、希望する種目の授業に必ず出席してください。出席しないと、人数の関係で、履修できない場合があります。

5. 共通科目表の見方について

次のページから掲載されている共通科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目群	科目 ナンバリング	科目名	単位	授業 時間数	履修 年次	備考
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

①科目群	「3. 共通科目の構成」で説明されている科目群が記載されています。
②科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
③科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。科目名の末尾にアルファベットやローマ数字が使われている場合があります。ローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、…）はレベルが異なる、又は授業内容が連続していることを表します。また、アルファベット（A、B、C、…）は、授業の内容が異なることを表しています
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤授業時間数	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
⑥履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。

■共通科目表一覧(2019年度入学生用)

科目群	科目 ナンバリング	科目名	授業 時間数	単位	履修 年次	備考	
①基礎科目	初年次セミナー	GFDC101	初年次セミナー	30	2	1～	注1
		GFDC102	初年次プロジェクト	30	2	1～	注2
	学術文章作法	GFDC111	学術文章作法Ⅰ	30	2	1～	
		GFDC211	学術文章作法Ⅱ	30	2	1～	
		GFDC212	学術文章作法Ⅲ	30	2	2～	
		GFDC121	基礎数学Ⅰ	30	2	1～	
	自然分野科目	GFDC122	基礎数学Ⅱ	30	2	1～	
		GFDC123	統計学入門Ⅰ	30	2	1～	
		GFDC124	統計学入門Ⅱ	30	2	1～	
		GFDC125	コンピュータ・リテラシーⅠ	30	2	1～	
		GFDC126	コンピュータ・リテラシーⅡ	30	2	1～	
GFDC131		思考技術基礎	30	2	1～		
②大学科目	GUNI101	人間教育論A	30	2	1～		
	GUNI102	人間教育論B	30	2	1～		
	GUNI103	人間教育論C	30	2	1～		
	GUNI111	共通基礎演習	30	2	1～		
	GUNI121	創価教育論	30	2	1～		
	GUNI131	現代文明論	30	2	1～		
	GUNI141	大学論	30	2	1～		
③言語科目	英語	GENG101	EnglishⅠ	60	2	1～	
		GENG102	EnglishⅡ	60	2	1～	
		GENG103	EnglishⅢ	30	1	1～	
		GENG104	EnglishⅣ	30	1	1～	
		GENG171	English for Study AbroadⅠ	60	2	1～	
		GENG172	English for Study AbroadⅡ	60	2	1～	
		GENG173	TOEFL Preparation for Study AbroadⅠ	60	2	1～	
		GENG174	TOEFL Preparation for Study AbroadⅡ	60	2	1～	
		GENG211	Test Preparation TOEFLⅠ	30	1	1～	
		GENG212	Test Preparation TOEFLⅡ	30	1	1～	
		GENG201	Test Preparation TOEICⅠ	30	1	1～	
		GENG202	Test Preparation TOEICⅡ	30	1	1～	
		GENG251	English Communication Advanced IntensiveⅠ	60	2	1～	
		GENG252	English Communication Advanced IntensiveⅡ	60	2	1～	
		GENG175	Professional English for Career DevelopmentⅠ	60	2	1～	
		GENG176	Professional English for Career DevelopmentⅡ	60	2	1～	
		GENG177	TOEIC Preparation for Career DevelopmentⅠ	60	2	1～	
		GENG178	TOEIC Preparation for Career DevelopmentⅡ	60	2	1～	
	GENG131	Academic Foundations for DDⅠ	60	2	1～	注3	
	GENG132	Academic Foundations for DDⅡ	60	2	1～	注3	
	GENG133	English Language Skills for DDⅠ	60	2	1～	注3	
	GENG134	English Language Skills for DDⅡ	60	2	1～	注3	
	ドイツ語	GSFL101	ドイツ語Ⅰ	60	2	1～	
		GSFL102	ドイツ語Ⅱ	60	2	1～	
		GSFL201	ドイツ語Ⅲ	30	1	1～	
		GSFL202	ドイツ語Ⅳ	30	1	1～	
		GSFL203	ドイツ語Ⅴ	30	1	1～	
		GSFL204	ドイツ語Ⅵ	30	1	1～	
	フランス語	GSFL111	フランス語Ⅰ	60	2	1～	
		GSFL112	フランス語Ⅱ	60	2	1～	
		GSFL211	フランス語Ⅲ	30	1	1～	
GSFL212		フランス語Ⅳ	30	1	1～		
GSFL213		フランス語Ⅴ	30	1	1～		
GSFL214		フランス語Ⅵ	30	1	1～		
中国語	GSFL121	中国語Ⅰ	60	2	1～		
	GSFL122	中国語Ⅱ	60	2	1～		
	GSFL221	中国語Ⅲ	30	1	1～		
	GSFL222	中国語Ⅳ	30	1	1～		
	GSFL223	中国語Ⅴ	30	1	1～		
	GSFL224	中国語Ⅵ	30	1	1～		

※科目によりテーマの異なった複数の授業が開講されている場合がありますが同じ科目名のものは1つしか修得できません。

注1 経済・法・文・経営・教育・国際教養学部生のみ履修可

注2 理工学部生のみ履修可

注3 文学部・ダブルディグリーコース履修者のみ履修可

科目群	科目ナンバリング	科目名	授業時間数	単位	履修年次	備考	
③言語科目 (つづき)	中国語 (つづき)	GSFL126	D.D.中国語Ⅰ	30	1	1～	注3
		GSFL127	D.D.中国語Ⅱ	30	1	1～	注3
		GSFL128	D.D.中国語Ⅲ	30	1	1～	注3
		GSFL129	D.D.中国語Ⅳ	30	1	1～	注3
	スペイン語	GSFL131	スペイン語Ⅰ	60	2	1～	
		GSFL132	スペイン語Ⅱ	60	2	1～	
		GSFL231	スペイン語Ⅲ	30	1	1～	
		GSFL232	スペイン語Ⅳ	30	1	1～	
		GSFL233	スペイン語Ⅴ	30	1	1～	
		GSFL234	スペイン語Ⅵ	30	1	1～	
		イタリア語	GSFL141	イタリア語Ⅰ	60	2	1～
	GSFL142		イタリア語Ⅱ	60	2	1～	
	GSFL241		イタリア語Ⅲ	30	1	1～	
	GSFL242		イタリア語Ⅳ	30	1	1～	
	GSFL243		イタリア語Ⅴ	30	1	1～	
	GSFL244		イタリア語Ⅵ	30	1	1～	
	ハンブル	GSFL151	ハンブルⅠ	60	2	1～	
		GSFL152	ハンブルⅡ	60	2	1～	
		GSFL251	ハンブルⅢ	30	1	1～	
		GSFL252	ハンブルⅣ	30	1	1～	
		GSFL253	ハンブルⅤ	30	1	1～	
		GSFL254	ハンブルⅥ	30	1	1～	
	ロシア語	GSFL161	ロシア語Ⅰ	60	2	1～	
		GSFL162	ロシア語Ⅱ	60	2	1～	
		GSFL261	ロシア語Ⅲ	30	1	1～	
		GSFL262	ロシア語Ⅳ	30	1	1～	
		GSFL263	ロシア語Ⅴ	30	1	1～	
		GSFL264	ロシア語Ⅵ	30	1	1～	
	ポルトガル語	GOFL101	ポルトガル語Ⅰ	30	1	1～	
		GOFL102	ポルトガル語Ⅱ	30	1	1～	
		GOFL103	ポルトガル語Ⅲ	30	1	1～	
		GOFL104	ポルトガル語Ⅳ	30	1	1～	
	アラビア語	GOFL111	アラビア語Ⅰ	30	1	1～	
		GOFL112	アラビア語Ⅱ	30	1	1～	
		GOFL113	アラビア語Ⅲ	30	1	1～	
		GOFL114	アラビア語Ⅳ	30	1	1～	
	スワヒリ語	GOFL121	スワヒリ語Ⅰ	30	1	1～	
		GOFL122	スワヒリ語Ⅱ	30	1	1～	
		GOFL123	スワヒリ語Ⅲ	30	1	1～	
		GOFL124	スワヒリ語Ⅳ	30	1	1～	
	タイ語	GOFL131	タイ語Ⅰ	30	1	1～	
		GOFL132	タイ語Ⅱ	30	1	1～	
		GOFL133	タイ語Ⅲ	30	1	1～	
		GOFL134	タイ語Ⅳ	30	1	1～	
	トルコ語	GOFL141	トルコ語Ⅰ	30	1	1～	
		GOFL142	トルコ語Ⅱ	30	1	1～	
		GOFL143	トルコ語Ⅲ	30	1	1～	
GOFL144		トルコ語Ⅳ	30	1	1～		
ブルガリア語	GOFL151	ブルガリア語Ⅰ	30	1	1～		
	GOFL152	ブルガリア語Ⅱ	30	1	1～		
	GOFL153	ブルガリア語Ⅲ	30	1	1～		
	GOFL154	ブルガリア語Ⅳ	30	1	1～		
インドネシア語	GOFL181	インドネシア語Ⅰ	30	1	1～		
	GOFL182	インドネシア語Ⅱ	30	1	1～		
	GOFL183	インドネシア語Ⅲ	30	1	1～		
	GOFL184	インドネシア語Ⅳ	30	1	1～		
ベトナム語	GOFL196	ベトナム語Ⅰ	30	1	1～		
	GOFL197	ベトナム語Ⅱ	30	1	1～		
	GOFL198	ベトナム語Ⅲ	30	1	1～		
	GOFL199	ベトナム語Ⅳ	30	1	1～		
その他	GOFL191	言語演習Ⅰ	30	1	1～	注4	
	GOFL192	言語演習Ⅱ	30	1	1～	注4	
	GOFL193	言語演習Ⅲ	30	1	1～	注4	
	GOFL194	言語演習Ⅳ	30	1	1～	注4	

注3 文学部・ダブルディグリーコース履修者のみ履修可

注4 卒業に必要な第1外国語、又は第2外国語の単位として算入することはできません

科目群	科目ナンバリング	科目名	授業時間数	単位	履修年次	備考
④世界市民教育科目	GGCE101	平和学入門	30	2	1～	
	GGCE102	平和と人権	30	2	1～	
	GGCE103	環境と開発	30	2	1～	
	GGCE104	環境科学A	30	2	1～	
	GGCE105	環境科学B	30	2	1～	
	GGCE141	八王子学Ⅰ	30	2	1～	
	GGCE142	地域研究A	30	2	1～	
	GGCE143	地域研究B	30	2	1～	
	GGCE144	日本研究A	30	2	1～	
	GGCE145	日本研究B	30	2	1～	
	GGCE151	留学のための国際理解	30	2	1～	
	GGCE161	ボランティア入門	30	2	1～	
	GGCE162	国際ボランティア実習	60	2	1～	[制限外]
	GGCE171	共通総合演習A	30	2	1～	
	GGCE172	共通総合演習B	30	2	1～	
	GGCE181	スマート・リーダーシップⅠ	30	2	1～	
	GGCE182	総合科目特講	30	2	1～	
	GGCE183	現代マスコミ論	30	2	1～	
	GGCE184	トップが語る現代経営	30	2	1～	
	GGCE201	ライフイベントとジェンダー	30	2	3・4	
	GGCE241	八王子学Ⅱ	30	2	2～	
	GGCE261	ボランティア実習Ⅰ	30	1	1～	注5・[制限外]
	GGCE262	ボランティア実習Ⅱ	30	1	2～	注5・[制限外]
	GGCE271	世界市民教育演習	30	2	2～	
	GGCE281	スマート・リーダーシップⅡ	30	2	2～	
	GGCE282	スマート・リーダーシップⅢ	30	2	2～	
	GGCE152	Study AbroadⅠ	30/60	2	1～	[認定用]
	GGCE153	Study AbroadⅡ	30/60	2	1～	[認定用]
	GGCE154	Study AbroadⅢ	30/60	2	1～	[認定用]
	GGCE155	Study AbroadⅣ	30/60	2	1～	[認定用]
GGCE156	海外インターンシップⅠ	60	2	1～	[認定用]	
GGCE157	海外インターンシップⅡ	60	2	1～	[認定用]	
GGCE158	海外インターンシップⅢ	60	2	1～	[認定用]	
GGCE159	海外インターンシップⅣ	60	2	1～	[認定用]	
⑤人文科学系科目	GHUM101	音楽	30	2	1～	
	GHUM111	美術	30	2	1～	
	GHUM121	文学入門	30	2	1～	
	GHUM131	哲学入門	30	2	1～	
	GHUM132	倫理学入門	30	2	1～	
	GHUM141	宗教学入門	30	2	1～	
	GHUM151	歴史入門	30	2	1～	
	GHUM161	言語学入門	30	2	1～	
⑥社会科学系科目	GSOC101	法学入門	30	2	1～	
	GSOC102	日本国憲法	30	2	1～	
	GSOC111	ミクロ経済学入門	30	2	1～	
	GSOC112	マクロ経済学入門	30	2	1～	
	GSOC121	経営学入門	30	2	1～	
	GSOC131	社会学入門	30	2	1～	
	GSOC141	国際関係論入門	30	2	1～	
	GSOC151	政治学入門	30	2	1～	
	GSOC161	心理学入門	30	2	1～	
	GSOC171	教養地理学	30	2	1～	
GSOC181	教育学入門	30	2	1～		
⑦自然・健康科学系科目	GNAT101	物理学	30	2	1～	
	GNAT102	情報科学	30	2	1～	
	GNAT103	生命科学	30	2	1～	
	GNAT104	プログラミング	30	2	1～	
	GNAT111	体育実技A	30	1	1～	
	GNAT112	体育実技B	30	1	1～	
	GNAT113	体育実技C	30	1	1～	
	GNAT114	体育実技D	30	1	1～	
	GNAT121	体育講義	30	2	1～	
	GNAT131	スポーツフィジカルサイエンス	30	2	1～	注6

[制限外]・・・履修制限除外科目 [認定用]・・・海外留学などによる単位認定用の科目(所定の条件があります)
 ※科目によりテーマの異なった複数の授業が開講されている場合がありますが同じ科目名のもは1つしか修得できません。
 注5 「ボランティア入門」の単位を修得済み(又は履修中)であること 注6 スポーツ推薦入試による入学者のみ履修可

科目群	科目 ナンバリング	科目名	授業 時間数	単位	履修 年次	備考	
⑧キャリア教育系科目	GCAR101	キャリアデザイン基礎	30	2	1		
	GCAR111	キャリア開発フォーラム	30	2	1・2		
	GCAR112	ワールドビジネスフォーラム	30	2	1・2		
	GCAR122	企業研究	30	2	2～		
	GCAR151	キャリアビジョン I	30	2	2～		
	GCAR152	留学生のためのキャリアコミュニケーション I	30	2	1～		
	GCAR153	留学生のためのキャリアコミュニケーション II	30	2	1～		
	GCAR251	キャリアビジョン II	30	2	3・4		
	GCAR181	インターンシップ I	30	1	1～	[制限外]	
	GCAR182	インターンシップ II	30	1	1～	[制限外]	
	GCAR183	インターンシップ III	60	2	1～	[制限外]	
	GCAR184	インターンシップ IV	60	2	1～	[制限外]	
	Global Citizenship Program科目 ※GCP所属者のみ履修可						
①基礎科目	自然分野科目	GGCP161	社会システム・ソリューション I	30	2	1～4	[制限外]
		GGCP162	社会システム・ソリューション II	30	2	2～4	[制限外]
②大学科目		GGCP101	GCPチュートリアル I	30	1	1～4	[制限外]
		GGCP102	GCPチュートリアル II	30	1	1～4	[制限外]
		GGCP103	GCPチュートリアル III	30	1	2～4	[制限外]
		GGCP104	GCPチュートリアル IV	30	1	2～4	[制限外]
③言語科目	英語	GGCP151	EAP for Global Citizenship I	60	2	1～4	[制限外]
		GGCP152	EAP for Global Citizenship II	60	2	1～4	[制限外]
		GGCP153	EAP for Global Citizenship III	60	2	2～4	[制限外]
		GGCP154	EAP for Global Citizenship IV	60	2	2～4	[制限外]
		GGCP155	Academic Foundations for Global Citizenship I	60	2	1～4	[制限外]
		GGCP156	Academic Foundations for Global Citizenship II	60	2	1～4	[制限外]
		GGCP157	Academic Foundations for Global Citizenship III	60	2	2～4	[制限外]
		GGCP158	Academic Foundations for Global Citizenship IV	60	2	2～4	[制限外]
④世界市民教育科目		GGCP142	プログラムゼミ II	30	2	1～4	[制限外]
		GGCP143	プログラムゼミ III	30	2	2～4	[制限外]
		GGCP144	プログラムゼミ IV	30	2	2～4	[制限外]
⑧キャリア教育系科目	GGCP141	プログラムゼミ I	30	2	1～4	[制限外]	
日本語・日本文化科目 ※外国人留学生のみ履修可 ※日本語能力により履修できる科目が異なります							
③言語科目	日本語	GJLC101	日本語 I	60	2	1～4	
		GJLC102	日本語 II	60	2	1～4	
		GJLC103	日本語 III	30	1	1～4	
		GJLC104	日本語 IV	30	1	1～4	
		GJLC105	日本語 V	30	1	1～4	
		GJLC106	日本語 VI	30	1	1～4	
		GJLC111	日本語基礎	90	3	1～4	
		GJLC112	日本語総合入門	150	5	1～4	
		GJLC113	日本語総合 I	150	5	1～4	
		GJLC114	日本語総合 II	150	5	1～4	
		GJLC115	日本語演習入門	30	1	1～4	
		GJLC116	日本語演習 I	30	1	1～4	
		GJLC117	初級漢字	30	1	1～4	
		GJLC121	日本語文法 II	30	1	1～4	
		GJLC221	日本語文法 III	30	1	1～4	
		GJLC222	日本語文法 IV	30	1	1～4	
		GJLC231	日本語読解 II	30	1	1～4	
		GJLC232	日本語読解 IIIA	30	1	1～4	
		GJLC233	日本語読解 IIIB	30	1	1～4	
		GJLC234	日本語読解 IVA	30	1	1～4	
		GJLC235	日本語読解 IVB	30	1	1～4	
		GJLC236	日本語読解 VA	30	1	1～4	
		GJLC237	日本語読解 VB	30	1	1～4	
		GJLC141	日本語口頭表現入門	30	1	1～4	
		GJLC241	日本語口頭表現 I	30	1	1～4	
		GJLC242	日本語口頭表現 IIIA	30	1	1～4	
		GJLC243	日本語口頭表現 IIIB	30	1	1～4	
		GJLC244	日本語口頭表現 IVA	30	1	1～4	
		GJLC245	日本語口頭表現 IVB	30	1	1～4	
		GJLC246	日本語表現 VA	30	1	1～4	
		GJLC247	日本語表現 VB	30	1	1～4	

[制限外]・・・履修制限除外科目

※科目によりテーマの異なった複数の授業が開講されている場合がありますが同じ科目名ものは1つしか修得できません。

科目群	科目 ナンバリング	科目名	授業 時間数	単位	履修 年次	備考	
日本語・日本文化科目(つづき) ※外国人留学生のみ履修可 ※日本語能力により履修できる科目が異なります							
③言語科目	日本語	GJLC151	日本語聴解入門	30	1	1~4	
		GJLC152	日本語聴解 I	30	1	1~4	
		GJLC251	日本語聴解 II	30	1	1~4	
		GJLC252	日本語聴解 III A	30	1	1~4	
		GJLC253	日本語聴解 III B	30	1	1~4	
		GJLC254	日本語聴解 IV A	30	1	1~4	
		GJLC255	日本語聴解 IV B	30	1	1~4	
		GJLC256	日本語聴解 V A	30	1	1~4	
		GJLC257	日本語聴解 V B	30	1	1~4	
		GJLC161	日本語文章表現入門	30	1	1~4	
		GJLC162	日本語文章表現 I	30	1	1~4	
		GJLC261	日本語文章表現 III	30	1	1~4	
		GJLC262	日本語文章表現 IV	30	1	1~4	
⑩日本語・日本文化科目	GJLC118	日本伝統文化	30	2	1~4	注7	

※科目によりテーマの異なった複数の授業が開講されている場合がありますが同じ科目名のは1つしか修得できません。

注7 卒業に必要な単位には含まれません(自由選択の単位としても算入されません)。

第VI章 学部・学科の履修について

経済学部 経済学科

1. 理念・目的

創価大学経済学部は、開学以来、建学の精神である「人間教育」「大文化建設」そして「平和創出」に基づき、グローバルな経済社会を担うリーダーの育成を目指してきました。特に、人類の新しい経済のあり方を問う「人間主義経済」の理論的・実践的な研究は、創価大学経済学部が独自に担う使命です。

2. 教育目標

創価大学経済学部は、以下の3つの教育目標を掲げます。

- (1) 体系的な経済学教育を通して、問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた人材を育成する。
- (2) 英語による経済学教育を通して、グローバル社会で役立つコミュニケーション力を備えた人材を育成する。
- (3) 人間主義に基づく経済学教育を通して、世界の平和と人類の幸福に貢献する人間力を備えた人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

創価大学経済学部では、学部教育目標に基づいて、以下の能力（ラーニング・アウトカムズ）を備えた人材を育成します。

- (1) 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる。
- (2) 数量的・統計的データを正確に理解することができる。
- (3) 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる。
- (4) 経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる。
- (5) 世界の多様性、及び経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる。
- (6) 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる。
- (7) 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる。

こうした能力を育成するために編成された学部カリキュラムにおいて所定の単位を修得し、GPA 基準を満たした学生に、創価大学経済学部は、学士（経済学）の学位を授与します。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学経済学部では、学部が定めたラーニング・アウトカムズを達成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成しています。

- (1) 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析できるようになるために、まず、必修科目「ミクロ経済学」「マクロ経済学」で、経済理論の基礎を学びます。その後、中級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、さらに、「経済理論・統計学」科目群（クラスター）に配置された上級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学を学びます。また、応用経済学の諸科目を履修し、経済学を用いた社会分析の具体的手法を学び、複眼的視点をもった論理的思考力を養います。
- (2) 数量的・統計的データを正確に理解できるようになるために、まず、必修科目「経済数学入門」「基礎統計学」で、数量的分析の基礎を学びます。その後、「経済理論・統計学」科目群（クラスター）に配置された、上級の「経済数学」「データ・サイエンス」「計量経済学」を履修し、より高度な数量的・統計的分析力を養います。
- (3) 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用できるようになるために、まず、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」とともに、必修科目「経済と歴史」で経済への歴史的アプローチを、必修科目「簿記入門」で簿記の基礎を学びます。その後、「現代経済」科目群（クラスター）に配置された「金融

論」「財政学」等、「グローバル地域経済」科目群（クラスター）に配置された「開発と貧困の経済学」「日本経済史」等を履修し、日本・世界の経済・社会に関するより高度な知識を学び、それをもとに自ら課題を設定する力を養います。

- (4) 経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができるようになるために、まず、必修科目「学術文章作法」（共通科目）、英語（6単位必修）で、言語表現力の基礎を学びます。また、IP（International Program）では、学術英語を学んだ後、英語で経済学を学び、英語によるコミュニケーション力を養います。さらに、専門科目のすべての単位を英語で履修できる英語トラック SUCCEED（Soka University Courses for Comprehensive Economics Education）プログラムの科目を履修し、より高度な英語によるコミュニケーション力を養います。
- (5) 世界の多様性、及び経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができるようになるために、2年秋学期・3年春・秋学期の必修科目「演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」で、具体的な経済問題を、ディスカッションを通して学び、討議推進力を養います。また、SUCCEED科目では、世界から集まった留学生たちとともに英語で、日本・アジアの経済・社会問題を学ぶことができます。
- (6) 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できるようになるために、まず、1年春学期の必修科目「初年次セミナー」（共通科目）でタイム・マネージメントやグループ学習の基礎を学びます。その後、「演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」、IP（International Program）、その他の専門科目でグループ学習を行い、自己育成力、対人基礎力、目標達成力を養います。
- (7) 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができるようになるために、必修科目「演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」で個人やグループでのリサーチを通して、経済問題・社会問題に取り組みます。また、「社会貢献と経済学」で経済学が社会貢献に果たす役割を実践的に学び、さらに「演習Ⅳ」「卒業論文研究」では、教員の指導の下、個人で課題を設定して、経済学を用いて、その解決策を提示します。

さらに、経済学部は、以上のカリキュラムによって、先にディプロマ・ポリシーで掲げたラーニング・アウトカムズがどれだけ達成されているかを、以下の直接評価手法と間接評価手法を組み合わせ点検・評価します。さらに不断の努力によって教育改善に取り組みます。

－ 直接評価手法

- (1) ミクロ経済学、マクロ経済学、基礎統計学における全クラス統一試験によって、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析する力、数量的・統計的データを正確に理解する力を測定する。
- (2) TOEFL, TOEIC のスコアを用いて英語コミュニケーション力の達成度を測定する。
- (3) ルーブリックを用いた演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ及び卒業論文評価によって、経済学を用いて問題を解決する力などの達成度を測定する。
- (4) 1年次と4年次に受験する就業力測定試験によって、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できるようになるコンピテンシー能力の向上を測定する。

－ 間接評価手法

- (1) ラーニング・アウトカムズの達成度を、全卒業生に対するアンケート調査によって測定する。
- (2) ミクロ経済学、マクロ経済学、経済と歴史など各主要科目で養われるラーニング・アウトカムズの達成度を、アンケート調査によって測定する。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

創価大学経済学部は、創価大学のアドミッション・ポリシー並びに本学部の理念・目的に基づいて、本学部の教育目標で提示した人材へと育ちゆく資質・能力を備えた学生を広く国内外から、以下のような方法で選抜します。

- (1) 経済学部が、開学以来、掲げてきた人間主義経済の理念に共感し、世界の平和と人類の幸福に貢献し、グローバル社会でリーダーとして活躍する意志をもって本学部での学修を希望する学生。
- (2) PASCAL 入試、公募推薦入試において、面接試験を通してその意志を評価します。
- (3) 問題発見・解決、さらに論理的な思考・判断・表現に必要とされる十分な知識・技能を修得するための基礎学力を有している学生。
- (4) PASCAL 入試、公募推薦入試、センター試験利用入試、全学統一試験、一般入試、外国人入試（英語プログラム「SUCCEED＝Soka University Courses for Comprehensive Economics Education」を含む）では、とりわけ、基礎的な知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価します。
- (5) グローバル社会で活躍するうえで必須となる基礎的な英語能力を有している学生。

- (6) 公募推薦入試、センター試験利用入試、全学統一試験、一般入試において英語能力を重視します。特に、センター試験利用入試と一般入試では、英語の得点配分を高くする傾斜配点を行います。また PASCAL 入試、公募推薦入試では、各種英語資格試験において一定のスコア基準を満たした者に対して優遇する措置を取ります。
- (7) 現実の経済社会問題に関心を持ち、自ら考え行動することによって問題解決に主体的に取り組むと同時に、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある学生。
- (8) 公募推薦入試では、書類審査と面接試験を実施し、高等学校等までの取り組みにおける主体性、学習意欲を評価します。また PASCAL 入試では、アクティブ・ラーニングの手法を用いたグループ・ディスカッションを通して、個々人の主体性、多様性、協働性、表現力を評価します。

6. 卒業要件

経済学部経済学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	
共通科目 (54～58頁)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2 単位	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されません
		学術文章作法	選択必修科目	2 単位	
	②大学科目		選択必修科目	4 単位	
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4 単位	
⑧キャリア系教育科目		選択必修科目	2 単位		
外国語科目	第1 外国語	※1	選択必修科目	6 単位	
	第2 外国語	※2	選択必修科目	4 単位	
経済学科 専門科目 (68～70頁)	選択必修科目	※3		2 8 単位	
	選択科目			3 8 単位	
	選択した科目群（クラスター）[▲印]から合計18単位以上を修得すること。				
自由選択 ※4	『共通科目』『経済学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目（社会教育主事課程登録者のみ履修可）』から自由に選択して修得した単位			3 4 単位以上	
合 計				1 2 4 単位以上	

※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目（英語）」（54 頁）又は学部学科英語科目（70 頁）から6 単位修得してください。
経済学科では、卒業に必要な英語6 単位は、以下の学部英語科目を履修することによって満たすことができます。

Non-IP 生	Economics English Communication I, II, III
IP 生、Pre-IP 生	Academic Foundations for Economic Majors I, II; Global Economy Laboratory; Economics Laboratory A, B

また、IP、Pre-IP を第1 Semesterのみ履修した学生は、Economics English Communication を履修し、残りの英語単位を修得してください。

※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」（54～55 頁）から、第1 外国語として選択した言語以外の1 つの言語（ただし言語演習を除く）で4 単位を修得してください。

※3 専門選択必修科目で卒業に必要な単位数（28 単位）を超えて修得した場合には専門選択科目として算入されます。

※4 自由選択とは『共通科目』『経済学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目（社会教育主事課程登録者のみ履修可）』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『経済学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を40 単位修得した場合に、2 単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を34 単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件

■経済学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメス ターの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点 の条件	
							通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20 単位	特設課程科目	16 単位	3.50	4 単位	可	3.70	3.70	84

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準の通算 GPA 数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時（在学6セメ又は7セメ終了時）に上記の通算 GPA 基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターを Web より登録しなければなりません。

8. 履修モデル（1・2年次）

履修の仕方は、IP 生、Pre-IP 生と一般学生で異なります。各セメスター20単位の履修制限内での標準的な履修モデルは以下の通りです。各人の興味に応じて、これ以外の科目を履修することも可能です。

また、IP 科目は、レベルによって異なるので、以下のモデルに示した以外の科目の履修が求められることがあります（「9. 学部英語科目と IP, SUCCEED」参照）。

■ 1年次

必修科目（「初年次セミナー」「マイクロ経済学」「マクロ経済学」「経済と歴史」；一般学生はさらに「簿記入門」）、IP 科目若しくは学部英語科目は必ず履修してください。

その他、言語科目（英語以外）、学術文章作法、キャリア教育科目の履修を強く推奨します。

○囲み数字は単位数を表します

第1セメスター	IP 生、Pre-IP 生	Non-IP 生
専門選択必修科目	・マイクロ経済学 ④ ・経済数学入門 ④	・マイクロ経済学 ④ ・経済数学入門 ④ ・簿記入門 ②
専門選択科目	・Introduction to Economic Reasoning ④	
学部学科英語科目	・Academic Foundations for Economic Majors I ②	・Economics English Communication I ②
共通科目	・初年次セミナー ② ・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目 ②	・初年次セミナー ② ・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目 ② ・『②大学科目』から1科目 ②
第2セメスター	IP 生、Pre-IP 生	Non-IP 生
専門選択必修科目	・マクロ経済学 ④ ・経済と歴史 ④	・マクロ経済学 ④ ・経済と歴史 ④
専門選択科目	・Global Economy Lecture ②	・社会貢献と経済学 ②
学部学科英語科目	・Global Economy Laboratory ② ・Academic Foundations II ②	・Economics English Communication II ②
共通科目	・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目 ② ・学術文章作法 I ②	・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目 ② ・学術文章作法 I ②
共通科目など		・自分の興味のある科目 ②

■ 2 年次

必修科目（「基礎統計学」「演習 I」、IP 生はさらに「簿記入門」、IP 科目若しくは学部英語科目は、必ず履修してください。また、科目群（クラスター）選択を考慮して、その導入科目を履修してください。特に「ミクロ経済学中級」「マクロ経済学中級」の履修を強く推奨します。1 年次に IP、Pre-IP で共通科目を十分に履修していない学生は、2 つ目の科目群（クラスター）導入科目の代わりに、共通科目を履修してください。

○囲み数字は単位数を表します

第 3 セメスター	IP 生	Non-IP 生
専門選択必修科目	・基礎統計学 ④ ・簿記入門 ②	・基礎統計学 ④
専門選択科目	・ミクロ経済学中級 ④ ・科目群（クラスター）導入科目を 1 科目④ ・Economics Lecture A ④	・ミクロ経済学中級 ④ ・科目群（クラスター）導入科目を 2 科目⑧
学部学科英語科目 共通科目など	・Economics Laboratory A ②	・Economics English Communication III ② ・自分の興味のある科目 ②
第 4 セメスター	IP 生	Non-IP 生
専門選択必修科目	・演習 I ②	・演習 I ②
専門選択科目	・マクロ経済学中級 ④ ・科目群（クラスター）導入科目を 1 科目④ ・Economics Lecture B ④	・マクロ経済学中級 ④ ・科目群（クラスター）導入科目を 2 科目⑧
IP・英語科目	・Economics Laboratory B ②	
共通科目	・大学科目②	
共通科目など	・自分の興味のある科目 ②	・自分の興味のある科目 ⑥

■ 1 年次秋学期の「ミクロ経済学」、2 年次春学期の「マクロ経済学」について

1 年次秋学期に開講される「ミクロ経済学」、及び 2 年次春学期に開講される「マクロ経済学」は、E 評価となった学生を対象により基礎的な学修を丁寧に行うため、原則として、成績は、B を上限とした評価になります。

1 年次春学期の「ミクロ経済学」、1 年次秋学期の「マクロ経済学」で E を取った学生は必ず履修してください。履修しない場合は、アカデミックアドバイザー（初年次セミナー担当教員）の許可を得なければなりません。

9. 学部英語科目と IP、SUCCEED 科目

各学生の希望及び英語のレベルに応じて、以下の英語教育の科目を設けています。

(1) International Program (IP)

英語で専門科目の基礎を学ぶと同時に学術的な英語能力とディスカッション能力を養うプログラムです。IP では、各セメスターに 6 単位の科目を履修し、毎週、授業・授業外を合わせて計約 20 時間以上の学習時間を必要とします。各授業は、次のページの図に示したように、英語力（TOEFL-ITP テストのスコア）に応じてクラス分けが行われます。IP の履修を続けるには、セメスターごとに決められた英語力に到達し、さらに、各セメスターで 2.70 以上（第 1 セメスターのみ 2.30 以上）の GPA を取らなくてはなりません。

(2) Pre-IP

IP の履修を目指す 1 年生のためのプログラムです。第 1 セメスターに 6 単位の科目を履修し、学術的な英語力の向上を目指します。

(3) 一般学生

各セメスターに Economics English Communication （2 単位）を履修し、総合的な英語力の向上を目指します。

(4) SUCCEED (Soka University Courses for Comprehensive Economics Education) 科目

留学生とともに英語で経済学を学ぶ科目です。日本人学生も以下の①、②のいずれかの条件を満たせば履修できます。

- ① 以下の3つの条件をすべて満たす
 - a) Global Economy Laboratory, Economics Laboratory A, Economics Laboratory B の3科目のうち2科目以上の単位修得
 - b) TOEFL-ITP スコア 530 以上
 - c) 通算 GPA2.70 以上
- ② TOEFL-iBT 79 点以上

原則として、1クラスあたりの定員を留学生含めて20名とし、これを超過する履修希望者がいた場合は、経済学部生の履修を優先とします。

創価大学経済学部での英語教育 () 専門科目単位数
[] 英語科目単位数

Semester 5-				SUCCEED courses ITP530+
Semester 4			Advanced B EcB(4) EcBLab[2] ITP520+	SUCCEED courses ITP530+
Semester 3	Econ EC III [2]		Advanced A EcA(4) EcALab[2] ITP490-517	Advanced B EcB(4) EcBLab[2] ITP520+
Semester 2	Econ EC II [2]		Intermediate GLec(2) Glab [2], AFII[2] ITP450-487	Advanced GLec(2) Glab [2], AFII[2] ITP490+
Semester 1	Econ EC I [2]	Pre IP IER (4) AF I [2] ITP 310-420	Intermediate IER (4) AF I[2] ITP423-450	Advanced IER (4) AF I[2] ITP453-517
	一般学生	Pre-IP	IP (International Program)	

※入学時に TOEFL-ITP が 520 点以上の場合、Semester 1 に Advanced A から学修を始める場合があります

10. 履修のための前提 (prerequisite)

2年次以降に開講される科目の多くは、事前に特定の科目を履修しておくことが求められます。これらの条件は、各科目のシラバスに明記されているので、履修の前に必ず確認するようにしてください。特に、「ミクロ経済学中級」「マクロ経済学中級」は、その履修が、多くの科目で前提とされるので、2年次のうちに履修することが強く推奨されます。

1.1. 科目群（クラスター）

2年秋学期（第4セメスター）の履修登録で、科目群（クラスター）を選択して登録します。選択した科目群（クラスター）が指定する▲印の科目群の中から18単位を修得しなければなりません。

■経済理論・統計学

複雑な社会現象を経済学的視点から分析し、考える力を修得します。経済理論を基礎に論理的な思考力を養い、コンピュータを使って経済動向を数理的・統計的に分析する力を身につけます。

■現代経済

経済理論をもとに、金融やファイナンスの知識を基礎から学び、かつ、財政、環境、雇用等の諸問題について多角的な観点から幅広く学びます。さらに、諸問題解決のための政策立案の方向や将来のビジョンを模索する科目群（クラスター）です。

■グローバル地域経済

生活や社会の発展と経済活動との関連を国内外の歴史や文化を通じて考えます。世界各地における経済事情を把握するとともに、世界経済における貧困や開発の問題を考察します。グローバルな観点で経済活動を理解し、広い視野と分析力を養います。

■SUCCEED (Soka University Courses for Comprehensive Economics Education)

英語による講義のみで構成される科目群（クラスター）です。日本人学生も以下の①、②のいずれかの条件を満たせば、この科目群（クラスター）の科目を履修できます。

- ① 以下の3つの条件をすべて満たす
 - a) Global Economy Laboratory, Economics Laboratory A, Economics Laboratory B の3科目のうち2科目以上の単位修得
 - b) TOEFL-ITP スコア 530 以上
 - c) 通算 GPA2.70 以上
- ② TOEFL-iBT 79 点以上

■選択した科目群（クラスター）の変更

第4セメスターで選択した科目群（クラスター）を変更する場合は、第5セメスター以降の履修登録時に変更することが可能です。ただし、科目群（クラスター）を変更した場合、変更先の科目群（クラスター）が指定する科目群から18単位を修得しなければなりません。したがって、安易に科目群（クラスター）の変更を行うと卒業に影響がありますので、科目群（クラスター）を選択する際は将来の学修の方向性などよく考えて登録するようにしてください。

1.2. 演習（ゼミナール）

(1) 演習の開講時期

専門演習は、2年秋学期以降に、少人数制(原設定員12名)で開講されます。「演習Ⅰ」（2年秋学期）「演習Ⅱ」（3年春学期）「演習Ⅲ」（3年秋学期）は必修です。「演習Ⅳ」は、4年秋学期に選択科目として開講されます。原則として、1人の教員の演習に、「演習Ⅰ」から「演習Ⅳ」まで継続して所属します。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年春学期にガイダンス及び申し込みがあり、選考の上、所属する演習が決定されます。なお、教員が選考資料の1つとして1年次の成績を使用します。

※演習の選択は、3つの科目群（クラスター）から選択した専門分野と必ずしも関連している必要はありません。

13. 専門科目の認定

(1) 各種検定試験による単位認定

対象となるのは、以下の検定試験の成績・資格です：

- ・経済学検定試験 ERE（マイクロ・マクロ）の成績
- ・統計検定（日本統計学会公式認定）2級以上に合格

いずれも、在籍期間中に受験して得た成績、あるいは取得した資格が対象になります。これらの成績・資格を以下の基準に従って、「経済特論Ⅰ～Ⅵ」（各2単位）の中から単位修得状況により認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書（Web 上にて発行）と成績証明書原本（教務課で写しを取った後に本人に返却）を教務課に提出してください。経済学部以外の学生についても、他学部専門科目「経済特論」として認定されます。

■認定の対象となる資格・成績

主催団体	試験名	取得資格	認定成績	認定単位	備考
日本経済学教育協会	経済学検定試験 (マイクロ・マクロ)	S	A+	2単位	EREマイクロ・マクロでの単位認定は一度のみです。一度EREマイクロ・マクロで単位認定を受けた後、別の成績で新たに単位を申請することはできません。
		A+	A		
		A	A-		
		B+	B+		
		B	C		
C	D				
日本統計学会	統計検定	2級	R	2単位	統計検定による単位認定は最大で4単位です。一度2級で単位認定を受けた後、準1級で単位申請をした場合は2単位認定されます。
		準1級以上	R	4単位	

注1) 在籍期間中に受験した資格・成績が対象です。

注2) ERE（マイクロ・マクロ）、統計検定双方の資格・成績を保持している場合、最大で6単位の単位認定を受けることができます。

(2) 留学先で取得した科目の単位

交換留学先の大学、若しくは私費留学で経済学部教授会が適当と認めた大学において修得してきた経済学専門科目の単位は、経済学部教授会の議を経て、創価大学経済学部のカリキュラムや授業時間数に従って、創価大学経済学部の単位として認定されます。

経済学専門科目の単位の認定を希望する学生（他学部生を含む）は、全学共通の海外留学単位認定願（専門科目）・講義内容（教務課窓口で配布）・留学先で発行した成績証明書原本【成績基準を含む】に加え、留学先での講義シラバスを教務課に提出してください。

■専門科目表の見方（経済学科専門科目）

次のページから掲載されている経済学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	Cluster				他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目						
					理論	現代	グ地	SUC			1	2	3	4	5	6	7
					①	②	③	④			⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥Cluster	どの科目が科目群（クラスター）の指定する科目かを表します。選択した科目群（クラスター）列に「▲」が付されている科目を18単位以上修得する必要があります。なお、科目群（クラスター）名は以下の略です。 理論：経済理論・統計学／現代：現代経済／グ地：グローバル地域経済／SUC：SUCCEED
⑦他学科履修	経済学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、経済学科生以外には履修できません。
⑧備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑨ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを表します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる。 2. 数量的・統計的データを正確に理解することができる。 3. 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる。 4. 経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる。 5. 世界の多様性、及び経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる。 6. 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる。 7. 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる。

■経済学部 経済学科 専門科目表 (2019年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	科目群(クラスター)				他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目																					
					理論	現代	グ	地			SUC	1	2	3	4	5	6	7														
選択必修科目 28単位以上(各科目領域から指定された単位数をそれぞれ修得すること)																																
ミクロ経済学(4単位)																																
ECON111	ミクロ経済学	60	4	1~	○	○	○	○			◎	○	○	○	○																	
ECON113	Principles of Microeconomics	60	4	1~	○	○	○	○			◎	○	○	○	○																	
ECON315	ミクロ経済学中級(HP)	60	4	1~	◎▲	◎▲	◎▲		x	注1	◎	○	○	○	○																	
マクロ経済学(4単位)																																
ECON112	マクロ経済学	60	4	1~	○	○	○	○			◎	◎	○	○	○																	
ECON114	Principles of Macroeconomics	60	4	1~	○	○	○	○			◎	◎	○	○	○																	
ECON316	マクロ経済学中級(HP)	60	4	1~	◎▲	◎▲	◎▲		x	注1	◎	◎	○	○	○																	
経済数学入門(4単位)																																
ECON121	経済数学入門A	60	4	1~	○	○	○	○			○	◎	◎		○																	
ECON221	経済数学入門B	60	4	1~	○	○	○	○			○	◎	◎		○																	
ECON223	Introductory Mathematics for Economics I	30	2	1~	○	○	○	○			○	◎	◎		○																	
ECON224	Introductory Mathematics for Economics II	30	2	1~	○	○	○	○			○	◎	◎		○																	
経済と歴史(4単位)																																
ECON151	経済と歴史	60	4	1~	○	○	○	○			◎		◎	○	◎																	
ECON152	Economic History	60	4	1~	○	○	○	○		連携(法)	◎		◎	○	◎																	
統計(4単位)																																
ECON122	基礎統計学A	60	4	1~	○	○	○	○			◎	◎	◎																			
ECON222	基礎統計学B	60	4	1~	○	○	○	○			◎	◎	◎																			
ECON225	Statistics for Economics and Business I	30	2	1~	○	○	○	○		連携(営)	◎	◎	◎																			
ECON226	Statistics for Economics and Business II	30	2	1~	○	○	○	○		連携(営)	◎	◎	◎																			
簿記(2単位)																																
ECON131	簿記入門	30	2	1~	○	○	○	○				◎																				
ECON132	Introduction to Financial Accounting	30	2	1~	○	○	○	○				◎																				
演習 I (2単位)																																
ECON201	演習 I	30	2	2~	○	○	○	○	x		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○														
ECON202	Progressive Seminar I	30	2	2~	○	○	○	○	x		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○														
演習 II (2単位)																																
ECON301	演習 II	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○														
ECON303	Progressive Seminar II	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○														
演習 III (2単位)																																
ECON302	演習 III	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○														
ECON304	Progressive Seminar III	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○														
選択科目 38単位以上 ※選択した Cluster の▲印を18単位以上含むこと																																
科目導入科目																																
ECON311	ミクロ経済学中級	60	4	2~	▲	▲	▲			連携(営)	◎	○	○	○	○																	
ECON312	マクロ経済学中級	60	4	2~	▲	▲	▲			連携(営)	◎	◎	○	○	○																	
ECON313	Intermediate Microeconomics	60	4	2~	▲	▲	▲	▲		連携(国)	◎	○	○	○	○																	
ECON314	Intermediate Macroeconomics	60	4	2~	▲	▲	▲	▲		連携(国)	◎	◎	○	○	○																	
ECON321	経済数学	60	4	2~	▲							◎	○																			
ECON322	データ・サイエンス	60	4	2~	▲	▲					◎	◎	◎																			
ECON331	金融論	60	4	2~	▲	▲					◎	○	◎	○	○																	
ECON332	財政学	60	4	2~	▲	▲					◎	○	◎		○	○																
ECON351	日本経済史	60	4	2~			▲				◎		○	◎	○	○																
ECON361	開発と貧困の経済学	60	4	2~			▲				◎	○	○	○	◎	○	◎															
その他の選択科目																																
ECON191	社会貢献と経済学	30	2	1~					x		○							○														
INFO111	微積分学 I	30	2	2~						連携(情)		◎																				
INFO114	微積分学 II	30	2	2~						連携(情)		◎																				
ECON231	資本市場と証券投資	30	2	2~		▲				連携(営)	◎	○	◎	○	○	○																
ECON232	簿記演習	30	2	2~								◎																				
ECON261	グローバル経済 I	30	2	2~			▲				◎	○	◎	○	◎	○	○															
ECON262	グローバル経済 II	30	2	2~			▲				◎	○	◎	○	◎	○	○															
ECON291	特殊講義A	60	4	1~																												
ECON292	経済特論 I	30	2	1~																												
ECON293	経済特論 II	30	2	1~																												
ECON323	統計学	60	4	3・4	▲						◎	◎	◎																			

○選択必修科目 ▲科目群(クラスター)選択必修科目 (無印)選択科目 ※選択した Cluster の▲印を18単位以上修得すること。

※備考の「連携~」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。

※備考の注1 オナーズ・プログラム(HOPE)学生のみ履修可。

※備考の[認定用]は海外留学等による単位認定用科目(条件があります)、[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、経済学科生以外は履修出来ません。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	科目群(クラスター)				他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目											
					理論	現代	グロ	SUC			1	2	3	4	5	6	7					
選択科目 38単位以上(つづき) ※選択した Cluster の▲印を18単位以上含むこと																						
ECON333	会計学	60	4	3・4							○	◎										
ECON341	日本経済論	60	4	2～		▲	▲				◎	◎	◎	○	○							
ECON342	労働経済論	60	4	2～		▲					◎	◎								○		
ECON343	環境経済論	60	4	2～		▲					◎	○	○							○	○	
ECON344	国際経済論	60	4	3・4	▲		▲				◎	○	◎		○							
ECON345	公共経済論	60	4	3・4		▲					◎	○	◎									
ECON346	農業経済論	60	4	3・4		▲					◎	○	○		○							
ECON352	西洋経済史	60	4	2～			▲				◎		◎	○	○							
ECON353	経済学史	60	4	3・4	▲		▲				◎	○	◎	◎	○	○						
ECON354	現代経済史	60	4	3・4			▲				◎	○	◎	◎	○	○						
ECON362	中国経済論	30	2	3・4			▲				○	○	◎		○							
ECON363	アジア経済論	30	2	3・4			▲				○	○	◎		○							
ECON364	ロシア・ユーラシア経済論	30	2	3・4			▲				○	○	◎		○							
ECON365	ヨーロッパ経済論	30	2	3・4			▲				○	○	◎		○							
ECON366	アフリカ経済論	30	2	3・4			▲				○	○	○	◎	◎	○	○					
ECON367	ラテン・アメリカ経済論	30	2	3・4			▲				○	○	◎		○							
ECON381	人間主義経済学	30	2	3・4							◎	○	◎	○	○	○	○	◎				
ECON391	特殊講義B	60	4	2～																		
ECON392	経済特論Ⅲ	30	2	2～																		
ECON393	経済特論Ⅳ	30	2	2～																		
ECON394	法と経済A	60	4	2～									◎									
ECON395	法と経済B	60	4	3・4																		
ECON401	演習Ⅳ	30	2	4	▲	▲	▲	▲	x		◎	◎	○							◎		
ECON402	卒業論文研究	60	4	4					x												◎	
ECON403	Progressive Seminar Ⅳ	30	2	4	▲	▲	▲	▲	x				◎	○							◎	
ECON404	Capstone Thesis	60	4	4					x												◎	
INF0452	情報システムモデリング	30	2	3・4									◎									
ECON491	特殊講義C	60	4	3・4																		
ECON492	特殊講義D	60	4	3・4																		
ECON493	経済特論Ⅴ	30	2	3・4																		
ECON494	経済特論Ⅵ	30	2	3・4																		
ECON511	ミクロ経済学上級	60	4	3・4	▲						◎	○	◎	○	○							
ECON512	マクロ経済学上級	60	4	3・4	▲						◎	◎	◎	◎	◎	○						
ECON521	計量経済学上級	60	4	3・4	▲						◎	○	○									
ECON531	財政学上級	60	4	3・4			▲				◎	○	○									
ECON532	ファイナンス論	60	4	3・4	▲	▲					◎	◎	◎	◎	○							
ECON174	Foreign Studies	30	2	1～																	◎	
ECON273	International Economy and Business I	45	3	1～					x												[認定用]	
ECON274	International Economy and Business II	45	3	1～					x												[認定用]	
ECON275	International Economy and Business III	45	3	1～					x												[認定用]	
ECON276	World Economy I	30	2	2～				▲														
ECON277	World Economy II	30	2	2～				▲														
ECON278	World Economy A	60	4	2～				▲														
ECON279	World Economy B	60	4	2～				▲														
ECON294	International Internship A	60	4	1～				▲													◎	
ECON295	International Internship B	60	4	1～				▲													◎	
ECON334	Principles of Finance	60	4	2～	▲	▲		▲			◎	○	○	○								
ECON335	International Finance	30	2	2～	▲	▲		▲			◎	○	◎	○	○							
ECON336	Econometrics	60	4	2～	▲			▲			◎	◎		○								
ECON347	Economic Issues of Contemporary Japan	30	2	2～		▲	▲	▲			◎		◎	○	○							
ECON355	Economic Development of Japan I	30	2	2～		▲	▲	▲			◎		◎	○	○							
ECON356	Economic Development of Japan II	30	2	2～		▲	▲	▲			◎		◎	○	○							
ECON357	Political Economy of Japan and Asia	30	2	2～			▲	▲			◎		◎	○	○							
ECON368	Chinese Economy	30	2	2～			▲	▲					◎	○	○							
ECON369	Indian Economy	30	2	2～			▲	▲					◎	○	○							
ECON371	Development and Environment	60	4	2～			▲	▲			◎		◎	○								
LAWP234	International Relations	60	4	2～				▲													連携(営・法)	
LAWP235	International Environmental Policy	30	2	2～				▲													連携(営・法)	

○選択必修科目 ▲科目群(クラスター)選択必修科目 (無印)選択科目 ※選択した Cluster の▲印を18単位以上修得すること。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。

※備考の[認定用]は海外留学等による単位認定用科目(条件があります)、[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、経済学科生以外は履修出来ません。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	科目群(クラスター)				他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目											
					理論	現代	グロ	SUC			1	2	3	4	5	6	7					
選択科目 38単位以上(つづき) ※選択した Cluster の▲印を18単位以上含むこと																						
LAWP232	Peace Studies	30	2	2~				▲		連携(営・法)												
LAWP233	Area Studies in International Law Perspectives	30	2	2~				▲		連携(法)												
ECON376	Contemporary Economy and Business I	30	2	2~				▲														
ECON377	Contemporary Economy and Business II	30	2	2~				▲														
ECON378	Contemporary Economy and Business III	30	2	2~				▲														
ECON379	Contemporary Economy and Business IV	30	2	2~				▲														
ECON382	World Economy III	30	2	2~				▲														
ECON383	World Economy IV	30	2	2~				▲														
ECON384	World Economy V	30	2	2~				▲														
ECON385	World Economy VI	30	2	2~				▲														
ECON386	World Economy C	60	4	2~				▲														
ECON387	World Economy D	60	4	2~				▲														
ECON388	World Economy E	60	4	2~				▲														
ECON396	Business and Japanese People	30	2	2~		▲	▲	▲		連携(営・法)		◎	○	○								
ECON397	Human Resources Management in Japan and Asia	30	2	2~		▲	▲	▲		連携(法)		◎	○	○								
ECON398	International Economy and Business IV	45	3	2~					x	[認定用]												
ECON399	International Economy and Business V	45	3	2~					x	[認定用]												
BUSI274	International Context in Business	60	4	2~				▲		連携(営・法)												
BUSI232	Principles of Marketing	60	4	2~				▲		連携(営・法)												
BUSI275	Financial Management	60	4	2~				▲		連携(営・法)												
BUSI333	Principles of Consumer Behavior	60	4	3・4				▲		連携(営・法)												
BUSI385	Business Ethics	30	2	3・4				▲		連携(営)												
LAWP351	Environmental Law	30	2	3・4				▲		連携(営・法)												
LAWP342	International Human Rights	60	4	3・4				▲		連携(営・法)												
INLA381	Development Economics	60	4	3・4				▲		連携(法・国)												
INLA481	International Economics	60	4	3・4				▲		連携(国)												
ECON481	World Economy VII	30	2	2~				▲														
ECON482	World Economy VIII	30	2	2~				▲														
ECON483	World Economy F	60	4	2~				▲														
ECON484	World Economy G	60	4	2~				▲														
オナーズ・プログラム (HOPE) ※オナーズ学生のみ履修可 ※専門選択科目の単位として算入されます																						
ECON102	オナーズ・セミナー I	30	2	1~					x	[制限外]	◎	○	○	○	○	◎						
ECON103	オナーズ・セミナー II	30	2	1~					x	[制限外]	◎	◎	○	○	○	◎						
ECON203	オナーズ・セミナー III	30	2	2~					x	[制限外]	◎	◎	○	○	○	◎	◎					
International Program ※専門選択科目の単位として算入されます																						
ECON171	Introduction to Economic Reasoning	60	4	1~					x					◎	◎	◎						
ECON172	Global Economy Lecture	30	2	1~					x		◎		○	◎	◎	◎						
ECON271	Economics Lecture A	60	4	1~					x		◎		○	◎	◎	◎						
ECON272	Economics Lecture B	60	4	1~					x		◎		○	◎	◎	◎						
学部学科英語科目 ※この科目は「言語科目(英語)」の単位として取り扱われます																						
International Program を履修する経済学部生のための英語科目																						
ECON183	Academic Foundations for Economic Majors I	60	2	1~					x					◎	◎	○						
ECON184	Academic Foundations for Economic Majors II	60	2	1~					x					◎	◎	○						
ECON185	Global Economy Laboratory	60	2	1~					x		○		○	◎	◎	◎						
ECON282	Economics Laboratory A	60	2	1~					x		◎		○	◎	◎	◎						
ECON283	Economics Laboratory B	60	2	1~					x		◎		○	◎	◎	◎						
International Program を履修しない経済学部生のための英語科目																						
ECON181	Economics English Communication I	60	2	1~					x					◎								
ECON182	Economics English Communication II	60	2	1~					x					◎								
ECON281	Economics English Communication III	60	2	2~					x					◎								

○選択必修科目 ▲科目群(クラスター)選択必修科目 (無印)選択科目 ※選択した Cluster の▲印を18単位以上修得すること。

※備考の「連携~」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。

※備考の[認定用]は海外留学等による単位認定用科目(条件があります)、[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、経済学科生以外は履修出来ません。

1. 理念・目的

創価大学法学部は、創立者池田大作先生が示された建学の精神に立脚し、人間主義に基づく法学教育を通じて論理的な思考力と説明力を身につけ、現実の問題の解決を図ることにより、人類の幸福、社会の平和の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。

2. 教育目標

創価大学法学部は、以下の3つの教育目標を掲げています。

- (1) 民衆の側に立ち、正義の実現のために行動する健全なリーガルマインドを身につけた人材を育成する。
- (2) 人権を尊重し、平和実現のためにたゆまず努力を続ける人材を世界に輩出する。
- (3) 人間主義を基調とした新たな法文化創造の担い手を養成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

創価大学のディプロマ・ポリシーに基づき、法学部は以下の能力や学識の修得を求め、学位授与の要件を満たした学生に、学士（法学）を授与します。

(1) 知識基盤：幅広い知識と高度な専門性

わが国の法制度・政治制度の基礎となる価値観や基本原則を正確に理解しており、法律上又は政策上の問題に対して具体的で的確な判断ができる。

(2) 実践的能力：知識を社会に応用する力とコミュニケーション力

社会が直面する法律上又は政策上の課題がいかなる性質のものかを正確に特定・分析し、そしてその解決のためにはいかなる選択肢がありうるのかを見極め、課題解決の方法を考え出し、わかりやすく伝えることができる。

(3) 国際性：多様性を受容する力と他者との協働性

英語及び第2外国語を学修し、諸外国の様々な価値観や利害の異なる他者の多様な見解を理解するとともに、意見の異なる他者との議論を通じ、コンセンサスを得るための努力をすることができる。

(4) 創造力：統合する力と創造的思考力

身につけた知識を総合的に活用し、社会の中の新たな課題にそれらを適用し、創造的なアイデアを通してその課題を解決する方法を考えることができる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、法学部は上記、学部のディプロマ・ポリシーに合う学生を育成するために、以下の方針でカリキュラムを編成します。

(1) 4年間の学びで幅広い知識と高度な専門性を身につける

4年間の学士課程を通じて、全学共通科目により、法律学・政治学の枠を超えた幅広い知識を身につけます。法学部は、「リーガル・プロフェッションコース」、「ビジネス法務コース」、「公共政策・行政コース」、「国際平和・外交コース」の4コース制を採用し、法曹、企業人、公務員、外交官等のキャリアに必要な高度の専門性を身につけることができますようにします。また、法曹を目指す学生のために、グローバルロイヤーズプログラム (GLP) を設置し、1年次より法曹養成を目標としたカリキュラムを用意しています。

1年次において、専門教育では必修科目の「法学」により法律学の基礎を学び、共通科目の「初年次セミナー」により法律上又は政策上の社会的課題に関する資料を収集し、それを読解して自ら考え、自身の意見を口頭及び文章で表現する基礎力を身につけることができますようにします。1年次秋学期及び2年次春学期において、導入教育から専門教育への橋渡しを目的とした「テーマゼミ」を開講し、学生が専門科目を学ぶに当たって必要となる学問的態度を涵養します。

学生は2年次にコースを選択し、卒業時まで選択したコースの選択必修科目（コース科目）24単位以上

を履修して、目指すキャリアに応じた幅広い知識と高度な専門性を養うことができるようにしています。

(2) ワークショップ等により実践的能力及び創造力を身につける

2年次以降の専門教育において、講義科目により修得する高度な専門的知識を基礎として、「ビジネス&ロー・ワークショップⅠ～Ⅲ」（ビジネス法務コース）、「公共政策ワークショップA、B」（公共政策・行政コース）、「人間の安全保障ワークショップ」（国際平和・外交コース）で、設定した課題について学生がグループでリサーチし、実務家と共に解決策を考えます。これにより獲得した知識を総合的に活用し、社会の中の課題に適用して課題を解決する方法を考える創造的思考力を育てます。また、「まちづくりはちおうじ」と「人間の安全保障フィールドワーク」では現場の声を聞いて課題を発見し解決する方策を考える力を、各コースのインターンシップでは、実際の職務を学ぶことでより現実的な課題解決方法を考える力を身につけることができます。これに加えて、各学年において演習科目を履修することができるようにし、意見が対立する課題において、自分の意見の理由を論理的に説明し、多様な意見を調整することができるようにします。

これらグループでの共同作業を行う科目やアクティブ・ラーニングを通じて、コミュニケーション力を養います。

(3) 国際性を身につける

1、2年次において共通科目としての英語と第2外国語の履修及び専門科目としての英語科目を履修することにより、外国の法制度や政治形態を学ぶ基礎的な語学力を身につけることができますようにします。2年次以降においても、英語で行われる専門科目の履修により、語学力だけでなく、英語で専門科目を学修する力を養うと共に、多様な価値観や利害の異なる他者の見解を理解し、他者と議論することでコンセンサスを得るための努力をする協働性を身につけることができますようにします。あわせて、法学部独自の短期海外研修、長期留学、ダブルディグリー制度を設けて、より高度な語学力と専門力、そして国際性を身につける機会を提供します。

(4) 身につけるべき能力の適切な評価

これら学生が身につけるべき能力は、小テスト、中間試験、定期試験、レポート、プレゼンテーション、論文、ディスカッション等を通じて、適切に評価します。また、法学部は、ディプロマ・ポリシーで掲げたラーニング・アウトカムズに対し、直接評価手法（例：卒論からサンプルと抽出し、学生の到達度を測定）と間接評価手法（例：アセスメント科目における学生の自己評価）を組み合わせることで点検・評価します。さらに不断の努力によって教育改善に取り組みます。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

- (1) 自己のキャリア形成について強い意識をもち、将来、法曹、企業人、公務員、外交官などの職業を目指す学生
- (2) 専門力と英語力を身につけて、国際的に活躍しようとする意欲をもつ学生
- (3) 論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力をつけることに意欲をもつ学生

6. 卒業要件

法学部法律学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	
共通科目 (54～58頁)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されず
		学術文章作法	選択必修科目	2単位	
		自然分野科目	選択必修科目	2単位	
	②大学科目	選択必修科目		4単位	
④世界市民教育科目	選択必修科目		4単位		
外国語科目	第1外国語 ※1	選択必修科目		6単位	
	第2外国語 ※2	選択必修科目		4単位	
法律学科 専門科目 (82～86頁)	必修科目			6単位	
	選択必修科目 ※3			2単位	
	選択科目			60単位	
選択したコースの科目[▲印]を24単位含むこと。また、国際平和・外交コースは指定された All English (AE) 科目から9単位以上含むこと。					
自由選択 ※4	『共通科目』『法律学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(社会教育主事課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			32単位以上	
合 計				124単位以上	

- ※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(54頁)又は学部学科英語科目(86頁)から6単位以上修得してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(54～55頁)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 専門選択必修科目で卒業に必要な単位(2単位)を超えて修得した場合は専門選択科目の単位として計算されます。
- ※4 自由選択とは『共通科目』『法律学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(社会教育主事課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『法律学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を62単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を32単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■法学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメス ターの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時 点の条件	
							通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20単位	特設課程科目	16単位	3.50	4単位	可	3.90	3.90	86

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準の通算 GPA 数値と修得単位数を満たす必要があります。そして、卒業判定時(6セメ又は7セメ終了時)に上記の通算 GPA 基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターを Web より登録しなければなりません。

8. 法学部のキャリア・コース制

(1) コース選択の考え方

- ① 法学部のコースは、将来のキャリアに応じた設定になっています。リーガル・プロフェッションコース、ビジネス法務コース、公共政策・行政コース、国際平和・外交コースごとに、将来目指すキャリアを明示しますので、キャリアの志望に応じて選択してください。ただし、国際平和・外交コースには、履修科目・TOEIC等の点数の条件があります。
- ② 各コースには、2年春学期から所属することになりますので、1年次において志望するコースを決めてください。
- ③ 各コースにおいて指定されたコース科目を24単位以上履修しなければ卒業することができません。
- ④ 2年秋学期と3年春学期の2回、コースを変更することができます。ただし、国際平和・外交コースへ変更する場合、履修科目・TOEIC等の点数の条件があります。コース変更前に修得した単位は、専門科目として認定します。コース変更の場合も、変更後のコース科目を24単位以上履修しなければなりません。

(2) 法学部の4コース

① リーガル・プロフェッションコース

【目指す将来の進路】

- ・ 法科大学院へ進学し法曹（裁判官・検察官・弁護士）を目指す。
- ・ 司法書士の資格を取得し、庶民に寄り添う法律家として貢献する。
- ・ 裁判所事務官等の公務員（法律職）として貢献する。

【コースの目的】

このコースは、法律の専門的知識を身につけて社会生活の様々な場面で起こる法的紛争の解決に携わりたいと考える学生のためのコースです。法的紛争の解決には、物事を秩序立てて整理し、理解し、処理する能力が求められます。将来、法科大学院・大学院法学研究科への進学や、法律関係職で活躍したいと考える学生のために、法律学を基礎から体系的に学び、法律職に求められる「思考力」・「分析力」・「説得力」を身につけることを目的としています。

【コースの概要】

法律学の基本的な科目である憲法、民法、刑法、商法、行政法、民事訴訟法、刑事訴訟法の7科目を中心に基礎から体系的に学びます。特に、公法、民事法、刑事法のそれぞれの法領域で、各法制度がどのように関係し、正義の実現が図られているのかを理解し、体系的に整理された基礎知識を修得します。そのうえで、法務演習などで行われる判例研究を通じて、現実の紛争に触れて解決方法の是非を検討し、実際の法の適用や諸制度の運用をめぐる課題に取り組み応用力を養います。また、2年次秋学期から始まる専門演習（ゼミ）などの少人数教育による双方向・多方向の学習を通じ、説得力をもって自分の考えを伝える力を身につけることを目指します。

② ビジネス法務コース

【目指す将来の進路】

- ・ 国内外の上場企業をはじめとする優良企業への就職
- ・ 社会保険労務士などの労務・保険のエキスパート
- ・ 税理士などの税務・財政管理運営のエキスパート
- ・ 新聞記者やテレビ・雑誌などで活躍するジャーナリスト

【コースの目的】

本コースは、主として企業内法務関連部門のエキスパートになり得ることを目指し、特に、①法的思考に基づく問題処理能力の涵養、②ビジネス・パーソンとしてのコンプライアンス意識の定着と向上、③ビジネス・パーソンとして身につけるべき法的及び経営学的な基礎的・専門的知識の修得に焦点を合わせます。そして、将来的に、例えば、年金アドバイザーやビジネス文書検定等の検定試験、また税理士、社労士、ビジネス法務検定1級等の資格を取得したいと希望する学生の手助けとなるカリキュラムを展開します。

【コースの概要】

本コースでは、特に4つの柱、①国内外の上場企業を早期段階から目指す学生のためのカリキュラム、②新聞記者やテレビ・雑誌などで活躍するジャーナリストを目指すカリキュラム（ジャーナリスト・プログラム、詳細は後記）、③主として労務・保険分野の専門知識を身につけて企業内又は自営で就労することを目指す学生のためのカリキュラム、④主として税務・財政管理運営分野の専門知識を身につけて企業内又は自営で就労することを目指す学生のためのカリキュラムを展開します。

【履修のポイント】

第3セメスターは、ビジネス法務とは何か、社会に出て働くとはどういうことか、など、コース全体を俯瞰することを主たる目標とします。このため、例えば、「企業ソーシャルキャピタルと法」で、経営とビジネス法務の前提的基礎知識を学びます。そして、「ビジネス&ロー・ワークショップⅠ」で、各種法律職の実務家や企業内法務担当者等を招いて、法律の知識が企業及び社会でどのように活用されているかを学びます。第4セメスターからは、ビジネス法務関連科目を本格的に受講することになります。さらに、例えば、「ビジネス&ロー・ワークショップⅡ」（野村證券との協同、経営学部との提携プログラム）では、単に法的な視点だけでなく、経営の視点を取り入れた授業を展開します。また、本学経営学部との連携による授業を開始し、適宜経営学部の授業を受講できるように配置します。経営学部からの提供科目には、「企業論」、「経営管理論」、「人的資源管理論」、「会計学」、「多国籍企業論」、「証券市場論」があります。こうした科目の協力を得て、ビジネスに即応する応用的な法的思考力を涵養します。

③ 公共政策・行政コース

【目指す将来の進路】

- ・ 地方公務員（都道府県庁・政令指定都市ほか）として、地域の経営に携わる。
- ・ 国家公務員として、特定の官庁で行政に携り、国の制度設計に携わる。
- ・ 労働基準監督官、家庭裁判所調査官、国税専門官などの国家公務員として貢献する。
- ・ 海外及び国内の公共政策大学院に進学する。

【コースの目的】

将来、国家公務員としてさまざまな官庁で国の将来に貢献したり、都道府県庁や政令指定都市、さらには地元の中核市・特例市ほかの市役所において、地方公務員として「まちづくり」のための地域経営に携わってみたいと考える学生のためのコースとなっています。

【コースの概要】

人に尽くす仕事、社会に貢献する仕事、そして未来をつくる仕事が、公共政策／行政のキャリアとしての魅力であり、近年、公務員の進路は大変に人気が高く、就職が大変に厳しくなっています。合格するためには、種々の試験・選考を通過しなければなりません。本コースでは、採用試験に合格する力、すなわちいま行政の現場で求められている能力を体系的・系統的に、また効率的に学ぶためのカリキュラムが構成されています。

コース全体は、「理論系科目群」と「実践・フィールドワーク系科目群」で構成されています。学問の最先端の「理論」を学びながら、行政と公共政策の「実践」と結び付けていくことを狙いとしています。

また、本コースでは、「まちづくり」「社会保障」「環境」「グローバル連携」という4つの構成要素からなる複合領域として公共政策／行政を考えていきます。そうした学びが集約された一つのケーススタディーズとして、「八王子」という「まち」を取り上げます。

【履修のポイント】

2年次の初頭に進路仮決めを行い、第3セメスターで基幹科目の「公共政策論」を履修します。

コース全体としては、「理論系科目群」と「実践系科目群」に分かれています。

「理論系科目群」は、政治学、行政学などの基幹科目のほか、「まちづくり」、「環境」、「社会保障」、「グローバル協力」の4分野から構成されており、各分野の科目をそれぞれ配当されたセメスターにおいて選択的に履修をします。

「実践系科目群」は、2年次に「まちづくり八王子」のフィールドワークを通して、公共政策の現場を通して問題関心を涵養します。2年次秋学期からは、「公共政策ワークショップA」（第4セメスター）、「公共政策ワークショップB」（第5セメスター）、「公共政策チュートリアル」（第6セメスター）と一連の科目でセメスターごとにステップアップ方式で公共政策のキャリアを養成していきます。

また、2年次の夏休み、若しくは春休みに官庁の「公共政策インターンシップ」を経験しておくこと。

④ 国際平和・外交コース

【目指す将来の進路】

- ・ 外交政策の企画・立案や外国政府との交渉等を通じて、国益の実現と国際社会の発展に寄与する外交官
- ・ 海外大学院への進学を経て国際機関、NGO 等で活躍する人材
- ・ グローバルビジネスの世界で活躍するビジネス・パーソン

【コースの目的】

「国際平和・外交コース」は、平和問題に関する高い専門性と語学力を身につけ、国際社会で活躍・貢献したいと考える学生のためのコースです。

【コースの概要】

「国際平和・外交コース」では、入学から卒業までの理論と実践の両面にわたるきめ細かなプログラムとチュートリアルによるサポートを通して、グローバル・キャリアの実現を目指します。

本コースでは、国際社会における「平和」を「人間」の視点からとらえ直し、すべての人が「恐怖」と「欠乏」から免れ、人間の尊厳と人権が保障される世界をどう構築すればよいのかについて学び考えます。そのためのキー・コンセプトとして「人間の安全保障」を掲げ、「平和」、「人権」、「環境」、「開発」の4つを軸とした国際関連諸科目についての専門的知識の修得をはかるとともに、「人間の安全保障ワークショップ」、「人間の安全保障フィールドワーク」、「国際平和・外交チュートリアル」などの実践・フィールドワーク科目の履修を通して、地球的諸問題解決のためのグローバルな視野と地球市民としての人権感覚を磨いていきます。

そのために、TOEIC 等の数値目標を設定し、ALL English (AE) 科目の修得、長期・短期の留学を通して、高い英語コミュニケーション能力を実現します。

【履修のポイント】

- I. 1年次に、本コース志望者のための特別英語対策クラスとして、“Academic Foundations for Peace & Human Rights I・II (AFPHR)”、“AF for Study Abroad I・II (AFSA)”及び“AF Tutorial I・II”を設けます。この科目を通して、「国際平和・外交コース」希望者がコース選択要件に到達できるための英語力のアップをはかるとともに、留学先での授業、及びコース科目としての All English 科目を受ける際に必要とされるスキルを磨きます。「国際平和・外交コース」を考えている人、留学を考えている人は、これら“Academic Foundations for Peace & Human Rights I・II (AFPHR)”、“AF for Study Abroad I・II (AFSA)”及び“AF Tutorial I・II”をセットで履修するようにしてください。なお、AFPHR I、AFSA I 及び AF Tutorial I を履修するためには、原則として、春学期の履修段階で TOEIC400 点以上、若しくは英検 2 級以上が必要となります。ただし、夏休みまでにこれらの要件を満たせば、秋学期から AFPHR II、AFSA II、AF Tutorial II を履修することができます。また、AF I のクラス分けについて、春学期開始時に本部棟 3 階掲示板に発表しますので、自分のクラスを確認の上、履修するようにしてください。
 - II. 「国際平和・外交コース」の履修要件は以下の通りです。
 - i. 1年次に Academic Foundations for Peace & Human Rights II (AFPHR II)、AF for Study Abroad II (AFSA II)、AF Tutorial II を履修していること（ただし、G C P の学生は除きます）
 - ii. 2年次の履修段階で、TOEIC600 点（若しくは TOEFL-ITP503 点、iBT62 点、IELTS5.0）を取得していること
- ※1 ただし、AFPHR II、AFSA II、AF Tutorial II を履修していなくても、コース選択の時点で TOEIC640 点（若しくは TOEFL-ITP520 点、iBT68 点、IELTS5.0）のスコアがあればコース選択は可能です。
- ※2 また、2年次秋学期開始の時点で TOEIC730 点、3年次春学期開始の時点で TOEIC800 点あれば、他コースから「国際平和・外交コース」へのコース変更は可能です。
- ※3 コースを修了するためには、▲コース科目 24 単位以上のなかに、AFPHR I、AFSA I を除く、All English (AE) 科目から 9 単位以上を修得することが必要となります。

9. 演習(ゼミ)・卒業研究の履修

(1) 演習の履修

- ① 演習(ゼミ)は定員制です。2年春学期に演習ガイダンスを行い、その後学生から登録します。登録後、各ゼミにおいて選考があります。選考にもれた人は、他のゼミの第2次選考に回ってください。第3次選考まで行います。
- ② 演習Ⅰ(2年秋学期)・演習Ⅱ(3年春学期)・演習Ⅲ(3年秋学期)は、各2単位の必修科目です。演習Ⅰ～Ⅲは、同じ教員となります。
- ③ 演習Ⅳ(4年秋学期)は2単位の選択科目です。原則として、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで履修した教員となります。
- ④ 演習Ⅰを登録する時期に留学等で不在となる場合、事前に学部長・副学部長に相談してください。
- ⑤ ダブル・ディグリーコースの学生は、帰国後、学部長・副学部長と相談の上、4年次に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修します。

(2) 卒業研究の履修

卒業研究(4年秋学期)は2単位の選択科目です。演習Ⅳで履修する教員のもとで卒業論文を書き、その教員が卒業研究の単位を認定します。演習Ⅳを履修しなければ、卒業研究を履修することはできません。卒業論文は、8,000字以上(400字原稿用紙20枚以上)が要件です。

10. グローバルロイヤーズプログラム (GLP)

【目指す将来の進路】

弁護士、裁判官、検察官

【プログラムの目的】

本プログラムは、弁護士、裁判官、検察官のような法曹(法律家)を目指して、創価大学法科大学院(ロースクール)の既修者コースに進学することに特化させた教育プログラムです。国際的に活躍する法律家に求められる知識と能力を修得することによって、国際的視野に立って鋭敏な人権感覚をもち、問題解決のために法を活かして行動できる法律家を育成します。

2019年度から、法曹教育を一体的に推進するため、本学法科大学院との教育連携を図ることによりプログラムを充実させています。

【プログラムの概要】

入学試験合格者の中から、入試及びGLP選考試験の成績によって、25名程度の学生を選抜して実施される法曹養成プログラムです。

本プログラムは、1・2年次を中心にして法律家に必要な基礎的能力を修得することに主眼を置いています。初年次セミナー及びGLPゼミⅠ・Ⅱでは、論理力、分析力、文章力及び法的思考力を、GLP発展ゼミ(憲法、民法、刑法)では、法知識の定着及び法解釈の深化を図ります。GLPインターンシップでは、実務のキャリアを意識づけます。

また、GLP English A・Bでは英語力を高めるとともに、地球規模の問題群について法的観点から学ぶことによって、グローバルな視野を培います。さらに、語学力を強化したい学生は、学部で実施する海外研修等を利用して、より実践的に英語力を磨き、国際的な人権感覚を身につけることができます。

4セメスター以降は、実務家が担当する各種の法務演習で実践的な法の使い方を学び、演習Ⅰ～Ⅳでは専門分野の法解釈力を修得します。これらの科目を有機的に関連させながら、法曹としての総合力を高めていけるように、4年間にわたるGLPチュートリアルⅠ～Ⅷを通じて、きめ細やかに学びをサポートする教育体制を整えています。

さらに、本学法科大学院との教育連携を図ることによって、「共同開講科目」及び「先行履修科目」を設け、4年次にはより専門的で発展的な科目を履修することができます。

【秋選考(1年生対象)】

GLPに所属していない1年生で法曹を目指す学生を対象に、2セメスター開始前に若干名を補充するため、秋選考を行います。選考についての詳細は、法学部掲示板で発表します。

【GLP 修了要件】

GLP の修了に必要な要件は、次の通りです。

- (1) 単位数 84 単位
 - ・ GLP 必修科目 66 単位
 - ・ GLP 選択必修科目の中から 18 単位
- (2) 通算 GPA 2.7 以上

【本学法科大学院への学内推薦】

GLP 修了見込みの者で一定の要件を充たした学生は、本学法科大学院への学内推薦を受けることができます。詳細は、別途ご案内します。

【GLP 科目一覧】

学年・ semester		GLP 必修科目 (66 単位)	GLP 選択必修科目 (18 単位以上)	GLP 自由選択 科目	合計 単位
1 年次	1	GLP チュートリアル I ① 憲法総論・統治機構論 ④	GLP English A ①		6
	2	GLP チュートリアル II ① GLP ゼミ I ② GLP 発展ゼミ (憲法) ② 民法総則 ④ 憲法人権論 ④	GLP English B ①	GLP インター ンシップ A ②	14
2 年次	3	GLP チュートリアル III ① GLP ゼミ II ② GLP 発展ゼミ (民法) ② 物権法 ④ 刑法各論 ④	行政法総論 ④	GLP インター ンシップ B ②	17
	4	GLP チュートリアル IV ① GLP 発展ゼミ (刑法) ② 債権総論 ④ 刑法総論 ④	行政救済法 ④ 民法法務演習 I (総則・物権) ② 刑法法務演習 I (刑法総論) ②		19
3 年次	5	GLP チュートリアル V ① 債権各論 ④ 親族・相続法 ④ 会社法 ④	民法法務演習 II (債権) ② 刑法法務演習 II (刑法各論) ②		17
	6	GLP チュートリアル VI ① 民事訴訟法 ④ 刑事訴訟法 ④	憲法法務演習 I ② 憲法法務演習 II ②		13
4 年次	7	GLP チュートリアル VII ①	行政法法務演習 ② 会社法法務演習 ② 民事訴訟法法務演習 ② 刑事訴訟法法務演習 ② 民法応用 I ②		11
	8	GLP チュートリアル VIII ①	民法応用 II ②		3

- * 秋選考で入った学生は、3 セメスターに GLP チュートリアル I を履修すること。
- * 早期卒業希望者は、3 年次に GLP チュートリアル VII と VIII を履修すること。ただし、GLP チュートリアル VII、VIII は 4 年次配当科目のため、これを 3 年次に履修するためには、2 年次秋学期と 3 年次春学期の成績で成績優秀者となり、3 年次春学期と秋学期に上級年次履修で履修することが必要。
- * GLP English A, B、GLP チュートリアル I ~ VIII、GLP インターンシップ A, B は、履修制限除外科目です。
- * GLP 必修科目及び選択必修科目は、本学法科大学院への学内推薦に係ります。

1.1. ジャーナリスト・プログラム

2018 年度から、「ジャーナリスト・プログラム」が開設されました。このプログラムは、卒業後の進路としてジャーナリストを目指す学生が、基礎的な能力を身につけられるよう設計されています。

具体的には、1年次で「法学」「憲法総論・統治機構論」「憲法人権論」「民法総則」といった法律の基本科目を学ぶかわら、「共通総合演習A」「共通総合演習B」（プログラムでは「メディア・ゼミⅠ」「メディア・ゼミⅡ」と呼称しています）においてマス・メディアの現場の実状や問題点について学びます。その後、2年次から「行政法総論」「労働法」などの専門科目を学修するとともに、「特殊講義Ⅲ」「特殊講義Ⅳ」（プログラムでは「メディア・ゼミⅢ」「メディア・ゼミⅣ」と呼称しています）「演習Ⅰ（専門ゼミ）」などにおいてジャーナリストの基本となる表現力、取材力などを養成していきます。共通科目の「現代マスコミ論」のほか、他学部専門科目として、「マクロ経済学」「ジャーナリズムの社会学」といった法学部以外の授業も履修し、知識・見識の幅を広げていきます。3年次以降は、さまざまな選択科目などを学びつつ、マス・メディアへの入社を目指し、実戦力に磨きをかけます。海外の特派員を志望する学生は、国際関係のさまざまな授業、長期・短期の留学を通じて問題意識を深めていきます。（推奨する科目については、ガイダンス等で説明します）

プログラムの担当として、ジャーナリストとしての実務経験を持つ専任教員が指導に当たります。少人数教育を実施する予定ですので、きめ細やかなサポートが期待できます。

【目指す将来の進路】

ジャーナリスト（新聞社・通信社の記者、テレビ局の記者・ディレクター、出版社の編集者など）

【プログラムの目的】

卒業後の進路としてジャーナリストを目指す学生が、基礎的な能力を身につけられるよう設計する

【コース制との関係】

基本的に「ビジネス法務コース」を選択（他コース希望者は要相談）

【定員】 15名程度

1.2. 法学部独自の英語・留学プログラム

(1) 法学部の PHR 英語プログラム

法学部の Peace & Human Rights 英語プログラムは、国際的な平和問題、人権問題、環境問題について法と政策の視点から英語で学ぶプログラムです。単に一般的な英語を学ぶのではなく、より専門的な英語によるリーディング、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティング能力を身につけて、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指しています。

法学部の英語による科目のうち、1年次の Academic Foundations for Peace & Human Rights I・II (AFPHR)、AF for Study Abroad I・II (AFSA) 及び AF Tutorial I・II の授業は TOEIC400 点以上のスコアが履修条件になります。また、AFPHR I・II、AFSA I・II 及び AF Tutorial I・II をセットで履修するようにしてください。

(2) ダブル・ディグリープログラム（英国バッキンガム大学）

本プログラムでは、1・4年次を創価大学法学部で学び、2・3年次をイギリス、ロンドン郊外のバッキンガム大学法学部又は人文学部国際政治経済学科で学びます。4年で卒業後、創価大学とバッキンガム大学の2つの学士号を取得することができます。

【定員】 1～3名

【基準】 IELTS6.5 以上（IELTS のスコアは1年次9月の時点で必要）

【期間】 1年次の1月から3年次の12月まで

(3) 長期留学プログラム

本プログラムは、法学部独自の長期留学プログラムです。バッキンガム大学では、総合教養学科で英語、法律、政治、経済などを学び、アジアトップクラスの香港大学では、法学部で英米圏の法律を中心に学びます。留学先で取得した単位は本学の単位として認定することができます。

① 英国バッキンガム大学

【定員】 10名

【基準】 1年次留学 IELTS for UKVI 5.5 以上（IELTS のスコアは1年次9月の時点で必要）

2年次留学 IELTS for UKVI 6.0 以上（IELTS のスコアは2年次9月の時点で必要）

【期間】 1年次又は2年次の1月から2年次又は3年次の9月まで

② 香港大学

【定員】 2名

【基準】 TOEFL iBT 92 点以上 (TOEFL のスコアは1年次1月の時点で必要)

【期間】 2年次の9月から3年次の5月まで

(4) PHR 海外研修プログラム

海外大学にて実施する法学部独自の短期研修です。春季又は夏季休暇中の2週間、英語コミュニケーション能力の向上を図る授業とともに、専門的な内容について英語で学びます。

【定員】 20名程度

【基準】 TOEIC 400 点以上

【期間】 春季又は夏季休暇中の2週間 (学年は問わず。4年生は就職活動に支障がない学生に限る)

(研修先の大学は、事情により変更する可能性があります。)

13. 「法学資格認定A、B」について

法学部では、以下のとおり、入学後の各種試験合格に限り、法学部の専門科目の単位を認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書 (WEB 上にて発行) と合格証原本 (教務課で写しを取った後に本人へ返却) を教務課に提出してください。その後、学部教授会で審議され、認定されます。なお、法学部生以外の学生については、認定しません。

- ① 日弁連法務研究財団主催の法学検定試験スタンダード<中級>コース以上、若しくは東京商工会議所主催のビジネス実務法務検定試験3級以上、ニュース検定2級以上に合格した場合は、法学部の専門科目の「法学資格認定A」(2単位)を認定する。
- ② 司法書士、税理士、弁理士、社会保険労務士、不動産鑑定士、マンション管理士、行政書士、宅地建物取引士、ファイナンシャル・プランナー (AFP、CFP)、ファイナンシャル・プランニング技能士1級・2級のいずれかに合格した場合は、法学部の専門科目の「法学資格認定B」(2単位)を認定する。

14. 「インターンシップ」、「ボランティア」

国内若しくは海外において、インターンシップ又はボランティアを経験し、実社会におけるスキルやコミュニケーション能力などを養い、キャリア形成を促進することを目的とします。

法学部では、以下の通り、インターンシップ又はボランティアに関する科目を開設しています。

- ・ GLP インターンシップA、GLP インターンシップB (GLP 生のみ履修可)
- ・ ビジネス法務インターンシップA、ビジネス法務インターンシップB
- ・ 公共政策インターンシップA、公共政策インターンシップB
- ・ 国際平和・外交インターンシップA、国際平和・外交インターンシップB
- ・ 国際ボランティアA、国際ボランティアB

これらの科目での単位修得を希望する場合は、それぞれの科目のシラバスをよく読み、以下の記載に沿って必要な手続きを行ってください。なお、これらの科目は履修制限の対象外で、PF評価により評価が行われます。

【履修登録の時期】

インターンシップ、ボランティア終了直後の学期に履修登録を行ってください。

【実習の進め方】

- (1) 実習先は、自身でよく調べたうえで決めてください。
- (2) 実習に応募する前に法学部の科目担当教員にご相談ください。
- (3) 実習終了後、2週間以内に必要書類をそろえて、法学部の科目担当教員に提出してください。
- (4) 詳細については、科目担当教員にお問い合わせください。

■専門科目表の見方（法律学科専門科目）

次のページから掲載されている法律学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考
					プロ	ビジ	公共	国際		
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥コース	どの科目がコースの指定する科目かを表します。選択したコース列に「▲」が付されている科目を24単位以上修得する必要があります。 また、国際平和・外交コースを選択した場合は、All English 科目がこの欄に(AE)と付されていますので、「(AE)」が付されている科目を9単位以上含めてください。 なお、コース名は以下の略です。 プロ：リーガル・プロフェッション ビジ：ビジネス法務 公共：公共政策・行政 国際：国際平和・外交
⑦他学科履修	法律学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、法律学科生以外は履修できません。
⑧備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。

■法学部 法律学科 専門科目表 (2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考
					プロ	ビジ	公共	国際		
必修科目 3科目6単位										
LAWP201	演習 I	30	2	2~	◎	◎	◎	◎	×	
LAWP301	演習 II	30	2	3・4	◎	◎	◎	◎	×	
LAWP302	演習 III	30	2	3・4	◎	◎	◎	◎	×	
選択必修科目 1科目2単位										
LAWP101	法学	30	2	1~	◎	◎	◎	◎	×	
LAWP102	Introduction to Legal Studies	30	2	1~	◎	◎	◎	◎▲	×	連携(営)
選択科目 60単位以上										
LAWP103	憲法総論・統治機構論	60	4	1~	▲	▲				
LAWP104	民法総則	60	4	1~	▲	▲				
LAWP105	政治学入門: 専門	30	2	1~						
LAWP106	政治学原論	60	4	1~						
LAWP107	憲法人権論	60	4	1~	▲	▲				
LAWP108	法学部生のための数理	30	2	1~						
LAWP109	法学部生のための論理	30	2	1~						
LAWP110	法学部生のための留学とキャリアデザイン I	30	2	1~						
LAWP111	法学部生のための留学とキャリアデザイン II	30	2	1~						
LAWP112	特殊講義 I	30	2	1~						
LAWP113	特殊講義 II	30	2	1~						
LAWP114	Academic Foundations for Peace and Human Rights I	30	2	1~				▲	×	
LAWP115	Academic Foundations for Peace and Human Rights II	30	2	1~				▲(AE)	×	
LAWP116	AF Tutorial I	30	1	1~				▲	×	[制限外]
LAWP117	AF Tutorial II	30	1	1~				▲	×	[制限外]
LAWP118	Special Topics of Law and Politics A	30	2	1~						
LAWP119	Special Topics of Law and Politics B	30	2	1~						
LAWP120	Peace & Human Rights 短期海外研修	30	2	1~					×	[制限外]
LAWP121	国際平和・外交インターンシップ A	30	2	1~				▲	×	[制限外]
LAWP122	公共政策インターンシップA	30	2	1~			▲		×	[制限外]
LAWP123	法学資格認定A	30	2	1~					×	[認定用]
LAWP124	法学資格認定B	30	2	1~					×	[認定用]
LAWP125	テーマゼミ	30	2	1~						
LAWP133	AF for Study Abroad I	30	1	1~				▲	×	
LAWP134	AF for Study Abroad II	30	1	1~				▲(AE)	×	
LAWP202	刑法総論	60	4	2~	▲					
LAWP203	刑法各論	60	4	2~	▲					
LAWP204	物権法	60	4	2~	▲	▲				
LAWP205	債権総論	60	4	2~	▲	▲				
LAWP206	行政法総論	60	4	2~	▲		▲			
LAWP207	行政救済法	60	4	2~	▲					
LAWP208	民法法務演習 I (総則・物権)	30	2	2~	▲				×	
LAWP254	刑法法務演習 I (刑法総論)	30	2	2~	▲				×	
LAWP209	ビジネス&ローワークショップ I	30	2	2~		▲				連携(営)
LAWP210	会計と法 I	30	2	2~		▲				
LAWP211	会計と法 II	30	2	2~		▲				
LAWP212	企業ソーシャル・キャピタルと法	30	2	2~		▲				連携(営)
LAWP213	商法	30	2	2~		▲				
LAWP214	労働法	60	4	2~		▲	▲			連携(営)
LAWP215	公共政策論	30	2	2~			▲			連携(営)
LAWP216	公共経済論: 法	60	4	2~			▲			
LAWP217	RESAS社会分析スキル	30	2	2~			▲			
LAWP218	まちづくり八王子フィールドワーク	30	2	2~			▲			[制限外]・連携(営)
LAWP219	NPO論	30	2	2~			▲			
LAWP220	政治学史	30	2	2~			▲	▲		
LAWP221	都市デザイン論	30	2	2~			▲			連携(営)
LAWP222	公共政策ワークショップA	30	2	2~			▲		×	
LAWP223	国際法総論	60	4	2~		▲		▲		
LAWP224	国際法各論	60	4	2~				▲		
LAWP225	国際政治論	60	4	2~				▲		

◎必修科目 ▲コース指定科目 (無印)選択科目 (AE) All English科目

※選択したコースの指定科目(▲印)を24単位以上含むこと

※国際平和・外交コースはAll English科目(AE)を9単位以上含むこと。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の「認定用」は資格試験、海外留学等による単位認定用科目(条件があります)、[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考
					プロ	ビジ	公共	国際		
選択科目 60単位以上 (つづき)										
LAWP226	国際人権法	30	2	2~				▲		
LAWP227	国際関係史	30	2	2~				▲		
LAWP228	人間の安全保障論	30	2	2~				▲		
LAWP229	人間の安全保障ワークショップ	30	2	2~				▲	×	注1
LAWP230	人間の安全保障フィールドワーク	30	2	2~				▲	×	[制限外]
LAWP231	Global Issues	30	2	2~				▲(AE)		
LAWP232	Peace Studies	30	2	2~				▲(AE)		連携(済・営)
LAWP233	Area Studies in International Law Perspectives	30	2	2~				▲(AE)		連携(済)
LAWP234	International Relations	60	4	2~				▲(AE)		連携(済・営)
LAWP235	International Environmental Policy	30	2	2~				▲(AE)		連携(済・営)
LAWP236	Border Studies	30	2	2~				▲(AE)		
LAWP237	Security Studies	30	2	2~				▲(AE)		
LAWP238	Law and Politics in Japan and Asia	30	2	2~				▲(AE)		
LAWP239	American Politics	30	2	2~				▲(AE)		
LAWP240	英米法	30	2	2~						
LAWP241	平和学	30	2	2~						
LAWP242	法哲学	30	2	2~						
LAWP243	法史学入門(西洋法史)	30	2	2~						
LAWP244	特殊講義Ⅲ	30	2	2~						
LAWP245	特殊講義Ⅳ	30	2	2~						
LAWP246	Special Topics of Law and Politics C	30	2	2~						
LAWP247	Special Topics of Law and Politics D	30	2	2~						
LAWP248	International Internship A	30	2	2~				▲	×	[制限外]
LAWP249	International Internship B	30	2	2~				▲	×	[制限外]
LAWP250	国際平和・外交インターンシップB	30	2	2~				▲	×	[制限外]
LAWP251	公共政策インターンシップB	30	2	2~			▲		×	[制限外]
LAWP252	国際ボランティアA	30	2	2~				▲	×	[制限外]
LAWP253	国際ボランティアB	30	2	2~				▲	×	[制限外]
LAWP303	債権各論	60	4	3・4	▲	▲				
LAWP304	親族・相続法	60	4	3・4	▲	▲				
LAWP305	民事訴訟法	60	4	3・4	▲					
LAWP306	民事救済手続法	60	4	3・4	▲					
LAWP307	刑事訴訟法	60	4	3・4	▲					
LAWP308	会社法	60	4	3・4	▲					連携(営)
LAWP309	会社法概論	30	2	3・4		▲				
LAWP310	有価証券法	30	2	3・4	▲	▲				連携(営)
LAWP311	刑法法務演習Ⅱ(刑法各論)	30	2	3・4	▲				×	
LAWP312	憲法法務演習Ⅰ	30	2	3・4	▲				×	
LAWP313	憲法法務演習Ⅱ	30	2	3・4	▲				×	
LAWP314	民法法務演習Ⅱ(債権)	30	2	3・4	▲				×	
LAWP315	社会保障法	60	4	3・4		▲	▲			連携(営)
LAWP316	知的財産法	60	4	3・4		▲				連携(営)
LAWP317	租税法	60	4	3・4		▲				連携(営)
LAWP318	消費者法	30	2	3・4		▲				連携(営)
LAWP319	金融商品取引法	30	2	3・4		▲				連携(営)
LAWP320	ビジネス法務インターンシップA	30	2	3・4		▲			×	[制限外]
LAWP321	ビジネス法務インターンシップB	30	2	3・4		▲			×	[制限外]
LAWP322	行政学	30	2	3・4				▲		
LAWP323	環境法	60	4	3・4			▲	▲		連携(営)
LAWP324	地方自治論	60	4	3・4			▲			
LAWP325	地域コミュニティ論	30	2	3・4			▲			
LAWP326	社会保障政策論	30	2	3・4			▲			
LAWP327	環境行政学	30	2	3・4			▲			
LAWP328	グローバル都市協力論	30	2	3・4			▲	▲		
LAWP329	公共政策フェトリアル	30	2	3・4			▲		×	
LAWP330	公共政策ワークショップB	30	2	3・4			▲		×	

◎必修科目 ▲コース指定科目 (無印) 選択科目 (AE) All English科目

※選択したコースの指定科目(▲印)を24単位以上含むこと

※国際平和・外交コースはAll English科目(AE)を9単位以上含むこと。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※備考の注1「人間の安全保障ワークショップ」は国際平和・外交コースの学生のみ履修可。

※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考
					プロ	ビジ	公共	国際		
選択科目 60単位以上 (つづき)										
LAWP331	公共政策ボランティア	30	2	3・4		▲				[制限外]
LAWP332	国際私法総論	30	2	3・4		▲		▲		
LAWP333	国際私法各論	30	2	3・4		▲		▲		
LAWP334	国際機構論	30	2	3・4				▲		
LAWP335	EU法	30	2	3・4				▲		
LAWP336	日本政治外交史	30	2	3・4				▲		
LAWP337	グローバル経済論	30	2	3・4				▲		
LAWP338	国際開発協力論	30	2	3・4				▲		
LAWP339	地球市民社会論	30	2	3・4				▲		
LAWP340	グローバル企業論	30	2	3・4				▲		
LAWP341	Global Public Policy	30	2	3・4				▲(AE)		
LAWP342	International Human Rights	60	4	3・4				▲(AE)		連携(済・営)
LAWP343	Law and Politics in Europe	30	2	3・4				▲(AE)		
LAWP344	国際平和・外交チュートリアル	30	2	3・4				▲	×	
LAWP345	刑事政策	30	2	3・4						
LAWP346	法思想史	30	2	3・4						
LAWP347	法社会学	30	2	3・4						
LAWP348	法史学(日本法史)	30	2	3・4						
LAWP349	アジア法	30	2	3・4						
LAWP350	日本政治思想史	30	2	3・4						
LAWP351	Environmental Law	30	2	3・4						連携(済・営)
LAWP352	The Common Law	30	2	3・4						
LAWP353	水法演習	30	2	3・4						
LAWP354	特殊講義 V	30	2	3・4						
LAWP355	特殊講義 VI	30	2	3・4						
LAWP356	Special Topics of Law and Politics E	30	2	3・4						
LAWP357	Special Topics of Law and Politics F	30	2	3・4						
LAWP401	行政法法務演習	30	2	4	▲				×	
LAWP402	会社法法務演習	30	2	4	▲				×	
LAWP403	民事訴訟法法務演習	30	2	4	▲				×	
LAWP404	刑事訴訟法法務演習	30	2	4	▲				×	
LAWP405	民法応用 I	30	2	4	▲				×	[共同]
LAWP406	民法応用 II	30	2	4	▲				×	[共同]
LAWP407	特殊講義 VII	30	2	4						
LAWP408	特殊講義 VIII	30	2	4						
LAWP409	演習 IV	30	2	4					×	
LAWP410	卒業研究	30	2	4					×	注2
BUSI211	経営管理論	60	4	2～		▲				連携(営)
BUSI212	人的資源管理論	60	4	2～		▲				連携(営)
BUSI223	会計学	60	4	2～		▲				連携(営)
BUSI364	証券市場論	60	4	3・4		▲				連携(営)
BUSI412	多国籍企業論	60	4	3・4		▲				連携(営)
BUSI312	企業論	60	4	3・4		▲				連携(営)
BUSI391	ビジネス&ローワークショップ II	30	2	2～		▲			×	連携(営)
BUSI491	ビジネス&ローワークショップ III	30	2	3・4		▲			×	連携(営)
BUSI232	Principles of Marketing	60	4	2～		▲				連携(済・営)
BUSI333	Principles of Consumer Behavior	60	4	3・4		▲				連携(済・営)
BUSI275	Financial Management	60	4	2～		▲				連携(済・営)
BUSI274	International Context in Business	60	4	2～		▲				連携(済・営)
ECON343	環境経済論	60	4	2～			▲	▲		連携(済)
ECON152	Economic History	60	4	1～						連携(済)
ECON355	Economic Development of Japan I	30	2	2～						連携(済・営)
ECON357	Political Economy of Japan and Asia	30	2	2～						連携(済・営)
ECON396	Business and Japanese People	30	2	2～						連携(済・営)
ECON397	Human Resources Management in Japan and Asia	30	2	2～						連携(済)

◎必修科目 ▲コース指定科目 (無印)選択科目 (AE) All English科目

※選択したコースの指定科目(▲印)を24単位以上含むこと

※国際平和・外交コースはAll English科目(AE)を9単位以上含むこと。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の「共同」は法科大学院と共同で開講される科目であることを表します。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※備考の注2 卒業研究を履修する場合は、演習IVを履修すること。

※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考
					プロ	ビジ	公共	国際		
選択科目 60単位以上 (つづき)										
INLA262	Principles of Sociology	60	4	1~						連携(国)
INLA281	Principles of Economics	60	4	1~						連携(営・国)
INLA270	Principles of Politics and Globalization	60	4	1~						連携(国)
INLA271	Principles of International Relations	60	4	1~						連携(国)
INLA361	Global Social Policy	60	4	3・4						連携(国)
INLA362	Modern Political Thought	60	4	3・4						連携(国)
INLA462	Global Ethics	60	4	2~						連携(国)
INLA370	Contemporary Political Theory	60	4	3・4						連携(国)
INLA470	Citizenship and Democracy in a Global Age	60	4	2~						連携(国)
INLA371	Great Power Politics in the World	60	4	3・4						連携(国)
INLA372	International Political Economy	60	4	3・4						連携(国)
INLA373	International Institutions and Global Governance	60	4	3・4						連携(国)
INLA471	International Relations in Asia	60	4	2~						連携(国)
INLA473	Comparative Politics	60	4	2~						連携(国)
INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	60	4	2~						連携(国)
INLA381	Development Economics	60	4	3・4						連携(済・国)
INLA483	International Business	60	4	2~						連携(営・国)
INLA383	Marketing	60	4	3・4						連携(国)
HUMS400	Peace Studies I	30	2	1~						連携(人)
HUMS401	Peace Studies II	30	2	1~						連携(人)
HUMS104	Mass Communication	30	2	1~						連携(人)
バックingham 大学留学用認定科目 ※専門選択科目の単位として算入されます										
LAWP261	Constitutional and Administrative Law	60	4	2	▲				×	
LAWP262	Law of Torts	60	4	2	▲				×	
LAWP263	Law of Contract	60	4	2	▲				×	
LAWP264	Criminal Law	60	4	2	▲				×	
LAWP265	Legal Skills and Procedure	30	2	2	▲				×	
LAWP266	Liberalism and Nationalism	30	2	2			▲		×	
LAWP267	Government and Politics of the UK and the US	30	2	2			▲		×	
LAWP268	Rivalries and Alliances 1879-1914	30	2	2			▲		×	
LAWP269	The European Union in the International System	30	2	2			▲		×	
LAWP270	Intervention, Free Trade and Protection	30	2	2			▲		×	
LAWP271	The Rise of the Dictators	30	2	2			▲		×	
LAWP272	The Economics of Europe	30	2	2			▲		×	
LAWP273	European Industrial Revolution	30	2	2			▲		×	
LAWP274	Appeasement and War	30	2	2			▲		×	
LAWP275	Introduction to Academic Studies I	30	2	2					×	
LAWP276	English for Law	15	1	2					×	
LAWP277	English for Economics	15	1	2					×	
LAWP278	Academic Research Project	30	2	2					×	
LAWP279	Foreign Legal System	30	2	2					×	
LAWP280	Legal Writing and Research	30	2	2					×	
LAWP281	Current Affairs Perspective	30	2	2					×	
LAWP282	Law and Policy of the European Union	30	2	2					×	
LAWP283	Introduction to the Law of Contract and Tort	30	2	2					×	
LAWP284	Introduction to Academic Studies II	30	2	2					×	
LAWP285	Life and Institutions	30	2	2			▲(AE)		×	
LAWP286	Introduction to Financial Studies	30	2	2					×	
LAWP287	Understanding the World of Business	30	2	2					×	
LAWP288	International Economics I	30	2	2					×	
LAWP289	Decision Making in Business	30	2	2					×	
LAWP290	English for Business 1	15	1	2					×	
LAWP291	English for Business 2	15	1	2					×	
LAWP292	International Studies	30	2	2			▲(AE)		×	
LAWP293	Britain since 1945: Changing Roles	30	2	2					×	
LAWP294	The Business Environment	30	2	2					×	
LAWP295	International Cultural Studies	30	2	2					×	

◎必修科目 ▲コース指定科目 (無印)選択科目 (AE) All English科目

※選択したコースの指定科目(▲印)を24単位以上含むこと

※国際平和・外交コースはAll English科目(AE)を9単位以上含むこと。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の(認定用)は資格試験、海外留学等による単位認定用科目(条件があります)を表します。

※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考
					プロ	ビジ	公共	国際		
選択科目 60単位以上 (つづき)										
バックingham大学留学用認定科目 ※専門選択科目の単位として算入されます										
LAWP360	Land Law	60	4	3	▲				×	
LAWP361	Commercial Law	60	4	3	▲				×	
LAWP362	Company Law	60	4	3	▲				×	
LAWP363	Intellectual Property Law	60	4	3	▲				×	
LAWP364	Sex and Gender in the Legal Process 1 and 2	60	4	3	▲				×	
LAWP365	Law of Trusts	60	4	3	▲				×	
LAWP366	Criminology/Criminal Justice	60	4	3	▲				×	
LAWP367	E-business Law	60	4	3	▲				×	
LAWP368	Family Law 1 and 2	60	4	3	▲				×	
LAWP369	Introduction to Sports Law and Sports Law 2	60	4	3	▲				×	
LAWP370	Jurisprudence	60	4	3	▲				×	
LAWP371	Law of Evidence	60	4	3	▲				×	
LAWP372	Employment Law	60	4	3	▲				×	
LAWP373	Government and Politics of China	30	2	3				▲	×	
LAWP374	Regulation and Privatisation	30	2	3				▲	×	
LAWP375	Theories of Empire and India	30	2	3				▲	×	
LAWP376	Africa and the Dominions	30	2	3				▲	×	
LAWP377	Policy Issues in Less Developed Economies	30	2	3				▲	×	
LAWP378	Business Ethics	30	2	3				▲	×	
LAWP379	International Economics II	30	2	3				▲	×	
LAWP380	Social Theory and Social Welfare	30	2	3				▲	×	
LAWP381	The Bipolar World 1945-1975	30	2	3				▲	×	
LAWP382	A Country-Specific Project	30	2	3				▲	×	
LAWP383	Competing Approaches to Political Analysis	30	2	3				▲	×	
LAWP384	The New International Society 1975-2005	30	2	3				▲	×	
グローバル・ロイヤーズ・プログラム科目 (GLP生のみ履修可) ※専門選択科目の単位として算入されます										
LAWP126	GLPチュートリアル I	30	1	1					×	[制限外]
LAWP127	GLPチュートリアル II	30	1	1					×	[制限外]
LAWP255	GLPチュートリアル III	30	1	2					×	[制限外]
LAWP256	GLPチュートリアル IV	30	1	2					×	[制限外]
LAWP358	GLPチュートリアル V	30	1	3					×	[制限外]
LAWP359	GLPチュートリアル VI	30	1	3					×	[制限外]
LAWP411	GLPチュートリアル VII	30	1	4					×	[制限外]
LAWP412	GLPチュートリアル VIII	30	1	4					×	[制限外]
LAWP128	GLPゼミ I	30	2	1					×	
LAWP257	GLPゼミ II	30	2	2					×	
LAWP129	GLP発展ゼミ(憲法)	30	2	1					×	
LAWP258	GLP発展ゼミ(民法)	30	2	2					×	
LAWP259	GLP発展ゼミ(刑法)	30	2	2					×	
LAWP130	GLPインターンシップ A	30	2	1					×	[制限外]
LAWP260	GLPインターンシップ B	30	2	2					×	[制限外]
学部英語科目 (GLP生のみ履修可) ※この科目は言語科目(英語)の単位として算入されます										
LAWP131	GLP English A	30	1	1					×	[制限外]
LAWP132	GLP English B	30	1	1					×	[制限外]

◎必修科目 ▲コース指定科目 (無印)選択科目 (AE) All English科目

※選択したコースの指定科目(▲印)を24単位以上含むこと

※国際平和・外交コースはAll English科目(AE)を9単位以上含むこと。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

1. 理念・目的

文学部人間学科は、本学の建学の精神と文学部の三指針「生命の尊厳の探究者たれ」「人類を結ぶ世界市民たれ」「人間主義の勝利の指導者たれ」を学部教育の理念として、各界・各分野で本格的に活躍できる創造的人間の育成を目的としています。

2. 教育目標

本学部の理念・目的を達成するため、本学部は、言語・人文・社会にわたる人間の広範な文化活動を深く学び研究することをとおして、学生が以下のディプロマ・ポリシーに示すような知識と技能、思考力・判断力・表現力等の汎用的能力、及び世界市民としての資質と自律的学修者の態度を十分に身につけることを教育目標としています。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部の理念・目的と教育目標に基づき、以下に示す知識と技能、汎用的能力、及び資質と態度の各ラーニングアウトカムズ（学修成果）を身につけた人に学位を授与します。

- (1) 人間と社会と文化に関する基礎的教養と専門的学術を修得し、諸事象を精確に理解し、鑑賞し、評価することができる。
- (2) 母語及び外国語を用いて、的確で豊かな自己表現とコミュニケーションを行うことができる。
- (3) 基礎的・専門的学知に基づいて、新しい知識と表現を創造することができる。
- (4) 論理的に思考し、適切な方法で情報の取得と処理を行い、物事的確な判断ができる。
- (5) 文化の多様性を尊重しつつ、世界市民として、生命の尊厳と平和を志向する。
- (6) 学ぶことの意味を理解し、自律的学修者として、目標をもって自己の成長を図る。
- (7) 人間主義の社会に向かって、他者と協力する姿勢やリーダーシップを発揮する。

具体的な学位授与方針としては、履修した各科目が上記7項目のラーニングアウトカムズの中から◎と○で重点的に示す項目（専門科目表参照）について、ルーブリック（下記の評価基準表）の評価が一定の評点に達した者に単位を認定し、定められた年限において修得した単位の合計が124以上であり、かつ全修得科目の成績評価の平均値（GPA）が2.0以上の者に卒業を認定し学位を授与します。

したがって、上記の条件を満たさない者及び在学4年間に於いて修得した単位が40に満たない者は退学を命じます。

■ラーニングアウトカムズ（LOs）評価のためのルーブリック表

LOs	4	3	2	1	0
(1)	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識を十分に身につけ、関連する事象を精確に理解又は鑑賞又は評価できている。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識を十分に身につけ、関連する事象を概ね理解又は鑑賞又は評価できている。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識を身につけ、関連する事象を概ね理解又は鑑賞又は評価できている。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識が不十分であり、関連する事象をあまり理解又は鑑賞又は評価できていない。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識がほとんど身につけておらず、関連する事象を理解又は鑑賞又は評価できていない。
(2)	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルを十分に身につけ、的確で豊かな自己表現とコミュニケーションができています。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルを十分に身につけ、概ね的確で豊かな自己表現とコミュニケーションができています。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルを身につけ、概ね的確な自己表現とコミュニケーションができています。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルが不十分であり、自己表現とコミュニケーションがうまくできていない。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルがほとんど身につけておらず、自己表現とコミュニケーションが不十分である。
(3)	当該分野における多くの基礎的及び専門的知識を関連づけて、独創的な思考や表現ができています。	当該分野における幾つかの基礎的及び専門的知識を関連づけて、ある程度独創的な思考や表現ができています。	当該分野における幾つかの基礎的及び専門的知識の関連づけはある程度できていますが、思考や表現の独創性が不十分である。	当該分野における基礎的及び専門的知識の関連づけが不十分で、思考や表現の独創性がほとんど見られない。	当該分野における基礎的及び専門的知識の関連づけができておらず、思考や表現の独創性が見られない。
(4)	論理的な思考力が十分身につけており、情報の取得と処理の仕方が適切で、物事の判断が大変的確である。	論理的な思考力が身につけており、情報の取得と処理の仕方が概ね適切で、物事の判断が的確である。	論理的な思考力がある程度身につけており、情報の取得と処理の仕方が概ね適切で、物事の判断が概ね的確である。	論理的な思考力が不十分であり、情報の取得と処理の仕方が不適切で、物事の判断力も不十分である。	論理的な思考力が身につけておらず、情報の取得と処理の仕方が不適切で、物事の判断も不適切である。

LOs	4	3	2	1	0
(5)	文化の多様性や他者の立場を十分に理解し尊重して、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度がとてもよく身についている。	文化の多様性や他者の立場を理解し尊重して、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度が概ね身についている。	文化の多様性や他者の立場を概ね理解し尊重して、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度がある程度身についている。	文化の多様性や他者の立場をあまり理解しておらず、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度が不十分である。	文化の多様性や他者の立場を理解しておらず、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度に乏しい。
(6)	学ぶことの意味を自分なりに十分理解し、自学自習を非常に積極的に行い、明確な目標をもって自己の成長を図っている。	学ぶことの意味を自分なりに理解し、自学自習を積極的にを行い、目標を持って自己の成長を図っている。	学ぶことの意味を自分なりにある程度理解し、自学自習を行い、目標を持って自己の成長を図っている。	学ぶことの意味の理解が不十分であり、自学自習も不十分に行わず、目標を持って自己の成長を図る意識が弱い。	学ぶことの意味が理解できておらず、自学自習もほとんど行わず、目標を持って自己の成長を図る意識が欠けている。
(7)	皆が分け隔てなく共生できる人間主義の社会を指向し、他者と積極的に協力して学び、その中で優れたリーダーシップを発揮している。	皆が分け隔てなく共生できる人間主義の社会を指向し、他者と積極的に協力して学び、その中でリーダーシップを発揮している。	皆が分け隔てなく共生できる人間主義の社会を指向し、他者と協力して学んでいるが、リーダーシップを発揮するには至っていない。	人間主義の社会への指向が不十分で、他者と協力して学ぶ姿勢が弱く、リーダーシップを発揮できていない。	人間主義の社会への指向が弱く、他者と協力して学ぶ姿勢に欠け、リーダーシップを発揮できていない。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学部は、ディプロマ・ポリシーに示された知識と技能、思考力・判断力・表現力等の汎用的能力、及び世界市民としての資質と自律的学修者の態度を十分に身につけ、一人ひとりが将来の夢を実現できるよう、以下の方針によってカリキュラムを編成しています。

- (1) 初年次教育の第1として、1年次春学期に少人数の演習形式で「初年次セミナー」（配置は共通科目：必修）を開講し、論理的思考力をはじめとして大学での学修に必要な基礎的なアカデミック・スキルを身につけてもらい、さらに、広く社会に眼を向けて自分のキャリアを展望しながら、本学部でどのように学んでいくのか、自身のための履修コースを自ら設計できるように指導します。具体的には、大学での学びの意味、アカデミック・スキルとは、ノートテキング、情報収集の方法、リーディングとライティング、プレゼンテーション、ディスカッション、レポートの作法などを身につけるとともに、ポートフォリオを活用しながら自身のライフ・デザインも進めていきます。

初年次教育の第2として、「人間学」（対応するEMP科目との選択必修）を開講し、本学科の理念を理解し学んでもらうとともに、言語系・人文系・社会学の3領域にわたる本学科の多様な学問分野を概観しながら、それらが人間研究という共通の幹あるいは根を持つことを理解し、各専門科目の位置づけの明確化と今後の自身の学びの方向づけを促します。

初年次教育の第3として、本学部の3領域にわたる学問分野の入門科目（イントロダクトリー）を11科目開講し、今後のより専門的な自身の学びへの導入としてもらいます。

- (2) 2年次春学期に「文学部の学びとライフデザイン」（対応するEMP科目との選択必修）を開講し、自身の学びの目的をさらに明確にしてもらうとともに、より具体的なライフ・デザインとその実現のための志向性と知識と技能を修得してもらいます。
- (3) 本学部での学びの中で、基礎的な教養とともに、高度の専門的学術を修得できるよう、次の9つのメジャー又は専修を設けています。

- ①哲学・歴史学メジャー ②表現文化メジャー ③異文化コミュニケーション（英語）メジャー
④異文化コミュニケーション（日本語）メジャー ⑤異文化コミュニケーション（中国語）メジャー
⑥異文化コミュニケーション（ロシア語）メジャー ⑦国際日本学メジャー ⑧社会学メジャー
⑨社会福祉専修

これらの各専門分野の科目を、各メジャー・専修が示す履修モデルを参考に選択・学修し、定められた単位数を修得すれば当該メジャー・専修の修了を認定します。

- (4) 在学中を通じてできるだけ体系的な学修ができるよう、各メジャー・専修の専門科目（選択科目）をその専門性の度合いによって「イントロダクトリー」「ベーシック」「アドヴァンスト」の3段階に分けています。そして自分がどのメジャー・専修を専攻するのかを意識しながらその方向づけができるよう、「イントロダクトリー」に加え、「ベーシック」の科目を1年次から開講していきます。また、2年次以降はこれらに加え、「アドヴァンスト」の科目を順次開講していきます。

こうして、共通科目と合わせて、文学、哲学、思想、歴史、言語、社会、文化などの幅広い分野にわたる基礎的教養とそれらの諸事象を正確に理解し、鑑賞し、評価できる専門的学術を修得できるようにしています。

- (5) 本学部のこれまでの言語教育の伝統を活かして、1年次春学期から、日本語と英語だけでなく、中国語、ロシア語などの言語系科目を多く開講し、グローバル化に対応できる適切な自己表現と豊かなコミュニケーション力、異文化理解力を修得できるようにしています。
- (6) 3年次春学期からは、専攻するメジャー・専修に演習（学部必修科目）を開講し、より専門性の深い学

修と研究に取り組めるようにしています。学生は演習の履修と同時に、自分の演習が所属するメジャー・専修の登録を行ないます。以後2年間にわたる演習を通じて、ディプロマ・ポリシーに明示したラーニングアウトカムズのうち(5)～(7)の資質や態度を身につけてもらうと共に、(1)～(4)の専門的な知識とスキル、汎用的能力を養成していきます。

- (7) 4年次に卒業論文研究(学部必修科目)を設け、これまでの学修で身につけたアカデミック・スキル、基礎的教養、専門的学術、語学力等を総動員して卒業論文を作成し、この過程でそれらの力をさらに磨いていけるようにしています。
- (8) 本学部のカリキュラムは、上級レベルの英語力をもつ学生向けに、英語による授業だけで卒業できるコース(EMP)を備えています。これによりグローバル化に一層対応できる語学力、コミュニケーション力、異文化理解力を修得できるようにしています。
- (9) 本学部では、演習科目はもちろんのこと、講義科目においてもさまざまなアクティヴ・ラーニングの手法を多く取り入れています。また、単位の実質化の観点からも、1授業科目について、相当する授業外学修時間を確保してもらうよう学修課題を与えています。これらの学修を通して、自らが学ぶことの意味を理解し、自律的学修者として、目標をもって自己の成長を図ることができようとしています。
- (10) 1年次の「初年次セミナー(共通科目)」「人間学」、2年次の「文学部の学びとライフデザイン」さらに「イントロダクトリー」をはじめとするさまざまな開講科目において、学部教育の理念と目的をふまえ、複数の教員によるパネル・ディスカッション形式の授業、学外講師による講演、そして学生同士のディスカッションなどのアクティヴ・ラーニングを積極的に取り入れた授業展開を行ないます。これによって、履修者が、物事の考え方や文化の多様性を尊重し、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度を身につけ、さらに人間主義の社会に向かって他者と協力する姿勢やリーダーシップを発揮できるよう養成していきます。
- (11) 以上の方針に基づいて設置された学部授業科目の一覧表(カリキュラム・マップ)を別に作成していません(「文学部での学び方」にも記載)。これによって、ディプロマ・ポリシーに示された知識と技能、汎用的能力、及び資質と態度を、どの授業科目によって身につけることができるのかをわかりやすく示しています。
- (12) 本学部の各授業科目における成績評価については、ディプロマ・ポリシーに示したラーニングアウトカムズ(学修成果)の各項目の達成度を測るルーブリック(評価基準表)において、一定の評点に達した者に各履修科目の単位を認定するものとし、具体的には以下のとおり行ないます。
 - ① 講義科目においては、定期試験の他、レポート試験、毎授業回ごとの予習・復習課題の提出状況とその内容、適宜行なう小テスト、その他の課題提出状況、ディスカッション等への参加状況、その他学修の到達度を測る独自のアンケート等から、担当教員が総合的に判断して評価します。
 - ② 演習科目においては、毎授業回ごとの予習・復習課題の提出状況とその内容、プレゼンテーションの内容、ディスカッション等への参加状況、レポートの提出状況、その他学修の到達度を測る独自のアンケート等から、担当教員が総合的に判断して評価します。
 - ③ 卒業論文論研究については、演習と連動して作成を指導し、別に定める書式と分量を満たしたものを、2人の教員による口頭試問の結果を加味して、その内容に応じて評価します。

なお、成績評価は全学の基準に従ってA+(95点以上)、A(94-90点)、A-(89-85点)、B+(84-80点)、B(79-75点)、B-(74-70点)、C+(69-65点)、C(64-60点)、D+(59-55点)、D(54-50点)、E+(49-45点)、E(45点以下)、N(評価基準満たさず)の13段階とし、D以上で単位を認定します。また成績評価には全学の基準に従って相対評価の観点も取り入れ、A+評価、A評価、A-評価の合計を、原則として全体の25%以内とします。

5. アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

文学部人間学科は、本学の建学の精神と本学部の理念・目的及び教育目標に基づいて、ディプロマポリシー(学位授与方針)に示した知識や能力、態度を十分に身につけた人間を養成するため、国内外に広く優秀な入学生を求めます。具体的には、以下のような知識と技能、思考力・判断力・表現力等の能力、そして資質・態度・志向性をもつ人です。

本学部の目的と理念及び教育目標を理解し、本学部での学修を希望する人で、

- (1) 勉学に主体的に取り組むことによって、高等学校段階までに達成するよう求められている基礎的な知識、理解力、思考力、文章力、語学力、数的能力等を身につけた人。
- (2) 勉学のほか、資格試験や各種コンクール、クラブ活動やボランティア活動など、学校内外の諸活動に積極的に取り組むチャレンジ精神をもち、一定の成果を上げることのできる目標達成力をもつ人。

- (3) 単に知識が豊富な人ではなく、問題解決への目的観をもって、関心あるテーマにじっくり取り組む意欲と主体性、そのための課題設定力と創造力をもつ人。
- (4) 生命の尊厳と平和を志向する道徳観・倫理観をもって他者と積極的にコミュニケーションを図り、他者の立場を尊重しながら協力して物事を成し遂げようとする人。
- (5) 本学部入学後に、幅広い学問分野と深い専門性を備えた本学部の 300 科目以上にわたる講義・演習・実習等の授業、及び授業外学修等によって、(1)～(4)の能力や資質を、ディプロマ・ポリシーに適うより専門的で高度なものに磨いていける努力の人。

上記の(1)については大学入試センター試験利用入試、全学統一入試、一般入試における各科目の得点、及び PASCAL 入試、公募推薦入試の書類審査等において評価します。(2)、(3)、(4)については PASCAL 入試、公募推薦入試の書類審査と面接、加えて PASCAL 入試のグループ・ディスカッションと小論文の考査によって評価します。(5)については、すべての入試において、書類審査・面接・各科目等試験の得点で総合的に評価します。

6. 卒業要件

大学及び文学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づく具体的な卒業要件は以下のとおりです。卒業のためには、下表に指定する科目（単位）を修得しなければなりません。あわせて通算 GPA が 2 以上を満たさないと、必要な単位数を修得しても卒業できません。履修にあたっては以下の注意事項もよく確認してください。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ通算 GPA が 2 以上であること。

科目区分	科目特性		卒業に必要な単位数
共通科目 (54～58 頁)	①基礎科目	初年次セミナー 必修科目 ※3	2 単位
		学術文章作法 選択必修科目	2 単位
		自然分野科目 選択必修科目	2 単位
	②大学科目	選択必修科目	4 単位
	④世界市民教育科目	選択必修科目	4 単位
⑥社会科学系科目	選択必修科目	2 単位	
外国語科目	第 1 外国語 ※1	選択必修科目	6 単位
	第 2 外国語 ※2	選択必修科目	4 単位
専門科目 (95～100 頁)	イントロダクトリー科目	選択必修科目 ※5	2 単位
		選択科目	4 単位
	ベーシック科目	選択必修科目 ※5 ※6	2 単位
		選択科目	2 4 単位
	アドヴァンスト科目	必修科目	1 4 単位
		選択科目	1 4 単位
※学科グローバル科目（G と記された科目）を 2 単位以上修得すること			
自由選択 ※4	『共通科目』『人間学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目（教職課程又は社会教育主事課程登録者のみ履修可）』から自由に選択して修得した単位		3 8 単位以上
合 計			1 2 4 単位以上

左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されません

- ※1 第 1 外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目（英語）」（54 頁）から 6 単位以上修得してください。
- ※2 第 2 外国語は、共通科目の「③言語科目」（54～55 頁）から、第 1 外国語として選択した言語以外の 1 つの言語（ただし言語演習を除く）で 4 単位を修得してください。
- ※3 初年次セミナーは共通科目中の文学部用と指定されたものを履修してください。原則として 1 年次春学期に履修することになっていますが、休学などの理由で履修できなかった場合は学部事務室に相談してください。

- ※4 『共通科目』、『人間学科専門科目』、『他学科専門科目』、『特設課程科目（教職課程又は社会教育主事課程登録者のみ履修可）』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『人間学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、ベーシック科目の選択科目を26単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を38単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。
- ※5 専門科目の選択必修科目は、イントロダクトリー、ベーシックともそれぞれ2単位以上修得した場合は自由選択の単位として算入されます。
- ※6 「文学部の学びとライフデザイン」は原則として2年次春学期に履修することになっていますが、休学などの理由で履修できなかった場合は学部事務室に相談してください。
- 注 メジャー及び社会福祉専修の選択については下記「8. メジャー・専修の選択について」の記載事項を確認してください。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■文学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点 の条件	
							通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
24 単位	特設課程科目	16 単位	3.50	4 単位	可	文学部は早期卒業の 制度はありません		

8. メジャー・専修の選択について

(1) メジャー登録

所属する演習（ゼミ）が決定した後、3年次春学期の履修登録の際、自分の演習が属するメジャーの登録をします。なお、登録時に各メジャー配置のイントロダクトリー科目を選択科目から2単位、ベーシック科目を選択科目から2単位、合計4単位を修得していることが必要です。その後、以下の2つの要件を満たせば、卒業時に当該メジャーを修了したことを認定します。

- ① 登録したメジャーに属する科目のうち、イントロダクトリー科目4単位（選択必修科目2単位、及び選択科目のうちメジャーが指定する科目から2単位）、ベーシック科目12単位（選択必修科目2単位、及び選択科目のうちメジャーが指定する科目から10単位）、アドヴァンスト科目28単位（必修科目14単位、及び選択科目のうちメジャーが指定する科目から14単位）、合計44単位以上を修得すること。
- ② アドヴァンストの必修単位は、登録したメジャーに属する演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの修得と、卒業論文の提出・合格をもって認定します。

(2) 社会福祉専修の選択

社会福祉専修には定員（20名）があり、選考試験に合格しなければ登録できません。社会福祉専修登録のための選考試験は1年次秋学期に実施する予定です。詳細は、ガイダンスでの説明や学部ホームページなどで確認してください。

9. 演習の履修について

(1) 演習（必修）履修までの流れ

演習履修までの流れは以下のとおりです。

- ① 2年次・秋学期ガイダンス＝概要説明
- ② 9月下旬～10月上旬＝個別ガイダンス
- ③ 10月中下旬＝第1次選考

- ④ 11月上旬＝選考結果発表（1次登録確定）
- ⑤ 11月下旬＝第2次選考
- ⑥ 12月上旬＝選考結果発表（2次登録確定）
- ⑦ 1月下旬＝3次登録

※1次登録で演習が決定しない場合は2次登録を行います。2次登録にも漏れた場合は3次登録を行い、そこで最終決定となります。

※上記のスケジュールは変更する場合があります。演習登録についてのガイダンスなどで説明しますので必ず出席して確認してください。

※演習申込み時期、あるいは3年次以降に留学で不在の場合は、事前に学部長若しくは副学部長に相談してください。

※ダブル・ディグリーコースの方は帰国後に演習の申し込みをしてください。詳しくはコースのガイダンスで確認をしてください。

(2) 演習についての注意事項

- ① 演習は定員制です。演習ごとに選考があり、選考に合格しないと履修できません。選考方法等はガイダンスなどでよく確認してください。
- ② 演習の履修時期はⅠ（3年次春学期）・Ⅱ（3年次秋学期）・Ⅲ（4年次春学期）・Ⅳ（4年次秋学期）を原則とし、同じ教員の演習を履修します。演習の履修時期に留学で不在の場合は事前に演習の履修の仕方についてゼミ担当教員とよく相談してください。
- ③ ダブル・ディグリーコースの方は、4年次に演習Ⅰ～Ⅳ（必修科目）を履修します。詳しくはコースのガイダンスで確認してください。

10. 卒業論文研究の履修について

卒業論文研究Ⅰと卒業論文研究Ⅱは、原則として、演習（Ⅰ～Ⅳ）と同じ教員のもとで行います。

11. 副専攻について

文学部では他の学部と同様、副専攻制度を設けています。これは他学部の科目を学ぶ副専攻だけでなく、文学部で登録したメジャー以外のメジャー指定科目の単位を一定数（イントロダクトリー科目2単位、ベーシック科目10単位、アドヴァンスト科目12単位）修得すれば、卒業時に当該メジャーを副専攻として認定することができます。詳細は「第七章 副専攻制度」（157～169頁）を参照してください。

12. 学部独自の留学制度

(1) 中国語ダブル・ディグリーコース（中国語DD）

- ① 中国語教育の最高峰「北京語言大学」との相互学位認定プログラム協定により、本学と北京語言大学両大学の学士号が得られる制度です。北京語言大学は、世界共通の中国語検定試験（HSK）を開発した大学で、世界中で使用されている中国語のテキスト監修も行っており、中国の国家重点高等教育機関としても全世界に知られています。
- ② 選抜試験に合格した上でこのコースに参加すると、2年次と3年次の2年間、北京語言大学に留学します。そして4年次は再び創価大学で学び、日中両言語で卒業論文を作成します。北京語言大学の教授が来学して行われる最終試験（口頭試問）に合格すれば、創価大学と北京語言大学の2つの学士号が取得できます。
- ③ 中国語DDの定員は10名で、1年次の夏季研修を経て選抜試験を実施します。選抜などの日程と方法はコースのガイダンスで確認してください。

(2) 英語ダブル・ディグリーコース（英語DD）

- ① イギリス・バッキンガム大学に2年次秋学期及び3年次春学期・秋学期の1年半留学して同大学の学士号を取得し、さらに留学時の修得単位を本学の修得単位として認定できるため、本学からも学士号を取得できる文学部独自の国際教育プログラムです。

- ② バッキンガム大学は、英国唯一の私立大学として、1976年に当時教育科学大臣であったマーガレット・サッチャー氏により創立されました。きめ細やかな指導には定評があり、英国の学生満足度調査においても高いランクを獲得しています。
- ③ 英語DDの定員は7名で、1年次秋学期に2回選抜試験（書類審査及び面接）を行います。なお選抜試験受験資格として選抜試験募集期間までにIELTSを含む語学試験で所定の得点を取得していることが必要になります。詳細はコースのガイダンスで確認してください。

1 3. AKADEMIA プログラム (English Medium Program)

幾つかの学部と同様、英語で学ぶ English Medium Program (EMP) を文学部でも開設しています。文学部では言語・人文・社会の学問領域にわたる深い知識と技能を身につけることのできる英語の科目群を提供することから、このプログラムを Arts, Knowledge AnD English Major for International Arena (AKADEMIA) と名づけています。167～168 頁の EMP 科目一覧に記載の科目の中から、文学部が提供する科目を合計 24 単位以上修得し、通算 GPA が 2.70 以上の学生に AKADEMIA プログラム修了を認定します。なお、EMP 科目は TOEIC スコア 490 点以上（英検 2 級以上）相当の人が履修することができます。

また、共通科目や他学部の EMP 科目と、この AKADEMIA プログラムの科目を合わせて履修することによって、すべての科目を英語で学んで卒業する事ができるようにしています。

1 4. 学部特修プログラム

文学部独自の特修プログラムとして、以下の7つのプログラムを開設しています。詳細はパンフレットに記して配布しますので、参照してください。

- ① 文学部中国語特修プログラム
- ② 文学部ロシア語特修プログラム
- ③ 日本語教育プログラム
- ④ 日本語教育（基礎）プログラム *他学部生にも修了認定を行いません。
- ⑤ 文学部教員養成特修プログラム（英語）
- ⑥ 文学部教員養成特修プログラム（国語）
- ⑦ 文学部教員養成特修プログラム（社会）

1 5. 留学先で取得した科目の単位認定

交換留学・私費留学・DDコースで取得した専門科目の単位は、教授会が認めたときは文学部の専門科目の単位として認定します。認定を希望する学生は、全学共通の海外留学単位認定願いのほか、講義内容を記載したシラバス、講義内容（概要）及び留学先で発行された成績証明書を教務課に提出してください（なお、DDコースの提出書類については、コースのガイダンス等での指示に従ってください）。

■専門科目表の見方（人間学科専門科目）

次のページから掲載されている人間学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	メジャー・専修							G 科目	他学科 履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載 の学修成果該当項目								
					異英	異日	異中	異露	哲歴	表現	国際				社会	福祉	1	2	3	4	5	6	7
①	②	③	④	⑤	⑥							⑦	⑧	⑨	⑩								

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥メジャー・専修	どの科目がメジャー・専修の指定する科目かを表します。 なお、メジャー・専修名は以下の略です。 異英：異文化コミュニケーション（英語） 英日：異文化コミュニケーション（日本語） 異中：異文化コミュニケーション（中国語） 異露：異文化コミュニケーション（ロシア語） 哲歴：哲学・歴史学 表現：表現文化 国際：国際日本学 社会：社会学 福祉：社会福祉専修
⑦G科目	どの科目がグローバル科目かを表し、この欄に「G」と付されている科目がグローバル科目です。卒業のためには「G」が付されている科目を2単位以上修得する必要があります。
⑧他学科履修	人間学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、人間学科生以外は履修できません。
⑨備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑩ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを現します。 ◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 人間と社会と文化に関する基礎的教養と専門的学術を修得し、諸事象を精確に理解し、鑑賞し、評価することができる。 2. 母語及び外国語を用いて、的確で豊かな自己表現とコミュニケーションを行うことができる。 3. 基礎的・専門的学知に基づいて、新しい知識と表現を創造することができる。 4. 論理的に思考し、適切な方法で情報の取得と処理を行い、物事の的確な判断ができる。 5. 文化の多様性を尊重しつつ、世界市民として、生命の尊厳と平和を志向する。 6. 学ぶことの意味を理解し、自律的学修者として、目標をもって自己の成長を図る。 7. 人間主義の社会に向かって、他者と協力する姿勢やリーダーシップを発揮する。

経営学部 経営学科

1. 理念・目的

経営学部は、建学の精神に基づいて「人間主義経営」の理念を掲げています。人間主義経営とは、生命尊厳の観点から、社会における人間の行動、組織活動をとおして様々な社会的課題に挑戦し、世界と人類の平和に貢献する組織経営です。経営学部は、これに立脚して確固たる目的観、知力・人間力をもつ創造的人間を育成するための規範的・実践的教育と研究を行うことを目的としています。

2. 教育目標

経営学部は以下の3つの教育目標を掲げています。

- (1) 人間主義の視点から人類社会に貢献する強い意志をもって社会的な問題を発見・解決する能力を有し、課題への挑戦を不断に行う人材を育成する。
- (2) 社会における問題発見・解決のために必要な専門知識と手法をもち、幅広く奥深い教養を身につけた知力・人間力を有する人材を育成する。
- (3) 英語をはじめとする語学に堪能で、優れたコミュニケーション能力を有し、グローバルに展開する国際社会を舞台に活躍できる人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

経営学部では、大学のディプロマ・ポリシーに則り、また学部の教育目標に掲げた能力を有する人材を育成する学士課程教育を通じて以下の基準を満たす学生、及び所定の単位を修得しGPA基準を満たした学生に学位を授与します。

知識基盤

- (1) 社会へ貢献する意志を有し、人間主義経営の理念と社会的責任を理解・習得している。
- (2) 現代経営に必要な基礎的知識を有し、経営の仕組みを理解して、その知識やスキルを習得している。

実践的能力

- (3) 社会的課題に関心をもち、自らもそれを発見して、他者に的確に伝える能力がある。
- (4) その課題の中にある人間や社会にとっての意味や価値を洞察し、問題解決をする能力がある。

国際性

- (5) ビジネス英語の基礎的知識・コミュニケーション能力を有し、ビジネスや社会で活用する能力がある。
- (6) 多様性を受容する力を持ち、世界市民としてグローバルな視野で他者と協働する能力がある。

創造性

- (7) 問題解決に必要な情報を自ら収集・分析し、論理的に探求しながら、価値を創造していく能力がある。
- (8) チームで主体的・能動的に活動し、ディスカッションなどを通じて様々な資源や知見を統合する能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、経営学部は学部のディプロマ・ポリシーに適う学生を育成するために、以下の方針でカリキュラムを編成します。ディプロマ・ポリシーで掲げたラーニング・アウトカムズに対し、直接評価手法（例：卒業研究発表会を開催し、学生の到達度を測定）と間接評価手法（例：演習におけるルーブリック調査）を組み合わせる点検・評価します。さらに不断の努力によって教育改善に取り組みます。

- (1) 初年次では多様な入学者が支障なく大学教育が受けられるよう初年次セミナーを設置し、この科目のなかで種々のアカデミック・スキルの学修やアクティブ・ラーニングを行い主体的な学修者としての基礎を築くようにいたします。

- (2) グローバル社会におけるコミュニケーション能力を身につけるために外国語科目を初年次で多く履修できるカリキュラムとします。このため、全学的な語学科目に加えて学部専門科目に実践的な英語科目を設置します。
- (3) 創造的で実践的な能力の知識基盤となる幅広い教養を身につけるために、共通科目の履修を積極的に受けられるカリキュラムとします。共通科目では大学科目、人文科学、自然科学など偏りのない学修ができるように構成し、またキャリア教育科目に重点をおいた配置とします。
- (4) 専門科目では、1年次の初年次セミナーから4年次の演習まですべての学年で演習を設置し、これら科目のなかで能動的学修を実践することにより、主体的・能動的な協働する能力を身につけるカリキュラムとします。
- (5) 基礎的専門科目においては、まず経営学、簿記、統計学、経済学などの知識基盤を習得します。また、学部の理念である人間主義経営については、講義に加えてグループ・ディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングで学びます。
- (6) 高度な専門科目の履修では、学部の全科目を国際的なリーダーを養成する科目群と、専門性を養成する科目群に大別し順次的、体系的な科目の配置とします。これにより学生が自ら学修計画を立て、自身の目的に向かった主体的な学びができるように配慮し、ナンバリングとカリキュラムマップで提示します。専門科目に関わるすべての事項は学部教務委員会が取り扱います。
- (7) 世界市民養成のために、留学制度を始めとする学部独自の仕組みをつくり、諸外国教育機関等と連携し海外での学修の機会を設けます。海外での学修成果については所定の条件を満たせば専門科目として単位認定いたします。
- (8) 専門演習においては、単独の専門分野に関わる演習の他に、専門分野を横断したクラスターを構成して、能動的学修により理論的、実証的な思考方法や問題発見・解決能力を身につけられるようにします。

以上で述べた科目のいくつかは英語で行われ、日本人学修者に限らず多様な文化背景を持つ外国人留学生にも対応可能なカリキュラムとします。

本学部の専門科目で養成される能力は試験による判定の他にルーブリック評価、プレゼンテーション評価、レポート・論文評価など科目のアウトカムに適した評価方法により評価がされます。また、学部のディプロマ・ポリシーで掲げたラーニング・アウトカムズが達成されているかどうかに対しては、直接評価手法（例：卒業研究論文作成とその発表会を通し、学生の到達度を測定）と間接評価手法（例：演習におけるルーブリック調査）を組み合わせて点検・評価します。さらに不断の努力によって教育改善に取り組みます。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

経営学部は、創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、かつ本学部の教育目標で示した人材へと成長する資質を備えた学生を以下のように選抜します。

- (1) 経営学部の人間主義経営理念を理解し、広く社会で活躍しようとする目的観に立って本学部での学習を希望すること。PASCAL 入試、公募推薦入試では、「面接試験」においてその意志を評価します。
- (2) 問題解決に必要な専門知識と手法を習得するために、高等学校までの教育において到達目標とされる基礎学力を有すること。大学入試センター試験利用入試、全学統一入試、一般入試、外国人入試では、そのような基礎学力、即ち、知識・技能、思考力・判断力等を評価します。
- (3) グローバルに展開する国際社会を舞台に活躍できる力を身につけるために必要な、基礎的な英語能力を有すること。公募推薦入試、大学入試センター試験利用入試、全学統一入試、一般入試において英語能力を重視します。大学入試センター試験利用入試、一般入試では英語の得点配分を他より高くします。また、PASCAL 入試、公募推薦入試、全学統一入試では実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を優遇する措置を取ります。
- (4) 創造力や論理的思考力をもって問題発見・解決に主体的に取り組む資質と意欲を有すること。公募推薦入試においては英語以外に、数学、国語も選択できるようにし、数理能力や思考力・判断力・表現力を評価します。また、PASCAL 入試、公募推薦入試では、「書類審査」や「グループ・ディスカッション」、「小論文」、「面接試験」によって思考力・判断力・表現力、主体性・協働性などを評価するとともに簿記、情報処理、数学にかかわる資格・スコア等を優遇する措置を取ります。

6. 卒業要件

経営学部経営学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	
共通科目 (54～58 頁)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2 単位	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されません
		学術文章作法	選択必修科目	2 単位	
		自然分野科目	選択必修科目	2 単位	
	②大学科目			4 単位	
	④世界市民教育科目			4 単位	
	⑧キャリア系教育科目			2 単位	
外国語科目	第1 外国語 ※1			10 単位	
経営学科 専門科目 (109～111 頁)	必修科目				8 単位
	選択必修科目 ※2	選択必修A群		18 単位	
		選択必修B群		16 単位	
選択科目				36 単位	
自由選択 ※3	『共通科目』『経営学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(社会教育主事課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			20 単位以上	
合 計				124 単位以上	

- ※1 第1 外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(54 頁)又は学部学科英語科目(111 頁)から10 単位修得してください。
- ※2 選択必修科目でA群18 単位、又はB群16 単位を超えて修得した単位数は、選択科目36 単位に含めることができます。
- ※3 自由選択とは『共通科目』『経営学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(社会教育主事課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『経営学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を38 単位修得した場合に、2 単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を20 単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

注 英語以外の言語科目を履修した場合、自由選択の単位として算入されます。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■経営学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点 の条件	
							通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20 単位	特設課程科目	16 単位	3.50	4 単位	可	3.70	3.70	84

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準のGPA数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時(6セメスター又は7セメスター終了時)に上記のGPA基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターをWebより登録しなければなりません。

また、経営学科では4年次配当の必修科目があるため、早期卒業をするためには、2年次秋学期と3年次春学期で成績優秀者となり、3年次春学期・秋学期に上級年次履修を行って4年次配当の必修科目を履修する必要がありますので注意してください。

8. 3つの学修コース制

世界とビジネスのニーズに応えられる人材を育成するため、次の3つの学修コースを設けています。

(1) グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース

高い英語力と経営の専門能力を兼ね備えたビジネス・リーダーを養成するコースです。主な進路は、グローバル企業、国際機関、行政機関、国内企業、起業家、国内・海外のMBAなどです。1年次に「経営学原理」を学修するとともに、1～2年次に英語科目を学習してTOEICなどの英語基礎力のレベルを段階的に上げていきます。さらにグローバル・プログラムを履修することにより、国際的に活躍できるリーダーを目指すことができます。

(2) プロフェッショナル (PRO) 学修コース

会計・金融のスペシャリストを養成するコースです。主な進路は、公認会計士、税理士、国税専門官、銀行、証券会社などです。1年次に「簿記原理」と「株式会社簿記」、「工業簿記」を履修し、日商簿記検定2級取得を共通資格として目指します。各進路に適した専門科目、演習を選択し、進路の実現を目指すようになっています。

(3) 地方創生ビジネス (LOC) 学修コース

地方で活躍するために専門知識を持った人材を養成するコースです。主な進路は、事業継承、地方銀行・信用金庫、地方中小企業や地方自治体などです。1年次には「経営学原理」と「株式会社簿記」を履修し、日商簿記検定2、3級取得を共通資格として目指します。各進路に適した専門科目、演習を選択し、進路の実現を目指すようになっています。

9. 履修モデル

学修コース選択によって、次のような標準的履修モデルに沿って履修してください。

■ 1年次

① グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース

英語科目は、Study Skills for Business (SSB) I (春学期)、II (秋学期) を履修し、さらに Business English I (春学期)、II (秋学期) を履修してください。春学期は、必修科目の初年次セミナーと選択必修科目の経営学原理を履修してください。秋学期は、コース導入科目である Introduction to Global Business Leadership を履修してください。また、選択必修科目である簿記原理と統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

② プロフェッショナル (PRO) 学修コース

英語科目は、Study Skills for Business (SSB) I (春学期)、II (秋学期) を履修し、さらに Business English I (春学期)、II (秋学期) を履修してください。春学期は、必修科目の初年次セミナー、選択必修科目の簿記原理と経営学原理を履修します。秋学期は、コース導入科目である株式会社簿記、工業簿記を履修してください。また、選択必修科目である統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

③ 地方創生ビジネス (LOC) 学修コース

英語科目は Study Skills for Business (SSB) I (春学期)、II (秋学期) を履修し、さらに Business English I (春学期)、II (秋学期) を履修してください。春学期は必修科目の初年次セミナー、選択必修科目の簿記原理と経営学原理を履修します。秋学期は、コース導入科目である株式会社簿記を履修してください。また選択必修科目である統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

■ 2年次

① グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English III を履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習と経済学入門を履修します。また、2年次でコース推奨科目(選択必修科目)を履修します。グローバル・プログラム (GP) 履修者は、グローバル・プログラム科目から優先して履修してください。GP 履修者以外は、選択科目や共通科目を履修してください。また、3・4年次での履修を推奨し

ているコース強化科目の Global Business Communication I、II を、前倒しで2年次に履修することもできます。

② プロフェッショナル (PRO) 学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English III を履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習とコース強化科目である管理会計基礎、コース推奨科目の財務管理論を履修してください。秋学期は、選択必修科目である経済学入門、コース強化科目の会計学を履修します。春秋学期を通じて、残った選択必修科目や選択科目、共通科目を履修します。

③ 地方創生ビジネス (LOC) 学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English III を履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習とコース強化科目であるローカルビジネス論、コース推奨科目を履修してください。秋学期は、選択必修科目である経済学入門、コース強化科目の地方創生ワークショップを履修します。春秋学期を通じて、残った選択必修科目や選択科目、共通科目を履修します。

■卒業に必要な英語 10 単位の修得方法

卒業に必要な英語 10 単位は、以下の学部英語科目を履修することによって満たすことができます。学部生共通として、TOEIC スコアに従ってクラスが割り当てられますので、それに従って履修してください。

■経営学部履修モデル (図)

	グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース	プロフェッショナル (PRO) 学修コース	地方創生ビジネス (LOC) 学修コース
1年次 春学期	初年次セミナー		
	経営学原理		
	Study Skills for Business (SSB) I		
	Business English I		
		簿記原理	簿記原理
1年次 秋学期	統計学		
	Study Skills for Business (SSB) II		
	Business English II		
	Introduction to Global Business Leadership	株式会社簿記	株式会社簿記
	簿記原理	工業簿記	
2年次	経済学入門		
	人間主義経営演習		
	選択必修科目(経営管理論、人的資源管理論、財務管理論、ビジネス・データ分析)等		
	Business English III		
	Global Business Communication I・II	会計学	ローカルビジネス論
	Stakeholder Dialogue	管理会計基礎	地方創生ビジネス・ワークショップ
	International Context in Business		企業ソーシャルキャピタルと法等
	選択科目(人間主義経営とCSR、マーケティング、会社法、CSR会計、ビジネス&ロー・ワークショップⅡ・Ⅲ)等		
GP科目(GP Foundations, GP Review, Project Management I)			
3年次 以降	演習Ⅰ～Ⅳ		
	クラスター： マーケティング、ファイナンス、情報とビジネス、環境、グローバル、アカウンティング、 ストラテジー、ビジネスヒストリー		
	グローバル・プログラム科目群		

10. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 演習についての注意事項

専門科目の演習（ゼミ）は必修科目です。以下のことに注意してください。

- ① 演習は定員制で、申し込みと選考があり、そこで所属が決定されます。
- ② 演習ガイダンスが事前に行われますので、必ず参加してください。
- ③ 演習は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年次秋学期にガイダンス及び申し込みがあります。

(3) 演習科目名・科目特性・履修時期については以下の通りです。

経営学部：演習Ⅰ～Ⅳ（専門必修科目）

演習Ⅰ（3年次春学期）・Ⅱ（3年次秋学期）・Ⅲ（4年次春学期）・Ⅳ（4年次秋学期）

11. 経営学部の英語教育（グローバル・プログラム, GP）

英語専門科目がレベルごとに段階的に設置されています。3つのコース共にグローバル・プログラム科目を取ることができます。

その中核科目である「Global Program Mission」は、春季又は夏季休業期間を利用して海外の名門大学で経営を英語で学ぶ「グローバル・ビジネス・リーダーシップ研修」と海外の国際機関や経営大学院、外国企業を訪問し、最前線の専門家から講義など、地球市民としての視野を体感的に学習できる「地球市民としての企業研修」に分かれています。授業として「Global Program Foundations」と「Global Program Review」を合わせて履修してください。

グローバル・ビジネス・リーダー学修コースの方は、1年次に TOEIC スコア最低 450 点を確保し、2年次以降に「Business English III」や「Global Business Communication I・II」などの英語専門科目を継続的に履修し、TOEIC 730 点のクリアを目指します。

プロフェッショナル学修コース、地方創生マネジメント学修コースの方も、Global Program Mission や、英語でプロジェクトの運営能力を磨く「Project Management」など、世界に通用する専門家として GP 科目を履修することをお勧めします。

■グローバル・プログラム修了証及びジュニアグローバルリーダー認定書

* 下記の条件を満たすものは、申請に基づき各修了証／認定証を授与します。

認証時期	最終学期終了時	3年次終了時以降	3年次終了時以降
	グローバル・プログラム修了証	ジュニアグローバルリーダー認定証	グローバルリーダー認定証
TOEIC	—	TOEIC730点以上 (過去1年以内)	TOEIC 800点以上 (過去1年以内)
GPA/成績	—	認定時までの GPA2.8 以上	認定時までの GPA3.2 以上
GP 科目	GP 科目 40 単位以上修了	GP 科目 20 単位以上修了	GP 科目 20 単位以上修了
修了テスト	—	—	修了テスト合格者

注1 グローバルリーダー認定証又はジュニアグローバルリーダー認定証を授与したものが、グローバル・プログラム修了証を重複して申請しても構いません。

注2 グローバルリーダー認定証又はジュニアグローバルリーダー認定証は、就職活動における PR で使用することを想定し、3年次終了時に認定することを基本としますが、就職活動で使用しない場合や、留学により卒業が遅れる等の場合は、3年次終了時以降に認定することも可能です。

注3 TOEIC 以外の英語試験スコアの提出も可能です。審議により各認定基準と同等と判断された場合には、認定証を授与します。

()専門科目単位数 []英語科目単位数
 ※春学期・秋学期は都合により変わる場合があります。

Applied (応用) 専門科目			Global Business Review I (2)	Global Business Review II (2)	
			Environmental Management Issues (2)	Sustainable Business and Management (2)	
			Stakeholder Dialogue (2)	Business Ethics (2)	Critical Thinking in Business Strategy (2)
			Project Management I (2)	Multicultural Management (2)	
			International Business (4)	Global Program Review (2) 海外研修②	Project Management II (2)
Bridge (架け橋) 強化+推奨科目	Global Prpgram Mission I (2) 海外研修①		Global Program Foundations (2)	Global Prpgram Mission II (2) 海外研修①	
	Introduction to Global Business Leadership (2)		Global Business Communication I・II (4+4)		
Introduction (導入) 学部英語科目	Business English I [2]	Business English II [2]	Business English III [2]		
Basic (基本) 学部英語科目	Study Skills for Business I [2]	Study Skills for Business II [2]			
			1年		
			2年		
			3・4年		

1 2. 専門科目の認定について

経営学部では、下記の通り、経営学部の専門科目の単位を認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書（Web 上にて発行）と合格証書原本（教務課で写しを取った後に本人へ返却）を教務課に提出してください。その後学部教授会で審議され、認定されます。

(1) 簿記検定

- ① 入学前に日本商工会議所主催の「簿記検定 2 級」を取得している場合、あるいは全国経理教育協会主催の「簿記能力検定 1 級会計」と「簿記能力検定 1 級工業簿記」の両方を取得した場合、経営学部の専門科目「簿記原理」（4 単位）を認定します。
- ② 入学後、日本商工会議所主催の「簿記検定 2 級」を取得した場合、経営学部の専門科目「株式会社簿記」（2 単位）・「工業簿記」（2 単位）の 2 科目 4 単位を認定します（簿記原理としての単位認定はできませんので、1 年生の間に簿記原理を修得してください）。
- ③ 日本商工会議所主催の「簿記検定 1 級」、若しくは全国経理教育協会主催の「簿記能力検定上級」を取得した場合、経営学部の専門科目「簿記原理」（4 単位）、「株式会社簿記」（2 単位）・「工業簿記」（2 単位）の 2 科目 4 単位、「会計学」（4 単位）のいずれか 4 単位を認定します。

※簿記検定の資格で認められる単位認定は 4 単位を上限とします。

(2) 海外インターンシップ

海外のインターンシップ・プログラムに参加し、資料を添えた申請により教授会の審議を経て、Global Business Internship A・B として単位認定します。

(3) 留学先で取得した科目の単位

留学により外国の大学で経営専門科目を履修し、単位を取得してきた場合、学生の申請に基づき、経営学部教授会で審議され、経営学部専門科目として認定することができます。その際、資料として、全学共通の海外留学単位認定願（専門科目）・講義内容（教務課窓口で配布）・留学先で発行した成績証明書原本【成績基準を含む】に加え、**留学先での講義シラバスが必要**になりますので、教務課に提出してください。

経営学部グローバル・ビジネススクールプログラムで派遣される方は、出発前に履修についてのガイダンスを担当教員より必ず受けるようにしてください。なお、現地で取得した単位は、上記と同様に、経営学部教授会で審議され、経営学部専門科目として認定することができます。成績証明書とともに講義シラバスが必要になります。詳しくはGP担当教員からの指示に従ってください。

■専門科目表の見方（経営学科専門科目）

次のページから掲載されている経営学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	学修コース				他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目							
					GBL	PRO	LOC	GPET			1	2	3	4	5	6	7	8
①	②	③	④	⑤	⑥				⑦	⑧	⑨							

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥学修コース	各学修コースが履修を推奨する科目が何かを表します。各学修コース列に導入（▲）、強化（△）、推奨（○）科目の印が付されていますので、選択した学修コースに応じて計画的に履修してください。なお、学修コース名は以下の略です。 GBL：グローバル・ビジネス・リーダー／PRO：プロフェッショナル LOC：地方創成ビジネス／GPET：Global Program English Track（英語で専門科目を学習）
⑦他学科履修	経営学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、経営学科生以外には履修できません。
⑧備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑨ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを現します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 社会へ貢献する意志を有し、人間主義経営の理念と社会的責任を理解・習得している 2. 現代経営に必要な基礎的知識を有し、経営の仕組みを理解して、その知識やスキルを習得している 3. 社会的課題に関心をもち、自らもそれを発見して、他者に的確に伝える能力がある。 4. その課題の中にある人間や社会にとっての意味や価値を洞察し、問題解決をする能力がある。 5. ビジネス英語の基礎的知識・コミュニケーション能力を有し、ビジネスや社会で活用する能力がある。 6. 多様性を受容する力を持ち、世界市民としてグローバルな視野で他者と協働する能力がある。 7. 問題解決に必要な情報を自ら収集・分析し、論理的に探求しながら、価値を創造していく能力がある。 8. チームで主体的・能動的に活動し、ディスカッションなどを通じて様々な資源や知見を統合する能力を身につけている。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	学修コース				他学科 履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の 学修成果該当項目													
					GBL	PRO	LOC	GPET			1	2	3	4	5	6	7	8						
					選択科目 36単位以上 (つづき)																			
Global Program科目(つづき) ※専門選択科目の単位として参入されます																								
BUSI384	Global Business Review II	30	2	3・4					○															
BUSI385	Business Ethics	30	2	3・4					○		連携(済)	○		◎	◎									
BUSI386	Environmental Management Issues	30	2	3・4					○	×				◎	◎					○				
BUSI387	Critical Thinking in Business Strategy	30	2	3・4					○					◎	◎	○	○							
LAWP102	Introduction to Legal Studies	30	2	1～					○	×	連携(法)													
LAWP234	International Relations	60	4	2～					○		連携(済・法)													
LAWP342	International Human Rights	60	4	3・4					○		連携(済・法)													
LAWP235	International Environmental Policy	30	2	2～					○		連携(済・法)													
LAWP351	Environmental Law	30	2	3・4					○		連携(済・法)													
LAWP232	Peace Studies	30	2	2～					○		連携(済・法)													
ECON355	Economic Development of Japan I	30	2	2～					○		連携(済・法)													
ECON357	Political Economy of Japan and Asia	30	2	2～					○		連携(済・法)													
ECON371	Development and Environment	60	4	2～					○		連携(済)													
ECON396	Business and Japanese People	30	2	2～					○		連携(済・法)													
学部学科英語科目 ※言語科目(英語)の単位として算入されます																								
BUSI173	Study Skills for Business I	60	2	1～					×								◎	○		○				
BUSI174	Study Skills for Business II	60	2	1～					×								◎	○		○				
BUSI175	Business English I	60	2	1～					×								◎	○		○				
BUSI176	Business English II	60	2	1～					×								◎	○		○				
BUSI177	Business English III	60	2	2～					×								◎	○		○				

◎必修科目 ▲コース導入科目 △コース強化科目 ○コース推奨科目

※備考の「連携～」は、他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※他学部履修欄に「×」が付いている科目は、経営学部生以外は履修出来ません。

1. 理念・目的

教育学部は、創価教育の父、牧口常三郎先生の遺志を受け継ぎ、教育学科、児童教育学科ともに、建学の精神にある人間主義に基づいた学問研究と教育実践を行うことを目指しています。

創価大学の建学の精神及びグランドデザインが示す「創造的人間」という指標を踏まえ、教育学部は「人間教育とは何か」について探究し、その精神を基盤にして、将来のさまざまな場面における問題を、教育学的・心理学的視点から、高度な知識と技術をもって解決できる人間の育成を目的としています。

2. 教育目標

教育学部は、以下の4項目を教育目標に掲げています。

- (1) 教育学、心理学に関連する諸学問の学修を通して、それを、教育を考えるための糧としていくことができる人間を育成する。
- (2) さまざまな教育の場において、現在どのような問題が起こっているのか、その問題の解決のために何が求められているかを理解し、それを実際に解決できる問題解決能力を身につけた人間を育成する。
- (3) 教育問題を自明のものとして受け止めるのではなく、それらをつねに学問的な検証の対象にしていく態度を身につけた人間を育成する。
- (4) 教育問題を、地域・国・世界というさまざまなレベルで考え、その結果を自分の言葉で語るとともに、社会の様々な領域における活動において活用することができる人間を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

創価大学のディプロマ・ポリシーに基づき、教育学部では、学生が卒業までに以下の基準を十分に達成したかどうかを判断した上で、学士（教育学）の学位を授与します。

知識・理解

- (1) 教育学又は心理学に関する基本的な知識及び方法を習得する。
- (2) 世界の事象を教育的な問題として捉えることができる。

考える力

- (3) 世界の諸問題と自身との関係を考える。
- (4) 教育学的・心理学的諸問題の解決方法を構想する。

行為する力

- (5) 教育学的・心理学的諸問題の解決へ向けて取り組む。
- (6) 教育学的・心理学的諸問題の解決へ向け、他者と協働しながら取り組む。

態度

- (7) 絶えず自己の成長を追求する態度を持つ。
- (8) 他者の成長に対する責任感と倫理性を持つ。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育学部は、創価大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、かつ本学部のディプロマ・ポリシーに適う学生を育成するために、学科別に以下の方針で教育課程を編成しています。また、専門科目にコースナンバーを配当してシークエンスを明確にするとともに、カリキュラムマップによって各授業科目とディプロマ・ポリシー項目との対応を示しています。各授業における教員による成績評価及び定期的に実施する学生調査等により、ディプロマ・ポリシーの達成度を測定・評価します。

(1) 教育学科

教育学科では、学生の将来の志望に合わせ、教育学、心理学、国際教育に関する科目を設置しています。

- 必修科目の「教育学概論」「心理学概論」により、基本的な知識や研究方法を修得できるようにしています。また3年次からは少人数の「演習」で、より専門的な課題を設定し、学問的・実践的研究を行います。
- 選択必修科目の「学校研究」「教育学研究法」「教育方法学」「教育心理学」「臨床心理学」「教育カウンセリング」「国際開発教育論」「比較・国際教育学」等により、国内外の諸問題を教育学的・心理学的観点から分析的に思考し、解決に取り組む力や態度を養います。
また「教職概論」では、教員としての倫理性や子どもの成長のために尽くす責任感を身につけます
- 選択科目では、教育学、心理学、国際教育、社会教育関連の科目をより深く学ぶことにより、諸問題解決への実践方法を考え、自らがリーダーシップを持って取り組む力を養います。教職課程を目指す学生のためには、教育実習に先立って学校現場を経験する科目が用意され、子どもたちや教員との交流を通して、自らが教員として絶えず成長しようとする態度を身につけることができます。

(2) 児童教育学科

児童教育学科では、児童教育の分野における学識豊かな人材の育成、特に小学校・幼稚園・特別支援学校の教員の養成を目指して、カリキュラムを設定しています。

- 必修科目の「初等教育原理」「心理学概論」により、基本的な知識や研究方法を修得できるようにしています。また3年次からは少人数の「演習」で、より専門的な課題を設定し学問的・実践的研究を行います。
- 選択必修科目の「学校研究」「教育行財政学」「教育方法論」「教育心理学」等により、小学校・幼稚園・特別支援学校の教員としての問題発見・解決能力を養い、児童・幼児・障害者の心理を理解するとともに、学校を取り巻く諸問題を、教育学的・心理学的観点から反省的・分析的に思考し、解決に取り組む力や態度を養います。また「教職概論」では、教員としての倫理性や子どもの成長のために尽くす責任感を身につけます。
- 選択科目では、小学校の各教科、幼稚園の各領域、そして特別支援学校関連科目等についての多様な専門科目を用意して、小学校・幼稚園・特別支援学校の教員としての実践力を身につけるとともに、諸問題解決への実践方法を考え、自らがリーダーシップを持って取り組む力を養います。教職課程を目指す学生のためには、教育実習に先立って学校現場を経験する科目が用意され、子どもたちや教員との交流を通して、自らが教員として絶えず成長しようとする態度を身につけることができます。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

教育学部は、学部理念・目的に示した能力を持つ人間を育成するため、人間主義に基づいた教育の探究と実践を志し、基礎的な知識・技能及び的確な読解力・表現力を土台として、柔軟な思考をもって他者と協力できる学生を求め、創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、以下の基準で選考を行います。

- (1) 本学部の理念・目的への理解を基礎とした志望動機、人間主義に基づいた教育を探究しようとする修学意欲については、PASCAL 入試や公募推薦入試、外国人入試において行う書類審査及び面接を通して評価します。
- (2) 大学での学修活動において要求される基礎的な知識・技能については、公募推薦入試、センター利用入試、全学統一入試、一般入試、外国人入試で行われる書類審査及び学力試験の結果を通して評価します。これらの入試での評価にあたっては、英語力を相対的に重視し、PASCAL 入試や公募推薦入試の書類選考においては、実用英語能力テストの結果に応じて優遇措置を取ります。
また、公募推薦入試での学力試験においては、英語のほか国語や数学も選択可能とし、幅広い能力を評価できるようにします。
- (3) 教育の理論・実践の探究を目指す上で必要不可欠となる読解力・表現力、柔軟な思考力については、公募推薦入試、センター利用入試、全学統一入試、一般入試で行われる学力試験、さらに PASCAL 入試、公募推薦入試、外国人入試で行われる小論文審査を通して評価します。
- (4) 優れた教育者の資質である他者と協力できる協働性については、PASCAL 入試において行うグループ学習を通して評価します。

教育学部 教育学科

1. 卒業要件

教育学部教育学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数
共通科目 (54～58 頁)	①基礎科目 ※1	初年次セミナー	必修科目	2 単位
		学術文章作法	選択必修科目	2 単位
		自然分野科目	選択必修科目	2 単位
		選択科目		2 単位
	②大学科目		選択必修科目	4 単位
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4 単位
外国語科目	第1 外国語 ※2		選択必修科目	6 単位
	第2 外国語 ※3		選択必修科目	4 単位
教育学科 専門科目 (117～118 頁)	必修科目			1 4 単位
	選択必修科目 ※4			1 8 単位
	選択科目			4 6 単位
自由選択 ※5	『共通科目』『教育学科専門科目』『他学科専門科目(注)』『特設課程科目(教職課程及び社会教育主事課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			2 0 単位以上
合 計				1 2 4 単位以上

注：他学部・他学科専門科目は最大 20 単位まで、『専門選択科目』の単位として算入することができます。それ以上修得した場合は『自由選択』の単位として算入されます。

- ※1 基礎科目は必修科目、選択必修科目、選択科目を合わせ、合計 8 単位となるように修得してください。
- ※2 第1 外国語は原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(54 頁)、又は学部学科英語科目(118 頁)で6単位を修得してください。
- ※3 第2 外国語は、共通科目の「③言語科目」(54～55 頁)から、第1 外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※4 選択必修科目で18単位を超えて修得した単位数は、選択科目46単位に含めることができます。
- ※5 自由選択とは『共通科目』『教育学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(教職課程、又は社会教育主事課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。
- ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『教育学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を50単位修得した場合に、4単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を20単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

2. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■教育学科の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了 時点の条件	最低修得 単位数
24 単位	特設課程科目 他学科専門科目	16 単位	3.50	4 単位	可	教育学科は早期卒業の 制度はありません		

3. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 演習についての注意事項

専門科目の演習（ゼミ）の履修を希望する人は、以下のことに注意してください。

- ① 演習は、申し込みののちに選考があり、所属が決定されます。
- ② 演習ガイダンスが事前に行われますので、必ず参加してください。
- ③ 選考に際し、成績(GPA) が考慮されます。
- ④ 演習は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年次秋学期にガイダンス及び申し込みがあります。

(3) 演習科目名・科目特性・履修時期

演習Ⅰ（専門必修、3年次春学期）・Ⅱ（専門必修、3年次秋学期）・Ⅲ（専門必修、4年次春学期）

※演習Ⅳは選択必修科目で、4年次秋学期に開講します。

4. 履修についてのガイドライン

1・2年次の履修のあり方が3・4年次に大きく影響してきます。そこで、主に1・2年次の履修についてのガイドラインを次の3点で示します。

- (1) 特に将来の進路との関係でいえば、臨床心理士の資格の取得を希望する者は、その基礎となる科目を選択すること。あるいは教職課程、社会教育主事課程の登録者については、それぞれに必要な科目（別掲の関係ページを参照のこと）を選択することが大切です。
- (2) 各コースの基幹科目には履修順序があり、計画的に取り組まないと、上級年次で履修できない科目が生じることがあるので、注意してください。
- (3) 3・4年次においてどの演習（ゼミ）を選ぶかを早いうちから考え、それに役立つ科目を1・2年次で、ある程度選択すべきです。

■専門科目表の見方（教育学科専門科目）

次のページから掲載されている教育学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目							
							1	2	3	4	5	6	7	8
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧							

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	教育学科、又は教育学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は教育学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は教育学部生以外の履修はできません。
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑧ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを現します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 教育学又は心理学に関する基本的な知識及び方法を習得する。 2. 世界の事象を教育的な問題として捉えることができる。 3. 世界の諸問題と自身との関係を考える。 4. 教育学的・心理学的諸問題の解決方法を構想する。 5. 教育学的・心理学的諸問題の解決へ向けて取り組む。 6. 教育学的・心理学的諸問題の解決へ向け、他者と協働しながら取り組む。 7. 絶えず自己の成長を追求する態度を持つ。 8. 他者の成長に対する責任感と倫理性を持つ。

■教育学部 教育学科 専門科目表 (2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の 学修成果該当項目															
							1	2	3	4	5	6	7	8								
必修科目 7科目14単位																						
EDUC100	教育学概論Ⅰ	30	2	1~			◎		○		○											
EDUC101	教育学概論Ⅱ	30	2	1~		注1	◎		○		○											
EDUC110	心理学概論Ⅰ	30	2	1~	※		◎			○	○											
EDUC111	心理学概論Ⅱ	30	2	1~	※	注1	◎			○												
EDUC330	演習Ⅰ	30	2	3・4	※		指導教員によって異なるため指定除外															
EDUC331	演習Ⅱ	30	2	3・4	※																	
EDUC430	演習Ⅲ	30	2	4	※																	
選択必修科目 18単位以上																						
EDUC140	教職概論	30	2	1~	×			○		◎		○										
EDUC200	学校研究	30	2	2~			○			◎	○			○								
EDUC201	教育学研究法	30	2	2~	×		◎			○	○											
EDUC202	教育哲学	60	3	2~			○		◎	○												
EDUC203	教育社会学	60	3	2~	×		◎	○														
EDUC204	カリキュラム論	30	2	2~	×		○			○	◎	○										
EDUC210	教育心理学Ⅰ	60	3	2~	×	注2	◎			○	◎											
EDUC211	発達心理学Ⅰ	60	3	2~	※	注3	◎			○	○			○								
EDUC220	国際開発教育論	30	2	2~	×		◎			○	○											
EDUC221	海外から見た日本の教育	30	2	2~	×			◎		○	○											
EDUC300	教育方法学	60	3	3・4	×		○			◎	○			○								
EDUC310	臨床心理学Ⅰ	60	3	3・4	※	注4	○	○		○	◎											
EDUC311	教育カウンセリング	30	2	3・4	×	注4		○		○	◎											
EDUC320	比較・国際教育学A	30	2	3・4	×			○		◎	○											
EDUC321	比較・国際教育学B	30	2	3・4	×			◎		○	○											
EDUC332	卒業研究Ⅰ	30	2	3・4	※		指導教員によって異なるため指定除外															
EDUC431	演習Ⅳ	30	2	4	※																	
EDUC432	卒業研究Ⅱ	30	2	4	※	注1・注5																
選択科目 46単位以上																						
EDUC130	スタディー・リーダー基礎	30	2	1~	※	注6		○	○				◎	○								
EDUC102	教育史A	30	2	1~			◎	○	○	○												
EDUC103	教育史B	30	2	1~			◎			○	○											
EDUC150	生涯学習概論	30	2	1~			○			◎	○			○								
EDUC151	社会教育概論	30	2	1~			○			◎	○			○								
EDUC192	海外教育事情A	45	3	2~	※		○	○	◎													
EDUC193	海外教育事情B	45	3	2~	※			○	○				○						◎			
EDUC290	英語コミュニケーションⅠ	30	2	2~	×		◎	○	○													
EDUC291	英語コミュニケーションⅡ	30	2	2~	×	注1	◎	○	◎													
EDUC205	教育行財政学	30	2	2~	×		◎	○														
EDUC212	教育心理学Ⅱ	30	2	2~	×	注1	◎			○	○											
EDUC222	Educational Psychology	30	2	2~			◎			○				○								
EDUC223	Sociology of Education	30	2	2~			○			○	◎											
EDUC224	国際教育特論A	30	2	2~				◎	○		○	○										
EDUC225	国際教育特論B	30	2	2~				◎	○		○	○										
EDUC230	ミュージアム・エデュケーションⅠ	30	2	2~	※	注7		○	○			◎		○								
EDUC231	ミュージアム・エデュケーションⅡ	30	2	2~	※	注1		○		○				○	◎							
EDUC232	学校インターンシップⅠ	60	2	2~		注8		◎		○	○			○								
EDUC233	学校インターンシップⅡ	60	2	2~		注1		○		◎												
EDUC240	生徒・進路指導論	30	2	2~	×		○			○	○									◎		
EDUC241	特別活動論	30	2	2~	×		○			○	○	◎										
EDUC242	教育とキャリア	30	2	2~	※			○												◎		
EDUC250	社会教育特講A	30	2	2~	×		◎				○	○								○		
EDUC251	社会教育計画Ⅰ	30	2	2~	×		○			◎	○									○		
EDUC252	社会教育計画Ⅱ	30	2	2~	×		○			◎	○									○		
EDUC170	日本史Ⅰ	30	2	2~	×		◎	○	○	○												
EDUC270	日本史Ⅱ	30	2	2~	×		◎	○	○	○												
EDUC171	外国史Ⅰ(西洋史)	30	2	2~	×		◎	○	○	○												
EDUC271	外国史Ⅱ(東洋史)	30	2	2~	×		◎	○	○	○												
EDUC172	法理学概論:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○												

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済みであること。

注2 「心理学概論Ⅰ」を単位修得済み(同セメスターでの履修も可)であること。

注3 「教育心理学Ⅰ」又は児童教育学科の「教育心理学」を単位修得済みであること。

注4 「発達心理学Ⅰ」又は児童教育学科の「発達心理学」を単位修得済みであること。

注5 原則としてGPA3.0以上が履修の条件である。

注6 共通科目の「初年次セミナー」を単位修得済みであること。

注7 共通科目の「ボランティア入門」を単位修得済みであること。

注8 教職課程に登録した学生のみ履修することができる。また、「学校研究」を履修済み(同セメスターでの履修も可)であること。

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の 学修成果該当項目							
							1	2	3	4	5	6	7	8
選択科目 46単位以上 (つづき)														
EDUC173	政治学概論:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○				
EDUC174	地理学Ⅰ:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○				
EDUC272	地理学Ⅱ:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○				
EDUC175	倫理学概論:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○				
EDUC176	宗教学概論:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○				
EDUC177	哲学概論:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○				
EDUC178	社会学概論:教育	30	2	2~	×		◎	○	○	○				
EDUC292	英語特講A	30	2	2~	※	注9		○		◎	○			
EDUC293	英語特講B	30	2	2~	※	注9		○		◎	○			
EDUC294	英語特講C	30	2	2~	×	注9		○		◎	○			
EDUC295	海外教育研修	45	3	2~	※	注9・10		○	◎			○	○	
EDUC301	教育評価	30	2	3・4			○			○	◎		○	
EDUC302	教育学特講A	30	2	3・4	※					○	○	○	◎	
EDUC303	教育学特講B	30	2	3・4				○	◎				○	
EDUC304	教育学特講C	30	2	3・4	×	注11		○	○	○			◎	
EDUC305	教育学特講D	30	2	3・4	×		学期によって内容が異なるため除外							
EDUC312	発達心理学Ⅱ	30	2	3・4	※	注1	◎			○	○		○	
EDUC313	臨床心理学Ⅱ	30	2	3・4	※	注1	○	○		○	◎			
EDUC314	心理学特講A	30	2	3・4	※		◎	○	○				○	
EDUC315	心理学特講B	30	2	3・4	※		◎	○	○				○	
EDUC316	心理学特講C	30	2	3・4	×		学期によって内容が異なるため除外							
EDUC317	心理学特講D	30	2	3・4	×		学期によって内容が異なるため除外							
EDUC333	学校インターンシップⅢ	30	1	3・4		注1		○		○		◎	○	
EDUC334	学校インターンシップⅣ	30	1	3・4		注1		○		○		○	◎	
EDUC340	道徳教育論	30	2	3・4	×			○		◎		○	○	
EDUC341	環境教育論	30	2	3・4			○	◎		○			○	
EDUC342	情報教育論	30	2	3・4	※			○		◎		○	○	
EDUC343	インクルーシブ教育論	30	2	3・4	※		◎	○		○	○			
EDUC344	総合的な学習の時間の指導論	15	1	3・4	×			○		◎				
EDUC350	児童福祉論	30	2	3・4	×		◎			○	○		○	
EDUC351	社会教育課題研究Ⅰ	30	2	3・4	×		○			◎	○		○	
EDUC352	社会教育課題研究Ⅱ	30	2	3・4	×		○			◎	○		○	
EDUC353	社会教育演習	60	4	3・4	×			○		○		◎	○	
EDUC354	社会教育特講B	30	2	3・4	×		◎			○	○		○	
EDUC370	地誌学:教育	30	2	3・4	×		◎	○	○	○				
EDUC371	人文地理学:教育	30	2	3・4	×		◎	○	○	○				
EDUC372	自然地理学:教育	30	2	3・4	×		◎	○	○	○				
EDUC335	教育実習(中・高)	-	5	3・4	×					○	○	○	◎	
EDUC336	教育実習(高)	-	3	3・4	×					○	○	○	◎	
EDUC433	教職実践演習(中・高)	30	2	4	×			○		○	○		◎	
学部学科英語科目														
EDUC190	Academic Skills I	60	2	1~	※	注12	◎	○	○				○	
EDUC191	Academic Skills II	60	2	1~	※	注1・12	◎	○	○				○	

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済みであること。

注9 TOEIC550点以上が履修の条件である。

注10 「教育学概論Ⅰ」を単位修得済みであること。

注11 教育哲学を単位修得済みであること。

注12 TOEIC490点以上が履修の条件である。共通科目の言語(英語)の単位として算入する。

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

教育学部 児童教育学科

1. 卒業要件

教育学部児童教育学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数
共通科目 (54～58頁)	①基礎科目 ※1	初年次セミナー	必修科目	2単位
		学術文章作法	選択必修科目	2単位
		自然分野科目	選択必修科目	2単位
		選択科目		2単位
	②大学科目		選択必修科目	4単位
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位
外国語科目	第1外国語 ※2		選択必修科目	6単位
	第2外国語 ※3		選択必修科目	4単位
児童教育学科 専門科目 (121～122頁)	必修科目			14単位
	選択必修科目 ※4			14単位
	選択科目 ※5			50単位
教科A～D群・F～I群から各2単位、計16単位を含み修得すること。				
自由選択 ※6	『共通科目』『児童教育学科専門科目』『他学科専門科目(注)』『特設課程科目(教職課程及び社会教育主事課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			20単位以上
合 計				124単位
注：他学部・他学科専門科目は最大20単位まで、『専門選択科目』の単位として参入することができます。それ以上修得した場合は『自由選択』の単位として算入されます。				

左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されません

- ※1 基礎科目は必修科目、選択必修科目、選択科目を合わせ、合計8単位となるように修得してください。
- ※2 第1外国語は原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(54頁)、又は学部学科英語科目(122頁)で6単位を修得してください。
- ※3 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(54～55頁)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※4 選択必修科目で14単位を超えて修得した単位数は、選択科目50単位に含めることができます。
- ※5 専門選択科目の単位は、教科A～D群・F～I群から各2単位、計16単位を含めて修得してください。
- ※6 自由選択とは『共通科目』『児童教育学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(教職課程、又は社会教育主事課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『児童教育学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を54単位修得した場合に、4単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を20単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

2. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■児童教育学科の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメス ターの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了 時点の条件	
						通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数	
24単位	特設課程科目 他学科専門科目	16単位	3.50	4単位	可	教育学科は早期卒業の 制度はありません		

3. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 演習についての注意事項

専門科目の演習（ゼミ）の履修を希望する人は、以下のことに注意してください。

- ① 演習は、申し込みののちに選考があり、所属が決定されます。
- ② 演習ガイダンスが事前に行われますので、必ず参加してください。
- ③ 選考に際し、成績(GPA) が考慮されます。
- ④ 演習は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年次秋学期にガイダンス及び申し込みがあります。

(3) 演習科目名・科目特性・履修時期

演習Ⅰ（専門必修、3年次春学期）・Ⅱ（専門必修、3年次秋学期）・Ⅲ（専門必修、4年次春学期）
 ※演習Ⅳは選択必修科目で、4年次秋学期に開講します。

4. 履修についてのガイドライン

1・2年次で、教職に必要な科目を確実に履修することが大切です。専門科目とは別に、1・2年次に開設される共通科目の中で、日本国憲法、体育（講義と実技）、外国語、コンピュータ・リテラシーが教職の必修科目です。別冊の『教職課程ガイド』を併用し、履修もれのないようにしてください。なお、教員免許取得のためには、教職課程への登録が必要ですので注意してください。

■ 専門科目表の見方（児童教育学科専門科目）

次のページから掲載されている教育学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目							
							1	2	3	4	5	6	7	8
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧							

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	児童教育学科、又は教育学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は児童教育学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は教育学部生以外の履修はできません。
⑦備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑧ディプロマ・ポリシーに記載の学修成果該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを現します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 教育学又は心理学に関する基本的な知識及び方法を習得する。 2. 世界の事象を教育的な問題として捉えることができる。 3. 世界の諸問題と自身との関係を考える。 4. 教育的・心理学的諸問題の解決方法を構想する。 5. 教育的・心理学的諸問題の解決へ向けて取り組む。 6. 教育的・心理学的諸問題の解決へ向け、他者と協働しながら取り組む。 7. 絶えず自己の成長を追求する態度を持つ。 8. 他者の成長に対する責任感と倫理性を持つ。

■教育学部 児童教育学科 専門科目表 (2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の 学修成果該当項目															
							1	2	3	4	5	6	7	8								
必修科目 7科目 14単位																						
PRED100	初等教育原理Ⅰ	30	2	1～	×		◎		○		○											
PRED101	初等教育原理Ⅱ	30	2	1～	×	注1	◎		○		○											
PRED110	心理学概論Ⅰ	30	2	1～	※		◎			○	○											
PRED111	心理学概論Ⅱ	30	2	1～	※	注1	◎			○	○											
PRED330	演習Ⅰ	30	2	3・4	※																	
PRED331	演習Ⅱ	30	2	3・4	※																	
PRED430	演習Ⅲ	30	2	4	※																	
選択必修科目 14単位以上																						
PRED140	教職概論	30	2	1～	×			○		◎		○										
PRED200	学校研究	30	2	2～	※		○			◎	○			○								
PRED204	カリキュラム論	30	2	2～	×		○			◎	○											
PRED210	教育心理学	30	2	2～	×	注2	◎			○	○											
PRED205	教育行財政学	30	2	2～	×		◎	○														
PRED211	発達心理学	30	2	2～	×	注2	◎			○	○			○								
PRED300	教育方法論	30	2	3・4	×		○			◎	○			○								
PRED332	卒業研究Ⅰ	30	2	3・4	※																	
PRED431	演習Ⅳ	30	2	4	※																	
PRED432	卒業研究Ⅱ	30	2	4	※	注1・注3																
選択科目 50単位以上 (教科A～D群・F～I群の8科目群から各2単位、計16単位を含むこと)																						
PRED130	スタディーリーダー基礎	30	2	1～	※	注4		○	○			◎		○								
PRED180	特別支援教育概論	30	2	1～	×		◎		○		○											
PRED171	幼児と健康	30	2	1～	×		◎			○												
PRED172	幼児と人間関係	30	2	1～	×		◎			○												
PRED173	幼児と環境	30	2	1～	×		◎			○												
PRED174	幼児と言葉	30	2	1～	×		◎			○												
PRED175	幼児と表現	30	2	1～	×		◎			○												
PRED150	図工科教育	30	2	1～				○	◎		○	○										
PRED151	体育科教育	30	2	1～			◎				○											
PRED141	表現と鑑賞	30	2	1～	×			○	○			◎		○								
PRED192	海外教育事情A	45	3	1～	※		○	○	◎					○								
PRED193	海外教育事情B	45	3	1～	※			○	○					○			◎					
PRED194	海外教育研修	45	3	1～	※	注5・6		○	◎					○	○							
PRED270	保育・教育課程論	30	2	2～	×		◎			○	○											
PRED271	保育方法論	30	2	2～	×		○			○	○						◎					
PRED272	保育内容(健康)の指導法	30	2	2～	×		◎				○											
PRED273	保育内容(人間関係)の指導法	30	2	2～	×		◎			○												
PRED274	保育内容(環境)の指導法	30	2	2～	×		◎			○												
PRED275	保育内容(言葉)の指導法	30	2	2～	×		◎			○												
PRED276	保育内容(表現)の指導法	30	2	2～	×			○		○	◎						○					
PRED278	幼児理解の理論と方法	30	2	2～	×		◎			○	○						○					
PRED240	生徒・進路指導論	30	2	2～	×		◎			○	○						○					
PRED241	特別活動論	30	2	2～	×				○	◎	○						○					
PRED280	LD等教育総論	30	2	2～	×		○			◎	○											
PRED242	教育とキャリア	30	2	2～	※				○		○						◎					
PRED243	自然体験	30	2	2～				○		○	◎						○					
PRED250	国語科教育	30	2	2～			○			◎	○						○					
PRED251	社会科教育	30	2	2～				◎			○						○					
PRED252	算数科教育	30	2	2～				○		◎	○						○					
PRED253	理科教育	30	2	2～			○			◎	○						○					
PRED254	音楽科教育	30	2	2～				○		○		◎					○					
PRED255	英語科教育	30	2	2～			○			◎	○						○					
PRED256	生活科教育	30	2	2～			○			◎	○						○					
PRED257	家庭科教育	30	2	2～			○			◎	○						○					
PRED232	学校インターンシップⅠ	60	2	2～	※	注7		◎		○	○						○					
PRED233	学校インターンシップⅡ	60	2	2～	※	注1		○		◎				○			○					
PRED230	ミュージアム・エデュケーションⅠ	30	2	3・4	※	注8		○	○			◎		○								
PRED231	ミュージアム・エデュケーションⅡ	30	2	3・4	※	注1		○	○			◎		○			◎					

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済みであること。

注2 児童教育学科の「心理学概論Ⅰ」又は教育学科の「心理学概論Ⅰ」を単位修得済み(同セメスターでの履修も可)であること。

注3 原則としてGPA3.0以上が履修の条件である。

注4 共通科目の「初年次セミナー」を単位修得済みであること。

注5 「初等教育原理Ⅰ」を単位修得済みであること。

注6 TOEIC550点(あるいは相当)以上が履修の条件である。

注7 教職課程に登録した学生のみ履修することができる。また、「学校研究」を履修済み(同セメスターでの履修も可)であること。

注8 共通科目の「ボランティア入門」を単位修得済みであること。

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

児童
教育

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の 学修成果該当項目														
							1	2	3	4	5	6	7	8							
選択科目 50単位以上(教科群においては教科A～D群・F～I群の8科目群から各2単位、計16単位を含むこと)																					
PRED333	学校インターンシップⅢ	30	1	3・4	※	注1		○		○		◎		○							
PRED334	学校インターンシップⅣ	30	1	3・4	※	注1		○		○		○		◎							
PRED380	インクルーシブ教育論	30	2	3・4	×		◎	○		○		○									
PRED301	教育評価	30	2	3・4			○			○	◎		○								
PRED311	教育カウンセリング	30	2	3・4	×	注10		○		○	◎			○							
PRED370	幼児教育総合演習	30	2	3・4	×					○	○	○		◎							
PRED340	道徳教育論	30	2	3・4	×			○		◎		○		○							
PRED341	情報教育論	30	2	3・4	※			○		◎		○		○							
PRED342	Environmental Science	30	2	3・4	×			○	○		○			◎							
PRED343	社会科特論	30	2	3・4	×			◎	○		○										
PRED344	授業のためのピアノ	30	1	3・4	×		○						○	◎							
PRED345	総合的な学習の時間の指導論	15	1	3・4				○			◎	○									
PRED302	教育学特講A	30	2	3・4	※					○	○	○		◎							
PRED303	教育学特講B	30	2	3・4	※				○	◎	○		○								
PRED314	心理学特講A	30	2	3・4	※		◎	○	○					○							
PRED315	心理学特講B	30	2	3・4	※		◎	○	○					○							
PRED390	英語特講A	30	2	3・4	※	注6		○		◎	○										
PRED391	英語特講B	30	2	3・4	※	注6		○		◎	○										
PRED480	特別支援教育特論	30	2	4	×				○		◎		○								
PRED335	教育実習(幼・小)	-	5	3・4	×					○	○	○		◎							
PRED433	教職実践演習(幼・小)	30	2	4	×				○		○	○		◎							
教科科目群(A～D、F～I群)から各2単位、計16単位以上を修得すること ※専門選択科目の単位として算入されます																					
PRED160	A群 国語概論	30	2	1～	×		○			◎	○		○								
PRED360	A群 文学・物語	30	2	3・4	×			○		◎	○			○							
PRED361	読解・言語活動	30	2	3・4	×			○		◎	○			○							
PRED161	B群 数学概論	30	2	1～	×			○		◎	○		○								
PRED362	B群 図形	30	2	3・4	×			○		◎	○		○								
PRED363	B群 数量関係	30	2	3・4	×			○		◎	○		○								
PRED162	C群 社会科概論	30	2	1～	×			◎	○		○										
PRED364	C群 社会科内容研究	30	2	3・4	×			◎	○		○										
PRED163	D群 理科概論	30	2	1～	×		◎	○		○	○										
PRED260	D群 理科実習	60	2	2～	×			○	○		◎			○							
PRED164	E群 生活科概論	30	2	1～	×		○			○	◎										
PRED261	F群 英語概論	30	2	2～	×		◎	○	○					○							
PRED365	F群 英語科内容研究	30	2	3・4	×			○	○	◎				○							
PRED165	G群 音楽概論	30	2	1～	×			◎		○	○		○								
PRED262	G群 音楽総合A	30	1	2～	×			◎		○	○		○								
PRED366	G群 音楽総合B	30	1	3・4	×			◎		○	○		○								
PRED166	H群 美術概論	30	2	1～	×			◎	○												
PRED263	H群 造形表現基礎	60	2	2～	×			◎	○		○		○								
PRED167	I群 体育概論	30	2	1～	×			○	○		○			◎							
PRED264	I群 運動学習と身体表現	30	1	2～	×		○							◎							
PRED265	I群 運動技術の探究	30	1	2～	×		○			○	○			◎							
PRED168	J群 家庭科概論	30	2	1～	×		○			○	◎		○								
特別支援免許課程科目 ※特別支援免許課程登録者のみ履修可 ※専門選択科目の単位として算入されます																					
PRED281	知的障害教育Ⅰ	30	2	2～	×		○			○	◎			○							
PRED282	障害者の心理・生理・病理B	30	2	2～	×			◎		○	○			○							
PRED283	視覚・聴覚障害教育総論	30	2	2～	×		○	◎		○				○							
PRED381	知的障害者の心理・生理・病理	30	2	3・4	×			◎		○	○			○							
PRED382	知的障害教育Ⅱ	30	2	3・4	×	注1	○			○	◎			○							
PRED383	肢体不自由教育総論	30	2	3・4	×		○	◎		○				○							
PRED384	病弱教育総論	30	2	3・4	×		○	◎		○				○							
PRED385	肢体不自由者の心理・生理・病理	30	2	3・4	×			◎		○	○			○							
PRED386	障害者の心理・生理・病理A	30	2	3・4	×			◎		○	○			○							
PRED387	LD等の心理・生理・病理	30	2	3・4	×			◎		○	○			○							
PRED481	障害者の心理特論	30	2	4	×			○		◎	○			○							
PRED434	教育実習(特別支援)	-	3	4	×					○	○	○		◎							
学部学科英語科目 ※言語科目(英語)の単位として算入されます																					
PRED190	Academic Skills I	60	2	1～	※	注11	◎	○	○					○							
PRED191	Academic Skills II	60	2	1～	※	注1・11	◎	○	○					○							

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済みであること。

注6 TOEIC550点(あるいは相当)以上が履修の条件である。

注10 「発達心理学」又は教育学科の「発達心理学Ⅰ」を単位修得済みであること。

注11 TOEIC490点以上が履修の条件である。共通科目の言語(英語)の単位として算入する。

◆他学部履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

1. 理念・目的

創価大学の建学の精神を尊重し、人間主義に基づいた人類の平和と多様な文化の繁栄に資する教育、研究、社会貢献を、工学の分野において実現することを目的としています。

2. 教育目標

“建学の精神にもとづき『創造的人間』を育成する”というグランドデザインを実現すべく、サイエンスに基づくテクノロジーを人類の真の平和と発展に役立てることを教育の目標としています。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

理工学部の教育理念に沿って設置された講義、実験、演習などの授業科目を履修し、各学科の基準となる卒業単位を習得することにより、以下の要件を満たす者に対し、情報システム工学科には学士(工学)を授与します。

- (1) 創価コアプログラム（全学共通科目）を通じて人間主義の理念、汎用的素養、そして幅広い教養を習得し、実用的な語学力を身に着けている。
- (2) 専門導入科目及び専門演習科目を通じて、協調性と社会性を培いながら、課題探究力と解決力、そしてコミュニケーション能力を磨いている。
- (3) 各領域の学術分野において社会貢献に資する工学・理工学の専門的知識を習得している。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

理工学部では、教育目標を達成するために人間教育にもとづく創価コアプログラムを1、2年次に履修し、基礎的学力としての語学力、人文科学・社会科学などの他分野の知識、社会問題の多角的認識を修得することを義務づけています。

情報システム工学科では、カリキュラムは、数理科学領域、知能情報工学領域、ヒューマン支援ロボット領域という幅広い分野をカバーする多様な科目をそろえています。数理科学領域では、数学を基礎としつつ、関連する情報分野の学びを通して、論理的な思考と創造力を磨きます。知能情報工学領域では、情報化社会を支えるソフトウェア技術を基礎に、ネットワーク、知能化、データ分析などの技術について専門知識を学びます。ヒューマン支援ロボット領域では、計測技術と制御工学を基礎とし、人間生活に関わるロボットへの応用につながる技術を身につけます。専門必修、専門選択科目を各年次にバランス良く配置し、自由度の高いカリキュラムに、プロジェクトスタディーズ、ケーススタディ、卒業研究という能動学習と課題解決型学習の要素を加え、充実した環境で学習できるように配慮しています。さらに、英語を中心にトレーニングできる国際技術協力及び教員（数学・情報）養成の教育プログラムも用意しています。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

理工学部では学科を問わず、創価大学の建学の精神を尊重しつつ、理工学の基礎から応用にいたる学問分野を学ぶ以下のような人材を広く社会に求めます。

- (1) 人間主義を標榜し、社会に必要な科学技術の健全な価値を提示したいと願う人
- (2) 平和の理念に徹し、民衆幸福のため他者へ貢献する世界市民をめざす人
- (3) 進取の気性を持ち、真摯に学問に取り組む労苦を惜しまない人

また、上記の志とともに、高い専門性を獲得する意志が強固であること、及び、大学での学習の基礎となる基礎知識と問題を解く力が求められます。理工学部では専門科目の基礎となる高等学校レベルの数学と理科とともに、新たな知識の吸収と問題の解法や説明に必要な言語の理解と構成の能力を入学の条件とします。

6. 卒業要件

理工学部情報システム工学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	
共通科目 (54～58 頁)	①基礎科目	初年次プロジェクト	必修科目	2 単位	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されません
		学術文章作法	選択必修科目	2 単位	
	②大学科目		選択必修科目	4 単位	
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4 単位	
	⑤人文科学系科目		選択必修科目	2 単位	
	⑥社会科学系科目		選択必修科目	2 単位	
外国語科目	第1外国語 ※1		選択必修科目	6 単位	
	第2外国語 ※2		選択必修科目	4 単位	
情報システム工学科 専門科目 (128～129 頁)	必修科目			20 単位	
	選択必修科目 ※3			2 単位	
	選択科目			48 単位	
自由選択 ※4	『共通科目』『情報システム工学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(教職課程及び社会教育主事課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			28 単位以上	
合 計				124 単位以上	

※1 第1外国語は原則として「英語」とし、学部学科英語科目(129 頁)を優先に履修して卒業に必要な6 単位を修得してください。

※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(54～55 頁)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4 単位を修得してください。

※3 専門選択必修科目で2 単位を超えてした単位数は、『専門選択科目』の単位として算入されます。

※4 自由選択とは『共通科目』『情報システム工学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目(教職課程、又は社会教育主事課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。

ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『情報システム工学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を50 単位修得した場合に、2 単位が自由選択の単位として計算されません(自由選択を28 単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■情報システム工学科の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了 時点の条件 通算 GPA 最低修得 数値基準 単位数	
24 単位	特設課程科目	16 単位	3.30	4 単位	可	情報システム工学科は 早期卒業の制度はありません		

8. 履修モデル

下図は、全学共通科目、学科専門科目、自由選択科目を履修していく際のガイドラインです。このモデルを参考に単位を修得してください。

年次	期	共通科目・外国語科目						専門科目			自由 選択	
		選択必修科目						必修	選択 必修	選択		
		①基礎	②大学	第1 外国語 (英語)	第2外 国語 (英語以 外)	④世界 市民	⑤人文 科学系					⑥社会 科学系
1年次	春	4		2	2		2		10			
	秋		2	2	2			2			10	
2年次	春		2	2		2					8	6
	秋					2					8	8
3年次	春								2	2	8	6
	秋								2		6	8
4年次	春								2		4	
	秋								2		4	
計		4	4	6	4	4	2	2	20	2	48	28

※卒業に必要な共通科目及び外国語科目の単位は、2年次終了までに修得するようにしてください。

9. ケーススタディの履修について

(1) 注意事項

- ① ケーススタディの各テーマは定員制です。
- ② 2年次秋学期に事前ガイダンス及び申し込みがあります。

(2) 履修条件について

「ケーススタディⅡ」は「ケーススタディⅠ」を修得してからでないと履修できません。

10. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 注意事項

- ① 演習は定員制です。
- ② 演習Ⅰ～Ⅱは、同じ教員のもとで行います。

(2) 履修条件について

「演習Ⅱ」は「演習Ⅰ」を修得してからでないと履修できません。

※「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」の単位が修得できなかった場合、卒業が遅れることになります。

(3) 卒業見込証明書について

上記の(2) 履修条件があるため、条件を満たさない場合は、演習科目が履修できなくなることから卒業が遅れます。したがって、この場合は卒業見込証明書は発行されません。

11. 卒業研究の履修について

(1) 卒業研究についての注意事項

卒業研究Ⅰ・Ⅱは、原則として、演習Ⅰ・Ⅱと同じ教員のもとで行います。

(2) 履修条件について

- ① 「卒業研究Ⅰ」は、合計100単位以上修得していないと履修できません。
- ② 「卒業研究Ⅱ」は、「卒業研究Ⅰ」を修得してからでないと履修できません。

1.2. 専門科目の認定について

情報システム工学科では、以下の資格を取得した場合は、本人の申請により、下記の通り専門科目の単位を認定します。

※共生創造理工学科の学生は、別途学科で定められた資格を取得した場合、下記(3)の手続きを経ると、専門科目としての認定を受けることができます。

(1) 単位認定を行う資格試験

主催団体	資格試験名
情報処理技術者試験センター	基本情報技術者試験
	応用情報技術者試験
	ITストラテジスト試験
	システムアーキテクト試験
	プロジェクトマネージャ試験
	ネットワークスペシャリスト試験
	データベーススペシャリスト試験
	エンベデッドシステムスペシャリスト試験
	ITサービスマネージャ試験
	情報セキュリティマネジメント試験
	システム監査技術者試験
(財)画像情報教育振興協会	CGクリエイター検定(エキスパート)
	Webデザイナー検定(エキスパート)
	CGエンジニア検定(エキスパート)
	画像処理エンジニア検定(エキスパート)
	マルチメディア検定(エキスパート)

(2) 単位認定科目

科目名	認定単位
資格認定 I～IV	最大 6 単位まで認定

(3) 手続き

- ① 単位認定を希望する学生は、所定の申請書と合格証書の原本（事務室で写しを取った後に本人に返却）を理工学部事務室に提出してください。
- ② その後、教授会の審議を経て認定されます。

1.3. インターンシップについて

このインターンシップは共通科目・⑧キャリア教育系科目の「インターンシップ」とは異なり、専門選択科目の「インターンシップ（2単位）」として認定されます。情報システム工学科専門科目である「インターンシップ」の対象や手続きは次のようになります。

(1) 対象となるインターンシップ

- ① キャリアセンターが紹介するインターンシップ … 大学紹介インターンシップ
- ② その他のインターンシップ … 公募制インターンシップ（注1）

上記いずれかのインターンシップで、実施期間が 10 日(80 時間)以上であり、専門科目としての教育効果が十分に期待できるもの。

(2) 手続方法

- ① 大学紹介インターンシップを希望する場合は、共通科目の「インターンシップ」の場合と同様に、事前にキャリアセンターに志願書を提出する（注2）。以後は、キャリアセンターの指示に従う。

- ② 受入先が決定したら、すみやかに「専門科目のインターンシップを希望する」ことをキャリアセンター・理工学部事務室の双方に伝える（注3）。
- ③ 学科会議及び教授会で承認されれば専門科目として認定される。

(3) その他

インターンシップの受入先で研究発表会などが予定された場合は、可能な限り教員が参加します。

- 注1：「理工学部教員又は理工学部長の推薦状」等が必要な場合は、学科長又は教務委員に申し出ること。
- 注2：キャリアセンターに志願書の提出を行わなかった場合には、「キャリアセンターが紹介するインターンシップ（大学紹介インターンシップ）」に応募することはできない。
- 注3：「専門科目のインターンシップを希望する」ことを伝えなかった場合には「共通科目」として取り扱われる。

これらインターンシップ科目の「レポート課題」・「単位認定の条件」については以下を参照ください。

■創価大学インターンシップのウェブサイト：http://career.soka.ac.jp/student_internship.html

■専門科目表の見方（情報システム工学科専門科目）

次のページから掲載されている情報システム工学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	情報システム工学科、又は理工学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は情報システム工学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は理工学部生以外の履修はできません。
⑦備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。

■理工学部 情報システム工学科 専門科目表 (2019年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考
必修科目 10科目20単位						
INFO172	プロジェクト・スタディーズ	30	2	1~	※	
INFO111	微積分学Ⅰ	30	2	1~		連携(済)
INFO112	線型代数学Ⅰ	30	2	1~		
INFO113	数学演習Ⅰ	30	2	1~		
INFO161	プログラミング演習Ⅰ	30	2	1~	※	
INFO151	情報システム総論	30	2	1~	※	
INFO371	ケーススタディⅠ	30	2	3~	※	
INFO372	ケーススタディⅡ	30	2	3~	※	
INFO471	演習Ⅰ	30	2	4	※	
INFO472	演習Ⅱ	30	2	4	※	
選択必修科目 2単位以上						
INFO462	情報工学実験	60	2	2~	※	
INFO361	電子工学実験	60	2	2~	※	
INFO362	数理科学実験	60	2	3~	※	
INFO461	ネットワーク実験	60	2	3~	※	
選択科目 48単位以上						
SCEN121	物理学A(基礎力学)	30	2	1~		
INFO152	情報社会論	30	2	1~		
INFO114	微積分学Ⅱ	30	2	1~		連携(済)
INFO115	線型代数学Ⅱ	30	2	1~		
INFO116	数学演習Ⅱ	30	2	1~		
SCEN122	物理学B(基礎電磁気学)	30	2	1~		
INFO162	プログラミング演習Ⅱ	30	2	1~	※	
INFO133	電子工学概論	30	2	1~		
INFO213	論理と集合	30	2	1~		
INFO102	国際交流論	30	2	1~	×	
INFO211	確率統計	30	2	2~		
INFO212	複素関数論	30	2	2~		
INFO252	数値解析	30	2	2~		
INFO253	データ構造	30	2	2~		
INFO261	ソフトウェア演習A	30	2	2~	※	
INFO254	情報計測工学	30	2	2~		
INFO311	微分方程式	30	2	2~		
INFO214	幾何学Ⅰ	30	2	2~	※	
INFO331	解析力学	30	2	2~		
INFO332	光学	30	2	2~		
INFO351	言語処理アルゴリズム	30	2	2~		
INFO262	ソフトウェア演習B	30	2	2~	※	
INFO352	デジタル回路基礎論	30	2	2~		
INFO353	制御工学	30	2	2~		
INFO354	計算機アーキテクチャ	30	2	2~		
INFO355	オペレーティングシステム	30	2	2~		
INFO312	代数学Ⅰ	30	2	2~		
INFO314	位相数学	30	2	2~	※	
INFO452	オペレーションズリサーチ	30	2	2~		
INFO255	情報理論	30	2	2~		
INFO281	数学科教育法Ⅰ	30	2	2~	※	
INFO282	数学科教育法Ⅱ	30	2	2~	※	
INFO291	情報科教育法Ⅰ	30	2	2~	※	
INFO292	情報科教育法Ⅱ	30	2	2~	※	
INFO251	数理計画法	30	2	3~		
INFO411	代数学Ⅱ	30	2	3~		
INFO313	数学史	30	2	3~		
INFO431	量子力学	30	2	3~		
INFO432	電磁力学	30	2	3~		
INFO413	現代数学概説A	30	2	3~		
INFO414	現代数学概説B	30	2	3~		
INFO356	ソフトウェア工学	30	2	3~		
INFO357	コンピュータネットワーク論	30	2	3~		
INFO358	シミュレーション論	30	2	3~		
INFO458	データベース論	30	2	3~		
INFO359	人工知能	30	2	3~		
INFO421	ソフトコンピューティング	30	2	3~		
INFO422	暗号理論	30	2	3~		
INFO451	情報セキュリティ論	30	2	3~		

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考
選択科目 48単位以上（つづき）						
INFO454	データ解析	30	2	3～	×	
INFO263	ソフトウェア演習C	30	2	3～	※	
INFO264	ソフトウェア演習D	30	2	3～	※	
INFO455	信号理論	30	2	3～		
INFO456	マルチメディア論	30	2	3～		
INFO457	知的財産法概論	30	2	3～		
INFO463	マルチメディア演習	30	2	3～	※	
INFO459	特別講義	30	2	3～	※	
INFO391	Academic English for science I	30	2	3～	※	
INFO392	Academic English for science II	30	2	3～	※	
INFO511	幾何学Ⅱ	30	2	3～		
INFO283	数学科教育法Ⅲ	30	2	3～	※	
INFO284	数学科教育法Ⅳ	30	2	3～	※	
INFO293	情報と職業	30	2	3～	×	
INFO473	卒業研究Ⅰ	-	4	4	※	
INFO474	卒業研究Ⅱ	-	4	4	※	
INFO108	理工学基礎特別演習Ⅰ	30	2	1～	※	[認定用]
INFO109	理工学基礎特別演習Ⅱ	30	2	1～	※	[認定用]
SCEN206	資格認定Ⅰ	-	1	1～	※	[認定用]
SCEN207	資格認定Ⅱ	-	1	1～	※	[認定用]
SCEN208	資格認定Ⅲ	-	2	1～	※	[認定用]
SCEN209	資格認定Ⅳ	-	2	1～	※	[認定用]
SCEN203	インターンシップ	60	2	2～	※	[認定用]
SCEN204	特別実習	60	2	2～	※	[認定用]
学部学科英語科目 ※この科目は言語科目（英語）の単位として算入						
SCEN101	English Communication for Science I	60	2	1～	※	
SCEN102	English Communication for Science II	60	2	1～	※	
INFO103	English for Information Technologies I	30	1	2～	※	
INFO104	English for Information Technologies II	30	1	2～	※	
SCEN201	English for International Technical Cooperation I	60	2	2～	※	
SCEN202	English for International Technical Cooperation II	60	2	2～	※	

※備考の[認定用]は資格試験や海外研修等による単位認定用科目（条件があります）を表します。

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

1. 理念・目的

創価大学の建学の精神を尊重し、人間主義に基づいた人類の平和と多様な文化の繁栄に資する教育、研究、社会貢献を、理工学の分野において実現することを目的としています。

2. 教育目標

“建学の精神にもとづき『創造的人間』を育成する”というグランドデザインを実現すべく、サイエンスとテクノロジーを人類の真の平和と発展に役立てることを教育の目標としています。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

理工学部の教育理念に沿って設置された講義、実験、演習などの授業科目を履修し、各学科の基準となる卒業単位を習得することにより、以下の要件を満たす者に対し、共生創造理工学科には学士(理工学)を授与します。

- (1) 創価コアプログラム（全学共通科目）を通じて人間主義の理念、汎用的素養、そして幅広い教養を習得し、実用的な語学力を身に着けている。
- (2) 専門導入科目及び専門演習科目を通じて、協調性と社会性を培いながら、課題探究力と解決力、そしてコミュニケーション能力を磨いている。
- (3) 各領域の学術分野において社会貢献に資する工学・理工学の専門的知識を習得している。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

理工学部では、教育目標を達成するために人間教育にもとづく創価コアプログラムを1、2年次に履修し、基礎的学力としての語学力、人文科学・社会科学などの他分野の知識、社会問題の多角的認識を修得することを義務づけています。

共生創造理工学科では建学の精神を尊び、理工学の学問への挑戦を通じて、人類の公共の福祉に貢献する、高い志を有した人材を育成します。

様々な学生の志向及びその変化に対応できるよう、専門導入科目と専門基礎科目では、分野横断的に幅広い専門基礎力を養い、2年次秋学期から専門領域を定めます。

Project-based learning (PBL) 科目を初年度から導入し、自立的学習態度と主体的な学習意欲の向上を、アクティブ・ラーニングを通して促し、意思表示力及び課題解決力を養います。

学生の興味に応じて学術分野の選択ができるよう、領域必修科目 10 単位の履修により専門理工学領域を決定します。複数の領域専攻も可能です。

自由選択により、専門性を更に深化させる領域専門科目や卒業研究、融合的分野への興味に対応する為の他領域科目、あるいは文系分野の科目も履修できます。さらに専門的資格も取得できます。

中・高理科教員をめざす学生のための特別教育プログラム (EP) を設置し、創造的教育技術の涵養を図ります。

国際貢献をめざす学生のため、国際技術協力 EP を設置し、国際感覚を高める科目や、英語による専門科目など戦略的に授業を展開します。将来の目標に無理なく進めるようカリキュラムを構成し、1年以内の留学であれば、4年間での卒業が可能です。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

理工学部では学科を問わず、創価大学の建学の精神を尊重しつつ、理工学の基礎から応用にいたる学問分野を学ぶ以下のような人材を広く社会に求めます。

- (1) 人間主義を標榜し、社会に必要な科学技術の健全な価値を提示したいと願う人
- (2) 平和の理念に徹し、民衆幸福のため他者へ貢献する世界市民をめざす人
- (3) 進取の気性を持ち、真摯に学問に取り組む労苦を惜しまない人

また、上記の志とともに、高い専門性を獲得する意志が強固であること、及び、大学での学習の基礎となる基礎知識と問題を解く力が求められます。理工学部では専門科目の基礎となる高等学校レベルの数学と理

科とともに、新たな知識の吸収と問題の解法や説明に必要な言語の理解と構成の能力を入学の条件とします。

6. 卒業要件

理工学部共生創造理工学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性		卒業に必要な単位数	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されず	
共通科目 (54～58 頁)	①基礎科目	初年次プロジェクト	必修科目		2 単位
		学術文章作法	選択必修科目		2 単位
	②大学科目		選択必修科目		4 単位
	④世界市民教育科目		選択必修科目		4 単位
	⑤人文科学系科目		選択必修科目		2 単位
	⑥社会科学系科目		選択必修科目		2 単位
外国語科目	⑧キャリア教育系科目	※1	選択必修科目		2 単位
	第1 外国語	※2	選択必修科目		6 単位
共生創造理工学科 専門科目 (136～138 頁)	第2 外国語	※3	選択必修科目		4 単位
	専門導入科目	必修科目		6 単位	
	専門基礎科目	必修科目		2 0 単位	
		選択必修科目		4 単位	
専門演習科目	必修科目		8 単位		
専門応用科目	領域選択必修科目		※4	1 0 単位	
	選択科目			2 8 単位	
自由選択 ※5	『共通科目』『共生創造理工学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目（教職課程及び社会教育主事課程登録者のみ履修可）』から自由に選択して修得した単位		2 0 単位以上		
合 計			1 2 4 単位以上		

- ※1 共通科目の「⑧キャリア教育系科目」は、理工学部生用に開講される「キャリアビジョンⅠ」を履修してください。
- ※2 第1 外国語は原則として「英語」とし、理工学部生のために用意された学部学科英語科目（138 頁）を以下の通り履修します。1 年次は「English Communication for Science I・II」を、2 年次は「English for Science and Engineering I・II」を履修してください。ただし、国際技術協力 EP 生は2 年次に「English for International Technical Cooperation I・II」を履修してください。この科目は国際技術協力 EP 生以外の学生も履修できますが、担当教員の許可が必要です。また、GCP 生はプログラムで指定された英語科目を履修してください。
- ※3 第2 外国語は、共通科目の「③言語科目」（54～55 頁）から、第1 外国語として選択した言語以外の1 つの言語（ただし言語演習を除く）で4 単位を修得してください。
- ※4 専門応用科目では、各自が申告した領域の領域選択必修科目〔専門科目表：▲印〕10 単位の修得が必要です。なお、領域選択必修科目で10 単位を超えて習得した単位は、専門応用科目の選択科目の単位として算入されます。
- ※5 自由選択とは『共通科目』『共生創造理工学科専門科目』『他学科専門科目』『特設課程科目（教職課程、又は社会教育主事課程登録者のみ履修可）』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』『共生創造理工学科専門科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群や領域の科目の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門応用科目の選択科目を30 単位修得した場合に、2 単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を20 単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■ 共生創造理工学科の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学 4 セメスター終了 時点の条件 通算 GPA 最低修得 数値基準 単位数	
24 単位	特設課程科目 国際技術協力論 海洋学実習 特別講義 I・II	16 単位	3.30	4 単位	可	共生創造理工学科は 早期卒業の制度はありません		

8. 履修モデル

下表は必要な卒業単位を履修するための一例です。実際の履修科目は各自異なります。「9. 履修ガイダンス」を参考に、専任教員と相談の上、自分で履修計画を作成してください。

授業科目		年次	1		2		3		4		科目群 合計単位	
		期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
共通科目・ 外国語科目	必修科目	初年次プロジェクト		2							2	
	選択必修 科目	学術文章作法		2								2
		①大学科目			2	2						4
		④世界市民教育科目		2		2						4
		⑤人文科学系科目		2								2
		⑥社会科学系科目					2					2
		⑧キャリア教育系科目						2				2
		第1外国語		2	2	1	1					6
	第2外国語		2	2							4	
		小 計	12	6	5	3	2	0	0	0	28	
専門科目	専門導入	必修科目			2	2		2			6	
	専門基礎	必修科目		6	10	4					20	
		選択必修科目			2	2					4	
	専門演習	必修科目						2	2	2	2	8
	専門応用	領域選択必修科目					6	2	2			10
選択科目				4	6	8	6	2	2	28		
		小 計	6	14	12	12	14	10	4	4	76	
自由 選択	共通科目							2			20	
	専門科目		2						5	5		
	他学部専門科目					2						
	特設課程科目											
	専門関連科目・専門学外学修科目						2	2				
		小 計	2	0	0	2	2	4	5	5		
各期履修単位合計			20	20	17	17	18	14	9	9	124	

9. 履修相談について

- ・ 毎学期はじめに学年別に学科ガイダンスを行います。履修について説明しますので日程を自ら確認して必ず出席してください。
- ・ 履修推奨システムや科目体系図などを利用して履修科目を各自で決めてください。
- ・ 個人の履修相談はアドバイザー教員が行います。1年次と2年次はコンタクトグループの担当教員がアドバイザー教員になります。3年次は「ケーススタディⅠ・Ⅱ」、4年次は「演習Ⅰ・Ⅱ」の担当教員がアドバイザー教員として履修相談を行います。必要な場合は教務委員が履修相談を行います。

10. 専門領域について

- ・ 2年次秋学期の履修登録時に、応用物理学、物質理工学、生命理工学、環境理工学の4つの専門領域のうち1つを主領域として各自申告します。
- ・ 各専門領域で指定された領域選択必修科目[専門科目表▲印]から5科目 10単位を修得することにより各自の専門領域が確定します。
- ・ 各専門領域が指定する領域選択必修科目は下表を参照してください。専門科目表の備考欄にも各領域選択必修科目の専門領域が記載されています。
- ・ 領域選択必修科目の中には2年次春学期から履修する科目があるので注意してください。
- ・ 主領域以外の領域選択必修科目を副領域として10単位修得することにより、2つの専門領域の学修も可能です。

専門領域	理学系	理工学系	工学系
応用物理学	光学、連続体物理学、非線型物理学	物性物理概論	電子工学実験
物質理工学	物理化学A、有機化学Ⅱ、分析化学、無機化学	マテリアルサイエンス実験、物理化学実験	
生命理工学	微生物学、細胞生物学、生化学、生化学実験、分子生物学、分子生物学実験	バイオインフォマティクス演習	
環境理工学	微生物学、生態学、地球科学概論、地球化学	環境科学、環境分析化学実験	

11. 理工学部 Educational Program (EP) について

中学・高校理科の教員を志望する学生のための理科教員養成EPと、開発途上国などを技術的に支援できる人材を育てることを目的とした国際技術協力EPがあります。EPを修了するためには、卒業要件を満たしつつ、所定の「EP特設カリキュラム」を履修する必要があります。詳しくは理工学部発行の資料を参照してください。

12. ケーススタディの履修について

(1) 履修登録

- ・ 「ケーススタディⅠ」と「ケーススタディⅡ」は必修科目です。
- ・ 「ケーススタディⅠ」と「ケーススタディⅡ」は定員制です。履修する学期の直前学期にクラス分けを行います。詳細は学科ガイダンスで説明します。
- ・ 事情により「ケーススタディⅠ」を秋学期に履修したい場合は、できるだけ早く教務委員に相談してください。

(2) 履修条件について

「ケーススタディⅡ」の履修は「ケーススタディⅠ」の修得が条件となります。

13. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 履修登録

- ・ 「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は必修科目です。「卒業研究Ⅰ」や「卒業研究Ⅱ」を履修しない学生も単位修得が必要です。
- ・ 「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は定員制です。履修する学期の直前学期に「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」と同時に研究室

配属を行います。詳細は学科ガイダンスで説明します。

- ・ 「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は原則として同じ教員のもとで履修します。「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」を履修する学生は、同じ教員のもとで「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」を履修します。

(2) 履修条件

履修するためには以下の条件を満たす必要があります。

- ① 6セメスター在籍していること
- ② 「演習Ⅱ」の履修は「演習Ⅰ」を修得していること

(3) 留意事項

「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」の単位修得ができない場合は卒業できません。修得若しくは履修登録していない場合、卒業見込証明書は発行されません。卒業できなかった場合には進路の内定は取り消しになります。

14. 卒業研究の履修について

(1) 履修登録

- ・ 「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は選択科目です。
- ・ 「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は定員制です。履修する学期の直前学期に「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ」と同時に研究室配属を行います。詳細は学科ガイダンスで説明します。
- ・ 「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は原則として同じ教員のもとで履修します。また、「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」も同じ教員のもとで履修します。

(2) 履修条件について

履修するためには以下の条件を満たす必要があります。

- ① 「卒業研究Ⅰ」を履修する学期までに卒業に必要な単位のうち合計 100 単位以上を修得していること
- ② 「卒業研究Ⅱ」の履修は「卒業研究Ⅰ」を修得していること

16. インターンシップについて

「インターンシップ（理工）」は共通科目⑧キャリア系教育科目の「インターンシップ」とは異なり、専門学外学修科目のインターンシップ（2単位）として認定されます。対象となるインターンシップや手続き方法は次のようになります。

(1) 対象となるインターンシップ

- ① キャリアセンターが紹介するインターンシップ … 大学紹介インターンシップ
- ② その他のインターンシップ … 公募制インターンシップ（注1）

上記いずれかのインターンシップで、実施期間が10日（80時間）以上であり、専門科目としての教育効果が十分に期待できるもの。

(2) 手続き方法

- ① 大学紹介インターンシップを希望する場合は、共通科目の「インターンシップ」の場合と同様に、事前にキャリアセンターに志願書を提出する（注2）。以後は、キャリアセンターの指示に従う。
- ② 受入先が決定したら、すみやかに「専門科目のインターンシップを希望する」ことをキャリアセンター・理工学部事務室の双方に伝える（注3）。
- ③ 学科会議及び教授会で承認されれば専門科目として認定される。

(3) その他

インターンシップの受入先で研究発表会などが予定された場合は、可能な限り教員が参加します。

注1：上記(1) ②のその他のインターンシップを希望する場合には、企業等の「受入先決定書」をキャリアセンターに提出し、「専門科目のインターンシップを希望する」ことをキャリアセンターに伝える（注3）。このとき、「キャリアセンターの紹介状」又は「理工学部教員又は理工学部長の推薦状」等が必要な場合は、学科長又は教務委員に申し出ること。

注2：キャリアセンターに志願書の提出を行わなかった場合には、上記(1) ①のキャリアセンターが紹介す

るインターンシップ（大学紹介インターンシップ）に応募することはできない。

注3：「専門科目のインターンシップを希望する」ことを伝えなかった場合には、共通科目の「インターンシップ」として取り扱われる。

これらインターンシップ科目の「レポート課題」・「単位認定の条件」については以下を参照ください。

・創価大学インターンシップのウェブサイト：http://career.soka.ac.jp/student_internship.html

17. 専門科目の認定について

共生創造理工学科では、学科が定める資格を取得した場合は、本人の申請により、下記の通り専門科目の単位を認定します。

(1) 単位認定を行う資格試験

・共生創造理工学科が定める資格（理工学部事務室で確認できます）

(2) 単位認定科目

科 目 名	認 定 単 位
資格認定 I～IV	最大6単位まで認定

(3) 手続き

- ① 単位認定を希望する学生は、所定の申請書と合格証書の原本（事務室で写しを取った後に本人に返却）を理工学部事務室に提出してください。
- ② その後、教授会の審議を経て認定されます。

■ 専門科目表の見方（共生創造理工学科専門科目）

次のページから掲載されている共生創造理工学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科 目 名	授業時間	単 位	履修年次	領域				他学科履修	備 考
					応物	物質	生命	環境		
①	②	③	④	⑤	⑥				⑦	⑧
①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。									
②科 目 名	時間割表などに掲載される科目名称です。									
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています（ただし卒業研究を除く）。									
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です									
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。									
⑥領 域	どの科目が領域選択必修科目として指定されている科目かを表します。選択した領域列に「▲」が付されている科目を10単位以上修得する必要があります。なお、領域名は以下の略です。 応物：応用物理学／物質：物質理工学／生命：生命理工学／環境：環境理工学									
⑦他学科履修	共生創造理工学科、又は理工学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は共生創造理工学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は理工学部生以外の履修はできません。									
⑧備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。									

■理工学部 共生創造理工学科 専門科目表 (2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	領域				他学科 履修	備考
					応物	物質	生命	環境		
専門導入科目 (◎必修科目 6単位)										
SESI102	プロジェクト・スタディーズ	30	2	1	◎	◎	◎	◎	※	
SESI201	理工学総論	30	2	2	◎	◎	◎	◎	×	
SESI301	先端理工学トピックス	30	2	3	◎	◎	◎	◎		
専門基礎科目 (◎必修科目 20単位 △選択必修科目 4単位以上)										
必修科目 (20単位)										
SESI103	基礎科学実験	60	2	1	◎	◎	◎	◎	×	
SESI111	初等微積分学	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SESI113	線型数理	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SCEN121	物理学A(基礎力学)	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SCEN122	物理学B(基礎電磁気学)	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SESI141	化学A	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SESI142	化学B	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SESI161	生物学A	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SESI162	生物学B	30	2	1	◎	◎	◎	◎		
SESI212	コンピュータ演習	30	2	2	◎	◎	◎	◎	※	
選択必修科目 (4単位以上)										
SESI143	化学実験	60	2	1	△	△	△	△		
SESI123	物理学実験	60	2	2	△	△	△	△		
SESI163	生物学実験	60	2	2	△	△	△	△		
その他の専門基礎科目 ※自由選択の単位として算入されます										
SESI110	基礎数学	30	2	1					×	
SESI120	基礎物理学	30	2	1					×	
SESI140	基礎化学	30	2	1					×	
SESI160	基礎生物学	30	2	1					×	
専門演習科目 (◎必修科目 8単位)										
必修科目 8単位										
SESI302	ケーススタディ I	30	2	3	◎	◎	◎	◎	※	
SESI303	ケーススタディ II	30	2	3	◎	◎	◎	◎	※	
SESI401	演習 I	30	2	4	◎	◎	◎	◎	※	
SESI402	演習 II	30	2	4	◎	◎	◎	◎	※	
その他の専門演習科目 ※自由選択の単位として算入されます										
SESI403	卒業研究 I	-	-	5	4					※
SESI404	卒業研究 II	-	-	5	4					※
専門応用科目 (選択科目 38単位以上) ※選択した領域の領域必修科目(▲印)を10単位含むこと。										
理学系										
SESI211	統計学	30	2	2						
SESI104	自然科学史	30	2	2						
SESI213	アドバンスプログラミング演習	30	2	2					※	
SESI221	光学	30	2	2	▲					
SESI222	解析力学	30	2	2						
SESI321	統計熱力学	30	2	3						
SESI322	基礎光物性	30	2	3						
SESI323	量子力学	30	2	3						
SESI324	微分方程式	30	2	3						
SESI325	連続体物理学	30	2	2	▲					
SESI326	非線型物理学	30	2	3	▲					
SESI421	現代物理概論	30	2	3						
SESI422	電磁力学	30	2	3						
SESI241	有機化学 I	30	2	2						
SESI242	有機化学 II	30	2	2		▲				
SESI243	分析化学	30	2	2		▲				
SESI244	物理化学A	30	2	2		▲				
SESI245	物理化学B	30	2	3						
SESI246	物理化学実験	60	2	2		▲			×	
SESI341	無機化学	30	2	3		▲				
SESI342	量子化学	30	2	3						
SESI343	電気化学	30	2	3						
SESI261	微生物学	30	2	2			▲	▲		
SESI262	微生物学実験	60	2	2					×	
SESI263	分子生物学	30	2	2			▲			
SESI363	分子生物学実験	60	2	3			▲		×	
SESI264	生化学	30	2	2			▲			
SESI364	生化学実験	60	2	3			▲		×	
SESI265	生態学	30	2	2				▲		
SESI266	多様性生物学	30	2	3						

◎必修科目 △選択必修科目 ▲領域選択必修科目 (無印) 選択科目・自由選択科目

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	領域				他学科 履修	備考
					応物	物質	生命	環境		
専門応用科目（選択科目 38単位以上）（つづき） ※選択した領域の領域必修科目（▲印）を10単位含むこと。										
理学系（つづき）										
SESI267	植物生理生態学	30	2	2						
SESI268	細胞生物学	30	2	2			▲			
SESI361	発生生物学	30	2	3						
SESI362	構造生物学	30	2	3						
SESI365	分子細胞生物学 I	30	2	3						
SESI366	分子細胞生物学 II	30	2	3						
SESI461	代謝生化学	30	2	3						
SESI463	酵素化学	30	2	3						
SESI464	免疫科学	30	2	3						
SESI281	地球科学概論	30	2	2				▲		
SESI282	気候学	30	2	2						
SESI381	地球化学	30	2	3				▲		
SESI382	土壌植物肥料学	30	2	3						
SESI384	地球科学実験	60	2	3					×	
SESI385	海洋学実習	60	2	3					×	[制限外]
理工学系										
SESI231	レーザ科学入門	30	2	2						
SESI331	物性物理概論	30	2	3	▲				※	
SESI311	情報工学実験	60	2	3					※	
SESI312	情報センシング	30	2	3						
SESI411	信号理論	30	2	3						
SESI351	マテリアルサイエンス	30	2	3						
SESI352	マテリアルサイエンス実験	60	2	3		▲			×	
SESI353	機器分析学	30	2	3						
SESI371	ニューロサイエンス	30	2	3						
SESI372	神経生物学	30	2	3						
SESI373	バイオインフォマティクス演習	30	2	3				▲		
SESI374	バイオプログラミング	30	2	3						
SESI376	生物機器分析学	30	2	3						
SESI471	ゲノム情報科学	30	2	3						
SESI472	ナノサイエンス	30	2	3						
SESI391	エネルギー資源学	30	2	3						
SESI392	環境科学	30	2	3				▲		
SESI394	環境分析化学実験	60	2	3				▲	×	
SESI395	生態環境工学	30	2	3						
SESI491	環境計量学	30	2	3						
SESI318	特別講義 I	15	1	3						[制限外]
SESI319	特別講義 II	15	1	3						[制限外]
工学系										
SESI214	デジタル回路基礎論	30	2	2	▲					
SESI232	電子工学実験	60	2	2					※	
SESI291	科学技術論	30	2	2						
SESI313	計算機アーキテクチャ	30	2	3						
SESI332	制御工学	30	2	3						
SESI354	食品工学	30	2	3						
SESI355	バイオテクノロジー	30	2	3						
SESI375	反応工学	30	2	3						
SESI396	化学工学 I	30	2	2						
SESI397	化学工学 II	30	2	3						
SESI398	化学工学実験	60	2	3					×	
SESI399	廃棄物処理工学	30	2	3						
専門関連科目 ※自由選択の単位として算入されず										
SCEN103	Japan Studies Program Engineering and Natural Sciences	30	2	1						
SESI204	国際技術協力論	30	2	2						[制限外]
SESI205	国際交流論	30	2	1						
SESI207	環境教育論	30	2	2						
SESI307	環境経済学	60	4	3						
SESI305	Academic English for Science I	30	2	3					※	
SESI306	Academic English for Science II	30	2	3					※	

◎必修科目 △選択必修科目 ▲領域選択必修科目（無印）選択科目・自由選択科目

※備考の[制限外] 履修制限単位数には含まれない科目であることを表す。

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	領域				他学科 履修	備考
					応物	物質	生命	環境		
専門学外学修科目 ※自由選択の単位として算入されます										
SESI106	理工学特別演習 I A	15	1	1					※	[認定用]
SESI107	理工学特別演習 I B	15	1	1					※	[認定用]
SESI108	理工学特別演習 II A	30	2	1					※	[認定用]
SESI109	理工学特別演習 II B	30	2	1					※	[認定用]
SCEN203	インターンシップ	60	2	2					※	[認定用]
SCEN204	特別実習	60	2	2					※	[認定用]
SCEN206	資格認定 I	-	1	1					※	[認定用]
SCEN207	資格認定 II	-	1	1					※	[認定用]
SCEN208	資格認定 III	-	2	1					※	[認定用]
SCEN209	資格認定 IV	-	2	1					※	[認定用]
教職に関する科目 ※この科目は自由選択の単位として算入されます。 ※教職課程登録者のみ履修可										
SESI208	理科教育法 I	30	2	2					※	
SESI209	理科教育法 II	30	2	2					※	
SESI308	理科教育法 III	30	2	3					※	
SESI309	理科教育法 IV	30	2	3					※	
学部学科英語科目 ※この科目は言語科目(英語)の単位として算入されます										
SCEN101	English Communication for Science I	60	2	1					※	
SCEN102	English Communication for Science II	60	2	1					※	
SESI202	English for Science and Engineering I	30	1	2					※	
SESI203	English for Science and Engineering II	30	1	2					※	
SCEN201	English for International Technical Cooperation I	60	2	2					※	
SCEN202	English for International Technical Cooperation II	60	2	2					※	

◎必修科目 △選択必修科目 ▲領域選択必修科目 (無印) 選択科目・自由選択

※備考の[認定用] 資格試験、海外研修等での単位認定用科目(条件があります)であることを表す。

◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

1. 理念・目的

創価大学は、豊かな人間性を基盤として、人類が直面する個々の問題に真摯に取り組み、知恵を発揮していく「創造的人間」を育成することを教育理念に掲げています。これに基づき、看護学部は、幅広い教養を基盤として、「看護」に関わる知識・スキルを修得し、変化し続ける社会の中で継起する新たな課題・ニーズに、「知」と「技」を動員して果敢に挑みゆく、時代・社会の要請に応える看護学を探究し、これを実践できる人材の養成を目的としています。

2. 教育目標

看護学部は、「生命の尊厳を基調とし、生命力を引き出す慈愛の看護を実践できる人材の育成」を教育目標として掲げています。看護師という専門的職業人としての看護実践能力の修得はもちろんのこと、生涯にわたる学習推進能力を身につけ、人々の健康の根底にある構造的な国際課題にまで視野を広げ、人々と連携・協働して対処できる能力を育成します。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

創価大学のディプロマ・ポリシーに基づき、看護学部は以下の能力や学識の修得をもとめ、学位授与の要件を満たす者に、学士（看護学）を授与します。

- (1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。
- (2) 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践能力を身につける。
- (3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける。
- (4) 生涯にわたり自己を向上させゆく学習推進能力を身につける。
- (5) グローバルな視点から人々の健康問題を理解し、国際社会の中で他者と協同することのできる能力を身につける。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、看護学部は上記、学部のディプロマ・ポリシーに適う学生を育成するために、以下の方針でカリキュラムを編成します。

- (1) 生命の尊厳性を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う
 - ① 自他の人間存在への深い理解と洞察力を養うため、共通科目から 18 単位を必修とする。
 - ② 生命活動のプロセスとメカニズム理解のため、基礎医学関連科目を配置する。
 - ③ 人間生命の哲学的・倫理的意義を考究する科目を配置する。
- (2) 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践能力を身につける
 - ① 科学的根拠に基づく思考方法を養うための科目を配置する。
 - ② Evidence- Based Nursing を実践する能力を養うための科目を配置する。
- (3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける
 - ① コミュニケーション能力を養うための科目を配置する。
 - ② 社会福祉・医療に係わる法制度並びにその運用の実態を学ぶ科目を配置する。
 - ③ 多職種の役割・機能を理解し、チーム医療について学ぶ科目を配置する。
- (4) 複雑に変化し続ける環境に対応し、生涯にわたり自己を向上させゆく学習推進能力を身につける
 - ① 臨床の場において必要な情報を、適切に収集・活用するための能力を養うための科目を配置する。
 - ② 自ら課題を発見し、探究する能力を養うための科目を配置する。
- (5) グローバルな視点から人々の健康問題を理解し、国際社会の中で他者と協同することのできる能力を身につける
 - ① グローバル・イシューに対する関心、語学を基礎としたコミュニケーション能力、異文化との相

互理解からなるグローバルリテラシーを身につけるための科目を配置する。

- ② グローバルリテラシーの基礎となる英語科目を習熟度別で配置する。
- ③ 多様な自然・社会・文化的環境の中で生きる人々の生活と健康への理解・関心を促すための科目を配置する。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、看護学部の特質に従って、次のような学生を受け入れるため、以下のように選抜します。

- (1) 心身ともに健康で、生命の尊厳を探究し生涯学び続けていこうとする学生
- (2) 適切なコミュニケーションを通じ、良好な人間関係を形成しようとする学生
- (3) 人間の心と体に関心を持ち、科学的に理解しようとする学生
- (4) グローバル化する健康問題に関心を持ち、自発的に問題の探究をしようとする学生
- (5) 人々の健康の保持・増進のために看護の分野で社会に貢献しようとする学生

6. 卒業要件

看護学部看護学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性等			卒業必要単位数
共通科目 (54～58頁) ・ 外国語科目	①基礎科目 ※1	『学術文章作法Ⅰ』	必修科目	2単位
		『コンピュータ・リテラシーⅠ』	必修科目	2単位
	②大学科目		選択必修科目	2単位
	③言語科目（英語）		選択必修科目	6単位
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位
	⑤人文科学系科目 ⑥社会科学系科目 ※2		選択必修科目	2単位
看護学科 専門科目 (146～147頁)	専門基礎分野		必修科目	26単位
	看護の専門分野Ⅰ		必修科目	14単位
	看護の専門分野Ⅱ		必修科目	44単位
	看護の専門分野Ⅲ		必修科目	13単位
自由選択 ※3	『共通科目』『看護学科 専門選択科目』『他学科専門科目』から自由に選択して修得した単位			10単位以上
合 計				125単位以上

左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されます

※1 基礎科目は「学術文章作法Ⅰ」、及び「コンピュータ・リテラシーⅠ」を履修してください（これ以外の基礎科目は『自由選択』の単位として取り扱われます）。

※2 共通科目の⑤人文科学系科目又は⑥社会科学系科目の中から2単位以上を修得してください。

※3 自由選択とは『共通科目』、『看護学科・専門選択科目』、『他学科専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。

ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、共通科目の④世界市民教育科目を6単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を10単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■看護学科の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準			
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学 4 セメスター終了 時点の条件		
						通算 GPA 数値基準	最低修得 数値基準	最低修得 単位数	
25 単位	—	看護学科には成績優秀者の制度や早期卒業の制度はありません。							

8. 履修についてのガイドライン

1～2年次科目の修得の上に3～4年次科目を積み上げて履修します。

全体的に必修科目が多いので、履修の順序性について「1.1. 履修モデル」を参照し、4年間の履修計画を立て確実に履修することが大切です。

(1) 共通科目 ※共通科目一覧表を参照（54～58 頁）

1～2年次に履修することが望ましい。

- ① 必修科目の4単位は、基礎科目から「学術文章作法Ⅰ（2単位）」、「コンピュータ・リテラシーⅠ（2単位）」を1年次春学期に履修します。
- ② 選択必修科目は14単位です。
 - ・英語6単位は、1年次春・秋学期及び2年次春学期に履修します。
 - ・大学科目から2単位、④世界市民教育科目から4単位、⑤人文科学系科目あるいは⑥社会科学系科目から2単位を履修します。

(2) 専門科目

① 専門基礎分野

専門基礎分野は、「人間のからだところどころ」「健康と社会」の2つの内容（科目群）で構成されています。「人間のからだところどころ」は、人間のからだの基礎医学的理解を目指します。それぞれの領域の専門医がオムニバスで講義を担当します。

「健康と社会」では、健康問題の社会的側面について学びます。健康を維持するために必要な対人コミュニケーションの在り方、健康を増進する社会の在り方、生命に関わる倫理と医療の現場における倫理観について学修します。

② 看護の専門分野Ⅰ

1～2年次に履修する看護の基盤科目である基礎看護学科目12科目（14単位）は全てが必修科目です。特に、「基礎看護学実習Ⅱ」は後続する実習科目の履修条件となります。

③ 看護の専門分野Ⅱ

「成人看護学」「老年看護学」「精神看護学」「小児看護学」「母性看護学」「地域在宅看護学」の6つの科目群から構成されています。それぞれの講義・演習科目が実習科目の履修条件となります。

④ 看護の専門分野Ⅲ

この分野では9科目13単位が必修です。1～4年次にわたり積み重ねの学修をします。

1年次春学期に「キャリアプランニング基礎」を履修し、看護学を学ぶ上での基礎的な学修スキルを身につけると同時に、看護や医療・介護・福祉という様々な領域で活躍する人々をゲストスピーカーとして招き、キャリアプラン形成のロールモデルを提供します。

2年次には「国際保健学」を、3年次の実習前に「看護管理論」、「感染看護論」を、4年次には「災害看護論」を履修します。

また、3年次秋学期の「看護学研究方法論」、4年次春学期の「卒業研究演習」、4年次秋学期の「卒業論文」の履修を通して、学問としての看護を研究する力を培います。「卒業研究演習」と「卒業論文」は、原則として同じ教員のもとで行います。

⑤ 選択科目

看護学部の選択科目は、国際看護科目及び看護の統合発展科目並びに「生化学の基礎」です。履修にあたり以下の点を考慮してください。

- ・ 人間のからだとこころのより深い理解のために、「生化学の基礎」は、プレイスメントテストの結果にかかわらず、全員が履修することが望ましい。
- ・ 看護の統合発展科目では将来のキャリアも視野に入れて選択してください。

(3) 自由選択

共通科目、専門科目、他学部専門科目の中から自由に選択し、10単位を修得してください。

9. 履修条件のある科目

授業内容の理解のため、先行する関連科目の履修が求められる科目があります。下記の履修条件表、専門科目表（146～147頁）及びシラバスで、履修条件や推奨科目を確認してください。

履修条件がある科目	修得が必要な、又は履修中である科目
基礎看護学実習Ⅱ	看護学概論、看護理論、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ、生活援助技術Ⅳ、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰ、臨床看護技術Ⅰ、看護過程演習、構造機能学Ⅰ、構造機能学Ⅱ、病態生理学
成人看護学急性期実習	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護急性期援助論Ⅰ、成人看護急性期援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
成人看護学慢性期実習	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護慢性期援助論Ⅰ、成人看護慢性期援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
老年看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護援助論Ⅰ、老年看護援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
小児看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
精神看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
母性看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
地域在宅看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、地域在宅看護学概論、地域在宅看護援助論Ⅰ、地域在宅看護援助論Ⅱ、疫学・保健統計、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
看護実践統合実習	成人看護学急性期実習、成人看護学慢性期実習、老年看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、母性看護学実習、地域在宅看護学実習

10. 専門科目

専門科目表で、履修単位・履修年次・履修条件等を確認してください。

授業の原則的な時間数は、講義科目では1単位15時間から30時間、演習科目は1単位30時間、実習・研修科目は1単位45時間です。科目により1単位あたりの授業時間数に相違があります。

1.1. 履修モデル

看護師国家試験受験資格

125単位取得

科目区分	大学共通科目	専門基礎科目	看護専門科目		選択科目
単位 年次	18単位(必修)	26単位(必修)	71単位(必修)		10単位(選択)
4年次			卒業論文(2) 卒業研究演習(1) 災害看護論(1)	看護実践統合実習(2) 地域在宅看護学実習(2) 母性看護学実習(2)	看護専門職論(1) 家族看護論(1) クリティカルケア論(1) がん看護論(1) 看護実践と倫理的課題(1) リエゾン精神看護(1) 生活習慣病予防と看護(1)
3年次		疫学保健統計(2)	看護学研究方法論(1) 看護管理論(2) 感染看護論(1) 地域在宅看護援助論Ⅰ(1) 地域在宅看護援助論Ⅱ(1) 母性看護援助論Ⅰ(1) 母性看護援助論Ⅱ(1) 小児看護援助論Ⅱ(1) 老年看護援助論Ⅱ(1) 成人看護急性期援助論Ⅱ(1) 成人看護慢性期援助論Ⅱ(1)	精神看護学実習(2) 小児看護学実習(2) 老年看護学実習(4) 成人看護学慢性期実習(3) 成人看護学急性期実習(3)	医療連携論(1)
2年次		社会保障・社会福祉論(2) 公衆衛生入門(1) 看護とリハビリテーション(2) 薬理学(2) 心理学(2) 診断治療学Ⅱ(2) 診断治療学Ⅰ(2)	地域在宅看護学概論(2) 母性看護学概論(2) 精神看護学概論(2) 精神看護援助論(2) 小児看護学概論(2) 小児看護援助論Ⅰ(1) 老年看護学概論(2) 老年看護援助論Ⅰ(1) 成人看護学概論(2) 成人看護急性期援助論Ⅰ(1) 成人看護慢性期援助論Ⅰ(1) 国際保健学(2) 看護過程演習(1) 臨床看護技術Ⅱ(1) 臨床看護技術Ⅰ(1)	基礎看護学実習Ⅱ(2)	
1年次	選択必修 ・英語(2)(2)(2) ・世界市民(2)(2) ・人文科学系あるいは社会科学系(2) ・大学科目(2) 必修科目 ・学術文章作法Ⅰ(2) ・コンピュータ・リテラシーⅠ(2)	人間関係とコミュニケーション(1) 生命倫理(2) 健康と生活(2) 病態生理学(2) 栄養学(2) 構造機能学Ⅱ(1) 構造機能学Ⅰ(1)	フィジカルアセスメント(1) 看護理論(1) 生活援助技術Ⅳ(1) 生活援助技術Ⅲ(1) 生活援助技術Ⅱ(1) 生活援助技術Ⅰ(1) 看護学概論(2) キャリアプランニング基礎(1)	基礎看護学実習Ⅰ(1)	生化学の基礎(2) ・国際看護特講abc(2)(2)(2) ・国際看護研修(2) ・国際看護学(2)
年次	大学共通科目	専門基礎分野	看護の専門分野	臨地実習	選択科目

() 内は単位数を示す。

看護

1
5
4
年次
開
講
科
目

12. 臨地実習について

(1) 臨地実習の基本的な考え方

看護学の基礎教育では、理論と実践が乖離しないよう、講義、演習、実習の学習内容を関連付けて学ぶことが重要です。実習での学びは、理論を実践場面に具現化・適用化するにとどまらず、看護の場面で生じた出来事や自ら経験したことを看護学として意味づけることに意義があります。単に知識や技術の習得を目指すのではなく、看護現象を科学的に判断し、思考する習慣が身につくように取り組んでください。

また、保健・医療・福祉等の職種で展開されるチーム医療における看護の役割・機能を理解し、具体的な場面を通し、連携と協働の実際を学ぶ機会とします。4年間の臨地実習を通し、専門的援助者としてのケアリング能力を培います。

(2) 4年間の臨地実習科目の構成

実習科目	単位数	時間数	実 習 時 期								
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
基礎看護学実習Ⅰ	1	45	○								
基礎看護学実習Ⅱ	2	90			○						
成人看護学急性期実習	3	135					○	○			
成人看護学慢性期実習	3	135					○	○			
老年看護学実習	4	180					○	○			
精神看護学実習	2	90					○	○			
小児看護学実習	2	90					○	○			
母性看護学実習	2	90								○	
地域在宅看護学実習	2	90								○	
看護実践統合実習	2	90									○

(3) 臨地実習科目の履修条件と単位認定

臨地実習科目のなかには、「9. 履修条件のある科目」(142頁)で示したとおり、先行する関連科目の履修が求められる科目があります。また、単位認定については、臨地実習科目毎で異なりますので、実習要項(別途配布)にて詳細を説明します。

■専門科目表の見方（看護学科専門科目）

次のページから掲載されている看護学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ラーニングアウトカムズ 該当項目				
							1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。原則として授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。ただし、実習等の都合により、不定期に授業が開講されることもありますので、注意してください。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	看護学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は看護学科生以外の履修はできません。
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑧ラーニングアウトカムズ該当項目（※）	その科目が、看護学部で定めるラーニングアウトカムズ(LOs)のどの項目に比重を置いた授業かを表します。◎は最も比重を置く、○は比重を置くことを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力 2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3. 特定の健康課題に対応する実践能力 4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 5. 専門識者として研鑽し続ける基本能力

※ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）で示されている5項目と上記のラーニングアウトカムズとの関係性は以下の通りです。

ラーニングアウトカムズ(LOs)	該当するディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力	(1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。
2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	(2) 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践能力を身につける。
3. 特定の健康課題に対応する実践能力	(1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。 (2) 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践能力を身につける。
4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	(3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける。 (5) グローバルな視点から人々の健康問題を理解し、国際社会の中で他者と協同することのできる能力を身につける。
5. 専門識者として研鑽し続ける基本能力	(1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。 (4) 生涯にわたり自己を向上させゆく学習推進能力を身につける。

■看護学部 看護学科 専門科目表(2019年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ラーニングアウトカムズ該当項目				
							1	2	3	4	5
必修科目 62科目97単位											
＜専門基礎分野＞ 26単位											
NURS111	人間のからだとこころ	構造機能学Ⅰ	30	1	1～	×	○	◎			○
NURS112		構造機能学Ⅱ	30	1	1～	×	○	◎			○
NURS113		病態生理学	30	2	1～	×	○	◎	○		
NURS114		栄養学	30	2	1～	×	○	◎	○		
NURS117		診断治療学Ⅰ	60	2	2～	×	○	◎	○		
NURS118		診断治療学Ⅱ	60	2	2～	×	○	◎	○		
NURS115		薬理学	30	2	2～	×	○	◎	○		
NURS116		心理学	30	2	2～	×	◎	○	○		
NURS244		看護とリハビリテーション	30	2	2～			○	◎	○	
NURS101		健康と社会	人間関係とコミュニケーション	30	1	1～	×	◎			○
NURS100	健康と生活		30	2	1～	×	◎		○	○	
NURS102	生命倫理		30	2	1～	×	◎		○	○	
NURS103	社会保障・社会福祉論		30	2	2～			○	○	◎	
NURS104	公衆衛生入門		15	1	2～		◎	○		○	
NURS105	疫学・保健統計		30	2	3～	×		◎	○		○
＜看護の専門分野Ⅰ＞ 14単位											
NURS220	看護の基礎科目	看護学概論	30	2	1～	×	◎	○			○
NURS230		生活援助技術Ⅰ	30	1	1～	×	○	◎			○
NURS231		生活援助技術Ⅱ	30	1	1～	×	○	◎			○
NURS232		生活援助技術Ⅲ	30	1	1～	×	○	◎			○
NURS233		生活援助技術Ⅳ	30	1	1～	×	○	◎			○
NURS221		看護理論	30	1	1～	×	◎	○			○
NURS240		フィジカルアセスメント	30	1	1～	×	○	◎			○
NURS241		臨床看護技術Ⅰ	30	1	2～	×	○	◎			○
NURS242		臨床看護技術Ⅱ	30	1	2～	×	○	◎			○
NURS243		看護過程演習	30	1	2～	×	○	◎			○
NURS280		基礎看護学実習Ⅰ	45	1	1～	×	◎			○	○
NURS281		基礎看護学実習Ⅱ	90	2	2～	×	○	◎			○
＜看護の専門分野Ⅱ＞ 44単位											
NURS320	成人看護学	成人看護学概論	30	2	2～	×		○	◎	○	
NURS330		成人看護急性期援助論Ⅰ	30	1	2～	×		○	◎	○	
NURS340		成人看護急性期援助論Ⅱ	30	1	3～	×		○	◎	○	
NURS331		成人看護慢性期援助論Ⅰ	15	1	2～	×		○	◎		○
NURS341		成人看護慢性期援助論Ⅱ	30	1	3～	×		○	◎		○
NURS380		成人看護学急性期実習	135	3	3～	×		○	◎	○	
NURS381	成人看護学慢性期実習	135	3	3～	×		○	◎		○	
NURS321	老年看護学	老年看護学概論	30	2	2～	×	○		◎	○	
NURS332		老年看護援助論Ⅰ	15	1	2～	×		○	◎	○	
NURS342		老年看護援助論Ⅱ	30	1	3～	×		◎	○	○	
NURS382		老年看護学実習	180	4	3～	×		◎	○		○
NURS322	小児看護学	小児看護学概論	30	2	2～	×	○	○	◎		
NURS333		小児看護援助論Ⅰ	15	1	2～	×		○	◎	○	
NURS343		小児看護援助論Ⅱ	30	1	3～	×		○	◎	○	
NURS383	小児看護学実習	90	2	3～	×		○	◎	○		
NURS324	母性看護学	母性看護学概論	30	2	2～	×	○	○	◎		
NURS335		母性看護援助論Ⅰ	30	1	3～	×		○	◎	○	
NURS344		母性看護援助論Ⅱ	16	1	3～	×		○	◎	○	
NURS385		母性看護学実習	90	2	4	×		○	◎	○	

※科目名欄の左側はそれぞれの科目の領域を表す。なお、★は「国際看護科目」、☆は「人間のからだとこころ」を表す。

※備考の注1 この科目を履修する際は、「国際看護学」「国際看護学特講a～c」を履修しておくことが推奨される。

◆他学科履修の欄の×印は他学科生履修不可を表す。

◆ラーニングアウトカムズの該当項目(◎:最も比重を置く、○:比重を置く)

1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力 Competencies in nursing fundamentals to provide care to individuals.
2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 Competencies to practice nursing based on evidence and planning.
3. 特定の健康課題に対応する実践能力 Competencies to respond to specific health problems and health care needs.
4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 Competencies to reinforce the care environment and collaborate healthcare delivery team.
5. 専門職者として研鑽し続ける基本能力 Core competencies for continuous learning as professionals.

看護

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニングアウトカムズ該当項目				
							1	2	3	4	5
必修科目 62科目97単位 (つづき)											
<看護の専門分野Ⅱ> 44単位 (つづき)											
NURS323	精神看護学概論	30	2	2~	×		○	○	◎		
NURS334	精神看護援助論	46	2	2~	×			○	◎	○	
NURS384	精神看護学実習	90	2	3~	×			○	◎	○	
NURS420	地域在宅看護学概論	30	2	2~	×			○	◎	○	
NURS430	地域在宅看護援助論Ⅰ	30	1	3~	×			○	◎	○	
NURS440	地域在宅看護援助論Ⅱ	16	1	3~	×			○	◎	○	
NURS480	地域在宅看護学実習	90	2	4	×			○	◎	○	
<看護の専門分野Ⅲ> 13単位											
NURS380	★国際保健学	30	2	2~	×		○		○		◎
NURS120	看護の統合と発展科目 キャリアプランニング基礎	30	1	1~	×						◎
NURS421	看護管理論	30	2	3~	×			○		◎	○
NURS450	感染看護論	15	1	3~	×			○	○	◎	
NURS370	看護学研究方法論	15	1	3~	×			○			◎
NURS451	災害看護論	15	1	4	×			○	◎	○	
NURS470	卒業研究演習	30	1	4	×			○	○		◎
NURS481	看護実践統合実習	90	2	4	×			◎	○	○	
NURS471	卒業論文	60	2	4	×			○	○		◎
選択科目 ※自由選択の単位として算入されます											
NURS110	☆生化学の基礎	30	2	1~	×			◎	○		○
NURS260	国際看護学	30	2	1~			○		○		◎
NURS261	国際看護特講a	30	2	1~			○		○		◎
NURS262	国際看護特講b	30	2	1~			○		○		◎
NURS263	国際看護特講c	30	2	1~			○		○		◎
NURS361	国際看護研修	90	2	2~		注1	○		○		◎
NURS422	看護の統合と発展科目 医療連携論	15	1	3~					○	◎	○
NURS452	クリティカルケア論	30	1	4	×				◎	○	○
NURS453	がん看護論	15	1	4	×				◎	○	○
NURS454	リエゾン精神看護	15	1	4					◎	○	○
NURS455	家族看護論	15	1	4					◎	○	○
NURS456	生活習慣病予防と看護	15	1	4	×		○	○	◎		
NURS423	看護実践と倫理的課題	15	1	4	×		○				◎
NURS424	看護専門職論	15	1	4	×					○	◎

※科目名欄の左側はそれぞれの科目の領域を表す。なお、★は「国際看護科目」、☆は「人間のからだところ」を表す。

※備考の注1 この科目を履修する際は、「国際看護学」「国際看護学特講a~c」を履修しておくことが推奨される。

◆他学科履修の欄の×印は他学科履修不可を表す。

◆ラーニングアウトカムズの該当項目(◎:最も比重を置く、○:比重を置く)

1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力 Competencies in nursing fundamentals to provide care to individuals.
2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 Competencies to practice nursing based on evidence and planning.
3. 特定の健康課題に対応する実践能力 Competencies to respond to specific health problems and health care needs.
4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力 Competencies to reinforce the care environment and collaborate healthcare delivery team.
5. 専門職者として研鑽し続ける基本能力 Core competencies for continuous learning as professionals.

1. 理念・目的

国際教養学部の理念は、急速に変化しているグローバルな環境にあつて、創造的に、人間主義に立脚して様々な挑戦に立ち向かうことができる知識、技能、勇気、慈悲を有する世界市民を育成していくことにある。本目的のために、国際教養学部では、〈歴史・社会・文化〉、〈政治・国際関係〉、〈経済・経営〉の分野の教養教育を英語で行い、多様性豊かな教員、外国人学生との交流、必修の海外留学プログラムを通じて異文化理解力を養成していく。また文化的多様性、生涯学習、主体的な世界市民の精神でアクティブ・ラーニングを実践していく。

2. 教育目標

国際教養学部の理念で述べた知識、技能、姿勢を養成していくために2つの教育目標を設定する。

- (1) 国際教養学部では〈歴史・社会・文化〉、〈政治・国際関係〉、〈経済・経営〉の分野の教養教育を英語によるアクティブ・ラーニングを通じて行っていく。
- (2) 国際教養学部では、文化的に多様性のあるグローバルな環境で、学生が創造的な問題解決能力を開発できるよう教育を行っていく。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

国際教養学部は、グローバル社会が直面する諸問題の解決に取り組む人材の育成を目的とし、卒業までに以下の能力の一定の基準を満たしたものに学位を授与する。

- (1) 人文・社会科学にわたる基礎的な学術知識を修得し、教員の指導下で研究を行う力
- (2) 学術的な論述、討論、プレゼンテーションができる高度な英語運用力
- (3) 多様な文化的背景を持つ人々と協働できる異文化理解力
- (4) 課題を発見し、解決にむけて取り組む力

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

(1) 人文・社会科学にわたる基礎的な知識と教員の指導下で研究を行う力

人文・社会科学の各分野の導入レベルから専門性の高い科目まで多様なカリキュラムを提供し、学生の研究力を養成する。さらに、人文・社会科学分野の諸課題の理解に必須な分析力の養成を目的として、質的・量的手法を学ぶ科目を提供する。

(2) グローバル社会で通用する高度な（学術的な）英語運用・コミュニケーション能力

1、2年次に、海外の大学への留学等集中的な英語学習プログラムを設け、2年次末までに学部として卒業時までには必須の TOEFL-iBT 80 の英語運用力を養成する。さらに、3、4年次には英語による専門課程の学びを通じて、卒業までに TOEFL-iBT 100 相当レベルの英語運用力を目指す。

(3) 異文化理解力

国際教養学部のカリキュラムは、異文化理解に関する科目の履修、英語を母語とする環境への留学、第2外国語の学習を通し、学生が多様な文化を理解し受容する異文化理解力の養成に力点を置く。

(4) 課題を発見し、問題の解決に取り組む能力

1年次の導入レベルの演習から3、4年次の専門科目まで、15名程度の少人数の科目を配置し、課題発見・解決型の授業を行う。

評価方法

国際教養学部では、効果的な学びの測定のために以下の基準を用いる。

- (1) 人文・社会科学分野における正確な知識を口頭で伝えることができる。
- (2) 人文・社会科学分野で扱う科目の理解を記述することができる。

- (3) 文化的背景や社会が異なる人々を理解し、交渉し、戦略的に関わっていくことができる。
- (4) 創価大学の建学の精神に則って、世界平和と幸福のために行動することができる。
- (5) 問題解決や、グローバルな課題を扱う際の議論を支持するために必要な知識、情報、データを入手することができる。
- (6) 問題解決や、グローバルな課題を扱う際の議論を支持するために必要な質的・量的データを分析することができる。
- (7) 人文・社会科学分野における現実的かつ価値的な議論、モデル、フレームワークを構築することができる。
- (8) 人文・社会科学分野における広範な知識に基づいて創造的かつ実現可能な提案をすることができる。

基準

- (1) プレゼンテーション（個人又はグループ）、授業内での積極的参加、授業内でのディスカッション、TOEFL-iBTのスコア
- (2) 筆記試験、エッセイ、リサーチプロジェクトペーパー、レポート（個人又はグループ）
- (3) 授業内、授業外でのチームワーク、チームでのプロジェクト、授業内でのアクティビティ（ロールプレイ、シミュレーション）
- (4) 調査、プロジェクト
- (5) リサーチプロジェクトペーパー、レポート（個人又はグループ）、実地調査
- (6) 筆記試験、クイズ、リサーチプロジェクトペーパー、レポート（個人又はグループ）
- (7) リサーチプロジェクトペーパー、レポート（個人又はグループ）
- (8) リサーチプロジェクトペーパー、レポート（個人又はグループ）

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

国際教養学部は以下のような学生を求めている。

- (1) 人文・社会科学の幅広い学問分野の修得を望む、基盤的学力と知的好奇心を有する学生
- (2) グローバル社会で通用する高度なコミュニケーション能力の修得に強い意志を有する学生
- (3) 世界各地で生起する諸問題に深い関心を持ち、その解決に挑戦する意欲と実行力を有する学生

6. 卒業要件

国際教養学部国際教養学科の卒業要件は以下の通りです。

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ通算 GPA が2以上であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入さ れます
共通科目 (54～58頁)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位	
	②大学科目		選択必修科目	4単位	
外国語科目	第1外国語 ※1		選択必修科目	16単位	
	第2外国語 ※2		選択必修科目	4単位	
国際教養学科 専門科目 (155～156頁)	必修科目			24単位	
	Quantitative & Qualitative Analysis 科目群 ※3		選択必修科目	8単位	
	Level 100-200 科目群 ※4		選択必修科目	16単位	
	Level 300-400 科目群 ※4 ※5		選択必修科目	20単位	
それぞれの科目群において、＜歴史・社会・文化＞、＜政治・国際関係＞、＜経済・経営＞の各々の分野から最低1科目4単位を含むこと。					
自由選択 ※6	『共通科目』『国際教養学科専門科目』『他学科専門科目』から自由に選択して修得した単位			30単位以上	
合計				124単位以上	

- ※1 第1外国語は英語とし、卒業に必要な16単位は学部学科英語科目(155頁)を履修して修得してください。特に学部学科英語科目のうち、「English for Academic Purposes I・II」は必修科目として指定されていますので、1年次に必ず履修してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(54～55頁)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 Quantitative & Qualitative Analysis (QQA) 科目群では、「Statistics I 又はII」を含んで8単位以上を修得する必要があります。
- ※4 Level 100-200 科目群、及び Level 300-400 科目群の単位には、それぞれ<歴史・社会・文化>、<政治・国際関係>、<経済・経営>の各々の分野から最低1科目4単位の取得が必要です。
- ※5 Level300-400 科目群の履修には TOEFL-iBT 70 以上のスコアが必要です。
- ※6 自由選択とは『共通科目』、『国際教養学科専門科目』、『他学科専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。
ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『国際教養学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の Level 100-200 科目群を20単位修得した場合に、4単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を30単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件

■国際教養学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数 ※学期毎の 上限単位数	履修制限 除外科目	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
		学期毎の修得 下限単位数	直前セメスタ ーの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点 の条件	
							通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20 単位	— ※1	16 単位 ※2	3.50	4 単位	可	3.70	3.70	80

- ※1 国際教養学部は教職課程等の特設課程を設置していません。
- ※2 海外留学中の2年次春学期は、修得下限単位数を16単位としたうえで、各留学先の学習状況や TOEFL iBT のスコアを含めて総合評価で判定します。

早期卒業するためには、在学4セメスター終了時点で、基準の通算 GPA 数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時(在学6セメ又は7セメ終了時)に上記の通算 GPA 基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターを Web より登録しなければなりません。

8. 必修海外留学について

(1) 留学先(予定)

- ① オーストラリア：ブリスベン／グリフィス大学
 - a. Study Abroad Program (SAP) (プログラムレベル：Undergraduate)
 - b. DEP Program (プログラムレベル：ESL)
- ② アメリカ合衆国：ロサンゼルス／南カリフォルニア大学 (プログラムレベル：ESL)
- ③ カナダ：バンクーバー／サイモンフレーザー大学 (プログラムレベル：ESL)
- ④ ニュージーランド：オークランド／オークランド大学 (プログラムレベル：ESL)
- ⑤ フィリピン：マニラ／アテネオ・デ・マニラ大学 (プログラムレベル：Undergraduate)

(2) 単位

1年次修了後から2年次春学期の期間に行われる海外留学では、学部必修科目 Academic Foundations: Study Abroad (2年次春学期配当・4単位)、及び学部学科英語科目 English for Academic Purposes: Study Abroad I～III (2年次春学期配当・各4単位：計12単位)として、合計16単位が認定(P/F評価)されます。

(3) 海外留学前の履修状況についての注意事項

海外留学前の1年次に配当されている基礎科目の「初年次セミナー (Freshman Seminar)」、「Academic Foundations I・II」、「English for Academic Purposes I・II」、「Cross Cultural Understanding」は必修科目なので、1年次に履修してください。本科目の単位を取得できなかった場合には、海外留学帰国以降に再履修となります。

アテネオ・デ・マニラ大学への留学を希望する学生については、留学の出発が1月上旬となりますので、秋学期の履修には注意が必要です。

(4) 海外留学までの流れ

日本人学生・帰国学生への海外留学の流れは以下の通りです。各ガイダンスに必ず出席してください。

① 4月初旬：第1回海外留学ガイダンス

海外留学出発までのスケジュール・留学費用の概要、やパスポート取得に関する説明をします。

② 5月中旬～6月中旬：第2回海外留学ガイダンス

留学先大学の紹介、寮やホームステイ、留学先での授業の様子など、留学先選考について説明します。

③ 9月上旬：留学先希望届を提出（派遣基準に英語スコアを求めている留学先は英語スコアも提出）

学生は希望する留学先を決定し、留学先希望届を提出します。アテネオ・デ・マニラ大学とグリフィス大学は、以下の派遣基準を超えた学生のみ申請できますので、希望者は必ず希望届の提出期限に英語スコアを提出できるよう英語試験の受験してください。なお、既に1年以内に自分で同テストを受けていれば、そのスコアをもって代えることができます。

④ 9月中旬：留学先決定通知・第3回海外留学ガイダンス

留学先の選考は、留学先の定員数、英語スコア、海外留学申請書等を総合的に考慮して決定します。決定の発表後、各大学先プログラムへの申込み、寮・ホームステイの申込み、ビザの手続き等詳細なガイダンスを行います。

⑤ 10月～12月：留学ビザに必要な書類の準備・提出・ビザの受領

⑥ 11月下旬：第4回海外留学ガイダンス

フライト情報、海外旅行保険、危機管理など、留学の出発・滞在について説明します。

⑦ 出発

1月上旬：アテネオ・デ・マニラ大学

2～3月中旬：グリフィス大学、南カリフォルニア大学、サイモンフレーザー大学、オークランド大学

※English Program の外国人留学生については、日本人の学生よりビザの取得に大幅な時間がかかると予想されます。そのため日本人学生とは別スケジュールを組み、上記の「④留学先決定通知」までの行程を春 Semester中に完了させ、ビザ取得に十分な時間を確保します。また、留学先国のビザを取得できなかったことにより生ずる、ビザ申請料、ビザ申請に必要な書類に関わる費用、フライトのキャンセル料は自己負担になります。

■派遣基準が設定されている大学

大学		派遣基準
アテネオ・デ・マニラ大学		IELTS 6.0 or TOEFL Paper-based 550 or TOEFL Internet-based 79
グリフィス大学	SAP	IELTS 6.0 with minimum subscores of 5.5 or TOEFL-iBT 71 with a minimum subscore of 19 in writing, and 17 in all other skills
	DEP	英語スコアによる基準なし

(5) 費用

国際教養学部の学生が創価大学に納める学費には、1 Semester必修海外留学の往復航空券運賃、留学授業料、海外傷害保険料が含まれています。その他の費用（ビザ代、寮費・ホームステイ費、現地大学健康保険費、食費、交通費等）はすべて自己負担となり、各学生の生活状況や為替の変動により、必要な費用が増えることがあります。詳細な費用はガイダンスで説明がありますので、必ずガイダンスに参加をしてください。

9. International Fieldwork I-IIについて

International Fieldwork は希望者を対象に、2年次秋学期から春季休業期間に行う国際教養学部独自の短期海外研修です。研修先は民族、宗教など多様性を有しながら政治的安定と持続的経済発展を遂げてきたマレーシアのクアラルンプールです。研修参加者は2年次秋学期に「International Fieldwork I（2単位/ABC評価）」の履修が必須であり、当該地域に関する事前学習とグループ研究の準備を行います。修了者は「International Fieldwork II」としてマレーシア・クアラルンプールでの実地研修を行い、研修の要件を満たした者に2単位（P/F評価）を認定します。

(1) 参加資格

以下の条件をすべて満たしていること。

- ① 心身ともに健康上、問題がないこと
- ② 研修のための十分な費用を用意できること
- ③ 保護者の承諾が得られていること

(2) 研修先及び期間（予定）

研修先：マレーシア、クアラルンプール、マラッカ、ジョホール・バル：マレーシア公開大学、マラヤ大学、マレーシア国民大学、マレーシア首相府等
期 間：春季休業期間のうち約2週間

(3) 単位

2年次秋学期：International Fieldwork I（2単位 ABC評価）
春季休業期間中：International Fieldwork II（2単位 P/F評価）

(4) 費用

International Fieldwork への参加費用は学費に含まれておらず、自己負担となります。海外渡航費や滞在費、研修費等を含めて、およそ25万円前後になる予定です。詳細はガイドンスにて説明します。

(5) 選抜方法

研修参加人数に運営上制限があるため、希望者が多い場合は選抜を行います。

履修希望者は、第1回目のガイドンスに必ず参加し、申請書を所定の期日までに提出する必要があります。申請書の内容、GPA、TOEFL-iBT/IELTS のスコアを基に選抜し、結果を掲示します。

10. Level 300-400 科目群の履修について

Level 300-400 科目群（Seminar I～IV、＜歴史・社会・文化＞、＜政治・国際関係＞、＜経済・経営＞の3分野）の履修にはTOEFL-iBT 70以上のスコアが必要です。また、卒業要件として＜歴史・社会・文化＞、＜政治・国際関係＞、＜経済・経営＞の各々の分野から最低1科目4単位の取得が必要となります。

11. 演習（Seminar I～IV）の履修とジュニア・ペーパー（Junior Paper）、卒業研究（Capstone）の提出について

演習（Seminar I～IV）と卒業研究（Capstone）は、3年次以降、1人の担当教員のもとで専門性を深める重要な科目です。Seminar I-IIとJunior Paperは必修科目（各2単位 計6単位）、Seminar III-IVと卒業研究（Capstone）は選択必修科目として設置されています。

Seminar IとIIの修了者は、必修科目としてJunior Paper（2単位）の提出が必要となります。なお提出時には英語運用能力を証明する **TOEFL-iBT 80 又は IELTS 6.5（全ての項目で6.0を満たしていること）以上のスコアが必須となります**。3年次以降でもJunior Paperの提出は可能ですが卒業要件となりますので留意してください。

卒業研究（Capstone）は4年次の秋学期8セメスターに設置され、英文で8,000語以上の論文を執筆します。研究計画書の作成、第一次草稿の提出、完成原稿の作成、口頭試問に至るまで、担当教員の指導のもと、段階的かつ計画的に進めていきます。

(1) 演習・卒業研究 (Capstone) についての注意事項

演習の履修について、以下のことに注意してください。

- ① 演習は定員制で、申し込みと選考があり、所属が決定されます。
- ② 演習及び卒業研究は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンスについて

9月下旬に、2つのガイダンスがあります。両方のガイダンスに必ず参加してください。

① 全体ガイダンス

全体ガイダンスでは、各演習内容の紹介、定員数、選考スケジュール、各ゼミの個別ガイダンス及び選考日程、演習履修条件、卒業研究 (Capstone) 等、3年次以降の学びの中心となる演習について詳細に説明しますので、必ず参加してください。

② 個別ガイダンスについて

ポータルサイトに、各ゼミの個別ガイダンスの日程が発表されます。学生のみなさんは、演習事前登録シラバス (ポータルサイト上に公開) を参考にし、日程に沿って希望するゼミの個別ガイダンスに参加してください。

(3) 選考スケジュール

9月に行われる全体ガイダンスにて詳細を説明します。選考スケジュールは、以下の通りです。

- ① 8月上旬：演習事前登録シラバス公開
- ② 9月中旬：全体ガイダンス・個別ガイダンス及び選考日程公開
- ③ 9月下旬～10月初旬：個別ガイダンス
- ④ 10月初旬：第1次登録
- ⑤ 10月下旬：第1次選考 (※)

※第1次選考から漏れた学生は、11月以降に第2次選考、続いて第3次選考を行い、最終的に2年次終了時までに演習の所属が決まります。詳細は、全体ガイダンス及び大学ホームページにて説明します。

12. 専門科目の単位認定について

国際教養学科では、本人の申請により、下記の通り専門科目の単位を認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書 (Web 上にて発行) と成績証明書原本 (教務課で写しを取った後に本人に返却) を、指定された受付期間内に教務課に提出してください。なお、この単位認定は、国際教養学科生のみ申請を行うことができます。

■認定の対象となる資格・成績

資格・成績	申請受付時期	認定単位	認定科目
入学時に TOEFL-iBT80 又は IELTS6.5 (全ての項目で6.0を満たしていること) 以上	入学した最初のセメスターの履修登録期間のみ	4 単位	Academic Foundations: Study Abroad
入学時に TOEFL-iBT90 又は IELTS7.0 (全ての項目で6.5を満たしていること) 以上	入学した最初のセメスターの履修登録期間のみ	1 2 単位	Academic Foundations I Academic Foundations II English for Academic Purpose II Academic Foundations: Study Abroad
1 年次秋学期開始の時点で TOEFL-iBT90 又は IELTS7.0 (全ての項目で6.5を満たしていること) 以上	1 年次秋学期の履修登録期間のみ	1 0 単位	Academic Foundations II English for Academic Purpose II Academic Foundations: Study Abroad

■ 専門科目表の見方（国際教養学科専門科目）

次のページから掲載されている国際教養学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科 目 名	授業 時間	単 位	履修 年次	他学科 履修	備 考
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 6. 科目ナンバリング」（19頁）を参照してください。
②科 目 名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	国際教養学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、国際教養学科生以外は履修できません。
⑦備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。

■国際教養学部 国際教養学科 専門科目表 (2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名		授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考
必修科目 8科目24単位							
INLA101	Academic Foundations I		30	2	1~	×	注1
INLA102	Academic Foundations II		60	4	1~	×	注1
INLA201	Academic Foundations: Study Abroad		60	4	2~	×	注1
INLA150	Cross-cultural Understanding		60	4	1~	×	
INLA202	Academic Writing		60	4	2~	×	
INLA390	Seminar I		30	2	3~		
INLA391	Seminar II		30	2	3~		
INLA392	Junior Paper		30	2	3~	×	
選択必修科目 (計44単位以上)							
Quantitative & Qualitative Analysis 科目 8単位以上 (Statistics I又はIIを必ず含むこと)							
INLA120	Statistics (4単位)	Statistics I	60	4	1~		
INLA121		Statistics II	60	4	1~		
INLA122	Precalculus		60	4	1~		
INLA220	Programming		60	4	1~		
INLA221	Calculus		60	4	1~		隔年開講
INLA222	Linear Algebra		60	4	1~		隔年開講
INLA223	Qualitative Research Methods		60	4	2~		隔年開講
Level 100-200科目 16単位以上 (歴史・文化・社会、政治・国際関係、経済・経営の各科目群から1科目4単位以上修得すること)							
INLA260	歴史・文化・社会 (4単位)	Principles of Philosophy	60	4	1~		
INLA261		Principles of History	60	4	1~		
INLA262		Principles of Sociology	60	4	1~		連携(法)
INLA270	政治・国際関係 (4単位)	Principles of Politics and Globalization	60	4	1~		連携(法)
INLA271		Principles of International Relations	60	4	1~		連携(法)
INLA280	経済・経営 (4単位)	Principles of Accounting and Financial Analysis	60	4	1~		
INLA281		Principles of Economics	60	4	1~		連携(法・営)
INLA282		Principles of Business	60	4	1~		連携(営)
INLA250	International Fieldwork I		60	2	2~	×	
INLA251	International Fieldwork II		60	2	2~	×	
Level 300-400科目 20単位以上 (歴史・文化・社会、政治・国際関係、経済・経営の各科目群から1科目4単位以上修得すること)							
INLA360	歴史・文化・社会 (4単位)	World Wars in History	60	4	3~		
INLA361		Global Social Policy	60	4	3~		連携(法)
INLA362		Modern Political Thought	60	4	3~		連携(法)
INLA363		Sociology of Globalization	60	4	3~		
INLA460		Cold War and Decolonisation in History	60	4	2~		
INLA461		Education and International Development	60	4	2~		
INLA462		Global Ethics	60	4	2~		連携(法)
INLA463		Transnational Migration	60	4	2~		
INLA370	政治・国際関係 (4単位)	Contemporary Political Theory	60	4	3~		連携(法)
INLA371		Great Power Politics in the World	60	4	3~		連携(法)
INLA372		International Political Economy	60	4	3~		連携(法)
INLA373		International Institutions and Global Governance	60	4	3~		連携(法)
INLA470		Citizenship and Democracy in a Global Age	60	4	2~		連携(法)
INLA471		International Relations in Asia	60	4	2~		連携(法)
INLA472		International Bargaining	60	4	2~		
INLA473		Comparative Politics	60	4	2~		連携(法)
INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	60	4	2~		連携(法)	
ECON313	経済・経営 (4単位)	Intermediate Microeconomics	60	4	3~		連携(済)
INLA381		Development Economics	60	4	3~		連携(済・法)
INLA382		Management Science	60	4	3~		
INLA383		Marketing	60	4	3~		連携(法)
ECON314		Intermediate Macroeconomics	60	4	2~		連携(済)
INLA481		International Economics	60	4	2~		連携(済)
INLA482		Operations Management	60	4	2~		
INLA483		International Business	60	4	2~		連携(法・営)
INLA330	Special Seminar A		60	4	2~		
INLA331	Special Seminar B		60	4	2~		
INLA332	Special Seminar C		60	4	2~		
INLA333	Special Seminar D		60	4	2~		
INLA334	Special Seminar E		60	4	2~		
INLA335	Special Seminar F		60	4	2~		

※備考の注1 入学時、又は秋学期の授業開始時点でTOEFL-iBT又はIELTSの一定スコア以上を取得している場合、申請により該当する科目の単位認定を行います。詳しくは153頁の「専門科目の単位認定について」を参照してください。
 ※備考の「連携~」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。
 ※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、国際教養学部生以外は履修出来ません。
 ※他学科履修欄に「×」が付いていない科目は、TOEFL-iBT 70点以上取得者に限り、各科目の履修制限人数内で国際教養学部生以外でも履修出来ます(Seminar I-IIIについてはTOEFL-iBT80点以上取得者に限る)。

国際教養

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考
Level 300-400科目 20単位以上(つづき)						
INLA430	Special Lecture I	30	2	2~		
INLA431	Special Lecture II	30	2	2~		
INLA432	Special Lecture III	30	2	2~		
INLA433	Special Lecture IV	30	2	2~		
INLA434	Special Lecture V	30	2	2~		
INLA435	Special Lecture VI	30	2	2~		
INLA436	Special Lecture VII	30	2	2~		
INLA437	Special Lecture VIII	30	2	2~		
INLA438	Special Lecture IX	30	2	2~		
INLA439	Special Lecture X	30	2	2~		
INLA440	Special Lecture XI	30	2	2~		
INLA441	Special Lecture XII	30	2	2~		
INLA490	Seminar III	30	2	4		
INLA491	Seminar IV	30	2	4	×	
INLA492	Capstone	30	4	4	×	
選択科目 ※自由選択の単位として算入されます						
INLA336	International Studies I	30	2	2~		【認定用】
INLA337	International Studies II	30	2	2~		【認定用】
INLA338	International Studies III	30	2	2~		【認定用】
INLA339	International Studies IV	30	2	2~		【認定用】
INLA340	International Studies V	30	2	2~		【認定用】
INLA341	International Studies VI	30	2	2~		【認定用】
INLA342	International Studies VII	30	2	2~		【認定用】
INLA343	International Studies VIII	30	2	2~		【認定用】
INLA442	Global Studies I	45	3	2~		【認定用】
INLA443	Global Studies II	45	3	2~		【認定用】
INLA444	Global Studies III	45	3	2~		【認定用】
INLA445	Global Studies IV	45	3	2~		【認定用】
INLA446	Global Studies V	45	3	2~		【認定用】
INLA447	Global Studies VI	45	3	2~		【認定用】
INLA448	Global Studies VII	45	3	2~		【認定用】
INLA449	Global Studies VIII	45	3	2~		【認定用】
学部英語科目 16単位 ※日本語プログラムの学生は共通科目の日本語・日本文化科目で16単位以上履修すること(共通科目表参照)						
■日本語プログラムの学生はEnglish for Academic Purposes I・IIの修得で第2外国語4単位に算入されます。						
INLA110	English for Academic Purposes I	60	2	1~	×	
INLA111	English for Academic Purposes II	60	2	1~	×	注1
INLA112	English for Academic Purposes: Study Abroad I	120	4	2~	×	
INLA113	English for Academic Purposes: Study Abroad II	120	4	2~	×	
INLA114	English for Academic Purposes: Study Abroad III	120	4	2~	×	

※備考の注1 入学時、又は秋学期の授業開始時点でTOEFL-iBT又はIELTSの一定スコア以上以上を取得している場合、申請により該当する科目の単位認定を行います。詳しくは153頁の「専門科目の単位認定について」を参照してください。

※備考の[認定用]は海外留学等による単位認定用科目(条件があります)を表します。

※他学科履修欄に「×」が付いている科目は、国際教養学部生以外は履修出来ません。

※他学部履修欄に「×」が付いていない科目は、TOEFL-iBT 70点以上取得者に限り、各科目の履修制限人数内で国際教養学部生以外でも履修出来ます(Seminar I-IIIについてはTOEFL-iBT80点以上取得者に限る)。

第Ⅶ章 副専攻制度

1. 副専攻制度について

副専攻制度は、「幅広い学び」を保証するため、所属学部以外の分野（学部）から一層体系的かつ深く専門領域を学習できるようにした制度です。例えば、法学部の学生は法学部が設置する専門科目を学ぶかわら、経済学部が副専攻科目として設置する専門科目を学び、その上で認定要件（単位数・通算GPA）を満たしていれば、「主専攻：法学」「副専攻：経済学」として成績証明書及び卒業証明書に記載されます。

(1) 副専攻の開設数

副専攻は学部ごと（文学部はメジャーごと）に開設されており、自分が所属している学部（文学部生は登録したメジャー）以外の学問領域を副専攻として最大3つまで選択することができます。副専攻として履修すべき科目は159～162頁の副専攻科目表を参照してください。

所 属		申 請 可 能 な 副 専 攻															
学部	学科	経済学	法学	経営学	教育学	理工学	異文化コミュニケーション（英語）	異文化コミュニケーション（日本語）	異文化コミュニケーション（中国語）	異文化コミュニケーション（ロシア語）	哲学・歴史学	表現文化	国際日本学	社会学	English Medium Program (注)	データサイエンス	
経済	経済	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
法	法律	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
文	人間	○	○	○	○	○	選択したメジャー以外の領域のみ選択可									○	○
経営	経営	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
教育	教育	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	児童教育	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
理工	情報システム工	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	共生創造理工	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
看護	看護	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
国際教養	国際教養	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	

注：各学部のEMPコース所属学生、及び国際教養学部生はEnglish Medium Programを副専攻として申請することはできません

(2) 副専攻の申請について

副専攻は2年次（第3セメスター）以降、履修登録期間に、履修・成績(WEB)内の「副専攻登録」から申請を行うことができます。申請する際は、申請時点で「通算GPAが2.70以上」であることが必要です。

なお、申請を行わない場合は、副専攻の認定要件を満たしていたとしても副専攻を修了したとはみなされません。副専攻を希望する場合は、必ず副専攻の申請を行ってください。

(3) 副専攻として履修する科目の履修登録方法について

副専攻として開講される科目を履修する際は、通常の履修登録と同様に登録を行います。副専攻科目も履修上限単位数に含まれます。履修登録の際は、副専攻科目表やweb時間割を良く確認してください。

(4) 副専攻の認定要件

申請した副専攻を修了するためには、

- ① 申請した副専攻の科目を各副専攻が指定する方法で24単位以上修得
- ② 卒業時に通算GPAが2.70以上

であることが必要です。

2. English Medium Program (EMP) について

English Medium Program (EMP) とは、全ての授業を英語で実施するプログラムの総称です。本来は、経済学科のSUCCEEDや経営学科のGPETのように卒業に必要な124単位をすべて英語による授業で修得するプログラムを指しますが、これを全学生向けに幅広く英語で専門科目を学習できるようにしたものが副専攻としてのEnglish Medium Program です。

英語学修に取組み、力を伸ばしたい学生にはEMP 科目の履修を推奨します。EMP科目から24単位以上を修得し、かつ卒業時の通算GPAが2.70以上であればEMPを修了したとして成績証明書及び卒業証明書にEMPを修了した旨が記載されます。

申請方法については、他の副専攻と同様です。ただし、EMP科目の中には、履修条件としてTOEFL iBTスコアなどの条件が課されている場合がありますので、履修登録の際は、シラバスやweb時間割をよく確認してください。

※各学部のEMPコース所属の学生、及び国際教養学部生はこのプログラムに申請することはできません

3. データサイエンス について

データサイエンス学修プログラムとは、超スマート社会（AI×IoT社会）の到来が予想される時代にあって、これらの基礎知識となるデータサイエンスについて集中的に学修することを目的としたプログラムです。

副専攻：データサイエンスの科目として指定された科目から24単位以上を修得し、かつ卒業時の通算GPAが2.70以上であれば当該プログラムを修了したとして成績証明書及び卒業証明書に副専攻：データサイエンスを修了した旨が記載されます。

申請方法については他の副専攻と同様です。ただし、所属する学部により修得すべき単位が異なります。詳しくは169頁の副専攻：データサイエンスの科目表を確認してください。

■副専攻科目表

経済学(2019年度入学生用)

■日本語コース

■英語コース

科目 ナンバリング	科目名	単位	科目 ナンバリング	科目名	単位
必修科目 3科目12単位			必修科目 3科目12単位		
ECON111	ミクロ経済学	4	ECON152	Economic History	4
ECON112	マクロ経済学	4	ECON113	Principles of Microeconomics	4
ECON151	経済と歴史	4	ECON114	Principles of Macroeconomics	4
選択必修科目A群 4単位以上			選択必修科目 4単位以上		
ECON121	経済数学入門A	4	ECON313	Intermediate Microeconomics	4
ECON221	経済数学入門B	4	ECON314	Intermediate Macroeconomics	4
選択必修科目B群 4単位以上			ECON334	Principles of Finance	4
ECON122	基礎統計学A	4	選択科目 8単位以上		
ECON222	基礎統計学B	4	ECON223	Introductory Mathematics for Economics I	2
選択科目 4単位以上			ECON224	Introductory Mathematics for Economics II	2
ECON311	ミクロ経済学中級	4	ECON225	Statistics for Economics and Business I	2
ECON312	マクロ経済学中級	4	ECON226	Statistics for Economics and Business II	2
ECON321	経済数学	4	ECON276	World Economy I	2
ECON322	データ・サイエンス	4	ECON277	World Economy II	2
ECON331	金融論	4	ECON336	Econometrics	4
ECON332	財政学	4	ECON355	Economic Development of Japan I	2
ECON351	日本経済史	4	ECON357	Political Economy of Japan and Asia	2
ECON361	開発と貧困の経済学	4	ECON371	Development and Environment	4
			ECON376	Contemporary Economy and Business I	2
			ECON377	Contemporary Economy and Business II	2
			ECON378	Contemporary Economy and Business III	2
			ECON379	Contemporary Economy and Business IV	2
			ECON382	World Economy III	2
			ECON383	World Economy IV	2
			ECON384	World Economy V	2
			ECON385	World Economy VI	2

※経済学を副専攻として選択する場合は、日本語、英語のどちらかで24単位以上を修得すること。

※選択必修科目を基準の単位数を超えて修得した場合は、選択科目の単位として算入されます。

法学(2019年度入学生用)

■日本語コース

■英語コース

科目 ナンバリング	科目名	単位	科目 ナンバリング	科目名	単位
選択科目 24単位			選択科目 24単位		
LAWP103	憲法総論・統治機構論	4	LAWP102	Introduction to Legal Studies	2
LAWP104	民法総則	4	LAWP231	Global Issues	2
LAWP107	憲法人権論	4	LAWP232	Peace Studies	2
LAWP202	刑法総論	4	LAWP233	Area Studies in International Law Perspectives	2
LAWP203	刑法各論	4	LAWP234	International Relations	4
LAWP204	物権法	4	LAWP235	International Environmental Policy	2
LAWP205	債権総論	4	LAWP236	Border Studies	2
LAWP206	行政法総論	4	LAWP237	Security Studies	2
LAWP214	労働法	4	LAWP238	Law and Politics in Japan and Asia	2
LAWP223	国際法総論	4	LAWP239	American Politics	2
LAWP303	債権各論	4	LAWP341	Global Public Policy	2
LAWP304	親族・相続法	4	LAWP342	International Human Rights	4
LAWP308	会社法	4	LAWP351	Environmental Law	2
LAWP315	社会保障法	4	LAWP352	The Common Law	2
LAWP316	知的財産法	4			
LAWP317	租税法	4			
LAWP318	消費者法	2			
LAWP319	金融商品取引法	2			
LAWP323	環境法	4			

※法学を副専攻として選択する場合は、日本語、英語のどちらかで24単位以上を修得すること。

経営学(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	単位
選択科目 24単位		
BUSI111	経営学原理	4
BUSI121	簿記原理	4
BUSI331	流通論	4
BUSI211	経営管理論	4
BUSI313	経営組織論	4
BUSI212	人的資源管理論	4
BUSI223	会計学	4
BUSI225	財務管理論	4
BUSI364	証券市場論	4
BUSI314	経営史	4
BUSI341	マネジメントサイエンス	4
BUSI311	経営戦略論	4
BUSI312	企業論	4
BUSI412	多国籍企業論	4
BUSI316	生産管理論	4

教育学(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	単位
選択必修科目A群 2科目4単位		
EDUC100	教育学概論Ⅰ	2
EDUC101	教育学概論Ⅱ 注1	2
PRED110	心理学概論Ⅰ:児教	2
PRED111	心理学概論Ⅱ:児教 注1	2
選択必修科目B群 2科目4単位		
PRED250	国語科教育	2
PRED251	社会科教育	2
PRED252	算数科教育	2
PRED253	理科教育	2
選択科目 16単位		
EDUC102	教育史A	2
EDUC103	教育史B	2
EDUC150	生涯学習概論	2
PRED180	特別支援教育概論	2
EDUC200	学校研究:教育	2
EDUC201	教育学研究法	2
EDUC222	Educational Psychology 注2	2
EDUC223	Sociology of Education 注2	2
EDUC224	国際教育特論A 注2	2
EDUC225	国際教育特論B 注2	2
EDUC320	比較・国際教育学A	2
EDUC321	比較・国際教育学B	2
EDUC341	環境教育論	2

※選択必修科目A,B群で2科目4単位以上を超えて修得した単位は、
選択科目の単位として集計されます

注1 同Iを単位修得済みであることが履修条件です

注2 TOEIC550点相当以上の英語力を有していること

理工学(2019年度入学生用)

科目ナンバリン グ	授業科目	単位
選択科目 24単位		
INFO151	情報システム総論	2
INFO152	情報社会論	2
INFO213	論理と集合	2
INFO133	電子工学概論	2
INFO357	コンピュータネットワーク論	2
INFO253	データ構造	2
INFO354	計算機アーキテクチャ	2
INFO355	オペレーティングシステム	2
INFO356	ソフトウェア工学	2
INFO458	データベース論	2
SESI121	物理学A(基礎力学)	2
SESI122	物理学B(基礎電磁気学)	2
SESI141	化学A	2
SESI142	化学B	2
SESI161	生物学A	2
SESI162	生物学B	2
SESI221	光学	2
SESI331	物性物理概論	2
SESI325	連続体物理学	2
SESI326	非線型物理学	2
SESI244	物理化学A	2
SESI241	有機化学Ⅰ	2
SESI242	有機化学Ⅱ	2
SESI243	分析化学	2
SESI341	無機化学	2
SESI261	微生物学	2
SESI263	分子生物学	2
SESI264	生化学	2
SESI268	細胞生物学	2
SESI373	バイオインフォマティクス演習	2
SESI265	生態学	2
SESI392	環境科学	2
SESI381	地球化学	2

異文化コミュニケーション(英語)(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUML100	異文化コミュニケーション	2	HUMC107	Global Japan Studies	2
HUML101	言語文化への招待	2	HUMS100	Human and Society	2
ベーシック科目 10単位					
HUMC406	Literature I	2	HUMS103	国際交流と日本社会	2
HUMC407	Literature II	2	HUML109	英語で日本紹介 I	2
HUMS400	Peace Studies I	2	HUML110	英語で日本紹介 II	2
HUMS401	Peace Studies II	2	HUML112	第二言語習得論入門	2
HUMC408	Cultural Representation I	2	HUML113	Interpersonal Communication	2
HUMC409	Cultural Representation II	2	HUMS104	Mass Communication	2
HUML200	Academic Writing A I	2	HUML204	英語翻訳演習A	2
HUML201	Academic Writing A II	2	HUML205	英語通訳演習A	2
HUML102	時事英語A I	2	HUMC208	Philosophy I	2
HUML103	時事英語A II	2	HUMC113	History I	2
HUML202	時事英語B I	2	HUMC219	英米文学概論 I	2
HUML203	時事英語B II	2	HUMC220	英米文学概論 II	2
HUMC201	英米文学講読 I	2	HUML131	英語学概論 I	2
HUML300	Academic Writing B I	2	HUML132	Introduction to Linguistics	2
HUML301	Academic Writing B II	2	HUML133	英語学概論 II	2
HUML104	Oral Communication in English I	1	HUML231	英文法研究 I	2
HUML105	Oral Communication in English II	1	HUML232	英文法研究 II	2
HUML106	英語翻訳入門 I	2	HUML233	英語音声学	2
HUML107	英語翻訳入門 II	2	HUML134	日英語比較概説	2
HUMC202	Comparative Culture I	2	HUMC122	比較文化 I	2
HUMC203	Comparative Culture II	2	HUMC123	比較文化 II	2
アドヴァンスト科目 12単位					
HUML400	第二言語習得論	2	HUMC417	History II	2
HUML302	Intercultural Communication	2	HUMC320	中・古期英語史と文化	2
HUML303	Global Communication	2	HUMC321	近代英語史と文化	2
HUML304	English in Society	2	HUML323	認知英語学	2
HUML305	English in Institutions	2	HUML324	日英語比較研究	2
HUML306	英語翻訳演習B	2	HUMS411	Peace Studies Workshop I	2
HUML307	英語通訳演習B	2	HUMS413	Peace Studies Workshop II	2
HUML308	Translation Studies	2	HUMC322	人間学外書講読 I (英語)	2
HUML309	英語翻訳論	2	HUMC323	人間学外書講読 II (英語)	2
HUML310	Teaching English for Academic Purposes	2	HUMC324	人間学外書講読 I (フランス語)	2
HUML311	Text Studies I	2	HUMC325	人間学外書講読 II (フランス語)	2
HUML312	Text Studies II	2	HUMC326	人間学外書講読 I (ドイツ語)	2
HUMC302	Special Lecture A	2	HUMC327	人間学外書講読 II (ドイツ語)	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUMC328	人間学外書講読 I (西洋古典語)	2
HUML313	英語特講A	2	HUMC329	人間学外書講読 II (西洋古典語)	2
HUML314	英語特講B	2	HUMC330	人間学外書講読 I (サンスクリット語)	2
HUML315	社会言語学	2	HUMC331	人間学外書講読 II (サンスクリット語)	2
HUMC307	Philosophy II	2			

異文化コミュニケーション(日本語)(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUML100	異文化コミュニケーション	2	HUML101	言語文化への招待	2
ベーシック科目 10単位					
HUML102	時事英語A I	2	HUML206	言語学概論 I	2
HUML103	時事英語A II	2	HUML207	言語学概論 II	2
HUML202	時事英語B I	2	HUML208	対照言語学 I	2
HUML203	時事英語B II	2	HUML209	対照言語学 II	2
HUML108	日本語文化研究	2	HUML210	日本語音声学	2
HUMS103	国際交流と日本社会	2	HUMC211	日本古代・中世史概説	2
HUML111	社会で通用する日本語	2	HUMC114	比較文化史概論	2
HUML112	第二言語習得論入門	2	HUMC119	日本文学概論 I	2
HUML114	日本語教育概論 I	2	HUMC120	日本文学概論 II	2
HUML115	日本語教育概論 II	2	HUML134	日英語比較概説	2
HUML116	日本語学概論 I	2	HUMS108	社会調査の基礎	2
HUML117	日本語学概論 II	2	HUMS109	文化人類学	2
HUML118	日本語コミュニケーション論	2			
アドヴァンスト科目 12単位					
HUMC302	Special Lecture A	2	HUML405	日本語教授法演習	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUML333	日本語の語彙・表記	2
HUML401	日本語教育学特講A	2	HUML429	日本語学特講A	2
HUML402	日本語教育学特講B	2	HUML430	日本語学特講B	2
HUML403	日本語教育学特講C	2	HUMC322	人間学外書講読 I (英語)	2
HUML315	社会言語学	2	HUMC323	人間学外書講読 II (英語)	2
HUML316	現代日本語文法A	2	HUMC324	人間学外書講読 I (フランス語)	2
HUML317	現代日本語文法B	2	HUMC325	人間学外書講読 II (フランス語)	2
HUML318	日本語教材研究 I	2	HUMC326	人間学外書講読 I (ドイツ語)	2
HUML319	日本語教材研究 II	2	HUMC327	人間学外書講読 II (ドイツ語)	2
HUML320	日本語教授法 I	2	HUMC328	人間学外書講読 I (サンスクリット語)	2
HUML321	日本語教授法 II	2	HUMC329	人間学外書講読 II (西洋古典語)	2
HUML322	日本語の表現	2	HUMC330	人間学外書講読 I (サンスクリット語)	2
HUML404	日本語教育実習	2	HUMC331	人間学外書講読 II (サンスクリット語)	2

異文化コミュニケーション(中国語)(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUML100	異文化コミュニケーション	2	HUML101	言語文化への招待	2
ベーシック科目 10単位					
HUML102	時事英語A I	2	HUML214	中国語文法初・中級 II	2
HUML103	時事英語A II	2	HUML215	中国語講読初・中級 I	2
HUML202	時事英語B I	2	HUML216	中国語講読初・中級 II	2
HUML203	時事英語B II	2	HUML217	中国語総合初・中級 I	2
HUML119	中国語学入門 I	2	HUML218	中国語総合初・中級 II	2
HUML120	中国語学入門 II	2	HUMC205	中国社会科学文化論 I	2
HUML121	中国語コミュニケーション演習初級 I	2	HUMC206	中国社会科学文化論 II	2
HUML122	中国語コミュニケーション演習初級 II	2	HUML219	中国語作文初・中級 I	2
HUML123	中国語講読初級 I	2	HUML220	中国語作文初・中級 II	2
HUML124	中国語講読初級 II	2	HUMC113	History I	2
HUMC108	中国社会科学文化入門 I	2	HUMC212	東洋史概説 I	2
HUMC109	中国社会科学文化入門 II	2	HUMC213	東洋史概説 II	2
HUMC204	中国近現代の歴史と思想	2	HUML139	中国語学概論 I	2
HUML211	中国語コミュニケーション演習初・中級 I	2	HUML140	中国語学概論 II	2
HUML212	中国語コミュニケーション演習初・中級 II	2	HUMS105	現代中国概論	2
HUML213	中国語文法初・中級 I	2			
アドヴァンスト科目 12単位					
HUMC302	Special Lecture A	2	HUML416	翻訳演習(日中)A	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUML417	翻訳演習(日中)B	2
HUML406	中国語学上・中級 I	2	HUML418	翻訳演習(中日)A	2
HUML407	中国語学上・中級 II	2	HUML419	翻訳演習(中日)B	2
HUML408	中国語作文上・中級 I	2	HUML331	中国語文法研究 I	2
HUML409	中国語作文上・中級 II	2	HUML332	中国語文法研究 II	2
HUML410	中国語コミュニケーション演習上・中級 I	2	HUMS402	中国社会問題特講A	2
HUML411	中国語コミュニケーション演習上・中級 II	2	HUMS403	中国社会問題特講B	2
HUML412	通訳演習(日中)A	2	HUMS300	中国の政治	2
HUML413	通訳演習(日中)B	2	HUMS301	中国の経済	2
HUML414	通訳演習(中日)A	2	HUMC330	人間学外書講読 I (サンスクリット語)	2
HUML415	通訳演習(中日)B	2	HUMC331	人間学外書講読 II (サンスクリット語)	2

異文化コミュニケーション(ロシア語)(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUML100	異文化コミュニケーション	2	HUML101	言語文化への招待	2
ベーシック科目 10単位					
HUML102	時事英語A I	2	HUML223	ロシア語文法中級 I	2
HUML103	時事英語A II	2	HUML224	ロシア語文法中級 II	2
HUML202	時事英語B I	2	HUML225	ロシア語講読入門 I	2
HUML203	時事英語B II	2	HUML226	ロシア語講読入門 II	2
HUML125	ロシア語文法入門 I	2	HUML227	ロシア語翻訳初級 I	2
HUML126	ロシア語文法入門 II	2	HUML228	ロシア語翻訳初級 II	2
HUML127	ロシア語コミュニケーション初級 I	1	HUML229	ロシア語コミュニケーション中級 I	1
HUML128	ロシア語コミュニケーション初級 II	1	HUML230	ロシア語コミュニケーション中級 II	1
HUML129	ロシア語発音トレーニング I	1	HUMC118	ロシア文学入門	2
HUML130	ロシア語発音トレーニング II	1	HUMC225	ロシアの歴史と文化	2
HUML221	ロシア語文法初級 I	2	HUMC226	東欧の歴史と文化	2
HUML222	ロシア語文法初級 II	2	HUMS106	現代ロシア概論	2
アドヴァンスト科目 12単位					
HUMC302	Special Lecture A	2	HUML428	ロシア語文学講読 II	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUMC424	ロシア文学	2
HUML420	ロシア語文法上級 I	2	HUML329	ロシア語学 I	2
HUML421	ロシア語文法上級 II	2	HUML330	ロシア語学 II	2
HUML422	ロシア語コミュニケーション上級 I	1	HUMS404	ロシアの社会	2
HUML423	ロシア語コミュニケーション上級 II	1	HUMS405	ロシアの経済	2
HUML424	ロシア語翻訳上級 I	2	HUMC328	人間学外書講読 I (西洋古典語)	2
HUML425	ロシア語翻訳上級 II	2	HUMC329	人間学外書講読 II (西洋古典語)	2
HUML426	時事ロシア語	2	HUMC330	人間学外書講読 I (サンスクリット語)	2
HUML427	ロシア語文学講読 I	2	HUMC331	人間学外書講読 II (サンスクリット語)	2

哲学・歴史学(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUMC102	哲学・思想への招待	2	HUMC103	歴史学への招待	2
ベーシック科目 10単位					
HUML102	時事英語A I	2	HUMC113	History I	2
HUML103	時事英語A II	2	HUMC211	日本古代・中世史概説	2
HUML202	時事英語B I	2	HUMC114	比較文化史概論	2
HUML203	時事英語B II	2	HUMC115	考古学概論	2
HUMC202	Comparative Culture I	2	HUMC212	東洋史概説 I	2
HUMC203	Comparative Culture II	2	HUMC213	東洋史概説 II	2
HUMC204	中国近現代の歴史と思想	2	HUMC214	西洋史概説 I	2
HUMC207	哲学概論	2	HUMC215	西洋史概説 II	2
HUMC208	Philosophy I	2	HUMC225	ロシアの歴史と文化	2
HUMC110	仏教思想概論	2	HUMC226	東欧の歴史と文化	2
HUMC111	西洋哲学史 I	2	HUMC234	地理学 I : 人間	2
HUMC209	日本思想史 I	2	HUMC235	地理学 II : 人間	2
HUMC210	倫理学概論	2	HUMS203	中央アジア論	2
HUMC112	歴史学概論	2			
アドヴァンスト科目 12単位					
HUMC302	Special Lecture A	2	HUMC419	歴史学特講A	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUMC420	歴史学特講B	2
HUMC304	西洋哲学史 II	2	HUMC421	歴史学特講C	2
HUMC305	東洋思想史	2	HUML327	ドイツ言語文化研究 I	2
HUMC306	日本思想史 II	2	HUML328	ドイツ言語文化研究 II	2
HUMC307	Philosophy II	2	HUMC322	人間学外書講読 I (英語)	2
HUMC308	論理学	2	HUMC323	人間学外書講読 II (英語)	2
HUMC309	言語哲学	2	HUMC324	人間学外書講読 I (フランス語)	2
HUMC310	宗教学	2	HUMC325	人間学外書講読 II (フランス語)	2
HUMC311	科学哲学	2	HUMC326	人間学外書講読 I (ドイツ語)	2
HUMC410	哲学・思想特講A	2	HUMC327	人間学外書講読 II (ドイツ語)	2
HUMC411	哲学・思想特講B	2	HUMC328	人間学外書講読 I (西洋古典語)	2
HUMC412	民俗学	2	HUMC329	人間学外書講読 II (西洋古典語)	2
HUMC413	西洋文化史	2	HUMC330	人間学外書講読 I (サンスクリット語)	2
HUMC414	東洋文化史	2	HUMC331	人間学外書講読 II (サンスクリット語)	2
HUMC415	古文書学	2	HUMC332	人文地理学: 人間	2
HUMC416	日本近世・近現代史概説	2	HUMC333	自然地理学: 人間	2
HUMC417	History II	2	HUMC334	地誌学: 人間	2
HUMC418	中央ユーラシア史	2			

表現文化(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUMC104	世界文学への招待	2	HUMC105	表現文化論入門	2
ベーシック科目 10単位					
HUMC406	Literature I	2	HUMC217	文芸創作Ⅱ	2
HUMC407	Literature II	2	HUMC218	英米文学講読Ⅱ	2
HUMS400	Peace Studies I	2	HUMC219	英米文学概論Ⅰ	2
HUMS401	Peace Studies II	2	HUMC220	英米文学概論Ⅱ	2
HUMC408	Cultural Representation I	2	HUMC221	イギリス古典文学史	2
HUMC409	Cultural Representation II	2	HUMC222	イギリス近代文学史	2
HUML200	Academic Writing A I	2	HUMC223	アメリカ文学史	2
HUML201	Academic Writing A II	2	HUMC224	演劇入門	2
HUMC201	英米文学講読Ⅰ	2	HUMC118	ロシア文学入門	2
HUML300	Academic Writing B I	2	HUMC227	映画論	2
HUML301	Academic Writing B II	2	HUMC119	日本文学概論Ⅰ	2
HUML104	Oral Communication in English I	1	HUMC120	日本文学概論Ⅱ	2
HUML105	Oral Communication in English II	1	HUMC228	日本古典文学講読	2
HUML106	英語翻訳入門Ⅰ	2	HUMC229	日本近代文学講読	2
HUML107	英語翻訳入門Ⅱ	2	HUMC230	日本文学史	2
HUMC202	Comparative Culture I	2	HUMC121	書道Ⅰ	2
HUMC203	Comparative Culture II	2	HUMC231	書道Ⅱ	2
HUML114	日本語教育概論Ⅰ	2	HUMC232	中国文学Ⅰ	2
HUML115	日本語教育概論Ⅱ	2	HUMC233	中国文学Ⅱ	2
HUML116	日本語学概論Ⅰ	2	HUML131	英語学概論Ⅰ	2
HUML117	日本語学概論Ⅱ	2	HUML132	Introduction to Linguistics	2
HUML118	日本語コミュニケーション論	2	HUML133	英語学概論Ⅱ	2
HUML213	中国語文法初中級Ⅰ	2	HUML231	英文法研究Ⅰ	2
HUML214	中国語文法初中級Ⅱ	2	HUML232	英文法研究Ⅱ	2
HUML215	中国語講読初中級Ⅰ	2	HUML233	英語音声学	2
HUML216	中国語講読初中級Ⅱ	2	HUML134	日英語比較概説	2
HUML225	ロシア語講読入門Ⅰ	2	HUML135	ドイツ語文法研究Ⅰ	2
HUML226	ロシア語講読入門Ⅱ	2	HUML136	ドイツ語文法研究Ⅱ	2
HUML227	ロシア語翻訳初級Ⅰ	2	HUML137	スペイン語文法研究Ⅰ	2
HUML228	ロシア語翻訳初級Ⅱ	2	HUML138	スペイン語文法研究Ⅱ	2
HUMC211	日本古代・中世史概説	2	HUMC122	比較文化Ⅰ	2
HUMC116	文学研究法入門Ⅰ	2	HUMC123	比較文化Ⅱ	2
HUMC117	文学研究法入門Ⅱ	2	HUMS210	ジャーナリズムの社会学	2
HUMC216	文芸創作Ⅰ	2			
アドヴァンスト科目 12単位					
HUML306	英語翻訳演習B	2	HUMC317	サブカルチャー論	2
HUML311	Text Studies I	2	HUMC318	漢文学特講Ⅰ	2
HUML312	Text Studies II	2	HUMC319	漢文学特講Ⅱ	2
HUMC302	Special Lecture A	2	HUML325	スペイン言語文化研究Ⅰ	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUML326	スペイン言語文化研究Ⅱ	2
HUML316	現代日本語文法A	2	HUML327	ドイツ言語文化研究Ⅰ	2
HUML317	現代日本語文法B	2	HUML328	ドイツ言語文化研究Ⅱ	2
HUML322	日本語の表現	2	HUML329	ロシア語学Ⅰ	2
HUML427	ロシア語文学講読Ⅰ	2	HUML330	ロシア語学Ⅱ	2
HUML428	ロシア語文学講読Ⅱ	2	HUMS411	Peace Studies Workshop I	2
HUMC422	英米児童文学研究	2	HUMS413	Peace Studies Workshop II	2
HUMC423	演劇論	2	HUMS302	ジェンダーの社会学	2
HUMC424	ロシア文学	2	HUMC322	人間学外書講読Ⅰ(英語)	2
HUMC425	中東文化論Ⅰ	2	HUMC323	人間学外書講読Ⅱ(英語)	2
HUMC426	中東文化論Ⅱ	2	HUMC324	人間学外書講読Ⅰ(フランス語)	2
HUMC312	日本古典文学作家作品論A	2	HUMC325	人間学外書講読Ⅱ(フランス語)	2
HUMC313	日本古典文学作家作品論B	2	HUMC326	人間学外書講読Ⅰ(ドイツ語)	2
HUMC314	日本近代文学作家作品論A	2	HUMC327	人間学外書講読Ⅱ(ドイツ語)	2
HUMC315	日本近代文学作家作品論B	2	HUMC328	人間学外書講読Ⅰ(西洋古典語)	2
HUMC427	日本文学特講A	2	HUMC329	人間学外書講読Ⅱ(西洋古典語)	2
HUMC428	日本文学特講B	2	HUMC330	人間学外書講読Ⅰ(サンスクリット語)	2
HUMC429	日本文学特講C	2	HUMC331	人間学外書講読Ⅱ(サンスクリット語)	2

国際日本学(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUML100	異文化コミュニケーション	2	HUMC107	Global Japan Studies	2
HUMC106	国際日本学への招待	2	HUMS100	Human and Society	2
ベーシック科目 10単位					
HUMC407	Literature II	2	HUMC114	比較文化史概論	2
HUMS401	Peace Studies II	2	HUMC212	東洋史概説 I	2
HUMC409	Cultural Representation II	2	HUMC213	東洋史概説 II	2
HUML200	Academic Writing A I	2	HUMC214	西洋史概説 I	2
HUML201	Academic Writing A II	2	HUMC215	西洋史概説 II	2
HUML103	時事英語A II	2	HUMC224	演劇入門	2
HUML203	時事英語B II	2	HUMC225	ロシアの歴史と文化	2
HUML300	Academic Writing B I	2	HUMC226	東欧の歴史と文化	2
HUML301	Academic Writing B II	2	HUMC119	日本文学概論 I	2
HUML104	Oral Communication in English I	1	HUMC120	日本文学概論 II	2
HUML105	Oral Communication in English II	1	HUMC228	日本古典文学講読	2
HUMC202	Comparative Culture I	2	HUMC229	日本近代文学講読	2
HUMC203	Comparative Culture II	2	HUMC230	日本文学史	2
HUML108	日本語文化研究	2	HUMC121	書道 I	2
HUMS103	国際交流と日本社会	2	HUMC231	書道 II	2
HUML109	英語で日本紹介 I	2	HUMC234	地理学 I : 人間	2
HUML110	英語で日本紹介 II	2	HUMC235	地理学 II : 人間	2
HUML111	社会で通用する日本語	2	HUMS105	現代中国概論	2
HUML204	英語翻訳演習A	2	HUMS106	現代ロシア概論	2
HUML205	英語通訳演習A	2	HUMC122	比較文化 I	2
HUML114	日本語教育概論 I	2	HUMC123	比較文化 II	2
HUML115	日本語教育概論 II	2	HUMS107	国際関係論	2
HUML116	日本語学概論 I	2	HUMS109	文化人類学	2
HUML117	日本語学概論 II	2	HUMS204	現代文化人類学	2
HUML118	日本語コミュニケーション論	2	HUMS110	社会学概論	2
HUML206	言語学概論 I	2	HUMS207	家族の社会学	2
HUML207	言語学概論 II	2	HUMS208	地域と都市の社会学	2
HUML208	対照言語学 I	2	HUMS209	宗教社会学	2
HUML209	対照言語学 II	2	HUMS210	ジャーナリズムの社会学	2
HUMC110	仏教思想概論	2	HUMS214	社会福祉概論 I	2
HUMC209	日本思想史 I	2	HUMS215	社会福祉概論 II	2
HUMC211	日本古代・中世史概説	2			
アドヴァンスト科目 12単位					
HUML302	Intercultural Communication	2	HUMC317	サブカルチャー論	2
HUML303	Global Communication	2	HUMC318	漢文学特講 I	2
HUML307	英語通訳演習B	2	HUMC319	漢文学特講 II	2
HUML308	Translation Studies	2	HUML324	日英語比較研究	2
HUML309	英語翻訳論	2	HUML333	日本語の語彙・表記	2
HUML312	Text Studies II	2	HUML429	日本語学特講A	2
HUMC302	Special Lecture A	2	HUML430	日本語学特講B	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUMS406	平和学	2
HUML315	社会言語学	2	HUMS407	人間の安全保障	2
HUML316	現代日本語文法A	2	HUMS408	国際社会論	2
HUML317	現代日本語文法B	2	HUMS409	東アジア共同体と安全保障論	2
HUML322	日本語の表現	2	HUMS302	ジェンダーの社会学	2
HUMC305	東洋思想史	2	HUMS303	教育の社会学	2
HUMC306	日本思想史 II	2	HUMS304	メディアと社会心理	2
HUMC307	Philosophy II	2	HUMS414	歴史の社会学	2
HUMC412	民俗学	2	HUMS415	現代宗教の社会学	2
HUMC413	西洋文化史	2	HUMS416	映像の社会学	2
HUMC414	東洋文化史	2	HUMC322	人間学外書講読 I (英語)	2
HUMC415	古文書学	2	HUMC323	人間学外書講読 II (英語)	2
HUMC416	日本近世・近現代史概説	2	HUMC332	人文地理学: 人間	2
HUMC417	History II	2	HUMC333	自然地理学: 人間	2
HUMC316	ディベート日本学	2	HUMC334	地誌学: 人間	2

社会学(2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目 2単位					
HUMS100	Human and Society	2	HUMS102	社会福祉入門	2
HUMS101	現代社会研究への招待	2			
ベーシック科目 10単位					
HUMS400	Peace Studies I	2	HUMC123	比較文化Ⅱ	2
HUMS401	Peace Studies II	2	HUMS203	中央アジア論	2
HUML102	時事英語AⅠ	2	HUMS107	国際関係論	2
HUML103	時事英語AⅡ	2	HUMS108	社会調査の基礎	2
HUML202	時事英語BⅠ	2	HUMS109	文化人類学	2
HUML203	時事英語BⅡ	2	HUMS204	現代文化人類学	2
HUMC202	Comparative Culture I	2	HUMS110	社会学概論	2
HUMC203	Comparative Culture II	2	HUMS205	社会学史概説	2
HUMS103	国際交流と日本社会	2	HUMS206	資料収集・データ分析法	2
HUMS104	Mass Communication	2	HUMS207	家族の社会学	2
HUMC204	中国近現代の歴史と思想	2	HUMS208	地域と都市の社会学	2
HUMC225	ロシアの歴史と文化	2	HUMS209	宗教社会学	2
HUMC226	東欧の歴史と文化	2	HUMS210	ジャーナリズムの社会学	2
HUMS105	現代中国概論	2	HUMS211	社会調査方法論	2
HUMS106	現代ロシア概論	2	HUMS212	質的調査分析法	2
HUMS201	東アジアの政治	2	HUMS213	社会統計学	2
HUMS202	東アジアの経済	2	HUMS214	社会福祉概論Ⅰ	2
HUMC122	比較文化Ⅰ	2	HUMS215	社会福祉概論Ⅱ	2
アドヴァンスト科目 12単位					
HUMC302	Special Lecture A	2	HUMS303	教育の社会学	2
HUMC303	Special Lecture B	2	HUMS304	メディアと社会心理	2
HUMC412	民俗学	2	HUMS414	歴史の社会学	2
HUMC317	サブカルチャー論	2	HUMS415	現代宗教の社会学	2
HUMS300	中国の政治	2	HUMS416	映像の社会学	2
HUMS301	中国の経済	2	HUMS417	サーベイ調査実習	2
HUMS404	ロシアの社会	2	HUMS418	フィールド調査実習	2
HUMS405	ロシアの経済	2	HUMC322	人間学外書講読Ⅰ(英語)	2
HUMS406	平和学	2	HUMC323	人間学外書講読Ⅱ(英語)	2
HUMS407	人間の安全保障	2	HUMC324	人間学外書講読Ⅰ(フランス語)	2
HUMS408	国際社会論	2	HUMC325	人間学外書講読Ⅱ(フランス語)	2
HUMS409	東アジア共同体と安全保障論	2	HUMC326	人間学外書講読Ⅰ(ドイツ語)	2
HUMS410	平和構築ワークショップⅠ	2	HUMC327	人間学外書講読Ⅱ(ドイツ語)	2
HUMS411	Peace Studies WorkshopⅠ	2	HUMC328	人間学外書講読Ⅱ(西洋古典語)	2
HUMS412	平和構築ワークショップⅡ	2	HUMC329	人間学外書講読Ⅱ(西洋古典語)	2
HUMS413	Peace Studies WorkshopⅡ	2	HUMC330	人間学外書講読Ⅰ(サンスクリット語)	2
HUMS302	ジェンダーの社会学	2	HUMC331	人間学外書講読Ⅱ(サンスクリット語)	2

■English Medium Program 科目表 (2019年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	単位	科目 ナンバリング	科目名	単位
ECON113	Principles of Microeconomics	4	LAWP232	Peace Studies	2
ECON114	Principles of Macroeconomics	4	LAWP233	Area Studies in International Law Perspectives	2
ECON132	Introduction to Financial Accounting	2	LAWP234	International Relations	4
ECON152	Economic History	4	LAWP235	International Environmental Policy	2
ECON171	Introduction to Economic Reasoning	4	LAWP236	Border Studies	2
ECON172	Global Economy Lecture	2	LAWP237	Security Studies	2
ECON202	Progressive Seminar I	2	LAWP238	Law and Politics in Japan and Asia	2
ECON223	Introductory Mathematics for Economics I	2	LAWP239	American Politics	2
ECON224	Introductory Mathematics for Economics II	2	LAWP246	Special Topics of Law and Politics C	2
ECON225	Statistics for Economics and Business I	2	LAWP247	Special Topics of Law and Politics D	2
ECON226	Statistics for Economics and Business II	2	LAWP248	International Internship A	2
ECON271	Economics Lecture A	4	LAWP249	International Internship B	2
ECON272	Economics Lecture B	4	LAWP341	Global Public Policy	2
ECON276	World Economy I	2	LAWP342	International Human Rights	4
ECON277	World Economy II	2	LAWP343	Law and Politics in Europe	2
ECON278	World Economy A	4	LAWP351	Environmental Law	2
ECON279	World Economy B	4	LAWP352	The Common Law	2
ECON294	International Internship A	4	LAWP356	Special Topics of Law and Politics E	2
ECON295	International Internship B	4	LAWP357	Special Topics of Law and Politics F	2
ECON303	Progressive Seminar II	2	HUML113	Interpersonal Communication	2
ECON304	Progressive Seminar III	2	HUML132	Introduction to Linguistics	2
ECON313	Intermediate Microeconomics	4	HUML302	Intercultural Communication	2
ECON314	Intermediate Macroeconomics	4	HUML303	Global Communication	2
ECON334	Principles of Finance	4	HUML304	English in Society	2
ECON335	International Finance	2	HUML305	English in Institutions	2
ECON336	Econometrics	4	HUML308	Translation Studies	2
ECON347	Economic Issues of Contemporary Japan	2	HUML311	Text Studies I	2
ECON355	Economic Development of Japan I	2	HUML312	Text Studies II	2
ECON356	Economic Development of Japan II	2	HUMC101	Introduction to Humanities	4
ECON357	Political Economy of Japan and Asia	2	HUMC107	Global Japan Studies	2
ECON368	Chinese Economy	2	HUMC113	History I	2
ECON369	Indian Economy	2	HUMC417	History II	2
ECON371	Development and Environment	4	HUMC202	Comparative Culture I	2
ECON376	Contemporary Economy and Business I	2	HUMC203	Comparative Culture II	2
ECON377	Contemporary Economy and Business II	2	HUMC208	Philosophy I	2
ECON378	Contemporary Economy and Business III	2	HUMC307	Philosophy II	2
ECON379	Contemporary Economy and Business IV	2	HUMC302	Special Lecture A	2
ECON382	World Economy III	2	HUMC303	Special Lecture B	2
ECON383	World Economy IV	2	HUMC406	Literature I	2
ECON384	World Economy V	2	HUMC407	Literature II	2
ECON385	World Economy VI	2	HUMC408	Cultural Representation I	2
ECON386	World Economy C	4	HUMC409	Cultural Representation II	2
ECON387	World Economy D	4	HUMS100	Human and Society	2
ECON388	World Economy E	4	HUMS104	Mass Communication	2
ECON396	Business and Japanese People	2	HUMS400	Peace Studies I	2
ECON397	Human Resources Management in Japan and Asia	2	HUMS401	Peace Studies II	2
ECON403	Progressive Seminar IV	2	HUMS411	Peace Studies Workshop I	2
ECON481	World Economy VII	2	HUMS413	Peace Studies Workshop II	2
ECON482	World Economy VIII	2	BUSI122	Introduction to Accounting I	2
ECON483	World Economy F	4	BUSI123	Introduction to Accounting II	2
ECON484	World Economy G	4	BUSI202	Humanistic Management Workshop	2
ECON273	International Economy and Business I	3	BUSI232	Principles of Marketing	4
ECON274	International Economy and Business II	3	BUSI270	Introduction to Global Business Leadership	2
ECON275	International Economy and Business III	3	BUSI271	Global Business Communication I	4
ECON398	International Economy and Business IV	3	BUSI272	Global Business Communication II	4
ECON399	International Economy and Business V	3	BUSI273	Stakeholder Dialogue	2
LAWP102	Introduction to Legal Studies	2	BUSI274	International Context in Business	4
LAWP114	Academic Foundations for Peace and Human Rights I	2	BUSI275	Financial Management	4
LAWP115	Academic Foundations for Peace and Human Rights II	2	BUSI285	Project Management I	2
LAWP118	Special Topics of Law and Politics A	2	BUSI286	Japanese Business I	2
LAWP119	Special Topics of Law and Politics B	2	BUSI287	Japanese Business II	2
LAWP133	AF for Study Abroad I	1	BUSI333	Principles of Consumer Behavior	4
LAWP134	AF for Study Abroad II	1	BUSI380	Project Management II	2
LAWP231	Global Issues	2	BUSI381	Multicultural Management	2

English Medium Program (2019年度入学生用) ※つづき

科目 ナンバリング	科目名	単位	科目 ナンバリング	科目名	単位
BUSI382	Sustainable Business and Management	2	INLA372	International Political Economy	4
BUSI383	Global Business Review I	2	INLA373	International Institutions and Global Governance	4
BUSI384	Global Business Review II	2	INLA381	Development Economics	4
BUSI385	Business Ethics	2	INLA382	Management Science	4
BUSI386	Environmental Management Issues	2	INLA383	Marketing	4
BUSI387	Critical Thinking in Business Strategy	2	INLA390	Seminar I	2
INLA120	Statistics I	4	INLA391	Seminar II	2
INLA121	Statistics II	4	INLA430	Special Lecture I	2
INLA122	Precalculus	4	INLA431	Special Lecture II	2
INLA220	Programming	4	INLA432	Special Lecture III	2
INLA221	Calculus	4	INLA433	Special Lecture IV	2
INLA222	Linear Algebra	4	INLA434	Special Lecture V	2
INLA223	Qualitative Research Methods	4	INLA435	Special Lecture VI	2
INLA260	Principles of Philosophy	4	INLA436	Special Lecture VII	2
INLA261	Principles of History	4	INLA437	Special Lecture VIII	2
INLA262	Principles of Sociology	4	INLA438	Special Lecture IX	2
INLA270	Principles of Politics and Globalization	4	INLA439	Special Lecture X	2
INLA271	Principles of International Relations	4	INLA440	Special Lecture XI	2
INLA280	Principles of Accounting and Financial Analysis	4	INLA441	Special Lecture XII	2
INLA281	Principles of Economics	4	INLA460	Cold War and Decolonisation in History	4
INLA282	Principles of Business	4	INLA461	Education and International Development	4
INLA330	Special Seminar A	4	INLA462	Global Ethics	4
INLA331	Special Seminar B	4	INLA463	Transnational Migration	4
INLA332	Special Seminar C	4	INLA470	Citizenship and Democracy in a Global Age	4
INLA333	Special Seminar D	4	INLA471	International Relations in Asia	4
INLA334	Special Seminar E	4	INLA472	International Bargaining	4
INLA335	Special Seminar F	4	INLA473	Comparative Politics	4
INLA360	World Wars in History	4	INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	4
INLA361	Global Social Policy	4	INLA481	International Economics	4
INLA362	Modern Political Thought	4	INLA482	Operations Management	4
INLA363	Sociology of Globalization	4	INLA483	International Business	4
INLA370	Contemporary Political Theory	4	INLA490	Seminar III	2
INLA371	Great Power Politics in the World	4			

データサイエンス（2019年度入学生用）

科目 ナンバリング	科目名	科目区分	単位	備考
必修科目 4単位				
ECON322	データ・サイエンス	経済学科専門科目	4	
選択科目 20単位				
基礎統計学科目（注）				
GNAT111	統計学入門Ⅰ	共通科目	2	経済・経営学科生以外。統計学入門Ⅰ・Ⅱの
GNAT112	統計学入門Ⅱ	共通科目	2	双方を修得することが望ましい
ECON122	基礎統計学A	経済学科専門科目	4	経済学部生のみ
BUSI141	統計学:経営	経営学科専門科目	4	経営学部生のみ
基礎科目				
GNAT102	情報科学	共通科目	2	
INFO161	プログラミング演習Ⅰ	情報システム工学科専門科目	2	
INFO162	プログラミング演習Ⅱ	情報システム工学科専門科目	2	
INFO261	ソフトウェア演習A	情報システム工学科専門科目	2	
統計学科目				
ECON323	統計学:経済	経済学科専門科目	4	
Java言語				
GNAT104	プログラミング	共通科目	2	
INFO262	ソフトウェア演習B	情報システム工学科専門科目	2	
アルゴリズム論				
INFO253	データ構造	情報システム工学科専門科目	2	
Python言語				
BUSI252	プログラミング論	経営学科専門科目	4	
機械学習				
INFO359	人工知能	情報システム工学科専門科目	2	
SQL				
INFO458	データベース論	情報システム工学科専門科目	2	

注 基礎統計学に関する科目は、所属する学部・学科により算入される科目が異なります。

- ・経済、経営学科生以外・・・「統計学入門Ⅰ(GNAT111)」 「統計学入門Ⅱ(GNAT112)」
- ・経済学科生・・・「基礎統計学A(ECON122)」 ・経営学科生・・・「統計学:経営 (BUSI141)」

2. 社会教育主事課程（看護・国際教養はのぞく）

社会教育主事は青年教育、婦人教育、成人教育などの社会教育活動について、指導・助言を行う教育専門職員です。その身分は教育公務員であり、教育委員会によって任命されます。現在、社会教育法により、「都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に、社会教育主事及び社会教育主事補を置く」ことになっています。

また、社会教育主事の資格を有する者が、公民館、青年の家など、社会教育施設の職員として、専門的な活動を行うことも少なくありません。

社会教育主事になるためには、いくつかの基礎資格が必要です。本学の社会教育主事課程は、「大学に2年以上在学して、62単位以上を修得し、且つ、大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で、1年以上社会教育主事補の職にあった者」とする社会教育法の規定が該当します。換言すれば、学士号をもち、大学において文部科学省令で定めた「社会教育に関する科目の単位」を修得している者は、社会教育主事補の職について1年以上たてば、社会教育主事になる資格を得ることができます。

なお、社会教育主事課程登録者は、資格取得に必要な単位の一部を「特設課程科目」として履修します。

資格取得のために修得すべき最低単位数などの詳細はガイダンスで配布される資料を参照してください。

■特設課程科目一覧（社会教育主事課程）

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	学科			
					右記以外(※)	人間	教育	児童教育
TETC180	生涯学習概論:特設	30	2	1~	○	○	注	○
TETC181	社会教育概論:特設	30	2	1~	○	○		○
TETC282	社会教育計画Ⅰ:特設	30	2	2~	○	○		○
TETC283	社会教育計画Ⅱ:特設	30	2	2~	○	○		○
TETC480	社会教育演習:特設	60	4	3~	○	○		○
TETC381	社会教育課題研究Ⅰ:特設	30	2	3~	○	○		○
TETC382	社会教育課題研究Ⅱ:特設	30	2	3~	○	○		○
TETC481	社会教育特講A:特設	30	2	2~	○	○		○
TETC482	社会教育特講B:特設	30	2	3~	○	○		○
TETC253	教育心理	30	2	1~	○	○		○
TETC280	教育社会学:特設	60	3	2~	○	注		○
TETC281	発達心理学:特設	30	2	3~	○	○		○
TETC289	児童福祉論:特設	30	2	3~	○	注		○
TETC151	教育原論	30	2	1~	○	○		注
TETC379	メディアと社会心理:特設	30	2	2~	○	注		○

注 教育学科、児童教育学科、人間学科では、社会教育主事に必要な科目の一部を専門科目で履修します。

詳しくは登録ガイダンスの際に配布される資料を参照してください。

※看護学科、国際教養学科生は社会教育主事課程に登録することはできません。

第Ⅸ章 各種システムの利用について

1. 学内のICT環境（パソコン教室・プリンタの利用）

(1) パソコン設置場所について

学内でパソコンを使用できる場所、及び開室時間は以下の通りです。なお、授業でパソコン教室を使用する場合もありますので、注意してください。また、長期休業期間中など、開室時間や利用できる場所が変更となる場合があります。パソコン教室の開館時間は、ポータルサイト内、又はIT Support Desk ホームページに掲載されています。

建物名	教室名	開室時間（通常授業期間）
中央教育棟	AW202（SPACe内）	SPACeの開館時間に準じます
	AW201、AE252、AE253、AE255、AE257、AE258、AE259、AE260、AE354、AE355	平日…9:00～20:30 土曜日…AE257教室のみ利用可(9:00～17:00) 日・祝日…閉室
教育学部棟	B201	平日 9:00～19:30のみ ※土・日・祝日は閉室
本部棟	M101、M302	平日 9:00～18:00のみ ※土・日・祝日は閉室
理工学部棟	E307教室、E408教室 ※原則として理工学部生のみ利用可	平日…9:00～20:30 土曜日…9:00～12:00 日・祝日…閉室
図書館	中央図書館 フレイザー図書館（理工学部棟内） 白樺図書館（看護学部棟内）	図書館のホームページで確認してください。

※SPACe内にあるAW202教室以外の教室は授業で使用する場合があります。授業時はその教室は使用できませんのでご注意ください。

※中央図書館では、館内で利用できるノートパソコンの貸出サービスも行っています。ノートパソコン貸出サービスの詳細は、図書館のホームページを参照してください。

(2) プリンタの使用について（印刷サービス）

パソコン教室にはレーザープリンタを設置しており、学内のパソコンからこれらのプリンタを使用して印刷を行うことができます。なお、学生1人が無料で印刷を行うことができる枚数は以下の通りです。

無料で印刷が可能な枚数を使い切ってしまった場合は、証明書自動発行機で「追加印刷申請書」を購入し、中央教育棟にあるAE254 コンサルテーションルームにて手続きを行うことで印刷可能枚数を追加することができます。

印刷可能枚数	入学時に800ポイントが付与されます ※白黒印刷では1枚につき1ポイント、カラー印刷では1枚につき3ポイント消費します。すべて白黒片面印刷で使用了場合は、在籍中に800枚印刷することができます。印刷可能枚数の残数は、パソコン教室に設置しているパソコン上で確認することができます
印刷可能枚数の追加	証明書自動発行機で「追加印刷申請書（1,000円）」を購入し、AE254 コンサルテーションルームに提出することで、100ポイント追加することができます。なお、追加印刷申請書を購入する際は学生証が必要です。

※カラー印刷を行うことができるのは、AE252教室、AE257教室、E307教室のみです。

※AW202教室、AE257教室では両面印刷を行うことができます。両面印刷を行った際は、1ページにつき1ポイント（1枚で2ポイント）消費します。

※個人が所有するスマートフォンやタブレットから、パソコン教室に設置しているプリンタへ直接印刷を行うこともできます。詳しくはIT Support Deskのホームページを参照してください。なお、この場合も、通常と同様にポイントを消費することとなりますのでご注意ください。

2. ユーザ登録について

創価大学のコンピュータ施設や各種WEBサービスを利用するためには、学生個人に付与されたユーザIDとパスワードが必要です。はじめて利用する方は、**最初に「ユーザ登録」を行う必要があります**。ユーザ登録は、中央教育棟、本部棟、理工学部棟、教育学部棟のパソコン教室、及び図書館で行うことができます。

- ① パソコンの電源を入れます（電源ボタンはパソコン前面の楕円状ボタンです）。数分待つと右のような画面になります。
- ② ユーザID（上段）に「start」、パスワード（下段）に「soka」と入力し、「→」ボタンをクリックします。
- ③ しばらくすると右下のような画面になりますので、上から順にコンテンツを確認し、その内容についての確認テストを受験します（利用方法を理解する上での簡単な内容です）。なお、この手順で動画を視聴しますのでイヤホンなどを用意してください。
- ④ テストに合格後、「ユーザ登録」をクリックし、ユーザIDと初期パスワード(*)を入力し、「登録」をクリックします。その後、パスワードの変更を画面の表示に沿って行います。
- ⑤ パスワードの変更が完了したら、「Alt」キーを押しながら「F4」キーを押してログオフしてください（Altキーはキーボードの下部、F4ボタンはキーボードの上部にあります）。
- ⑥ 再びログイン画面に戻りますので、自分のユーザIDとパスワードを使用してログインし、デスクトップにある「新入生ガイダンス動画」を確認します。
- ⑦ 確認が終了したら、パソコンをシャットダウンします。



* ユーザIDと初期パスワードは以下のように設定されております。

【ユーザID】 e + 学籍番号 （例：e1901000）

【初期パスワード】 Soka + 4桁の暗証番号（最初のSは大文字です）
（例：暗証番号が1234の場合 → Soka1234）

- ・暗証番号は、入学手続き時に大学から送付した「学籍番号決定通知」に記載されています。
- ・大学が付与するアカウントは、在籍期間中のみ利用できます（卒業・退学後は削除されます）

ユーザ登録やパソコン教室についてのお問い合わせは、中央教育棟2階AE254までお越しください。またIT Support Deskのホームページには、各種手順を始めとする情報が掲示してありますので、定期的にご覧ください。

■ IT Support Desk ホームページ：<https://itsupport.soka.ac.jp/>

3. パスワードについて

(1) パソコンや各種 WEB サービスで利用するパスワード

学内に設置されているパソコン、学内無線LAN、ポータルサイトなどのwebサービス、大学が提供しているメールサービスにログインする際に使用するパスワードは、上記「2. ユーザ登録について」にて、各自で設定したものを使用します。各種インターネットサービスに大学のメールアドレスを登録する必要がある場合は大学のパスワードとは違うものを指定してください。大学のパスワードを変更する場合は以下の手順で行います。

■パスワード変更手順

- ① ポータルサイトにログインし、左側メニューの「ツール・リンク集」をクリック
- ② 学内サービス欄の「パスワード変更」をクリックし、画面の案内に従ってパスワードを設定



(2) 証明書自動発行機を利用する際のパスワード

証明書自動発行機を使用する際は、は入学手続き時の「学籍番号決定通知」に記載されている4桁の暗証番号を使用します。この暗証番号を変更することはできません。なお、この4桁の暗証番号は、ポータルサイト内（パソコン版、スマートフォン版双方）で確認することができます。

■暗証番号の確認方法（パソコン版の場合）

- ① ポータルサイトにログインし、左側メニューの個人メニューの中にある「個人環境設定」をクリック
- ② 右側画面上部の「自動証明書発行機用 暗証番号」欄に暗証番号が表示されます

4. 学内無線 LAN の利用について

本学の学生は、大学が提供する学内無線LAN（SSID：SOKA30WL又はSOKA30WL_bg（*））を経由し、インターネットを利用することができます。学内無線LANを利用するためには、ユーザ登録が完了した後、以下の条件を満たした端末（ノートパソコン、タブレット、等）から接続することができます。

なお、本学の学内無線LANは、学習に必要なインターネット環境を提供することを目的として設置しているものです。皆が快適に利用できるよう、学習とは無関係な目的（学習とは関係の無い動画をインターネットで視聴する、等）で学内無線LANを利用することは控えてください。

(*）SSIDは変更する場合があります。変更の際は、ポータルサイトのお知らせやIT Support Desk ホームページで案内します。

【Windows OS の端末の場合】

- ・最新のWindows Updateが適用されている
- ・セキュリティソフトが導入されている
- ・セキュリティソフトのウィルス定義ファイルが最新である

※Windows OS以外の端末（mac OSやiOSなど）は上記の条件は課されていませんが、悪意のある第三者か

らの攻撃を防ぐための必要な対策を講じてください。

5. G Suite サービスについて

本学では、学生用のメール及び個人用のデータを保存するフォルダを、Google社が提供する「G Suite for Education」を通じて提供しています。提供されている具体的なサービスは以下の通りです。これらの機能は、在籍期間中のみ使用できます。

特にメールについては、教員や事務局からの連絡に用いられることがありますので、1日1回はメールを確認するようにしましょう。

■G Suiteで利用できるサービス（2018年1月現在）

メール (Gmail)	メールアドレス (ユーザID @soka-u.jp) メールボックス容量：無制限
個人フォルダ (Googleドライブ)	soka-u.jp以外の人とはファイル共有できません。 フォルダ保存容量：無制限
カレンダー	soka-u.jpの人同士でカレンダーが共有できます。
ビデオ通話・チャット (Google ハングアウト)	グループでビデオ通話やチャットができます。 soka-u.jp 以外の人とも利用可能です。
メーリングリスト機能 (Google グループ)	自由にメーリングリストを作成できます。 soka-u.jp 以外のアドレスも登録できます。
ホームページ機能 (Google サイト)	本機能の利用は申請制です。次のアドレスから申請してください。 http://goo.gl/forms/jkDcNIUbfJ (アクセス時にログインを求められる事があります) 作成したサイトには soka-u.jp のアカウントを持っている人しかアクセスできません。

■G Suiteサービスの利用方法

G Suiteサービスを利用する際は、以下のサイトにアクセスし、ログインします。ログインする際のアカウント名とパスワードは以下の通りです。ログイン後、メール一覧の画面が表示されれば、G Suiteが利用可能な状態です。各サービスの詳細な利用方法については、IT Support Deskホームページを参照してください。

- ・ G Suiteサイト： <http://mail.soka-u.jp>
- ・ アカウント名： メールアドレス (ユーザID @soka-u.jp)
- ・ パスワード： ポータルサイトなどにログインする際に使用するもの

6. 学習支援ポータルサイト「PLAS」について

学習支援ポータルサイト「PLAS」とは、授業や学生生活に関する情報、授業課題の提出やイベント等の申し込みなど、学生生活を送る上で必要な情報や機能を集約したWEBサービスです。このポータルサイト「PLAS」は学生生活の中で日常的に使用しますので、ブラウザのブックマーク機能などにより簡単にアクセスできるようにしておくことをおすすめします。

(1) 学習支援ポータルサイト「PLAS」へのアクセス方法

学習支援ポータルサイト「PLAS」へは、創価大学のホームページ (<https://www.soka.ac.jp/>)、又は以下のURLをブラウザに入力することでアクセスできます。

- ・ パソコン版・・・<https://plas.soka.ac.jp/>
- ・ スマートフォン版・・・<https://plas.soka.ac.jp/csp/plassm/login.csp>

※ポータルサイトへアクセスする際は以下のブラウザを使用してください（これ以外のブラウザは動作保障していません）

- ・ Internet Explorer
- ・ Firefox
- ・ Safari

ポータルサイトへアクセスすると、下図のようなログイン画面が表示されます。自分のユーザID (e + 学籍番号) とパスワードを入力し、「ログイン」をクリック (タップ) します。

■学習支援ポータルサイト「PLAS」ログイン画面

各種システムの利用について

PLAS PORTAL for LEARNING ASSISTED SERVICE

動作環境 | お問い合わせ | Language

ポータルログイン

USERNAME
PASSWORD
ログイン

この欄にユーザ ID とパスワードを入力しログインをクリックすることで PLAS が提供する各種サービスを利用できます

表示言語を「日本語⇄英語」と切り替えることができます

通教学生ポータル Click

「G Suite」へはここからアクセスすることができます

重要なお知らせがこちらに掲載されますので必ず確認してください

メール関連

学生用
G-mail ログイン画面 @soka-u.jp

教職員用
WEBメール ログイン画面 @soka.ac.jp

ポータルマニュアル

ポータル機能概要 (教員用)
ポータル機能概要 (学生用)
ポータル基本操作マニュアル (教員用)
ポータル基本操作マニュアル (学生用)

大学関連リンク

創価大学
創価女子短期大学
IT Support Desk
中央図書館
全学 F D 委員会
学士課程教育機構
教員用通教システム

検索サービス

Google 検索

INFORMATION

- Windows 10をご利用の方へ
ポータルサイト(PLAS)及びリンクしている他のシステムにおいて、新ブラウザ「Edge」を利用した場合、機能が正常に動作しない可能性があります。
動作確認が完了するまで「Edge」のご利用は控えていただきますようお願い致します。
添付：「Windows 10をご利用の方へ」
- Internet Explorer バージョン1.1以上をご利用の方へ
ポータルサイトにて、シラバス検索、履修・成績、Web時間割、成績評価に関する質問票、出席確認システム 選択時にエラーが発生する、またはポータルサイトにログインできない等の現象が確認されています。対処方法については、以下の添付資料を御覧下さい。
添付：「ブラウザInternet Explorer バージョン1.1以上の不具合 対処方法について」
- 利用上の注意
ポータルサイトは、複数ウィンドウや複数タブで同時にログインし操作すると、一方の操作によって生成されるブラウザ内部の保持情報の影響により、他方が誤動作する可能性があります。上記の理由により、複数のウィンドウや複数のタブによる二重ログインはしないで下さい。
- ポータルサイト利用停止時間のお知らせ
ポータルサイトでは、毎日午前1時～午前4時にかけてデータ更新処理を行っているため、その時間帯は利用できません。ご了承ください。
- 自動強制ログアウトについて
ポータルログイン後、同じ画面のまま一定時間そのままにしておくと、自動的に強制ログアウトします。

■スマートフォン版のログイン画面

スマートフォン版のログイン画面は右図の通りです。パソコン版と同様、ユーザ ID、パスワードを入力し、「ログイン」をタップすることでパソコン版と同様のサービスを利用することができます。

この欄にユーザ ID とパスワードを入力しログインをクリックすることで PLAS が提供する各種サービスを利用できます

PLAS English

ユーザ名
パスワード
ログイン

各施設の開館時間

- ラーニングcommons「SPACE」
- 食堂・カフェテリア (ニューロワール、本部棟13F、短大プリンセス、ニュープリンスホール、Gran cafe)
- P C教室 (文系棟)

(2) 学習支援ポータルサイト「PLAS」の利用方法

ポータルサイト「PLAS」にログインをすると、下図のような画面が表示されます。

① 利用メニュー

画面の左側には、ポータルサイト「PLAS」で利用できるサービスの一覧が表示されています。それぞれのサービスの概要は次のページの通りです

② 新着情報

このエリアには、利用者に関わる様々なお知らせや連絡事項が表示されています。特に「お知らせ」「あなた宛の連絡」「教員からの講義連絡」については日々更新されていきますので、最低1日1回は確認してください。また、時期により、バナー表示で重要なお知らせが掲載される場合もあります。

③ 各施設の開館時間

学内の諸施設の開館時間へのリンクが掲載されています。

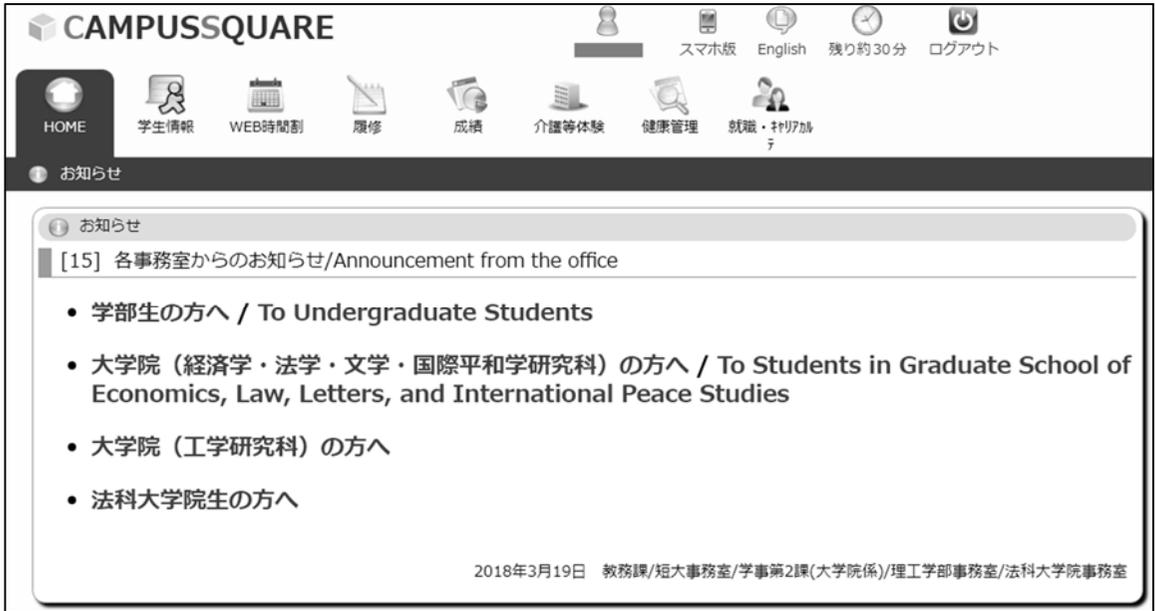
■学習支援ポータルサイト「PLAS」の主なサービス

メニュー名	機能	
トップページ	ログイン直後のトップページに戻ります。	
ログアウト	ポータルサイトからログアウトします。	
お問合せフォーム	ポータルサイトについて不明な点はこちらから質問することができます。	
ポータル機能説明	ポータルサイトで提供される機能についての説明が掲載されています。	
個人メニュー	お知らせ一覧	学生生活に関する学内向けのお知らせを確認できます。
	個人宛連絡一覧	各窓口からのお呼び出し等、学生個人宛に出された連絡事項を確認できます。メールでも同様の内容が届きます。
	休講・補講一覧	現在履修している授業の休講・補講情報を確認できます。メールでも同様の内容が届きます。
	講義連絡一覧	現在履修している各授業の講義連絡を確認できます。メールでも同様の内容が届きます。
	学内募集情報一覧	現在募集が行われている学内イベント情報の一覧の確認と申し込みを行うことができます。
	シャトルバス予約	新宿～大学間のシャトルバスの予約ができます。
	ツール・リンク集	学内サービスやサイトへのリンクが掲載されています。
	個人環境設定	携帯電話番号、携帯メールアドレスの登録と転送設定、暗証番号の確認、ポータルサイトのデザインの変更を行うことができます。
情報リンク	WEB メールサービス	G Suite へアクセスすることができます。
	教員紹介・教員メール	専任教員のメールアドレスを確認することができます。
	創立者の語らい	「創立者の語らい」デジタル版の閲覧方法を確認することができます。
各種申請関係	現在ポータルで受け付けている各種申請の一覧が表示されます。	
学習支援メニュー	履修授業一覧	現在履修している授業の一覧が表示されます。また、科目名をクリックすることで、各授業の学習支援機能を利用できます。
	授業課題一覧	学習支援機能を使って出された課題情報を確認できます。
	授業フォーラム投稿状況	授業ごとに開設される授業フォーラムの更新情報を確認できます。
	シラバス検索	授業のシラバスを検索できます。
	履修要項	入学時に配布された履修要項を閲覧できます。
	web 時間割	時間割表や時間割の変更情報を確認できます。
	履修・成績(WEB)	住所変更、履修登録、成績確認、単位認定申請などを行うことができます。
	授業実施計画	年間の学事日程を確認できます。
	授業アンケート一覧	履修した授業の授業アンケート結果及び担当教員からのコメントを確認できます。なお、履修授業以外のアンケート結果はシラバスで閲覧可能です。
	オフィスアワー検索	教員のオフィスアワーを検索することができます。
	教員出講表示	教員が大学に出講しているかを確認できます。
	学生ポートフォリオ	自分の学習目標や活動内容を記録し、振り返りやレビューを受けることができます。
	コラボテスト	作問演習を通じ、学生間あるいは、教員と学生がお互いに協調学習を進めるシステムです。
	定期試験情報	現在履修登録している授業の学期末定期試験情報を確認できます。
	出席確認システム	現在履修登録している授業の出席状況を確認できます。
	科目ガイダンス映像	事前に収録された科目のガイダンス映像を閲覧できます。
アンケート一覧	ポータルサイトを通じて行われるアンケートの一覧と回答状況を確認できます。	
PC 教室利用状況確認	学内のパソコン教室の利用状況（空き台数など）を確認できます。	
マニュアル	ポータルサイトなどの利用方法に関するマニュアルを閲覧できます。	

利用メニュー
<ul style="list-style-type: none"> ▷ トップページ ▷ ログアウト ▷ お問合せフォーム ▷ ポータル機能説明
個人メニュー
<ul style="list-style-type: none"> ▷ お知らせ一覧 ▷ 個人宛連絡一覧 ▷ 休講・補講一覧 ▷ 講義連絡一覧 ▷ 学内募集情報一覧 ▷ シャトルバス予約 ▷ 滝山国際寮 荷受 ▷ ツール・リンク集 ▷ 個人環境設定
情報リンク
<ul style="list-style-type: none"> ▷ WEBメールサービス ▷ 教員紹介・教員メール ▷ 創立者の語らい ★
各種申請関連
<ul style="list-style-type: none"> ▷ 奨学金関係書類
学習支援メニュー
<ul style="list-style-type: none"> ▷ 履修授業一覧 ★ ▷ 授業課題一覧 ▷ 授業フォーラム投稿状況 ▷ シラバス検索 ▷ 履修要項 ★ ▷ web時間割 ★ ▷ 履修・成績(WEB) ★ ▷ 授業実施計画 ▷ 授業アンケート結果 ▷ オフィスアワー検索 ▷ 教員出講表示 ▷ 学生ポートフォリオ ▷ コラボテスト ▷ 定期試験情報 ▷ 出席確認システム ▷ 科目ガイダンス映像 ▷ アンケート一覧 ▷ PC教室利用状況確認
マニュアル
<ul style="list-style-type: none"> ▷ ポータル利用マニュアル ▷ web時間割マニュアル ▷ 履修成績マニュアル ▷ シャトルバス予約方法

7. 履修・成績(WEB) [通称 : Campus Square] について

ポータルサイト「PLAS」で「履修・成績(WEB)」をクリックすると、以下の画面が表示されます。ここで提供される機能は以下の通りです。なお、各メニュー項目の具体的な使用法はポータルサイト「PLAS」に掲載されているマニュアルを参照してください。



■ 履修・成績(WEB) [Campus Square]で提供される機能

タブ項目	メニュー項目	説明	
HOME	お知らせ	履修に関するお知らせを確認することができます。	
学生情報	学生情報参照	自分の学生情報を閲覧することができます	
	学生住所変更	学生、保証人、学費納付者の住所、電話番号の変更を行います	
WEB時間割	WEB時間割	時間割を確認することができます	
履修	履修登録	履修登録を行います	
	履修状況照会	履修登録と単位修得状況を確認できます	
	取得予定教員免許状申請	申請した教員免許状の種類を確認できます (教職課程登録者のみ)	
	副専攻登録	副専攻の登録を行います	
	メジャー登録	メジャーの登録を行います (文学部生のみ)	
	卒業希望 Semester 登録	卒業を希望する Semester の登録を行います (早期卒業対象者のみ)	
	演習申請	ガイダンス参照	演習 (ゼミ) の事前登録に際して行われるゼミごとのガイダンス日程を確認することができます。
		演習申請	所属を希望するゼミの登録を行います
演習申請照会		申請したゼミとその選考結果を確認することができます。	
成績	履修状況照会	履修登録と単位修得状況を確認できます。	
	成績状況照会	これまでの成績評価と単位修得状況を確認できます。	
	成績評価に関する質問票	成績に関する質問票の提出を行うことができます。	
	単位認定申請	検定試験単位認定申請	資格試験による単位申請を行うことができます。
		放送大学出願申請	放送大学の授業履修の出願を行うことができます
単位認定申請管理	自分が行った単位認定申請の一覧を確認することができます		
介護等体験	介護等体験不可日登録	介護等体験に参加できない日程の登録を行います (教職課程登録者のみ)	
	介護等体験日程確認	介護等体験の日程を確認することができます (教職課程登録者のみ)	
健康管理	健康診断結果参照	大学で受診した最新の健康診断の結果を確認することができます。	
就職・キャリアカレッジ	進路希望入力	希望する進路や、これまで取得した資格などの情報を登録することができます。	

8. 出席確認システムについて

「第三章 3. 授業の出席と公欠制度」（15頁）に記載されている通り、創価大学では、授業の出席を学生証によって記録しています。記録された情報は、ポータルサイト「PLAS」内の「出席確認システム」で確認することができます。

■出席記録の確認方法

出席確認システムでは、当該年度の出席記録を確認することができます。ポータルサイト「PLAS」にログインして「出席確認システム」をクリックし、以下の手順で出席記録を確認することができます。

- ① 左側の学生用メニューにある「授業・出席情報一覧」をクリックします
- ② 上段の「期間」「授業科目名」「表示種別」を選択し、「表示」をクリックします
※表示種別では、「履修科目のみ」を選択すると履修登録をした授業のみ、「未履修者科目を含む」を選択すると、履修登録の有無に関わらず、学生証をタッチした授業すべてが表示されます
- ③ 下段にそれぞれの授業の出席記録が表示されます。なお、下段の「表示区分」で、学期を指定して表示を絞り込むことも可能です。また、授業科目名をクリックすると、その授業の学生証をタッチした時刻などの詳細を確認することができます。
- ④ 閲覧を終了するときは、右上の「ログアウト」をクリックしてからブラウザを閉じてください。

2018/11/14 現在の出席状況です。表示区分：全て

授業科目名	回数	出席率 出席 欠席 遅刻 (%)	表示する学期はここで絞り込むことができます														
			09/17	09/24	10/01	10/15	10/22	10/29	11/05	11/12	11/19	11/26	12/03	12/10	12/17	01/07	01/16
月5 - 表現運動 - 井上 アヤ子	6	1 0 86	○	○	休	×	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
水3 - 演習III: 教育・演習III: 演習 - 杉本 久貴	15	0 0 100	○	○	○	○	○	○	○	○	公	公	公	公	○	○	○
水3 - 演習IV: 教育・演習IV: 演習 - 杉本 久貴	8	1 0 89	○	○	○	○	○	×	○	○	-	-	-	-	-	-	-

■出席確認システムに関する注意事項

- ・ 履修情報は、履修登録を行った翌日に出席確認システムへ反映されます。したがって、履修登録直後は履修情報が出席確認システムへは反映されませんので注意してください。
- ・ 遅刻として記録される時間は、授業担当教員が任意に設定することができるため、授業により異なります。なお、初期設定は「授業開始15分後から15分間」です。
- ・ 誤って別の教室（授業）で学生証をタッチしてしまった場合は、改めて正しい教室（授業）でリーダーに学生証をタッチしてください。
- ・ 公欠は、授業担当教員に公欠願を提出した後、教員がその公欠情報を出席確認システムに入力します。各教員が公欠情報を入力した段階で「公」と表示されます。教員が公欠を入力したタイミングにより、欠席回数のお知らせメールが先に送信されることがありますのでご了承ください。
- ・ 学生証を忘れた場合は、授業開始前に授業担当教員に申し出てください。 授業終了後に申し出た場合は原則として「欠席」として扱われますので、注意してください。

9. 学生ポートフォリオについて

「学生ポートフォリオ」は、創価大学に集った学生が教員や学生同士のつながりを通して、充実した学生生活を送ることができるよう開発された新しい取り組みです。

このシステムを使って、学習・生活についての目標を具体的に設定し、さらにその達成状況を週間・月間・semesterごとに振り返ることで、より良い学習習慣とPDCA（Plan, Do, Check, Act）のリズムを身につけることができます。

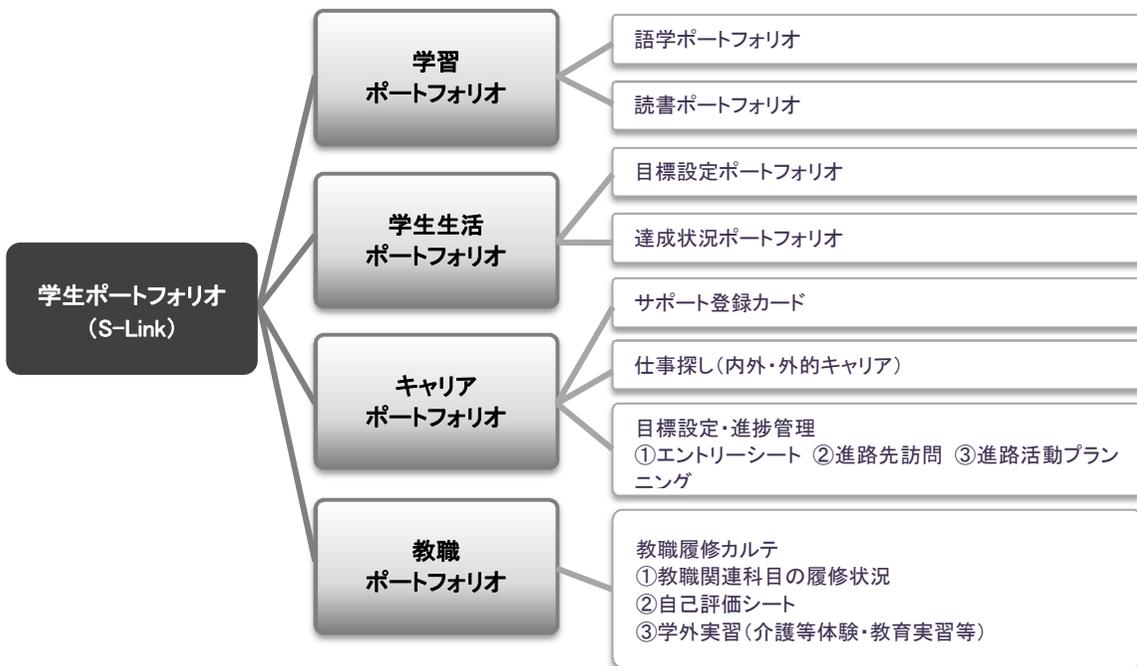
またこのシステムの特徴として、自身の記録に対して教員からのフィードバックや学生同士のグループによる意見交換が行われます。教員や学生同士のつながりを活かしながら、自身の学習・生活スタイルを発見してください。

■学生ポートフォリオの主な機能

- (1) 学習ポートフォリオ
語学学習の履歴、読書履歴を記録し、振り返ることで、自身の学習習慣を身につけることができます。
- (2) 学生生活ポートフォリオ
目標設定として、学生生活4年間とsemester単位の目標を設定し、それを達成するための1週間の生活リズムを計画していきます。また、達成状況として、1週間の活動記録、1ヶ月の活動記録、semester目標に対しての振り返りを行います。
- (3) キャリアポートフォリオ
キャリア開発をサポートするための情報として、サポート登録カードやエントリーシートの登録を行います。そして、進路実現をサポートするための進路計画を設定していきます。

期	月	火	水	木	金	日	月	火	水	木	金	日
10月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	10月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
11月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	11月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
12月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	12月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
1月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	1月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
2月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	2月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
3月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	3月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
4月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	4月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
5月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	5月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
6月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	6月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
7月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	7月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
8月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	8月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間
9月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	9月	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間	読書時間

詳しくは「学生ポートフォリオ」のサイト内にマニュアルが用意されていますのでご利用ください。



第X章 学内の学習支援施設について

1. 中央図書館

(1) 図書館の利用について

① 開館日程

基本的な開館時間は下記の通りです。開館日程については図書館のホームページで確認してください。

期間	曜日	開館時間
授業期間中	平日	8:30～21:00
	土曜日	9:00～21:00
	日曜日	10:00～17:00
	祝日	休館

※台風や積雪等で臨時休館する場合があります。その際は図書館ホームページなどでお知らせします

② 入館方法

図書館に入館する際は学生証が必要です。図書館入口にゲートがありますので、ゲートのカード読み取り機に学生証をかざすことで入館することができます。

③ カウンターでのサービス

■サービスカウンター

図書の貸出、返却、探索や貸出申請した予約図書、短大図書の受け取りができる総合受付カウンターです。また、ノートパソコン、個人閲覧室、グループ学習室、ラーニング・コモンズなどの機器や施設の利用申込みも受け付けています。

■書庫利用カウンター

書庫への入庫（入庫資格がある方のみ）、書庫内資料の出庫依頼を行うカウンターです。その他、視聴覚資料（CD・DVD）の館内閲覧や4階の視聴覚コーナー利用申請、学習用ヘッドホン、電子辞書の館内貸出を行っています。

④ 資料を探す

本学に所蔵する資料は、図書館ホームページで検索することができます。資料には請求記号（分類番号 000～999+ 著者名アルファベット）が付与されており、図書館の書架にはその順番で資料が並べられています。これ以外に、各コーナーに配架している資料もありますので、資料を探す際は、請求記号と場所（配架場所）を確認してください。

⑤ 書庫資料（閉架）について

書庫にある資料は、出庫依頼をすることで館内閲覧や貸出をすることができます。書庫に入庫するためには、書庫利用講習会を受講する必要があります。この講習会の日程は図書館のホームページに掲載しています。なお、出庫依頼は蔵書検索結果の画面から行うことができます。

⑥ 資料の貸出予約について

貸出中の資料は、予約をすることができます。蔵書検索詳細結果の画面から予約を行うことができます。予約した資料が貸出可能になりましたら、大学が付与するメールアドレス宛にお知らせします。なお、予約資料の取り置き期間は1週間です。

⑦ 貸出について

サービスカウンターで資料と学生証を提出してください。カウンター右の自動貸出機も利用できます。ただし、延滞している資料がある場合は新たな貸出を行うことができませんので注意してください。

■貸出冊数と貸出期間

貸出冊数	20冊まで
貸出期間	2週間

※貸出冊数は中央図書館、理工学部フレイザー図書館、看護学部白樺図書館、短大香峯図書館の合計冊数です。

※CDは3点まで1週間借りることができます。CDも貸出上限冊数の中に含まれます。CDの返却は必ずカウンターで行ってください。

※夏休み、春休み期間は「長期貸出」を実施します。日程や貸出期間などは図書館ホームページ等でお知らせします。

■更新について

貸出図書の返却期限を延長することができます。申請は、図書館のホームページ、又はポータルサイト内の「My Library」から行うことができます。申請は必ず返却期限日までに行ってください。

なお、以下の場合は貸出期間を延長することができません。

- ・他に延滞している資料がある、又は延滞罰則期間中
- ・延長を希望する図書に予約がかかっている場合
- ・CD
- ・語学学習用の雑誌
- ・短大所蔵の図書
- ・限度回数以上の更新申請

更新回数	3回まで
更新後の貸出期間	更新した日から2週間

■以下の資料は借りることができません

- ・禁帯出マークのある図書
- ・新聞
- ・参考書・統計資料・法律資料
- ・DVD・ビデオ
- ・池田文庫
- ・創立者著作コレクション



禁帯出



参考書



創立者著作コレクション

⑧ 返却について

サービスカウンターに返却期限日までに返却してください。また、学内4か所（中央図書館入口、中央教育棟1階南側入口、本部棟4階東側入口、理工学部E棟入口）に設置している返却ポストを利用することもできます。返却ポストに投入した場合は、平日の翌開館日に返却手続きを行いますのでご注意ください。

なお、CDについては破損の恐れがあるため、必ずサービスカウンターに返却してください。

⑨ 延滞罰則について

貸出図書を延滞している場合は、図書の館外貸出、更新貸出、予約申請、短大図書の貸出申請ができません。また、以下の罰則及びサービスの制限（禁止）があります。

延滞日数	8日以上31日以内	32日以上
貸出禁止期間	7日間	31日間

8日以上延滞図書がある場合は、上記の制限に加えて以下のサービス利用が制限（禁止）されます。すべての延滞図書が返却された時点で、以下の制限（禁止）が解除されます。

- 図書の購入依頼申請
- 書庫内資料の館内閲覧
- 中央図書館書庫への入庫
- グループ学習室・ミーティングスポット・個人閲覧室の利用申込
- 視聴覚資料の館内閲覧
- ノートパソコンや電子辞書の館内貸出
- 他大学図書館の利用申請
- 図書館が主催する各種ガイダンスの受講

⑩ 資料の弁償について

図書を紛失・破損・汚損した場合は、次のいずれかの方法で弁償をしていただきます。

■現金での弁償

図書の価格が 2,000 円未満の場合は 2,000 円、それ以上の価格は 1,000 円未満を切り上げた金額となります。

■現物での弁償

現物で弁償する場合は、紛失・破損した図書と同じ図書をお持ちください。

⑪ 購入希望図書の申請

本学に未所蔵で学習上必要な図書であれば、年間 5 万円分まで **My Library** から購入希望申請を行うことができます。希望図書の購入の可否は、創価大学附属図書館選書方針に基づいて判断されます。購入が見送られる場合もありますのでご了承ください。利用できるようになった時点で、メールにてお知らせします。なお、雑誌と視聴覚資料の購入依頼はできません。

(2) 図書館でのマナー

- ・ ラーニング・コモンズ、ブラウジングルーム以外ではお静かに、私語はお控えください。
- ・ 指定場所以外での飲食は厳禁です
- ・ 盗難防止のため、貴重品は必ず携行してください
- ・ 館内での携帯電話の通話はブラウジングルーム以外では禁止です。電源を切るかマナーモードに設定し、他の利用者の迷惑にならないようにしてください。
- ・ 図書への書き込み、アンダーラインはしないでください。
- ・ 資料や備品は大切に扱ってください。汚損・破損等については弁償していただくこととなります。
- ・ 貸出手続きをしていない資料を館外へ持ち出すことはできません。カウンターで必ず貸出手続きをしてください。
- ・ 試験期間等の混雑時にパソコンを利用する際は、学習のための利用を優先してください。

(3) My Library について

「My Library」とは、図書館の利用状況などを確認・変更することができる個人ページです。My Library のユーザ ID 及びパスワードは、ポータルサイトで利用するものと同一です。My Library では、以下のサービスを利用することができます。

- ・ 貸出・予約状況
- ・ 希望資料申請
- ・ 新着資料通知登録
- ・ 貸出履歴
- ・ 雑誌検索

(4) 図書館が行う学習支援サービス

① レポート相談

1 階ラーニング・コモンズで、大学院生スタッフによるレポート相談を受け付けています。レポートの書き方、参考文献の探し方、データベースの使い方などについての質問を受け付けています。日時は図書館ホームページをご確認ください。

② 調べもの相談

必要な文献や情報を手に入れることができるよう支援するサービスです。1 階のレファレンスカウンターでお問い合わせください。

③ 他大学図書館からの資料取り寄せ

本学に所蔵していない資料は、他機関から借用又は複写したものを取り寄せることができます。また、それを所蔵する他機関の図書館を直接訪問し、利用することもできます。詳しくはサービスカウンターまでお

問い合わせください。

④ データベースの利用

約 65 種類の契約データベースにアクセスできます。学内のネットワークに接続されたパソコンで、図書館のホームページの「データベース」から利用できます。

⑤ 各種ガイダンス

中央図書館では、さまざまなガイダンスや講習会を開催しています。詳しい日程などはポータルサイトや図書館ホームページを通じてお知らせします。

■SOKA BOOK WAVE（全学図書運動）

SOKA BOOK WAVE (SBW)とは、創立者池田大作先生が提唱される「活字文化復興」を実現するため、創価大学・創価女子短期大学から「読書の波を起こそう！」との学生の熱意で始まった本学独自の全学読書運動です。SPACe や図書館、SBW が開催する各種講座に参加したり、図書の感想文や書評を提出し、承認されると SBW のポイントを獲得できます。ポイントをためると図書カードと交換することができます。

また、学内講師を招いての講演会やビブリオバトル、大学祭期間に開催する読書展など、1年を通じて様々な企画を行っています。

この SBW への参加を希望する場合は、SBW のホームページでユーザ登録を行ってください。

■SOKA BOOK WAVE ホームページ <http://lib.soka.ac.jp/sbw/>

(5) 分館について

学内には、中央図書館以外にも図書館があります。利用方法は以下の通りです。

※法科大学院図書室は法科大学院生専用のため、学部生が利用することはできません。

① 理工学部フレイザー図書館・看護学部白樺図書館

直接各図書館へ行って利用することができます。図書の貸出・返却などの基本的なサービスは中央図書館と同じです。

② 短大香峯図書館

中央図書館を通じて5冊まで、2週間借りることができます。参考書・雑誌・視聴覚資料は借りることができません。

申請は、蔵書検索結果の画面から行います。中央図書館カウンターでの取り置きは、指定した貸出希望日の午後のみです。申請時に注意事項を必ず確認してください。

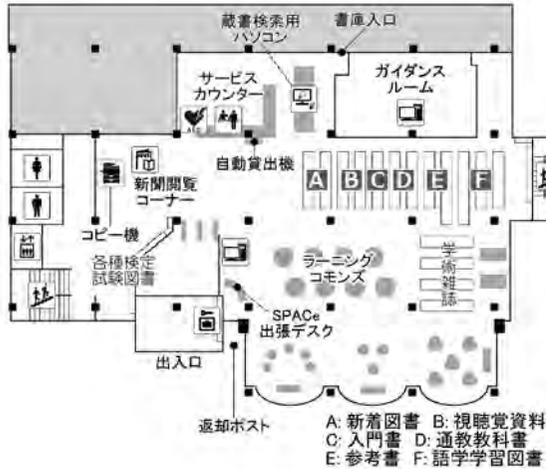
なお、短大所蔵図書は宅配及び更新貸出はできません。

(6) 中央図書館 館内案内図

■ 1階

各種カウンター、ガイダンスルーム、パソコン46台が設置されています。

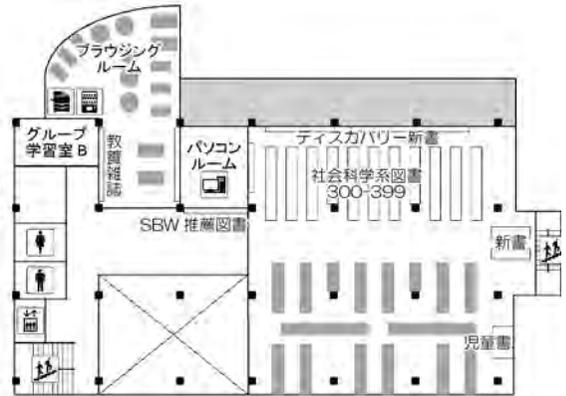
資料は各種試験図書、視聴覚資料、学術雑誌等が備え付けられています。



■ 2階

ブラウジングルーム内には、CD 試聴機・教養雑誌・自販機が設置されています。

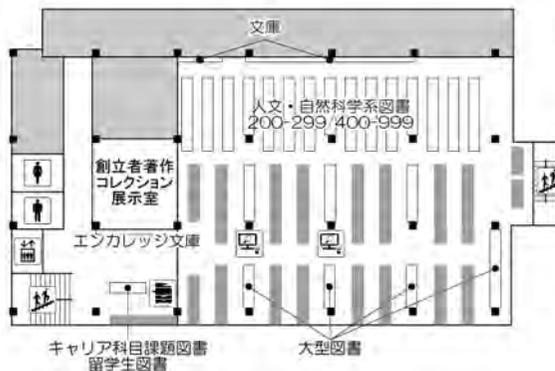
閲覧室内は、社会科学関係図書・新書・児童図書等が設置されています。



■ 3階

閲覧室には人文・自然科学系図書、大型図書、文庫コーナーを設置しています。

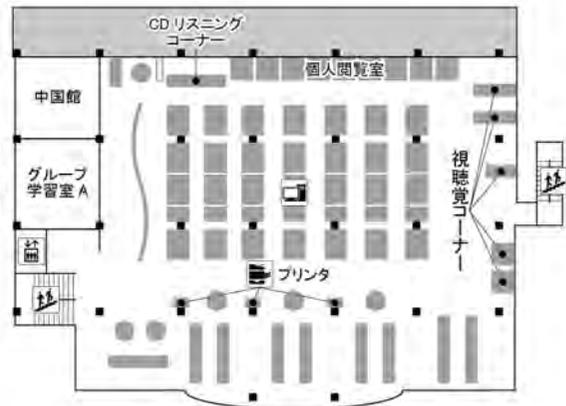
また、「創立者著作コレクション展示室」も3階に設置されています。



■ 4階

高い天井、開放感あふれる閲覧室です。

ここは主にパソコンや視聴覚資料を利用する場所です。グループ学習室や個人閲覧室があります。



2. ラーニング・コモンズ『SPACE』 / WLC Self-Access Center

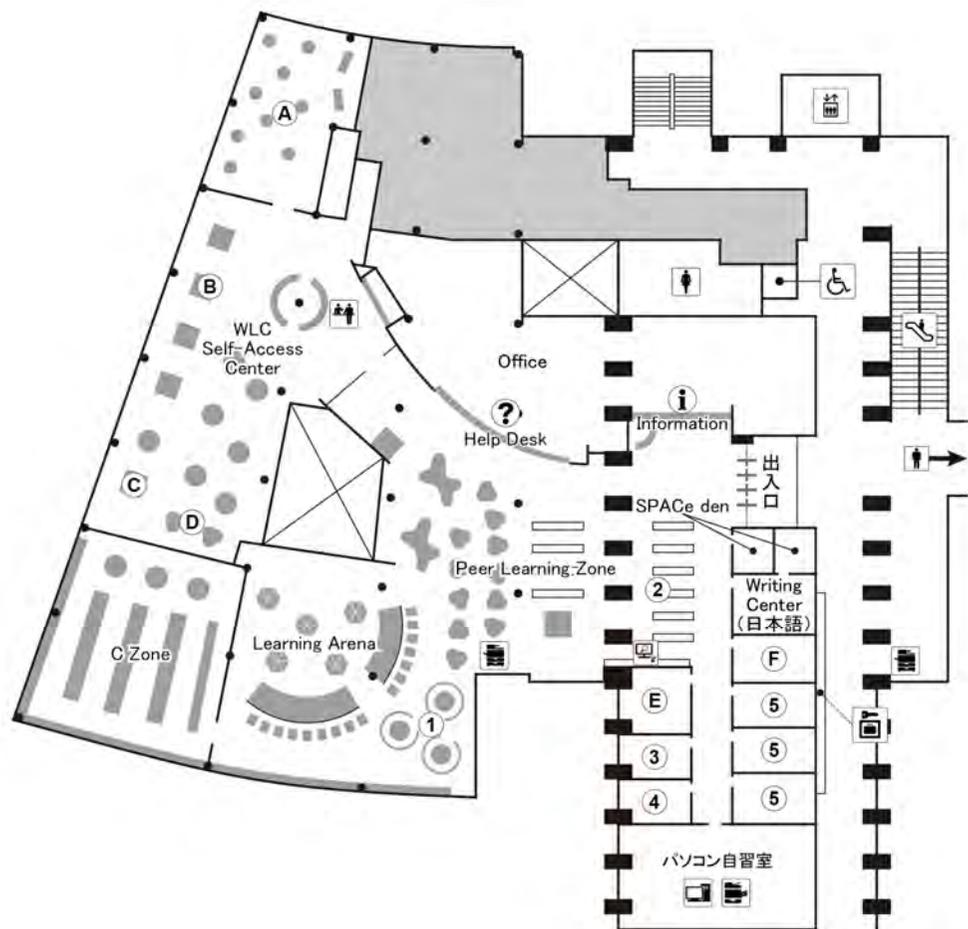
(1) 『SPACE』とは

SPACEは、学部生や院生、留学生、教職員が各自の考えや経験をいかし、互いの学びをサポートしあう場所です。また、みなさんが仲間とともに、自由な発想で利用できる空間でもあります。

人は新しい情報に出会うとアイデアをひらめきます。そのアイデアを、人は友達との会話や書籍などでより深くし、ひとつのカタチにしてさまざまな人に発信します。SPACEは、この「クリエイティビティのリンク」活動を活発にするだけでなく、学習を身近にする場ときっかけをつくります。そして、アクティブな学びに導くことで、みなさんの可能性を引き出したいと考えます。

SPACEのサポート体制は、人・施設・コンテンツ面と多岐にわたります。学部生、院生、留学生、教職員…さまざまな立場の人がここではみなさんの仲間です。わからないことがあれば気軽に尋ねることができ、時には未知の世界にも踏み込むことができます。プレゼンのためのツール、書籍やメディアなども充実。みなさんの好奇心と積極性を360°バックアップします。

■SPACE 案内MAP



Peer Learning Zone		WLC Self-Access Center	
①	Booth 1-3	A	Chit Chat Club
②	Reading Area	B	English Forum
③	Viewing Room	C	Global Village / Nihon-go Dojo
④	和	D	Writing Center (English)
⑤	Seminar Room 1-3	E	Speaking Test Preparation Center
		F	English Consultation Room

(2) 開館時間

平日	土曜日	長期休業期間中
9:00～20:30	9:00～17:00	9:00～17:00 ※平日のみ

※SPACe内の各種施設、サービスは、施設により受付時間が異なります。詳しくはSPACe、又はWLCのホームページを参照してください。

※入学試験等の実施により、臨時に休館する場合があります。

(3) 利用方法

SPACeに入館する際は学生証が必要です。入口にゲートがありますので、ゲートのカード読み取り機に学生証をかざすことで入館することができます。

なお、施設により、予約が必要な施設や、予約が優先される施設があります。

■ 予約が必要な施設

- ・ 2週間前から予約可能な施設…Chit Chat Club、English Forum
- ・ 1週間前から予約可能な施設…Speaking Test Preparation Center、English Consultation Room、Writing Center
※ポータルサイト『PLAS』のツール・リンク集の中の「SPACe 学習支援サービス」又は「WLC サービス」から予約することができます。

■ 予約ができる施設

Seminar Room 1-3、Booth 1-3、Viewing Room、和

※Information カウンターで2週間前より予約を受け付けています

※予約は3名以上の利用で可能です。

※1グループ1日最大3時間（30分単位）利用することができます

※予約がなく空いているときは自由に使用できます

■ 備品の貸し出しについて

Information カウンターで「プロジェクター」「ホワイトボード」「ノートパソコン」の貸し出しを行っています。希望する方は、Information カウンターで使用当日に利用手続きを行ってください。

(4) 施設・サービス紹介

① Learning Arena

少人数のアクティブ・ラーニングからグループディスカッション、大勢に向けたプレゼンまで、さまざまな使い方ができるスペースです。コロシアムを思わせる円形スペースでは、学習スペースとしてはもちろん学び関連の企画やイベントでの利用も大歓迎です。2つの壁面にはプロジェクター投影もできる大きなホワイトボードを設置しているので、教員の研究トーク会やオリジナルのプレゼン大会など、あなたのアイデアを存分に発揮してみてください。

また、不定期で学習セミナーなどを開催しています。セミナーの詳しいスケジュールはポータルサイトを通じてお知らせします。

② Peer Learning Zone

ゼミやグループで学習したり、自習したりすることができるスペースです。Peer Learning Zoneには、さまざまな形状のテーブルが配置されたオープンスペースのほか、参考書などが配架されている Reading Area、予約制で利用できる Booth（3か所）、Seminar Room（3室）、和（1室/畳敷きの視聴覚ルーム）、Viewing Room（1室）があります。

Peer Learning Zone のオリジナルテーブルで課題に取り組むもよし、Booth でグループディスカッションをするもよし。自由な発想で利用でき、使う人に適度な集中力と開放感を与えるさまざまなスペースが揃っています。

③ WLC Self-Access Center

創価大学の語学学習の目標は「その国の文化を理解し、使える語学を身につける」ことにあります。SPACeには、その実践的な学習をバックアップする場として、WLC Self-Access Center を設置しています。英語をはじめ幅広い語学に関わるスペースでは、留学生と交流できるイベントなどがたくさん開催されています。

施設・サービス	予約	内容
Chit Chat Club	要	初級英会話を実践するプログラムです。1回 45 分間、海外からの留学生、留学経験者が楽しく英会話をサポートします。
English Forum	要	社会や国際問題などの身近な話題について1時間、英語でのディスカッションを行います。自分の意見を英語で述べるなど、より高度な表現力を身につけることができます。
Global Village	不要	英語以外の言語（中国語、韓国語、ロシア語など、最大 10 言語）を使用し、言語や文化を学ぶことができるプログラムです。各国の留学生と楽しく学び、視野を広げることができます。語学学習や文化交流に興味があれば、レベルを問わず、だれでも参加することができます。
Writing Center（英語）	要	学術的な英文の書き方について、30 分間、個別でアドバイスを受けることができます。アドバイスは日本語、英語の両方で受けることができます。
Nihongo Dojo	不要	留学生向けの初級～中級日本語会話プログラムです。1回 45 分間、日本人学生と楽しく日本語を練習することができます。
English Consultation Room	要	英語の自主学習方法や学習計画の立て方、WLC 施設の活用法、TOEFL や TOEIC などの試験勉強方法やスコアアップについて、1回 30 分間、個別で相談することができます。
Speaking Test Preparation Center	要	TOEFL iBT や IELTS で出題されるスピーキングテストの練習をすることができます。1回につき 20 分間利用することができます。インストラクターが回答についてのフィードバックやメモを取る、考えを整理するなどのスピーキングの準備をするためのアドバイスを受けることができます。
Reading Area	不要	SPACe 入口の Reading Area には、語学学習教材も配架されています。様々な外国語の本、教材、CD、DVD、英字新聞を使って自主学習をすることができます。
CALL 教室(PC 自習室、AE255)	不要	パソコンにインストールされているソフトを使って自主学習をすることができます。また、マイク付きヘッドホンを使うことで、「声を出す」学習をすることもできます。

※WLC Self-Access Center が提供する施設やサービスの詳細については、WLC のホームページを参照してください。

④ Help Desk カウンター

語学学習の疑問から日常の問題まで、学生生活に悩みはつきものです。SPACe には、そんな悩みにともに取り組んでくれるサポートスタッフがいます。SPACe の活用方法から個人的な相談までなんでも OK です。

学習相談	大学での学びや目標設定、進路、留学、英語、数学などについて個別で相談できる「学習相談」サービスを受けられます。
レポートチュータリング	大学院生スタッフによる個別レポートチュータリングを受講できます。
オアシスプログラム	心理的支援、対人援助の資格を持つ担当者が、学生のニーズにそったサポートを行います。

⑤ 調べごと相談（レファレンス・サービス）

参考文献検索・所蔵調査、データベース利用案内、調べごと相談など、専門スタッフがレファレンスサービスを行います。

巻末付録

◆規程

創価大学学則（抜粋）	193～196
創価大学履修規程（抜粋）	196～203
創価大学定期試験実施に関する細則	203～204
創価大学追試験実施についての事務取扱内規	204～205
創価大学定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規	205～206

◆教室配置図・キャンパスマップ

中央教育棟 [Global Square] (AB/AC/AE/AW)	207～209
大教室棟（S棟）	210
教育学部棟（B棟）	210
教育学部棟別館（BA棟）	211
本部棟（M棟）	211
理工学部棟（E・F・G・K棟）	212～214
理工学部棟（P棟）	214
看護学部棟（N棟）	214
総合体育館	215
キャンパスマップ	216

◆ 規 程

○ 創価大学学則（抜粋）

（目的）

第1条 本学は、創立者池田大作先生の建学の精神に基づき、学校教育法により、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、全人的な人間形成をはかるとともに、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

（自己点検・評価）

第1条の2 本学は、前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の自己点検及び評価の項目、実施体制等については別に定める。

3 本学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。

（情報の積極的な提供）

第1条の3 本学は、本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

（修業年限）

第5条 本学の標準修業年限は、4年（通算8学期）とする。ただし、休学期間はこれに算入しない。

2 学生が本学に入学する前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得している場合は、修得した科目及び単位数並びにその修得に要した期間を勘案して、前項の修業年限に含めることがある。

3 学生は、8年（通算16学期）を超えて在学することができない。

（学年及び学期）

第6条 本学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。但し、秋学期に入学した場合の学年は、毎年9月16日に始まり翌年9月15日に終わる。

2 学年を次の2学期に分ける。但し、教育上必要な場合、春学期の終了日及び秋学期の開始日を変更することができる。

（1）春学期 4月1日から9月15日まで

（2）秋学期 9月16日から翌年3月31日まで

（授業期間）

第7条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等を含め、35週の期間にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うことを原則とする。

（休業日）

第8条 定期休業日は、次のとおりとする。

（1）日曜日

（2）国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

（3）本学創立記念日 4月2日

（4）夏季休業 8月1日から9月10日まで

（5）冬季休業 12月25日から翌年1月5日まで

（6）春季休業 翌年2月10日から3月31日まで

2 前項各号の休業日を変更し、又は休業日に授業を行い、若しくは臨時に休業日を設けることがある。

（教育課程の編成）

第9条 本学は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 授業科目を、共通科目及び専門科目に分ける。

3 本学において授業する科目及び単位数は、別表第2から別表第12のとおりである。

4 前項に定めるもののほか、必要に応じて特定の科目を授業することがある。

（学士課程教育機構）

第9条の2 本学に、共通科目の運営を担い、学士課程教育の質向上を図るための組織として、創価大学学士課程教育機構（以下、「教育機構」という）を置く。

2 教育機構に運営委員会を置く。

3 教育機構の組織及び運営に関する規程は別に定める。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第9条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う。

(授業計画の明示及び履修登録)

第10条 本学は、学生に対し、毎年春学期の授業開始前に、春学期及び秋学期に開講する各科目の担当者、授業の方法や内容、年間の授業計画及びその他の必要な事項を明示する。

2 学生は毎学期の初めに、所定の期日までに履修しようとする科目を届け出なければならない。なお、期日を過ぎて届け出ない場合は退学を命ずることがある。

(卒業に必要な単位数)

第11条 卒業に必要な単位数は、次のとおりとする。

学部	学科	専門科目				共通科目			自由 選択	総計
		必修	選択 必修	選択	外国語	必修	選択 必修	選択		
経済	経済	—	28	38	10	2	12	—	34	124
法	法律	6	2	60	10	2	12	—	32	124
文	人間	14	4	42	10	2	14	—	38	124
経営	経営	8	34	36	10	2	14	—	20	124
教育	教育	14	18	46	10	2	14	—	20	124
	児童教育	14	14	50	10	2	14	—	20	124
理工	情報システム工	20	2	48	10	2	14	—	28	124
	共生創造理工	34	14	28	10	2	16	—	20	124
看護	看護	97	—	—	6	4	8	—	10	125
国際教養	国際教養	24	44	—	20	2	4	—	30	124

2 学生は、他の学部・学科に属する科目を履修することができる(特定の科目を除く)。履修して修得した単位は、自由選択の一部又は全部として算入される。なお、自由選択には、教職に関する専門科目の修得単位並びに卒業に必要な単位数を超えて修得した専門科目と共通科目の単位数が算入される。

3 学生が、本学への入学前又は入学後に、次の各号により修得した単位等を、教育上有益と認めるときは、本学において修得したものとみなし、単位を認定することがある。

- (1) 大学又は短期大学で履修した授業科目について修得した単位
- (2) 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関に留学し、そこで履修した授業科目について修得した単位又は成果
- (3) 短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修
- (4) その他文部科学大臣が別に定める学修

4 前項により認定する単位数は、編入学・転入学等の場合を除き、合わせて60単位を超えないものとする。

(履修の要件・方法)

第11条の2 前条に係る履修方法の詳細は、別に定める。

2 入学後4年間(通算8学期)を経過して(休学期間を除く)、合計40単位を修得していない場合は退学を命ずることがある。

3 学生が各学期にわたって適切に授業科目を履修するため、教職に関する専門科目をはじめ特設課程に設置する科目等を除き、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は別に定める。

4 直前の学期に、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生の履修制限の緩和については、別に定める。

(単位)

第12条 1単位の授業科目は、授業及び授業時間外の学修を合わせて45時間が必要とする内容をもって構成することを標準とし、各授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、次の基準により定める。

- (1) 講義及び演習は、学部が定めるところの15時間若しくは30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、学部が定めるところの30時間若しくは45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 講義、演習、実験、実習または実技のうち二つ以上を組み合わせる場合は、原則として講義及び演習1時間の授業に対し、実験、実習及び実技は2時間の授業をもって相当とみなし、15時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めるものとする。

(授業の方法)

第12条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(単位の認定)

第13条 履修した科目の単位認定は、原則として試験による。

2 試験は、授業した科目について学期末に行う。ただし、平常点をもって試験に代えることを認められた科目については、この限りではない。

3 前項の定期試験のほかに、臨時に試験を行うことがある。

(試験の方法)

第14条 試験の方法は、筆記試験、口述試験、論文試験、実技試験又は実習試験の5種とする。

2 やむをえない事由のため、定期の試験を受けることができなかった者については、特別試験を行うことがある。

(受験科目の届出)

第15条 学生は、履修登録した科目について、試験を受けることができる。

(成績評価)

第16条 成績評価は、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、D、E+及びEの12級に分ち、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、及びDを合格とし、E+及びEを不合格とする。ただし、教授会が認めた特定の科目については、PとFの2級に分ち、Pを合格とし、Fを不合格とする。

2 試験に合格した者には、所定の単位を認定する。ただし、学費未納の者には単位を認定しないことがある。

3 第11条第3項により単位を認定する科目の成績評価は、Rとする。

4 成績評価を保留する場合は、I評価とする。これについては別に定める。

(卒業)

第17条 本学に4年以上在学して、第11条に規定する単位を修得し、かつ創価大学履修規程に定める基準を満たした者には、卒業を認める。

2 前項にかかわらず、本学に3年以上在学した者で、第11条に規定する単位を優秀な成績で修得し、かつ創価大学履修規程に定める基準を満たした者には、卒業を認めることがある。

(学位の授与)

第18条 前条により卒業した者には、学士の学位を授与する。

(入学の時期)

第19条 入学の時期は、学期の始めとする。

(保証人)

第22条 入学を許可された者が提出する在学保証書の保証人は1名とし、親権者若しくはそれに準ずる者とする。

2 保証人が姓名を変え、又は転居したときは、速やかにその旨を届け出なければならない。

3 死亡、転居その他の事由により保証人がその資格を失ったときは、直ちに保証人を別に定め、改めて在学保証書を提出しなければならない。

(休学)

第23条 休学しようとする者は、所定の手続を経て、許可を受けなければならない。

2 休学の期間が満了した時点で、復学となる。

(休学の期間)

第24条 休学の期間は、1学期又は1年間(2学期)とする。なお、やむをえない事由があるときは、期間の延長を許可することができる。ただし、引続き2年を超えることはできない。また、通算4年(8学期)を超えてはならない。

(退学)

第25条 退学しようとする者は、所定の手続を経て、許可を受けなければならない。

2 退学しようとする学期の学費が未納の場合は、第42条第2項を準用する。

3 再入学は、学期の始めに限り、願い出により、選考のうえ許可することができる。

(転入学・編入学)

第26条 本学に転入学又は編入学を願い出た者については、選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

2 本学に転入学できる者は、大学を卒業した者、退学した者又は一定期間在学した者とする。

3 本学に編入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

(2) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者

(3) 高等学校等の専攻科の課程を修了した者のうち学校教育法第58条の2の規定により大学に編入学することができる者

(4) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者

(転学部・転学科)

第27条 転学部・転学科は、春学期の始めに限り、願い出により、選考のうえ許可することができる。転学部・転学科については別に定める。

(転籍)

第27条の2 通信課程から通学課程への転籍は、春学期の始めに限り、願い出により、選考のうえ許可することができる。

通信課程から通学課程への転籍については別に定める。

(転学)

第28条 他の大学に転学を志望する者は、所定の手続を経て、その許可を願い出なければならない。

(留学)

第28条の2 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関において修学することを志望する者は、許可を得て留学することができる。

- 2 前項の留学の期間は、第17条に定める在学年数に含めることができる。
- 3 留学に関する学内手続その他については、別に定める。

(学費)

第40条 本学の検定料、入学金、授業料その他の学費は、別表第17のとおりとする。

- 2 在学中授業料について変更のあった場合には、改定された金額を納付しなければならない。
- 3 授業料その他所定の学費は、学期の始めに納めなければならない。ただし、授業料の延納を願い出た者については、許可することがある。

(免除)

第41条 学業優秀な者に対しては、授業料を免除することがある。

- 2 経済的事由その他やむをえない事情があると認められた者に対しては、授業料の全額若しくは一部を免除し、又はその徴収を猶予することがある。
- 3 休学中の授業料は、別表第17に定める金額に減額する。また休学中の施設設備費、保健費、実験実習費はそれぞれ全額を免除する。

(学費未納退学)

第42条 当該学期の学費を納付しない者は、退学を命じる。

- 2 前項により退学を命じられた者については、当該学期の単位認定は行なわない。また当該学期は在学期間に算入しない。

(退学等の授業料)

第43条 学期の中途において退学した者又は停学若しくは退学を命ぜられた者は、別に定める場合を除き、その学期の授業料を納めなければならない。

(返還)

第44条 いったん納めた学費は、いかなる事由があっても返還しない。

(授賞)

第45条 人物、学業ともに優秀な者には、所定の手続を経て、表彰することができる。

(懲戒)

第46条 本学の諸規則に違背し、若しくは秩序を乱し、又は学生の本分に反する行為があったときは、所定の手続を経て懲戒する。

- 2 懲戒は、その情状によって戒告、停学及び退学の3種とする。
- 3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生につきこれを行うことができる。
 - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
 - (3) 正当な理由なくして、出席常でない者

○ 創価大学履修規程（抜粋）

(目的)

第1条 この規程は、創価大学学則第11条、第11条の2、第16条および第17条の規定に基づき、履修方法等に関して必要な事項を定める。

(履修登録の手続)

第2条 授業科目の単位を修得するためには、各学期の履修登録期間内に、履修を希望する科目を登録しなければならない。

- 2 履修登録の結果は、学生本人が確認しなければならない。

(履修登録の修正)

第3条 前条の規定により履修登録した授業科目（以下、履修科目という。）の変更を希望する場合は、各学期の履修登

録修正期間内に、変更を希望する科目の登録しなければならない。

- 2 前項に定める履修登録の修正結果については、学生本人が確認しなければならない。

(履修科目の取消し)

第4条 履修科目は、定められた期間内に、所定の手続により、履修登録を取消することができる。

- 2 履修取消しのできる期間は、春学期・秋学期ともに中間試験期間の最終日までとする。
 3 履修取消期間を過ぎた場合は、履修科目の取消しはできない。ただし、学生が所属する学部 of 学部長が正当な理由があると認めた場合は、履修科目の取消しを認める。
 4 履修科目の取消しは、学生本人が行わなければならない。

(履修登録単位数の上限)

第5条 学則第11条の2第3項による各学期に履修登録ができる単位数の上限は、別表第1のとおりとする。

- 2 特設課程の科目は、履修制限の対象としない。特設課程以外で履修制限の対象としない科目は、別表第1のとおりとする。

(授業科目の再履修)

第6条 授業科目の再履修は、単位を修得した場合を含めてすべての科目について認める。ただし、定員制の科目など学部教授会または学士課程教育機構運営委員会が必要と認めた科目については、合格科目の再履修を制限することがある。

- 2 再履修する授業科目の成績評価は、再履修して修得する成績評価が最終の評価となる。単位を修得した授業科目を再履修して、単位が未修得になった場合は、過去に修得した単位は認めない。

(成績評価及びGPA)

第7条 学業成績を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average) を用いる。

- 2 GPAは、学生の各履修科目の成績評点に、その科目の単位数を掛けた数値の合計を、履修科目の総単位数で除して算出し、小数点以下第3位以下は切り捨てる。

- 3 学則第16条に基づき、成績評価に対する成績評点及び評価換算基準は、次の表のとおりとする。

成績評価	成績評点	評価換算基準	単位認定可否	内容	
A+	4.0	100点～95点	合格	特に優れている	
A	4.0	94点～90点		優れている	
A-	3.7	89点～85点		良好	
B+	3.3	84点～80点			
B	3.0	79点～75点		科目の要求を一応満たしている	
B-	2.7	75点～70点			
C+	2.3	69点～65点			
C	2.0	64点～60点			
D+	1.7	59点～55点	不合格	望ましい水準には不十分だが不合格ではない	
D	1.3	54点～50点		合格水準に十分近いが、合格基準は満たしていない	合格の水準を満たさない
E+	1.0	49点～45点			
E	0	44点以下			
N	0	評価不能			
P	—	合格	合格		
F	—	不合格	不合格		
R	—	認定	合格		
I	—	評価保留	—		

備考 Nは、授業時数の3分の1を超えて欠席した場合はN評価とする。また、定期試験を受けなかった、レポートを提出しなかったなど成績評価をすることが不可能な場合はN評価を付けることができるものとする。

- 4 学則第16条に定めるP及びFの成績評価は、科目毎に設けられる合格基準に達した場合をPとし、達しなかった場合はFとする。

- 5 学則第16条に定めるRの成績評価は、本学以外で修得した単位を、本学において修得したものとみなし、単位を認定する場合の評価とする。

- 6 学則第16条に定めるI (インコンプリート) の成績評価は、授業期間中の履修取消期間以降において、学生が病気、ケガ、災害、留学 (本学が正式に派遣等を行う場合に限り) または、教務部長が認めるやむをえない事情により、単位修得条件のいずれかの点を満たすことができない状況になった時に、学生からの申請等により、担当教員が学期末まで成績評価の確定を保留する場合の評価とする。

- 7 I評価については、以下のとおり運用を行う。

(1) 学生は前項の事由により、履修の継続が難しい状況になった場合で、それまでの出席が3分の2を超えている場合は、教務課に理由を示す証拠書類等を提出し、許可を受けてインコンプリート申請書を受け取る。

(2) 学生は申請書を原則最終授業までに担当教員に提出し相談する。担当教員は当該学生の学習状況等を考慮して対応を判断するものとする。

(3) 成績保留を行うことを決めた担当教員は、当該学生に対し単位修得のために必要な課題等 (課題、試験など)

の措置を講じ、学生は指定された期限までに与えられた課題等を行わなければならない。

- (4) 成績保留を行った担当教員は、当該学期末（卒業にかかわる場合は卒業判定前）までに「最終評価届」を教務課に提出するものとする。なお、学期末までに提出がなかった場合は、I 評価を抹消し、N または F 評価に変更する。
- 8 P、F、I 及び R 評価については、GPA の算出対象としない。
- 9 再履修する授業科目の GPA の計算は、再履修して修得した成績（成績評価と単位数）で計算する。再履修前の成績（成績評価と単位数）は、GPA の計算に含めない。
- 10 成績評価については、A+ 評価の上限を全履修者の 5% 程度とし、A+ 評価、A 評価及び A- 評価の合計の上限は、全履修者の 25% 程度とする。ただし、専門科目については、各学部教授会で検討し、全学教務委員会の審議により、共通科目については、学士課程教育機構運営委員会の審議により、認められた授業科目はこの限りでない。
- 11 前号但し書きの授業科目を除き、全履修者の成績評価の割合が、A+ 評価 10% 以上または A+ 評価から A- 評価 35% 以上になった場合、授業科目担当教員は、理由を専門科目は学部長を経て学部教授会及び全学教務委員会に、共通科目は学士課程機構長を経て、学士課程教育機構運営委員会に報告しなければならない。

(成績通知)

- 第 8 条 成績通知書には、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、D、E+、E、I、N、P、F または R の評価を記載する。
- 2 本学以外で使用するために発行される成績証明書には、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、D、P または R の評価を記載する。

(成績優秀者)

- 第 9 条 学則第 11 条の 2 第 4 項に定める学生（成績優秀者）については、学部・学科の定めるところにより修得単位数と GPA により決定し、その基準は、別表第 1 のとおりとする。なお、休学後に復学した場合には、休学する直前の学期の成績を基準とする。
- 2 成績優秀者の履修制限緩和については、別表第 1 のとおりとする。

(学業指導及び退学勧告)

- 第 10 条 毎学期、成績評価が決定した時点で当該学期の GPA が 2 未満の場合は、指導教員による面談を行い、指導教員は学部長に指導報告書を提出する。
- 2 GPA が 2 期連続して 2 未満の場合は、保護者に通知する。前項に定める指導教員による面談等を行うほか、保護者の希望があれば指導教員は面談を行う。
- 3 GPA が 3 期連続して 2 未満の場合または累計で 4 期以上 2 未満の場合は、学部長が面接を行い、教授会の議を経て退学勧告を行う。ただし、学部長が面接し、学業継続の可能性があると認められる場合は、教授会の議を経て退学勧告を保留することができる。
- 4 前 3 項の場合において、学部長は、学生の特別の事情を考慮し、相当と認めるときは、学業指導及び退学勧告の対象から外すことができる。

(卒業に必要な単位数)

- 第 11 条 学則第 11 条に定める以外の卒業に必要な単位数は、以下に定める他、別表第 2 及び別表第 3 のとおりとする。
- (1) 経済学部経済学科の学生は、選択したクラスターから 18 単位以上修得しなければならない。また、選択必修科目は、9 つの各科目群から学則別表 3 で定める単位数を修得しなければならない。
- (2) 経営学部経営学科の選択必修 A 群は、5 つの各科目群から学則別表第 6 で定める単位数を修得しなければならない。
- (3) 法学部法律学科の学生は、選択したコースから 24 単位以上の単位を修得しなければならない。但し国際平和・外交コースについては、学則別表第 4 に定める指定科目を 9 単位以上含まなければならない。
- (4) 文学部人間学科の学生は、学則別表第 5 で指定されたグローバル科目から 2 単位以上修得しなければならない。
- (5) 教育学部の専門選択科目には、他学科の専門科目が 20 単位まで算入される。
- (6) 教育学部児童教育学科の学生は、専門選択科目 50 単位の内、教科 A 群から教科 D 群及び教科 F 群から教科 I 群までの 8 つの教科群から各 2 単位の計 16 単位を修得しなければならない。
- (7) 国際教養学部国際教養学科の学生は、選択必修科目 44 単位以上の修得については、次の通り指定された単位数を含んで修得しなければならない。
- ① Quantitative & Qualitative Analysis 科目 8 単位以上については、「Statistics 科目」4 単位を含むこと
 - ② Level 100-200 科目 16 単位以上については、歴史・文化・社会科目群、政治・国際関係科目群、経済・経営科目群の 3 つの科目群から各 4 単位計 12 単位を含むこと。
 - ③ Level 300-400 科目 20 単位以上については、歴史・文化・社会科目群、政治・国際関係科目群、経済・経営科目群の 3 つの科目群から各 4 単位計 12 単位を含むこと。
- (8) 理工学部共生創造理工学科の学生は、学則別表に定める専門導入科目から必修 6 単位、専門基礎科目から必修 20 単位、選択必修科目 4 単位以上の計 24 単位以上、専門演習科目から必修 8 単位、専門応用科目のうち、学則別表に定める応用物理学領域、物質理工学領域、生命理工学領域、環境理工学領域の 4 つの領域のうち、1 つの領域を選択し、選択した領域から 10 単位以上を修得しなければならない。

(卒業の認定)

- 第 12 条 卒業の認定は、次の各号に掲げる要件のすべてに該当する場合に行う。

- (1) 本学に4年以上在学していること。
- (2) 本学において定められた教育課程を修了し、学則第11条および前条に規定する単位を修得していること。
- (3) 在学期間における通算GPAが2以上であること。
- 2 前項にかかわらず、本学に3年以上在学した者で、学則第11条及び前条に規定する単位を優秀な成績で修得したと認められる場合には、卒業を認めることがある。
- 3 第1項第3号の要件のみを満たしていない者で、特別の事情があると認められる場合には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定することがある。
- 4 第1項により卒業を認定された者は、卒業を保留することはできない。

(早期卒業)

- 第13条 前条第2項で規定する早期卒業は、在学3年間(6学期)または在学3年半(7学期)で卒業することを表す。
- 2 早期卒業は、学部・学科が定めるところにより、修得単位数とGPAにより決定し、その基準については、別表第1のとおりとする。
 - 3 早期卒業対象者(早期卒業の基準を満たし、早期卒業の対象者に選ばれた者をいう。以下同じ。)で早期卒業を希望するものは、定められた学期の履修登録時に卒業を希望する学期を登録しなければならない。
 - 4 早期卒業対象者で、早期卒業を希望しない場合は、卒業とはならない。

(履修の要件・方法)

第14条 学則第11条の2による履修方法の詳細は、以下のとおりとする。

- (1) 法学部の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
卒業研究	演習Ⅳ(同時履修可)

- (2) 経営学部の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
ミクロ経済学中級、マクロ経済学中級	経済学入門

- (3) 教育学部教育学科の「卒業研究Ⅰ」の履修要件は、3年次後期終了時に通算GPAが3以上であること。それ以外に履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
教育学概論Ⅱ、海外教育研修	教育学概論Ⅰ
心理学概論Ⅱ	心理学概論Ⅰ
卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ
スタディー・リーダー基礎	初年次セミナー(共通科目)
教育心理学Ⅰ	心理学概論Ⅰ(同時履修可)
教育心理学Ⅱ	教育心理学Ⅰ
発達心理学Ⅰ	教育心理学Ⅰまたは児童教育学科の教育心理学
発達心理学Ⅱ	発達心理学Ⅰ
ミュージアム・エデュケーションⅠ	ボランティア入門(共通科目)
ミュージアム・エデュケーションⅡ	ミュージアム・エデュケーションⅠ
教育カウンセリング	発達心理学Ⅰまたは児童教育学科の発達心理学
臨床心理学Ⅰ	教育心理学Ⅰまたは児童教育学科の教育心理学
臨床心理学Ⅱ	臨床心理学Ⅰ
学校インターンシップⅠ	学校研究(履修済みまたは同時履修可)
学校インターンシップⅡ	学校インターンシップⅠ
学校インターンシップⅢ	学校インターンシップⅡ
学校インターンシップⅣ	学校インターンシップⅢ
学校インターンシップⅠ～Ⅳ	教職課程に登録していること
教育学特講C	教育哲学
英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅠ
Academic Skills Ⅱ	Academic Skills Ⅰ

- (4) 教育学部児童教育学科の「卒業研究Ⅰ」の履修要件は、3年次後期終了時に通算GPAが3以上であること。それ以外に履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
初等教育原理Ⅱ、海外教育研修	初等教育原理Ⅰ
心理学概論Ⅱ	心理学概論Ⅰ
卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ
教育心理学、発達心理学	心理学概論Ⅰ(同時履修可)
スタディー・リーダー基礎	初年次セミナー(共通科目)

教育とボランティアⅡ	教育とボランティアⅠ
教育カウンセリング	発達心理学または教育学科の発達心理学Ⅰ
ミュージアム・エデュケーションⅠ	ボランティア入門（共通科目）
知的障害教育Ⅰ、障害者の心理・生理・病理B、視覚・聴覚障害教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、知的障害教育Ⅱ、肢体不自由教育総論、病弱教育総論、肢体不自由者の心理・生理・病理、障害者の心理・生理・病理A、LD等の心理・生理・病理、教育実習（特別支援）	特別支援免許課程に登録していること
知的障害教育Ⅱ	知的障害教育Ⅰ
ミュージアム・エデュケーションⅡ	ミュージアム・エデュケーションⅠ
学校インターンシップⅠ	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校インターンシップⅡ	学校インターンシップⅠ
学校インターンシップⅢ	学校インターンシップⅡ
学校インターンシップⅣ	学校インターンシップⅢ
学校インターンシップⅠ～Ⅳ	教職課程に登録していること
Academic Skills Ⅱ	Academic Skills Ⅰ

- (5) 理工学部情報システム工学科および理工学部共生創造理工学科の「卒業研究Ⅰ」の履修要件は、卒業に必要な単位のうち合計 100 単位以上を修得していること。それ以外に履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得が必要な科目
演習Ⅱ	演習Ⅰ
ケーススタディⅡ	ケーススタディⅠ
卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ

- (6) 看護学部看護学科の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得または同時履修が必要な科目
基礎看護学実習Ⅱ	看護学概論、看護理論、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ、生活援助技術Ⅳ、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰ、臨床看護技術Ⅰ、看護過程演習、構造機能学Ⅰ、構造機能学Ⅱ、病態生理学
成人看護学急性期実習	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学急性期援助論Ⅰ、成人看護学急性期援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
成人看護学慢性期実習	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学慢性期援助論Ⅰ、成人看護学慢性期援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
老年看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護援助論Ⅰ、老年看護援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
小児看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
精神看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
母性看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
地域在宅看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ、地域在宅看護学概論、地域在宅看護援助論Ⅰ、地域在宅看護援助論Ⅱ、疫学・保健統計、臨床看護技術Ⅱ、診断治療学Ⅰ、診断治療学Ⅱ
看護実践統合実習	成人看護学急性期実習、成人看護学慢性期実習、老年看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、母性看護学実習、地域在宅看護学実習

- (7) 共通科目の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	履修が必要な科目
ボランティア実習Ⅰ、ボランティア実習Ⅱ	ボランティア入門（同時履修可）

(主専攻)

第 15 条 学則第 17 条により卒業が認定された者は、学位規則に定める専攻分野を主専攻とし、本学の成績証明書および卒業証明書に記載する。

2 文学部生がメジャー修了または専修に所属し、卒業が認定された場合は、前項に加えメジャー名または専修名を主専攻に付記する。

(副専攻制度)

第 16 条 副専攻については、2 年次以降の履修登録時に通算 G P A2.7 以上の学生が申請できる。

2 副専攻は以下のとおりとする。

- (1) 経済学
- (2) 経営学
- (3) 法学
- (4) 教育学
- (5) 理工学
- (6) 異文化コミュニケーション（英語）
- (7) 異文化コミュニケーション（日本語）
- (8) 異文化コミュニケーション（中国語）
- (9) 異文化コミュニケーション（ロシア語）
- (10) 哲学・歴史学
- (11) 表現文化
- (12) 国際日本学
- (13) 社会学
- (14) English Medium Program
- (15) データサイエンス

3 副専攻は、申請した学生が別表第4に定める各学部等が指定した科目群から24単位以上修得し、かつ卒業時の通算GPA2.7以上の時認定する。副専攻が認定された場合は、本学の成績証明書および卒業証明書に副専攻名を記載する。

（文学部人間学科メジャー及び専修）

第17条 文学部人間学科にメジャー及び専修を置く。メジャー及び専修の修了は、メジャー及び専修指定科目の内以下の単位の修得を要件とする。

- (1) イントロダクトリー科目 4単位
- (2) ベーシック科目 12単位（選択必修含む）
- (3) アドヴァンスト科目 28単位（必修含む）。なお、必修科目の演習ⅠからⅣ及び卒業論文研究Ⅰ・Ⅱについては、選択したメジャーに所属する教員の担当する科目を修得すること。
- (4) 各メジャー及び専修修了に必要な科目一覧は、別途履修要項等に記載する。

2 開設するメジャーは、以下のとおりとする。

- (1) 異文化コミュニケーション（英語）
- (2) 異文化コミュニケーション（日本語）
- (3) 異文化コミュニケーション（中国語）
- (4) 異文化コミュニケーション（ロシア語）
- (5) 哲学・歴史学
- (6) 表現文化
- (7) 国際日本学
- (8) 社会学

3 開設する専修は、以下のとおりとする。

- (1) 社会福祉専修

（法学部法律学科グローバル・ロイヤーズ・プログラム）

第18条 法学部法律学科における「グローバル・ロイヤーズ・プログラム」（以下、GLPという）は、本学大学院法務研究科と法学部の連携プログラムとして位置づけ、以下の要件を満たした場合にその修了を認定する。

- (1) GLP指定科目を84単位以上修得
- (2) 卒業時の通算GPAが2.7以上

2 GLP指定科目については、別途履修要項等に記載する。

別表第1（第5条、第9条、第13条関係）

学部	学科	履修上限 単位数 ※学期毎 の上限単 位数	成績優秀者になる ための基準		成績優秀者の履 修制限緩和		早期卒業するための基準等			
			学期毎の 修得下限 単位数	直前セ メスタ ーのG P A数 値	追加単位 数	上級 年次 履修	早期卒業制 度の 有(○) 無(×)	卒業判定通 算G P A数 値 基準	4 Semester終了時点 の条件	
									通算G P A 数値 基準	最低修得 単位数
経済	経済	20 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	○	3.7	3.7	84
法	法律	20 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	○	3.9	3.9	86
文	人間	24 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	×	—	—	—
経営	経営	20 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	○	3.7	3.7	84
教育	教育	24 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	×	—	—	—

	児童教育	24単位	16単位	3.5	4単位	可	×	—	—	—
理工	情報システム工	24単位	16単位	3.3	4単位	可	×	—	—	—
	共生創造理工	24単位	16単位	3.3	4単位	可	×	—	—	—
看護	看護	25単位	—	—	—	—	×	—	—	—
国際教養	国際教養	20単位	16単位	3.5	4単位	可	○	3.7	3.7	80

履修制限除外科目一覧										
学部・学科等		除外科目								
共通科目		インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、インターンシップⅢ、インターンシップⅣ、国際ボランティア実習、ボランティア実習Ⅰ、ボランティア実習Ⅱ、GCPチュートリアルⅠ、GCPチュートリアルⅡ、GCPチュートリアルⅢ、GCPチュートリアルⅣ、プログラムゼミⅠ、プログラムゼミⅡ、プログラムゼミⅢ、プログラムゼミⅣ、EAP for Global Citizenship Ⅰ、EAP for Global Citizenship Ⅱ、EAP for Global Citizenship Ⅲ、EAP for Global Citizenship Ⅳ、Academic Foundations for Global Citizenship Ⅰ、Academic Foundations for Global Citizenship Ⅱ、Academic Foundations for Global Citizenship Ⅳ、社会システム・ソリューションⅠ、社会システム・ソリューションⅡ								
経済	経済	特設課程科目、オナーズ・セミナーⅠ、オナーズ・セミナーⅡ、オナーズ・セミナーⅢ								
法	法律	特設課程科目、AF Tutorial Ⅰ、AF Tutorial Ⅱ、Peace & Human Rights 短期海外研修、国際平和・外交インターンシップA、公共政策インターンシップA、まちづくり八王子フィールドワーク、人間の安全保障フィールドワーク、International Internship A、International Internship B、国際平和・外交インターンシップB、公共政策インターンシップB、国際ボランティアA、国際ボランティアB、ビジネス法務インターンシップA、ビジネス法務インターンシップB、公共政策ボランティア、GLPチュートリアルⅠ、GLPチュートリアルⅡ、GLPチュートリアルⅢ、GLPチュートリアルⅣ、GLPチュートリアルⅤ、GLPチュートリアルⅥ、GLPチュートリアルⅦ、GLPチュートリアルⅧ、GLPインターンシップA、GLPインターンシップB、GLP English A、GLP English B								
文	人間	特設課程科目								
経営	経営	特設課程科目								
教育	教育	特設課程科目、他学科専門科目								
	児童教育	特設課程科目、他学科専門科目								
理工	情報システム工	特設課程科目								
	共生創造理工	特設課程科目、国際技術協力論、海洋学実習、特別講義Ⅰ、特別講義Ⅱ								

別表第2 (第11条関係)

学部	学科	共通科目及び外国語									計
		選択必修							小計	選択 共通科目の 全科目群	
		共通科目 の①基礎 科目	共通科目 の②大学 科目	共通科目の ④世界市民 教育科目	共通科目の指定科目群		第1外 国語	第2外 国語			
経済	経済	4	4	4	⑧キャリア科目	2	6	4	24	—	24
法	法律	6	4	4	—	—	6	4	24	—	24
文	人間	6	4	4	⑥社会科学系科目	2	6	4	26	—	26
経営	経営	6	4	4	⑧キャリア教育系科目	2	10	—	26	—	26
教育	教育	8	4	4	—	—	6	4	26	—	26
	児童教育	8	4	4	—	—	6	4	26	—	26
理工	情報システム工	4	4	4	⑤人文科学系科目	2	6	4	26	—	26
					⑥社会科学系科目	2					
	共生創造理工	4	4	4	⑤人文科学系科目	2	6	4	28	—	28
					⑥社会科学系科目	2					
⑧キャリア教育系科目	2										
看護	看護	4	2	4	⑤人文科学系科目または ⑥社会科学系科目	2	6	—	18	—	18
国際教養	国際教養	2	4	—	—	—	16	4	26	—	26

【共通科目・外国語】

※第1外国語は原則として英語とし、共通科目の③言語科目（英語）または学部学科英語科目から修得しなければならない。ただし、外国人留学生等については、別に定める創価大学外国人留学生等の履修の特例に関する細則により、英語以外の言語を第1外国語とすることができる。

※第2外国語は、共通科目の③言語科目または⑩日本語・日本文化科目から第1外国語として選択した言語以外の1ヶ国語で卒業に必要な単位数を修得しなければならない。

※①基礎科目については、経済学部は、「初年次セミナー」2単位、「学術文章作法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内1科目2単位の計4単位を修得しなければならない。法学部、文学部、経営学部は、「初年次セミナー」2単位、「学術文章作法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内1科目2単位、①基礎科目の自然系科目2単位の計6単位を修得しなければならない。国際教養学部は初年次セミナー2単位を修得しなければならない。教育学部は「初年次セミナー」2単位、「学術文章作法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内1科目2単位、①基礎科目の自然系科目2単位を含む計8単位を修得しなければならない。理工学部は、「初年次プロジェクト」2単位、「学術文章作法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内1科目2単位の計4単位を修得しなければならない。看護学部は、「学術文章作法Ⅰ」2単位、「コンピュータ・リテラシーⅠ」2単位の計4単位を修得しなければならない。

※経済学部、経営学部は、⑧キャリア教育科目から2単位を、文学部は⑥社会科学系科目から2単位を、理工学部情報システム工学科は⑤人文科学系科目から2単位、⑥社会科学系科目から2単位の計4単位を、理工学部共生創造理工学科は⑤人文科学系科目から2単位、⑥社会科学系科目から2単位、⑧キャリア教育系科目から2単位の計6単位を、看護学部は⑤人文科学系科目または⑥社会科学系科目から2単位を修得しなければならない。

別表第3（第11条関係）【専門科目・自由選択科目】

学部	学科	専門科目				自由選択	計	総計			
		必修	選択必修	選択	小計						
経済	経済	—	28	38	66	34	100	124			
法	法律	6	2	60	68	32	100	124			
文	人間	アドヴァンスト科目	14	イントロダクトリー科目	2	イントロダクトリー科目	4	60	38	98	124
				ベーシック科目	2	ベーシック科目	24				
				アドヴァンスト科目	14						
経営	経営	8		A群	18	36	78	20	98	124	
				B群	16						
教育	教育	14		18		46	78	20	98	124	
	児童教育	14		14		50	78	20	98	124	
理工	情報システム工	20		2		48	70	28	98	124	
	共生創造理工	34		14		28	76	20	96	124	
看護	看護	97		—		—	97	10	107	125	
国際教養	国際教養	24		Quantitative & Qualitative Analysis 科目	8	—	68	30	98	124	
				Level 100-200 科目	16						
				Level 300-400 科目	20						

○ 創価大学定期試験実施に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、創価大学学則第13条乃至第15条に基づき、定期試験の実施に関する事項を定める。

(定期試験)

第2条 定期試験（以下「試験」という。）は、学期末の定められた期間に行う。

2 試験は、すべての授業科目を対象とし、その実施計画を公示する。

3 実施計画は「定期試験時間割」を掲載した小冊子を配布することで公表する。

(試験の方法)

第3条 試験の方法は、筆記試験、口述試験又はレポート試験とする。

2 筆記試験の時間は原則として60分とする。

(実施本部)

第4条 試験期間中は、試験の円滑かつ公正な運営を図るため、実施本部を設置し、実施本部長及び副本部長を置く。

2 実施本部長には学長、副本部長には教務部長及び教務部副部長をあて、試験の運営を統括する。

(試験の監督)

第5条 試験実施に際しては、各試験場に1名の監督員及び受験者数に応じて相当数の監督補助を置く。

2 監督員及び監督補助（以下「監督者」という。）は、原則として教員が担当し、当該科目の担当教員を監督員とする。監督補助は大学院生が担当する場合もある。

3 監督者は、試験を公正に実施するものとする。

4 担当教員が止むを得ない事情により監督できない場合には、他の教員が監督員を代行する。

5 監督者の担当する回数については、教授・准教授・講師・助教ともに原則として最低2回は担当する。ただし、定期

試験時間割の曜日時限によっては変更する場合もある。

(受験資格)

第6条 学生は、履修登録した授業科目についてのみ、その試験を受けることができる。

2 前項の規定にかかわらず、試験場で学生証を提示しないときは、受験資格を失う。なお、学生証を忘れてきた場合、学生は受験許可証の発行を受けることができる。ただし、受験許可証の発行は、所定の手数料を納めなければならない。

(受験者の義務)

第7条 受験者は、次の各号を守らなければならない。

- (1) 指定された日時・試験場で受験する。
 - (2) 監督者の指示に従う。
 - (3) 試験中は学生証を机上通路側に置く。
 - (4) 不正を行わない。
 - (5) 試験中に退室してはならない。
 - (6) 答案用紙に学籍番号及び氏名を記入する。
 - (7) 退室に際しては、答案用紙を監督者に提出する。
- 2 前項第2号及び第4号に違反した者の取扱については、別に定める。

(無効答案)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、答案を無効とする。

- (1) 第6条に定める受験資格を有しないとき。
- (2) 第7条第1項第1号、第6号及び第7号の義務を怠ったとき。

(予備日)

第9条 台風又は降雪等により試験を実施できない場合は、予備日に行う。

(追試験)

第10条 追試験の実施に関しては、この細則の第7条を適用する。

(事務)

第11条 この細則に関する事務は、教務課が担当する。

○ 創価大学追試験実施についての事務取扱内規

(趣旨)

第1条 この内規は、定期試験実施に関する細則第10条に基づき、追試験の実施に関する事項を定める。

(受験資格)

第2条 定期試験を次の理由で欠席した者のうち、証明書類等で理由が確認できる者。

理由	証明書類
国家試験・教員採用試験・地方公務員試験	受験票等証明するもの
就職試験(セミナーは除く)	//
スポーツ全国選手権大会出場	学生課の証明書
本人の傷病	医師の診断書等
忌引(2親等以内の親族)	会葬礼状等
電車・バス等の事故・積雪等による遅延	遅延証明書
交通事故・災害(火災等)	事故証明書、罹災証明書
本学の授業として開講している実習に参加した場合	実習への参加を示す証明書
その他教務部長が正当な理由であると認めた場合	

*忌引の相当期間については、両親(養父母)の場合は7日間、祖父母・兄弟については3日間とする。

それ以外の2親等以内の親族の場合は、その都度、判断をする。

*本人の傷病を証明する診断書については、病院等の公共施設が発行する診断書を原則とする。ただし、学校保健安全法及び関連法令に定める感染症の場合は、治癒証明書、登校許可証、または検査結果を示す書類等をもって診断書に代えることができる。なお、提出する診断書等は、受験できなかった定期試験 日における傷病の状況が明記されているものに限る。

*就職試験(セミナーは除く)については、採用や選考を伴う説明会、面接試験・筆記試験などの採用試験、内定式や就職に必要な研修会・セミナー等に参加する場合は、キャリアセンターが受験資格を認めるかどうかの判断を行う。

(追試験の受験申込み)

第3条 追試験の受験申込みは「追試験受験許可願」の用紙に必要な事項を記入の上、教務課(理工学部生は理工学部事務室へ提出することも可)に提出しなければならない。なお、提出の際は、上記の指定された証明書等を添付しなければならない。

らない。

- 2 受験の申し込み手続きは原則として受験者本人(以下、「本人」と呼称)が行うものとする。本人が種々の事情により申し込みの手続きが取れない場合、代理人が申し込みの手続きを行うことを認める。代理人については、本人の意思を託された者であれば誰でも構わない。ただし、代理人が申請した結果、本人に不利益が生じた場合、その責任は本人が負うものとする。
- 3 ただし、指定された期間内に受験の申し込みをしなかった者は、受験資格を失う。

(受験科目数)

第4条 受験資格者の受験できる科目数は、制限しない。

(試験除外科目)

第5条 定期試験期間以外に実施する授業内試験及びレポート試験の追試は行わない。

(受験許可)

第6条 追試験の受験の許可については、本人から提出された「追試験受験許可願」に基づき教務部長が許可・不許可を判断する。受験許可者については、掲示で通知をするが、郵送により通知を受け取ることも可能とする。ただし、郵送で通知を受ける場合の郵送料は、申請者本人の負担とする。

- 2 出席日数が授業実施日数の3分の2に不足している場合は、追試験の受験を許可しないことがある。

(出題方法)

第7条 追試験の試験問題は、担当者が出題する。ただし、担当者に支障がある場合は、当該教授会または学士課程教育機構運営委員会が判断した上で処置する。

(成績評価)

第8条 追試験の成績評価は担当する教員が行う。

(追々試)

第9条 追試験の追試験は、行わない。

(実施大綱)

第10条 追試験の実施大綱は、各学期末定期試験で配布する小冊子に明記して通知する。

(受験許可者・時間割発表)

第11条 受験許可者及び追試験の実施時間割の発表は、掲示板に掲示しかつホームページ上に掲載する方法を以って行う。その発表日時は、前項の小冊子に明記する。

(受験料)

第12条 追試験の受験料は徴収しない。

(学生証提示の義務)

第13条 追試験を受験するものは、必ず学生証の提示を行うものとする。なお、学生証を忘れてきた場合は、受験許可証の発行を受けることができる。ただし、受験許可証の発行は、所定の手数料を納めなければならない。

○ 創価大学定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は定期試験実施に関する細則第7条第2項に基づき不正行為者の取扱いに関する事項を定める。

(不正行為の確認)

第2条 監督員及び監督補助(以下「監督者」という。)が不正とみなされる行為を発見した場合は、速やかに当該学生の解答用紙を回収し、新たな解答用紙を渡して、試験を続行させる。なお、不正行為に関係する証拠物があった場合は、直ちに回収する。

- 2 試験終了後、本部長又はそれに代わる者は、監督員とともに当該学生に対し不正行為の事実確認を行う。
- 3 実施本部は、不正行為の事実が確認された場合、「定期試験不正行為報告書」を作成し、学生部委員会へ報告する。

(懲戒)

第3条 不正行為者に対する懲戒は、創価大学学則第46条に基づき次のとおりとする。

- (1) 戒告
- (2) 停学
- (3) 退学

(処分の事由)

第4条 処分の事由は、次のとおりとする。

(1) 戒告

- ア あらかじめ机等に書き込んだり、カンニングペーパー等を持ち込んだ者
- イ あらかじめ書き込みをされた六法全書・辞書等を持ち込んだ者
- ウ 参照不許可の教科書、参考書、ノート等を参照した者
- エ 許可なく携帯電話・電子機器等を使用、または参照した者
- オ 解答用紙のすり替えをした者
- カ 言語、動作等をもって受験者相互に連絡した者
- キ 他の学生の答案を見て、答案を作成した者
- ク 許可なくみだりに席を離れた者、その他監督者の指示に反する行為をした者
- ケ その他不正な手段を用いて受験した者

(2) 停学

- ア 身替わり受験を依頼した者、又は身替わり受験をした者
- イ 他人の答案を作成した者、不正に作成された答案を提出した者、及びそれらの行為をさせた者
- ウ 過去に戒告処分を受けた者で、再び不正行為をした者
- エ その他重大な不正行為をした者

(3) 退学

過去に停学処分を受けた者で、再び不正行為をした者

(単位認定の取扱い)

第5条 不正行為者の単位認定についての取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 戒告処分を受けた者 当該学期の全履修科目につき単位を認定しない。
- (2) 停学処分を受けた者 当該年度の全履修科目につき単位を認定しない。
- (3) 退学処分を受けた者 当該年度の全履修科目につき単位を認定しない。

(処分の手続)

第6条 処分の手続については、「学生の懲戒処分の手続に関する細則」(細則第8号)に準じてこれを行う。

2 当該教授会は、処分内容等について議事録に記載する。

(公示)

第7条 不正行為者に関する学内の公示は、次のとおりとする。

- (1) 学内の公示は、処分内容及び当該学生の学籍番号のみとする。
- (2) 学内の公示期間は、処分決定後2週間とする。

(保証人への通知)

第8条 不正行為者の処分内容については、処分決定後にこれを保証人に通知する。

(停学期間の取扱い)

第9条 この処分による停学期間は在学期間とみなし、学生の身分を継続するために行う諸手続については、これを認める。

(準用)

第10条 追試験及び臨時試験における不正行為者の取扱いに関しては、この内規を準用する。

(事務)

第11条 この内規に関する事務は、教務課が担当する。

◆ 教室配置図・キャンパスマップ

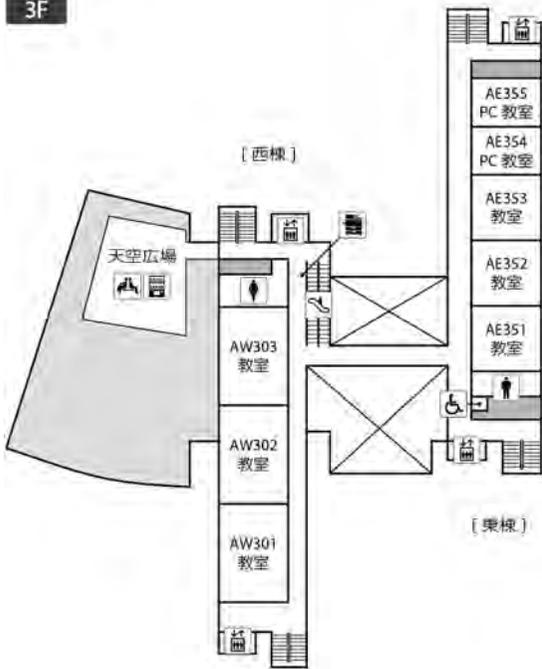
○ 中央教育棟 [Global Square] (AB/AC/AE/AE)



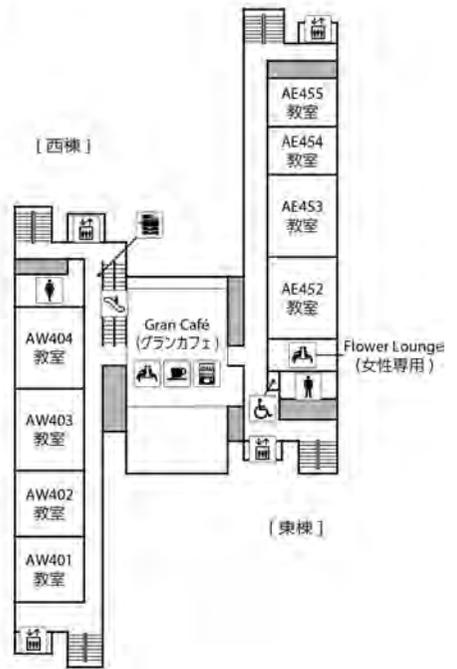
- ① 学事第1課
- ② 文系大学院事務室
- ③ 学部事務室 (経済・経営・文・国際教養)
- ④ 研究支援課
- ⑤ 教務課
- ⑥ 学生課
- ⑦ キャリアセンター (キャリア・就職支援課)
- ⑧ アドミッションセンター (入試事務室)

部屋名	タイプ
AE252 - 253	PC教室
AE255	CALL教室
AE256	グループ学習室
AE257 - 260	PC教室

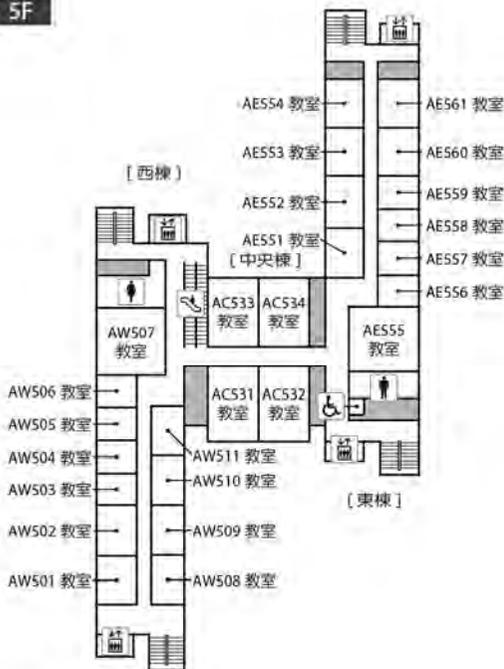
3F



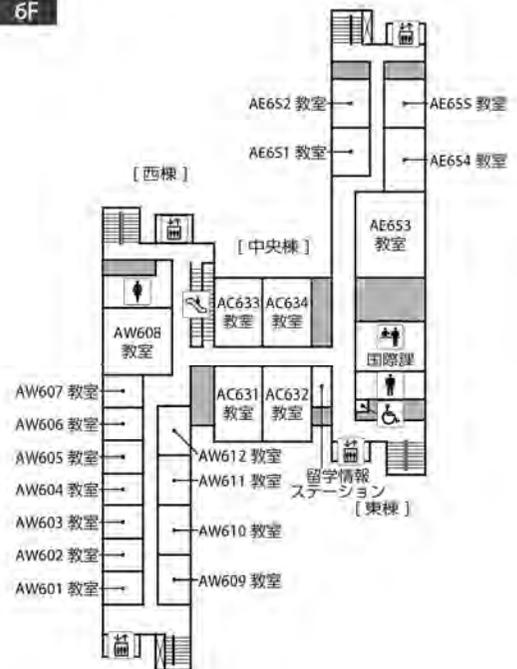
4F



5F

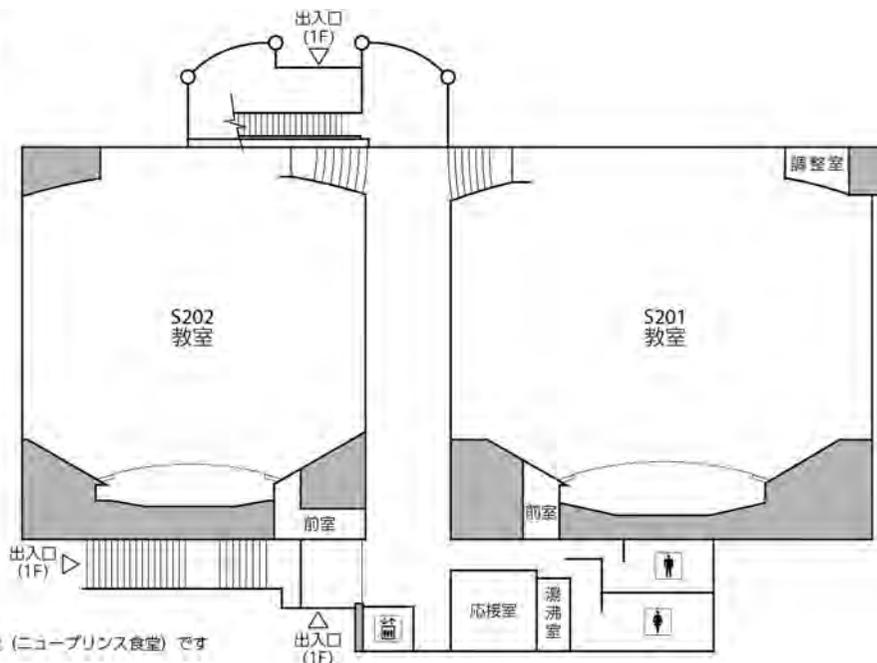


6F



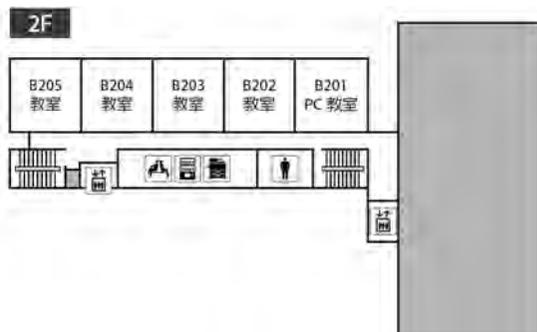
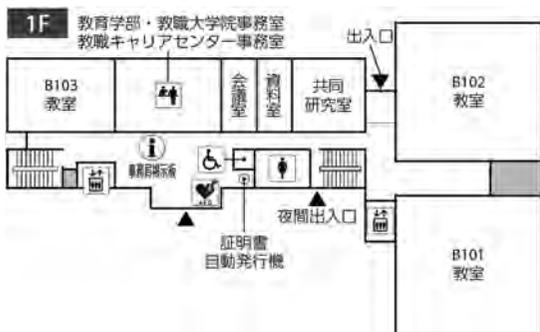
○ 大教室棟 (S棟)

2F



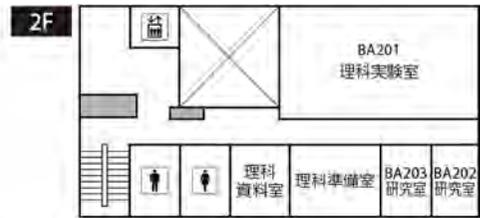
※1階は食堂 (ニュープリンス食堂) です

○ 教育学部棟 (B棟)

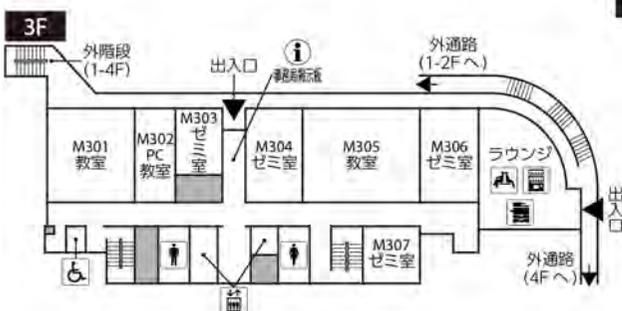
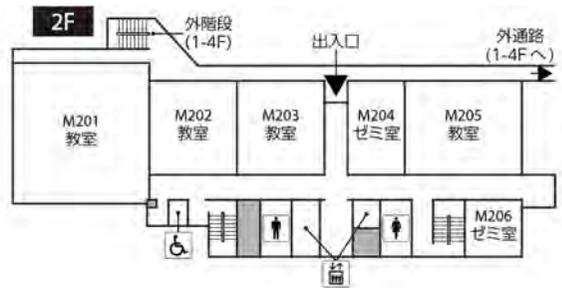


※B棟 (教育学部棟) の5・6階は研究室階です (配置図は省略)

○ 教育学部棟別館（BA棟）



○ 本部棟（M棟）



【その他の本部棟の施設】

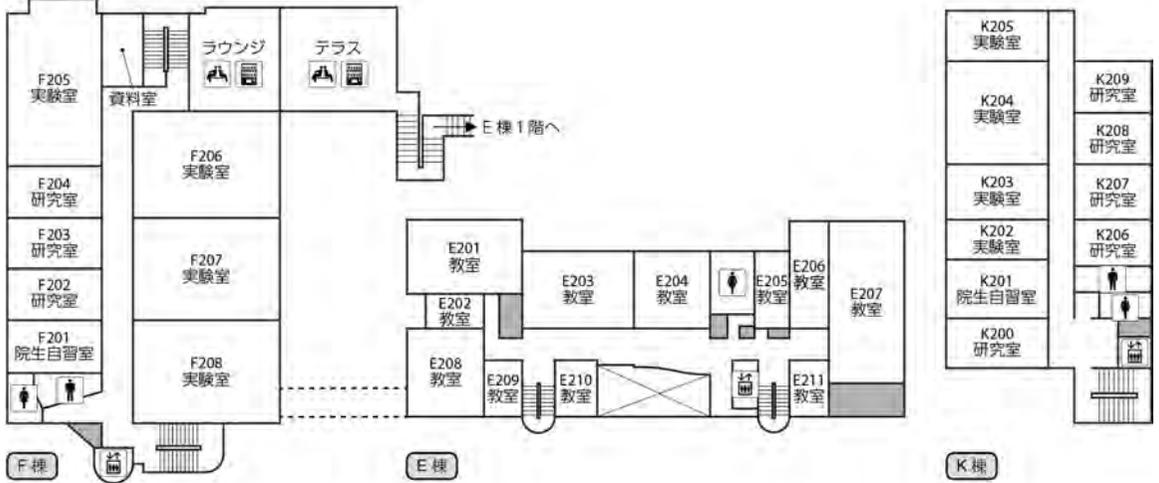
- ※5階の防災センターに AED が設置されています
- ※5・6階は展示フロアです
- ※7階に COSMOS（法学部生ラウンジ）があります
- ※8階に法学部事務室があります
- ※9階から12階は研究室フロアです
- ※13階は食堂（カフェテリア）です

○ 理工学部棟 (E・F・G・K棟)

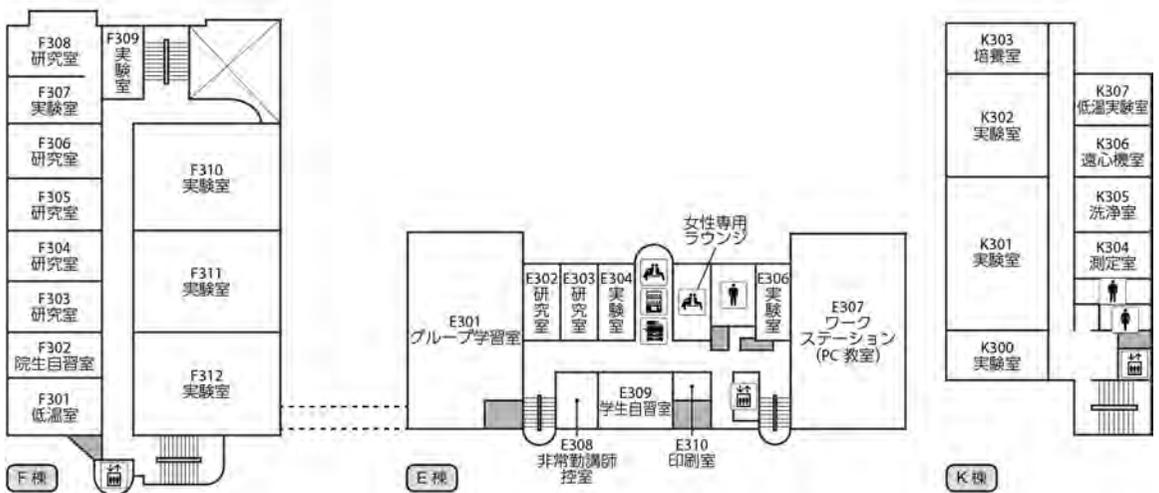
1F ※E棟、F棟、G棟は連絡通路でつながっています。
 ※E棟やF棟は1階・4階に連絡通路があります
 ※G棟へはF棟4階から行くことができます
 (G棟1階とF棟4階が連絡通路でつながっています)

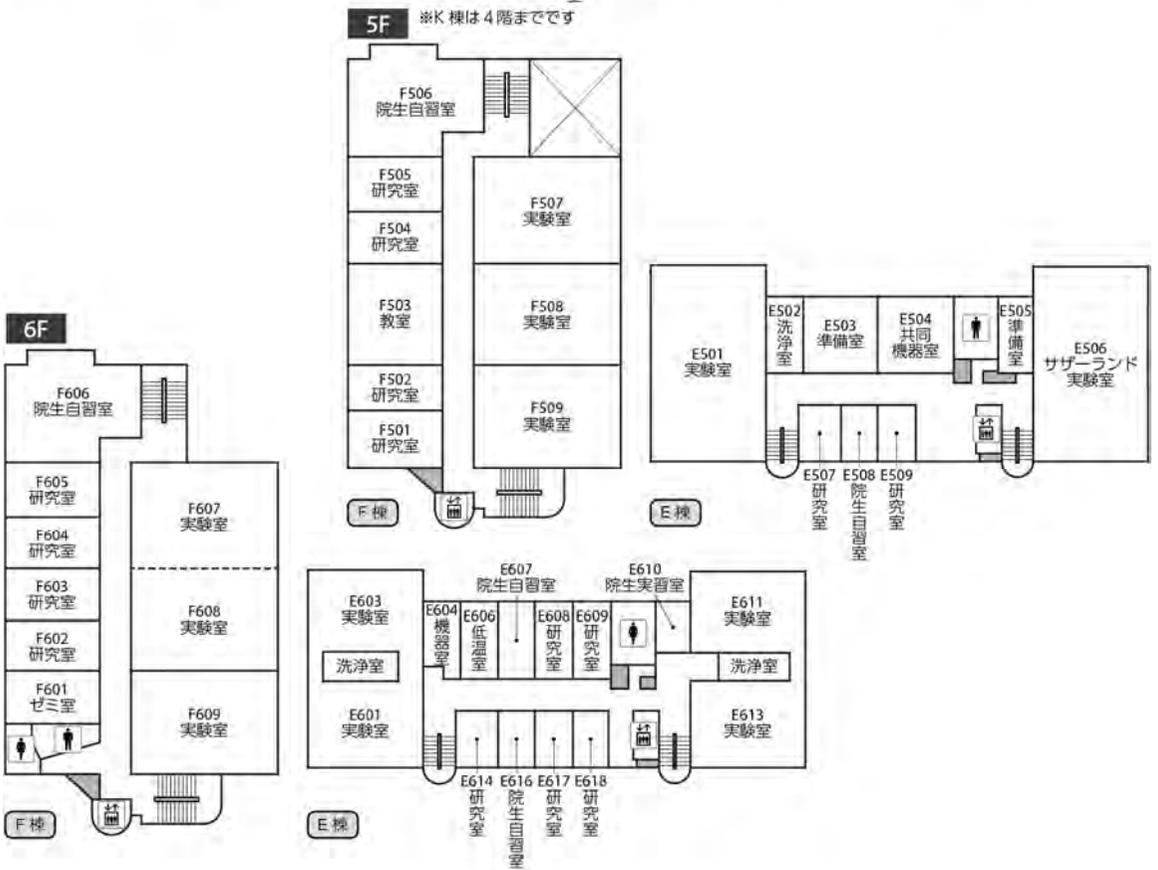
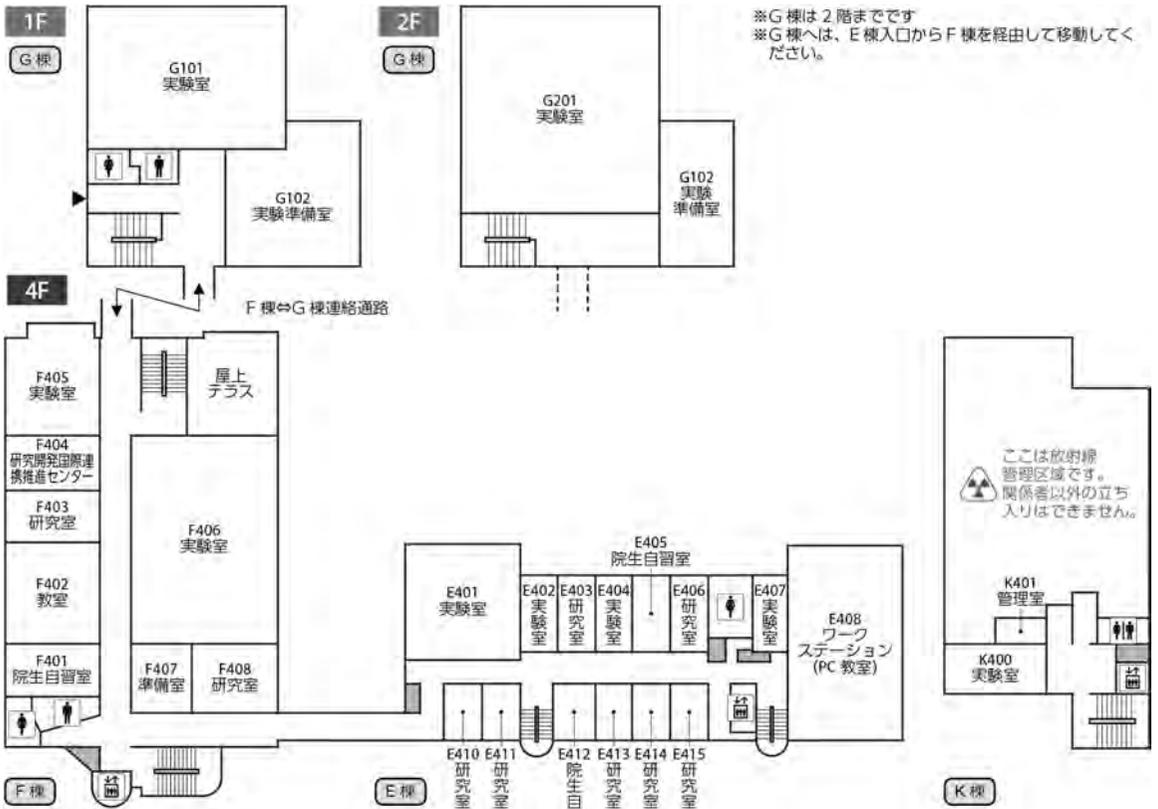


2F



3F

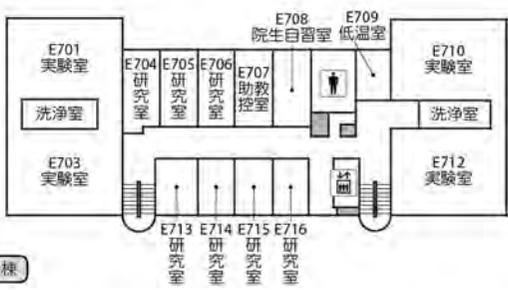




7F



E棟



○ 理工学部棟 (P棟)

1F



2F



3F



※学生の皆さんが授業や実験のためにP棟に入館する場合は「通用口」を利用してください。

○ 看護学部棟 (N棟)

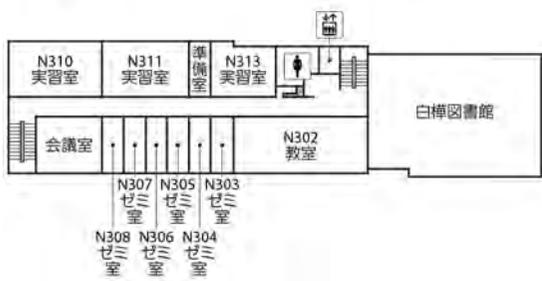
1F



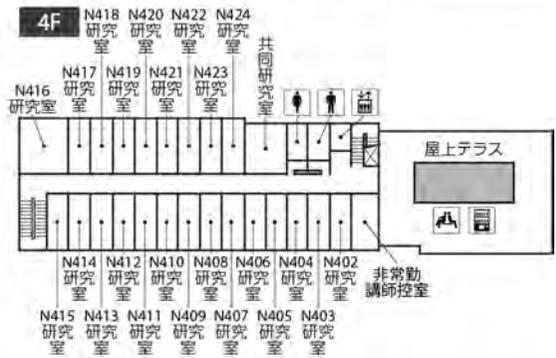
2F



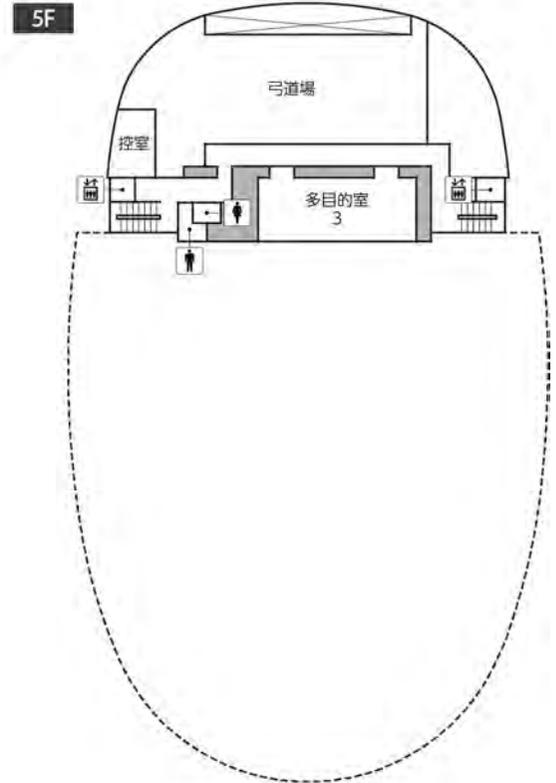
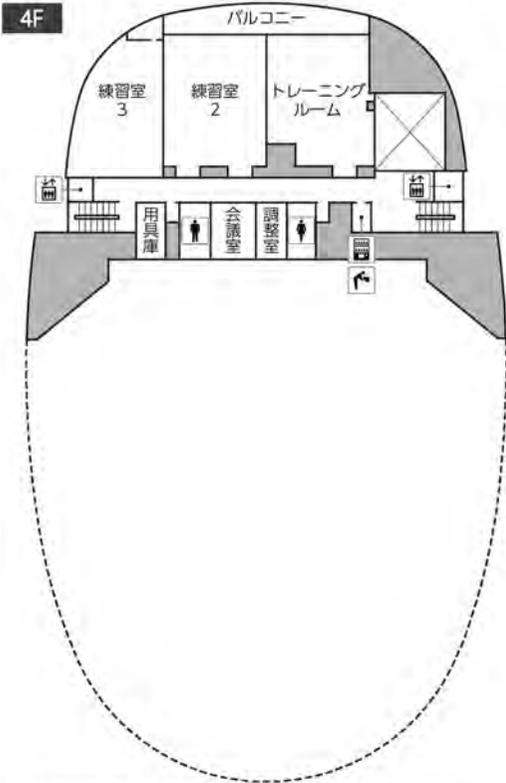
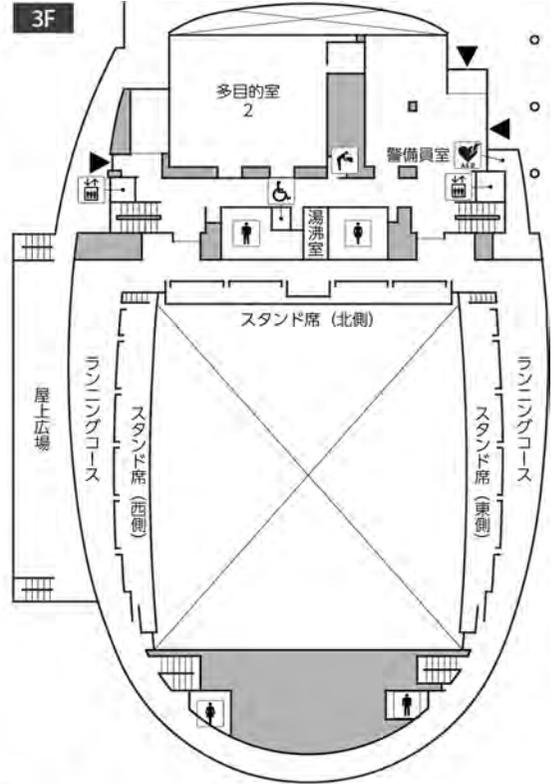
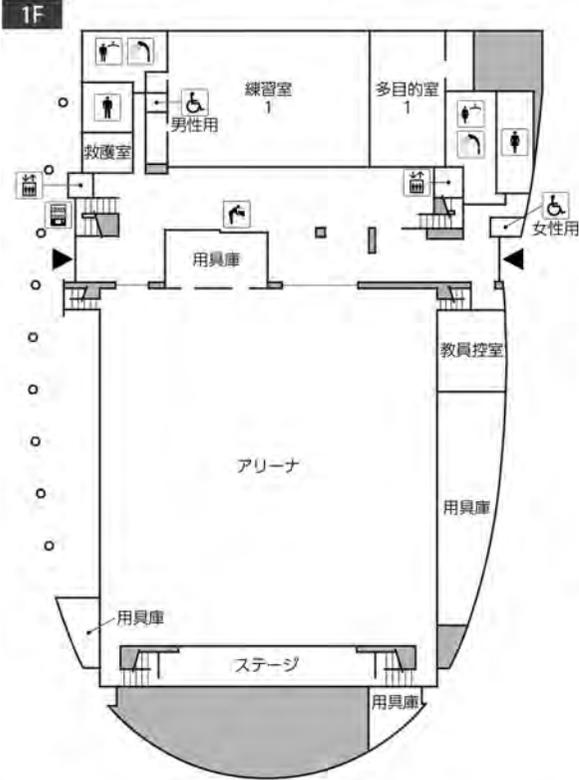
3F



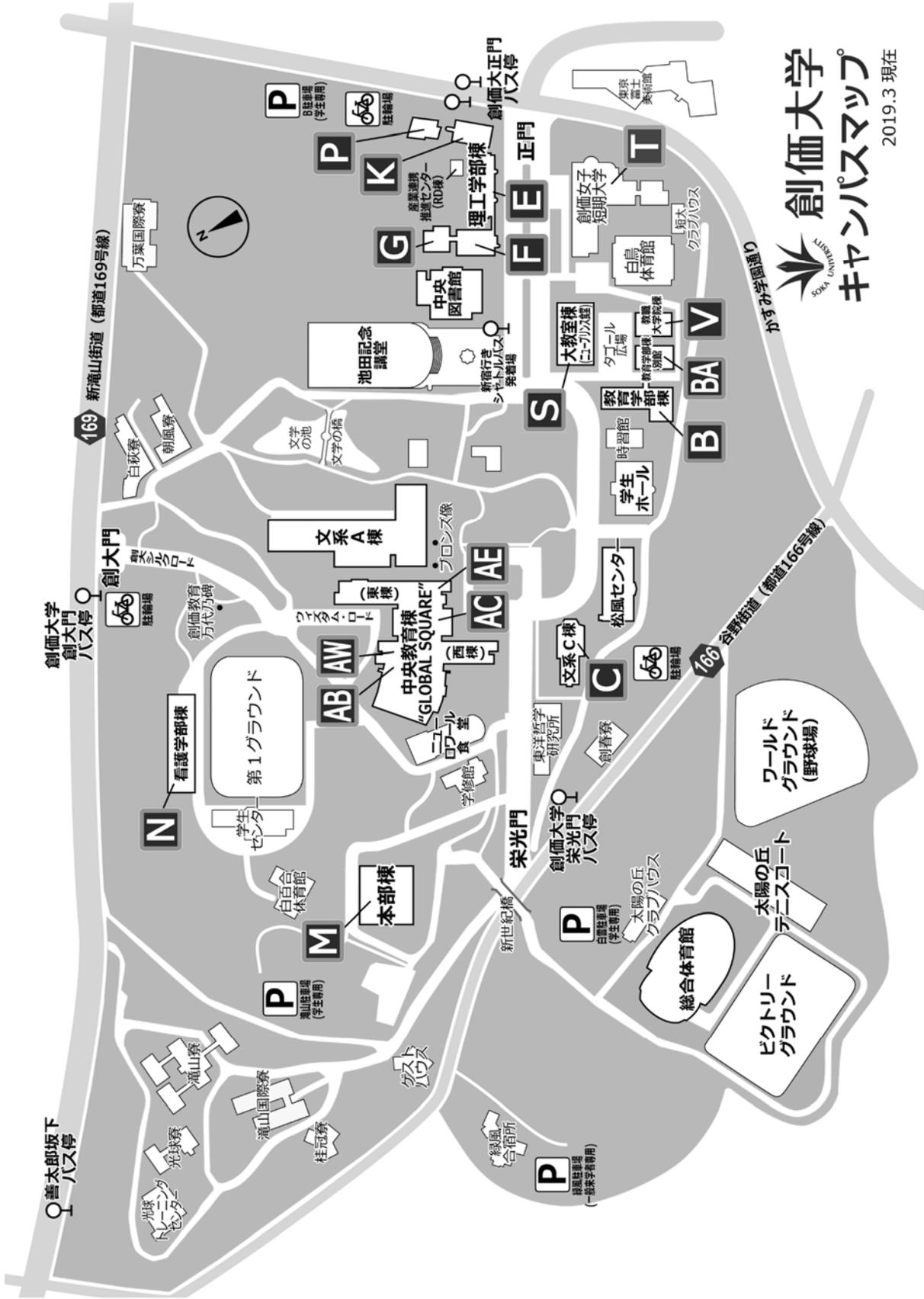
4F



○ 総合体育館



※総合体育館2階は機械室フロアのため立ち入りはできません。



創価大学 キャンパスマップ

2019.3 現在

◆時間割プランニングシート

【第__セメスター】

※履修登録の締切日：__月__日まで

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
集中 講義					

履修単位数	単位	GPAの目標
今学期必ず履修しなければいけない科目		
自分メモ		

※コピーを取るなどをして、毎学期の時間割作成などに活用してください

MEMO

MEMO

MEMO

学籍番号：

氏名：

